



2009-11-24

## 著作権

© 2009 SAP AG. All rights reserved.SAP、R/3、SAP NetWeaver、Duet、PartnerEdge、ByDesign、SAP Business ByDesign、および本書に記載されたその他のSAP製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、ドイツおよびその他の国々におけるSAP AGの商標または登録商標です。Business ObjectsおよびBusiness Objectsロゴ、BusinessObjects、Crystal Reports、Crystal Decisions、Web Intelligence、Xcelsius、および本書で引用されているその他のBusiness Objects製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、米国およびその他の国々におけるBusiness Objects S.A.の商標または登録商標です。Business ObjectsはSAPのグループ企業です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。本書に記載されたデータは情報提供のみを目的として提供されています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。これらの文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。また、これらの文書はSAP AGおよびその関連会社(「SAPグループ」)が情報提供のためにのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAPグループは文書に関する誤記・脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAPグループの製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

2009-11-24

# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>はじめに.....</b>	<b>7</b>
	Xcelsius 2008 の概要.....	7
	Xcelsius 2008 版.....	7
	ファイル形式.....	9
	Xcelsius 2008 ドキュメントについて.....	9
	サンプル モデル.....	10
	サンプル モデルを表示する .....	10
	Crystal Xcelsius 4.5 で作成されたファイルのインポート.....	11
	Xcelsius 4.5 で作成された XLF ファイルをインポートする.....	12
<b>第 2 章</b>	<b>Xcelsius 2008 の操作.....</b>	<b>13</b>
	Xcelsius ワークスペースについて .....	13
	Xcelsius ツールバーおよびボタン.....	13
	ドキュメント プロパティの設定.....	16
	コンポーネント ブラウザの使用.....	18
	キャンバスの使用.....	23
	オブジェクト ブラウザの使用.....	32
	コンテキスト メニューの使用.....	37
	アドオンによる Xcelsius のカスタマイズ.....	37
	アドオンをダウンロードする.....	37
	アドオンをインストールする.....	38
	アドオンを削除する.....	38
<b>第 3 章</b>	<b>コンポーネントの操作.....</b>	<b>39</b>
	[プロパティ]パネルの使用.....	39

複数のコンポーネントのプロパティの設定.....	40
コンポーネント要素の色の設定.....	41
Xcelsius 2008 コンポーネントの使用.....	44
チャート コンポーネントの使用.....	44
コンテナ コンポーネントの使用.....	87
セレクトラ コンポーネントの使用.....	94
単一値コンポーネントの使用.....	131
マップ コンポーネントの使用.....	149
テキスト コンポーネントの使用.....	157
その他のコンポーネントの使用.....	169
アートおよび背景コンポーネントの使用.....	189
Web 接続コンポーネントの使用.....	200
コンポーネントの削除 .....	215
アラートの概要.....	216
コンポーネントのディスプレイの管理.....	221
ユーザー入力の無効化.....	224
<b>第 4 章                    モデルの操作.....</b>	<b>227</b>
テンプレートの使い方.....	228
テンプレートを開く.....	228
テンプレートを作成する.....	229
テーマの使い方.....	230
テーマを適用する.....	230
.....	230
配色を変更する.....	231
カスタム配色を作成する.....	231
モデルのプレビュー.....	232
モデルをプレビューする.....	233
ビジュアライゼーションのプレビューをエクスポートする.....	233
モデルのスナップショットを取る.....	233
<b>第 5 章                    データの操作.....</b>	<b>237</b>
埋め込みスプレッドシートの概要.....	237
Xcelsius に対する Excel の準備.....	238

埋め込みスプレッドシートの基本設定を設定する .....	239	
Excel と Xcelsius 間のデータの同期化.....	241	
コンポーネントとデータのリンク.....	243	
Excel にデータをエクスポートする.....	245	
サポートされる Excel の関数.....	246	
外部データ ソースの使用.....	248	
データ接続の管理.....	248	
<b>第 6 章 .....</b>	<b>287</b>	
SAP BusinessObjects Enterprise との統合.....	287	
LiveOffice データ接続の使用.....	287	
SAP BusinessObjects Enterprise システムでのモデルの格納.....	301	
SAP NetWeaver BW との統合.....	305	
SAP NetWeaver BW システムへの接続の前に.....	306	
SAP NetWeaver BW システムに接続する.....	307	
SAP NetWeaver BW システムへの接続を解除する.....	307	
SAP NetWeaver BW 接続を設定する.....	308	
SAP NetWeaver BW システムへ Xcelsius モデルを公開する.....	314	
SAP NetWeaver BW データを含む Xcelsius モデルをプレビューする.....	315	
SAP NetWeaver BW サーバーから XLF ファイルを開く.....	316	
SAP NetWeaver BW システムでの Xcelsius モデルの変換およびグローバル化...		
3	1	6
<b>第 7 章           モデルのエクスポートと展開.....</b>	<b>321</b>	
Adobe Flash Player のセキュリティ制限.....	321	
Xcelsius SWF ファイルをローカルで実行する.....	321	
Xcelsius SWF ファイルを Web サーバーから実行する.....	322	
FSCCommand の制限.....	324	
Flash Player のエラー番号とメッセージ .....	324	
モデルのエクスポート.....	325	
モデルをエクスポートする.....	325	
Adobe AIR に関するシステム設定を行う .....	333	

# 目次

付録 A	より詳しい情報.....	335
	索引	339

# はじめに

## Xcelsius 2008 の概要

データと式は、埋め込みスプレッドシートにインポートまたは直接入力し、必要に応じてスプレッドシートを再インポートせずに変更することができます。

Xcelsius 2008 には、ダイアル、ゲージ、チャート、マップ、ピックリスト、スライダなどの多様なコンポーネントが含まれています。これらのコンポーネントを設定すると、スプレッドシートからのデータの直接表示、他のコンポーネントで使用するためのスプレッドシートへのデータの書き込み、またはモデルの実行時にユーザーが入力したデータの承認を行うことができます。

Xcelsius モデルは、PowerPoint、Flash、PDF、AIR、Outlook、HTML 使用時の Web などの多様な形式にエクスポートすることができます。これらのモデルでは、対話性が完全に保持されており、実行するのに必要なのは Adobe Flash Player のみです。

Xcelsius™ 2008 のエディションによっては、XML、ポータル、Web サービス、SAP BusinessObjects Enterprise (Live Office および Query as a Web Service)、SAP Business Explorer クエリーなどの外部ソースからのライブ データ更新と連携するようモデルを設定することができます。

## Xcelsius 2008 版

Xcelsius 2008 は、さまざまなニーズに対応するためにいくつかの版があります。すべての版の基本機能は同一です。版の主な違いは、モデルをエクスポートできる形式と、外部データ接続のアクセスおよび設定機能です。

Xcelsius 2008 には、次の 4 つの版があります。

- Xcelsius Present により、ユーザーは Microsoft Excel データを使用してモデルを作成できます。
- Xcelsius Engage により、ユーザーは、モデルを作成して単一の外部データソースへそのモデルを接続することができます。
- Xcelsius Engage Server により、ユーザーは、モデルを作成し、それを複数の外部データソースに接続して、ポータル環境に展開することができます。

- ・ Xcelsius Enterprise により、ユーザーは、モデルを作成し、それを BusinessObjects Enterprise または SAP NetWeaver BW に展開することができます。

次の表は、Xcelsius の各版で使用可能な機能をまとめたものです。

機能	Present	Engage	Server	Enterprise
Microsoft Excel、PDF、Microsoft Word、Acrobat 9、Microsoft PowerPoint へのエクスポート	X	X	X	X
Flash (SWF)、Adobe AIR、HTML、Microsoft Outlook へのエクスポート		X	X	X
チャート、セレクト、単一値、マップ、テキストなどの数値コンポーネント	X	X	X	X
追加コンポーネント。再生ボタン、再生選択、ソース データ、一致メニュー、インタラクティブ カレンダー、パネル セット、履歴、トレンド アナライザ		X	X	X
URL ボタン	X	X	X	X
スライドショーや接続最新表示ボタンなど、Web 接続オプション		X	X	X
外部データ ソースへの接続		X	X	X
データ接続マネージャ		X	X	X
Web サービス、XML データ、Flash 変数、Excel XML、FS コマンド、Crystal Reports データ コンシューマ、外部インターフェイスへの外部データ接続のサポート		X	X	X
Web ポータルおよびレポート サービスへの外部データ接続サポート			X	X

機能	Present	Engage	Server	Enterprise
Query as a Web Service (QaaWS)、Live Office、BusinessObjects Enterprise など、BusinessObjects プラットフォームを使用した外部データ接続のサポート				X
Flynet Web サービス ジェネレータのサポート			X	
SAP Business Explorer (BEx) クエリの外部データ接続のサポート				X

## ファイル形式

Xcelsius 2008 モデルは、SWF ファイル形式に準拠しています。SWF は、Adobe Flash Player で動作するように設計されたベクター ベースのグラフィック形式です。ベクターベースの SWF ファイルはスケーラブルなグラフィックを備え、どんな画面サイズでも複数のプラットフォームでスムーズに再生できます。さらに、通常ベクター ベースのファイル サイズは、他のアニメーションより小さいサイズです。

Xcelsius 2008 ファイルは、XLF 拡張子を持つ ZIP 形式で格納されます。XLF ファイル形式には、Xcelsius 2008 モデル情報と、関連する埋め込みスプレッドシート ファイルが含まれます。

### 注

Xcelsius 2008 では Adobe Flash バージョン 9 以降が必要です。新しい Flash バージョンにはセキュリティ機能が備わっており、モデルを Xcelsius の外部で実行している場合、外部データ ソースに接続できなくなることがあります。

### 関連項目

- ・ [321 ページの「Adobe Flash Player のセキュリティ制限」](#)

## Xcelsius 2008 ドキュメントについて

基本および拡張モデルを作成するためのリファレンスとしてドキュメントを使用します。

すばやく情報を発見

- ・ Xcelsius の[ヘルプ]メニューからオンライン ヘルプにアクセスします。

[目次]タブを使用して、オンライン ヘルプ内の大きなセクション名をすべて表示したり、各セクション内の特定の見出しにドリル ダウンします。[キーワード]タブを使用すると、トピックが表示されます。また、[検索]タブを使用して、特定のキーワードに関連するすべてのセクションを表示することもできます。

- ・ <http://help.sap.com>

## サンプル モデル

Xcelsius がどのように機能して何ができるかについて学習しているときに、サンプル モデルのランタイムの動作と、そのベースとなる設定と書式設定を調べることは有益です。

Xcelsius 2008 には、一部のコンポーネントおよび機能がどのように動作するかを示す複数のサンプル モデルが含まれています。各サンプルには、独自の埋め込みスプレッドシート データが含まれているので、コンポーネントがどのようにスプレッドシート内のデータとバインドされているのかがわかります。これらのサンプルは、類似した機能を各自のモデルに設定する方法を理解する一助として使用してください。あるいは、これを開始点に使用して、必要に応じてカスタマイズすることもできます。

注

サンプルを開くと、埋め込みスプレッドシートに現在存在するデータは上書きされます。

## サンプル モデルを表示する

- 1 [ファイル] > [サンプル]をクリックします。  
[サンプル]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 [カテゴリ]一覧で、[ユーザー ガイド サンプル]をクリックします。  
使用可能なサンプルの一覧が[項目]一覧に開きます。
- 3 [項目]リストで、サンプルをクリックします。  
モデルのイラストが[プレビュー]ペインに表示されます。
- 4 [OK]をクリックします。  
サンプル ファイルが開きます。
- 5 ユーザーに見えるようにモデルを表示するには、[プレビュー]をクリックします。

## Crystal Xcelsius 4.5 で作成されたファイルのインポート

Crystal Xcelsius 4.5 で作成されたモデル (XLF ファイル) がある場合、それらのファイルを Xcelsius 2008 にインポートし、Xcelsius 2008 の新機能を活用することができます。

Xcelsius 3.0、3.5、および 4.0 で作成されたファイルはインポートできません。これらのファイルを Xcelsius 2008 で使用するには、初めにファイルを Crystal Xcelsius 4.5 にインポートしてから Xcelsius 2008 にインポートする必要があります。

Xcelsius 2008 では、Crystal Xcelsius 4.5 からモデルを移行する際の影響が最小限に抑えられます。ただし、一部のモデルまたはコンポーネントの外観が、元のファイルから変化する可能性があります。

もっとも一般的な変化は、以下のとおりです。

- ・ コンポーネント サイズ。ほとんどの場合、サイズの違いは数ピクセルです。
- ・ カスタム色が若干違って見える場合があります。
- ・ スプレッドシート テーブルのコンポーネント サイズと書式設定が変化する場合があります。

また、外部データ コネクタ ([XML データ ボタン]、[XML マップ最新表示]、[ Web サービス コネクタ]、[Live Office]、[FS Command]、または [QaaWS]) を含む XLF ファイルをインポートする場合、それぞれのコネクタまたはボタンに対して次のアクションが発生します。

- ・ 接続は、[データ マネージャ] で、前の [最新表示オプション] と [ロード ステータス] 設定を使用して作成されます。
- ・ キャンバスに [接続最新表示ボタン] が追加され、それに [トリガの動作] 設定がマッピングされます。

Xcelsius 4.5 のオプション	Xcelsius 2008 の設定
名前	データ マネージャでは、移行された接続の接続名が以下のように設定されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Web サービス: SOAP</li> <li>・ QaaWS: QAAWS</li> </ul>
ロード時に最新表示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>

Xcelsius 4.5 のオプション	Xcelsius 2008 の設定
間隔を指定して最新表示	
変更時にのみトリガ	
挿入時にトリガ	

## Xcelsius 4.5 で作成された XLF ファイルをインポートする

### 警告

モデルをアップグレードする前に、現在の XLF、JPEG および外部 SWF ファイルをバックアップします。

- 1 [ファイル] > [開く]をクリックします。
- 2 インポートするファイルに移動して、[開く]をクリックします。  
Xcelsius が、ファイルが以前のバージョンの Xcelsius からのものであることを検出し、警告ダイアログ ボックスが開きます。

### 警告

Xcelsius 2008 を使ってモデルをインポートして保存した後は、以前のバージョンの Xcelsius を使ってそのモデルを開くことはできません。

モデルがキャンバスを開きます。モデル内のコンポーネントには、オリジナル ファイルと少し異なっているものがある場合もあります。

コンポーネントが異なってフォーマット化されているように表示された場合、コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。スプレッドシート内のセルのプロパティを再バインドします。

### 関連項目

- ・ [11 ページのCrystal Xcelsius 4.5 で作成されたファイルのインポート](#)

# Xcelsius 2008 の操作

## Xcelsius ワークスペースについて

Xcelsius の使用を始める前に、インターフェイスについて説明します。

## Xcelsius ツールバーおよびボタン

Xcelsius には、標準、テーマ、エクスポート、書式の 4 つのツールバーがあり、モデルで作業する際に使用できます。

ツールバーを表示または非表示にする

- ・ ツールバーの表示と非表示を切り替えるには、[ビュー] > [ツールバー] を選択して、ツールバー名をクリックします。

ツールバー名の横にチェックマークが表示され、現在表示されていることを示します。

標準ツールバー

標準ツールバーには、Xcelsius で一般的な処理を実行するボタンが含まれています。以下の表は、使用可能なボタンを説明したものです。

ボタン	説明
	[新規作成]アイコン
	[開く]アイコン
	[保存]アイコン
	[印刷]アイコン
	[切り取り]アイコン

ボタン	説明
	[コピー]アイコン
	[貼り付け]アイコン
	[元に戻す]アイコン
	[やり直し]アイコン
	[選択ツール]アイコン
+	[コンポーネント ツール]アイコン
	[スプレッドシートのインポート]アイコン
	[接続の管理]アイコン
	[キャンバスの拡大]アイコン
	[キャンバスの縮小]アイコン
	[キャンバスをコンポーネントに合わせる]アイコン
	[キャンバスをウィンドウに合わせる]アイコン
	[プレビュー]アイコン

[テーマ]ツールバー

[テーマ]ツールバーには、テーマと連動する以下のボタンが含まれます。

ボタン	説明
	[テーマの変更]アイコン
	[配色の変更]アイコン

[エクスプローラ]ツールバー

[エクスポート]ツールバーには、モデルを特定の書式にエクスポートするための以下のボタンがあります。

ボタン	説明
	[Powerpoint に送る]アイコン
	[Microsoft Word に送る]アイコン
	[Outlook に送る]アイコン
	[Adobe Acrobat PDF に送る]アイコン
	[BusinessObjects プラットフォームにエクスポート]アイコン

[書式]ツールバー

[書式]ツールバーには、キャンバス上のコンポーネントを調整するための以下のボタンがあります。

ボタン	説明
	[コンポーネントのグループ化]アイコン
	[コンポーネントのグループ化解除]アイコン
	[左揃え]アイコン
	[左右中央揃え]アイコン
	[右揃え]アイコン
	[上揃え]アイコン
	[上下中央揃え]アイコン
	[均等間隔(横)]アイコン
	[均等間隔(縦)]アイコン
	[幅をそろえる]アイコン
	[高さを揃える]アイコン
	[サイズを揃える]アイコン
	[前面に移動]アイコン
	[背面に移動]アイコン
	[前面に移動]アイコン
	[背面に移動]アイコン

## ドキュメント プロパティの設定

ドキュメント プロパティを使用してキャンバス サイズをカスタマイズし、フォントの使用方法を指定し、ファイルの説明を入力することができます。

また、モデル、作成者、日付、目的の機能についての簡単な説明を入力することもできます。他の設計者が XLF ファイルを使用する場合、またはモデルをテンプレートとして保存する場合に、この情報を利用することができます。

## 関連項目

- ・ 25 ページの「キャンバス サイズを設定する」
- ・ 17 ページの「グローバル フォント オプションを設定する」

## グローバル フォント オプションを設定する

デフォルトでは、異なるコンポーネントに対して異なるフォントを指定することができます。これらのフォントはデバイスフォント(マシンで使用可能なフォント)に基づき、SWF ファイルには埋め込まれません。指定されたフォントがモデルの実行時に使用できない場合、類似する別のフォントが不足しているフォントの代わりに使用され、モデルの見え目が作成時と変化する可能性があります。

グローバル フォントを設定し、すべてのコンポーネントで同じフォントが使用されるようにすることができます。グローバル フォントは、デバイス フォントと埋め込みフォントのどちらかに基づいて決定することができます。デバイスフォントが使用される場合、SWF ファイルのサイズが小さくなりますが、テキストを回転させることができず、またテキストでアンチエイリアシングが使用されません。フォントが埋め込まれる場合、テキストを回転させることができ、テキストでアンチエイリアシングが使用されますが、SWF ファイルサイズが大きくなり、モデルのロードにかかる時間が長くなります。

- 1 [ファイル] > [ドキュメントのプロパティ]をクリックします。  
[ドキュメントのプロパティ]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 [ドキュメントのプロパティ]ダイアログ ボックスで、[グローバル フォントを使用]を選択します。  
グローバル フォントを設定するオプションが有効になります。
- 3 リストから、すべてのコンポーネントに使用するフォントを選択します。
- 4 次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
デバイス フォントを使用	<p>フォントは SWF ファイルに埋め込まれません。デバイスフォントは、SWF プレーヤーを使用し、指定した TrueType フォントを直接レンダリングします。指定したフォントがモデルの実行時に使用できない場合、類似する別のフォントが使用されます。デフォルトでは、Xcelsius 2008 ではデバイスフォントが使用されます。</p> <p><b>ヒント</b> モデルで Unicode で定義された拡張文字セットが必要とされる場合、デバイスフォントを使用することをお奨めします。</p>
埋め込み フォントを使用	<p>モデルで使用されるフォントは、モデルの実行時に常に使用可能になります。テキストは回転可能で、アンチエイリアシングが使用されます。</p> <p><b>注</b> フォントを埋め込んだ場合、ファイルサイズが大きくなるため、モデルをロードするのにかかる時間が長くなります。</p> <p>SWF ファイルに埋め込まれたテキスト文字を変更するには、[詳細]をクリックし、埋め込む文字を選択して、[OK]をクリックします。</p> <p><b>制限</b> アジア文字セットは埋め込むことができません。</p>

5 [OK]をクリックします。

## コンポーネント ブラウザの使用

[コンポーネント]ブラウザは、モデルに追加できるすべてのコンポーネントのリストです。このリストから、コンポーネントをキャンバスにドラッグすることができます。

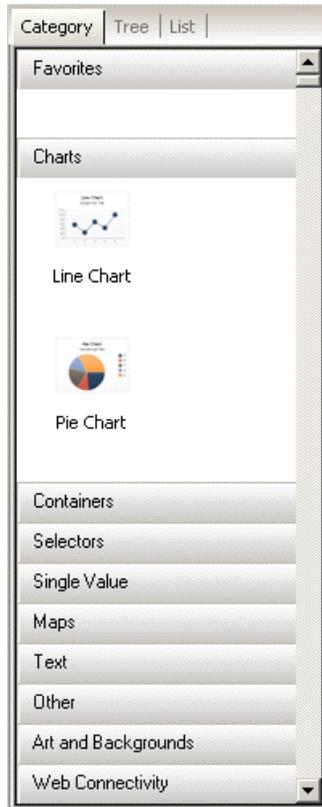
機能的なカテゴリにグループ化されたコンポーネントのリスト([カテゴリ]または[ツリー]ビュー)、またはアルファベット順のリスト(一覧ビュー)を参照することができます。コンポーネントは、以下の機能領域にグループ化されます。

カテゴリ	説明
お気に入り	<p>このリストに追加したコンポーネントの一覧です。</p> <p>注</p> <p>お気に入りは、[カテゴリ]ビューと[ツリー]でのみ参照可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンポーネントをお気に入りリストに追加するには、[カテゴリ]ビューまたは[ツリー]ビューでコンポーネントを右クリックし、[お気に入りに追加]を選択します。</li> <li>・ お気に入りリストからコンポーネントを削除するには、お気に入りリストでコンポーネントを右クリックし、[お気に入りから削除]を選択します。</li> </ul>
チャート	<p>チャート コンポーネントを使用してデータのビジュアル表示を作成し、ユーザーが比較、パターン、トレンドを確認しやすくします。</p>
コンテナ	<p>コンテナ コンポーネントには、他のコンポーネントがグループ化されて表示されます。</p> <p>注</p> <p>コンテナ コンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。</p>
セレクトタ	<p>ユーザーは、セレクトタコンポーネントを使用して、モデルの実行中にオプションを選択することができます。これらのオプションにより、対話型の動的なモデルを作成することができます。</p>
単一値	<p>単一値コンポーネントは、スプレッドシートの単一セルにリンクさせ、ユーザーがそのセルの値を変更できるようにするか、そのセルの式の結果を照会できるようにします。</p>
マップ	<p>マップ コンポーネントでは、地域別に表示可能な地理的表示が提供されます。</p>

カテゴリ	説明
テキスト	テキスト コンポーネントを使用すると、モデルの実行時にモデルにラベルを追加したり、テキストを入力したりすることができます。
その他	その他カテゴリには、カレンダー、トレンド アイコン、パネル セット、印刷ボタンなど、モデルを拡張できる多様なコンポーネントが含まれています。
アートおよび背景	アートおよび背景コンポーネントを使用し、画像と背景を追加して、モデルを拡張することができます。
Web 接続	Web 接続コンポーネントを使用して、モデルをインターネットにリンクさせることができます。

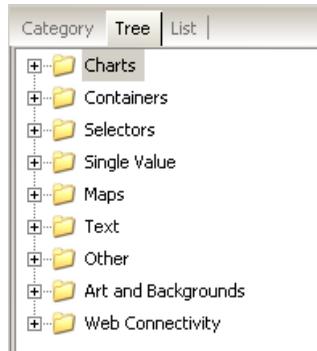
#### カテゴリ ビュー

[カテゴリ]ビューでは、コンポーネントがスライド アコーディオン メニューにグループ化されます。コンポーネントに移動するには、カテゴリタイトルをクリックするか、スクロールダウンして各カテゴリを順番に開きます。各カテゴリには、コンポーネントがビジュアル表示されます。



### ツリー ビュー

[ツリー]ビューでは、コンポーネントがカテゴリ別にフォルダにまとめられます。コンポーネントに移動するには、フォルダをクリックしてカテゴリを展開し、利用可能なコンポーネントのリストを表示させます。



### 一覧ビュー

[一覧]ビューでは、すべてのコンポーネントがアルファベット順に表示され、機能別にはグループ化されません。

このビューでコンポーネントに移動するには、ウィンドウ内の任意の場所をクリックし、コンポーネントの 1 文字目を入力するか、上下にスクロールして希望するコンポーネントを見つけます。



## キャンバスの使用

キャンバス領域は、モデルを作成するためにコンポーネントを配置し操作する主な作業領域です。

キャンバスの背景色を変更したり、グリッドを追加してキャンバス上の項目を調整するのに役立ったりすることができます。キャンバスのサイズを変更して、作業領域を広くしたり、保存されるモデルの全体的なサイズを減らしたりすることもできます。

## キャンバスの背景を設定する

キャンバスのデフォルト背景は、透過背景です。この設定を HTML の WMODE パラメータとともに使用し、Flash ムービーの透過背景を作成することができます。透過背景が好ましくない場合、背景をモデルに追加することができます。

- 1 モデルを開くか、作成します。
- 2  > 
- 3 [キャンバスのプロパティ]パネルで、以下のオプションを設定します。

オプション	説明								
タイプ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>塗りつぶし</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>なし</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	塗りつぶし				なし	
	オプション	説明							
	塗りつぶし								
なし									
背景色	塗りつぶしまたはグラデーションタイプを選択した場合、[背景色]ボックスをクリックし、背景で使用する色を設定します。塗りつぶし背景の場合、単一色を選択します。グラデーション背景の場合、[背景色 1]でモデルの上部に使用する色を、[背景色 2]で下部に使用する色を選択します。								
インポート	画像タイプを選択した場合、[インポート]を選択し、使用する画像ファイルを選択します。								

## グリッドをキャンバスに表示する

キャンバスにコンポーネントを配置する際には、アイテムをグリッド線上に並べるのが便利な場合があります。グリッドを手動で使用して各コンポーネントを配置するか、キャンバスに配置されたコンポーネントが自動的に1番近いグリッド線上に配置されるようにすることができます。

- 1 [ファイル] > [基本設定]をクリックします。  
[基本設定]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 ダイアログ ボックスの左側にある[グリッド]をクリックします。
- 3 [グリッド]領域では、以下のオプションを設定します。

オプション	説明
グリッドを表示	グリッドをキャンバスに表示させる場合に選択します。
グリッドに配置	
Width	グリッド列間のスペースをピクセル単位で指定します。
Height	グリッド行間のスペースをピクセル単位で指定します。

4 [OK]をクリックします。

**ヒント**

すべてのグリッドオプションをデフォルト設定にリセットするには、[デフォルト値に戻す]をクリックします。

## キャンバス サイズの変更

キャンバス サイズを変更して、作業領域のサイズを変更することができます。Xcelsius では、キャンバス サイズの変更について、ピクセル単位の具体的なサイズを設定する、コンポーネントに合わせる、ウィンドウに合わせるという 3 つのオプションが提供されています。モデルでの作業中に、キャンバス サイズをできるだけ拡大し、多様なコンポーネントを追加および配置するための空間を作ることができます。

**注**

キャンバス サイズは、埋め込みモデルのサイズと位置の決定、およびモデルのロードに必要な時間に影響を及ぼす可能性があります。

## キャンバス サイズを設定する

キャンバスに特定のサイズを設定する場合、ドキュメントのプロパティを調整します。

- [ファイル] > [ドキュメントのプロパティ]をクリックします。  
[ドキュメントのプロパティ]ダイアログ ボックスが開きます。
- [ドキュメントのプロパティ]ダイアログ ボックスの[キャンバス サイズ(ピクセル単位)]領域で、以下のいずれかを行います。
  - [規定のサイズ]を選択し、リストから使用可能なサイズの 1 つを選択します。

- ・ [カスタム サイズ]を選択し、[幅]ボックスには希望するキャンバスの幅を、[高さ]ボックスには希望するキャンバスの高さをピクセル単位で入力します。

3 [OK]をクリックします。

## キャンバスをコンポーネントに合わせる

モデルが Xcelsius で開いています。

モデルを完成したら、周囲のキャンバス領域を取り除いて最終的な大きさを調整することができます。キャンバスをすべてのコンポーネントにぴったりと合わせ、細かい単位での拡大または縮小を行い、キャンバス サイズを微調整することができます。

1 [表示] > [キャンバスのサイズ設定] > [キャンバスをコンポーネントに合わせる]をクリックします。

キャンバスがコンポーネントにぴったりと合わせたサイズに縮小されます。

2 必要に応じて、キャンバスサイズを調整します。

- ・ [表示]メニューから[キャンバスのサイズ設定] > [キャンバスの拡大]をクリックします。
- ・ [表示]メニューから[キャンバスのサイズ設定] > [キャンバスの縮小]をクリックします。

注

ツールバー ボタン  (キャンバスをコンポーネントに合わせる)、 (キャンバスの拡大)、および  (キャンバスの縮小)を使用して、キャンバスサイズを調整することもできます。

## キャンバスをウィンドウに合わせる

作業領域のサイズを拡大する場合、キャンバスのサイズをウィンドウに合わせて拡大することができます。

1 [表示] > [キャンバスのサイズ設定] > [キャンバスをウィンドウに合わせる]をクリックします。

キャンバス サイズが、ウィンドウで使用可能な最大のサイズに拡大されます。

2 必要に応じて、キャンバスサイズを調整します。

- ・ [表示]メニューから[キャンバスのサイズ設定] > [キャンバスの拡大]をクリックします。
- ・ [表示]メニューから[キャンバスのサイズ設定] > [キャンバスの縮小]をクリックします。

**注**

ツールバー ボタン  (キャンバスをウィンドウに合わせる)、 (キャンバスの拡大)、および  (キャンバスの縮小)を使用して、キャンバス サイズを調整することもできます。

## キャンバスでのコンポーネントの配置

Xcelsius では、ページまたは他のコンポーネントに合わせてコンポーネントを配置するためのオプションが複数提供されています。また、作業中に異なるレイヤ間でコンポーネント移動させたり、コンポーネントを重ね合わせたりすることもできます。

キャンバス上に多数のコンポーネントが存在する場合、それらをグループ化し、単一のアイテムと同様に処理することができます。

## コンポーネントをキャンバスに配置する

キャンバスにコンポーネントを配置する方法は、2 つあります。

- ・ [コンポーネント]ブラウザからコンポーネントをドラッグし、それをキャンバスの希望する位置にドロップします。  
それにより、コンポーネントがキャンバスに配置されます。
- ・ [コンポーネント]ブラウザでコンポーネントをクリックし、次にキャンバスでコンポーネントを配置する位置をクリックします。  
それにより、コンポーネントがキャンバスに配置されます。

**注**

キャンバスにグリッドを設定し、[グリッドに配置]オプションを選択している場合、コンポーネントをキャンバスに配置すると、それが自動的にもっとも近いグリッドラインに配置されます。

**関連項目**

- ・ 24 ページのグリッドをキャンバスに表示する

## 複数のコンポーネントを配置する

最初に選択したコンポーネントに合わせて、コンポーネントまたはコンポーネントのグループの端または中心を配置することができます。

- 1 コンポーネントを選択します。

- 2 Ctrlキーを押しながら、最初のコンポーネントに合わせて配置するコンポーネントを選択します。
- 3 [書式] > [整列]をクリックし、以下のオプションの 1 つを選択します。

オプション	説明
 左	選択したコンポーネントの左隅を最初に選択したコンポーネントの左隅と合わせて配置します。
 中央	選択したコンポーネントの中央を最初に選択したコンポーネントの中央に対して垂直に配置します。
 右	選択したコンポーネントの右端を最初に選択したコンポーネントの右端と合わせて配置します。
 上	選択したコンポーネントの上端を最初に選択したコンポーネントの上端と合わせて配置します。
 上下中央	選択したコンポーネントの中央を最初に選択したコンポーネントの中央に対して水平に配置します。
 下	選択したコンポーネントの下端を最初に選択したコンポーネントの下端と合わせて配置します。

選択したコンポーネントが、選択内容に応じて配置されます。

## コンポーネントをキャンバスの中央に配置する

コンポーネントまたはコンポーネントのグループを、横、縦、または両方の中央に配置することができます。

- 1 1 つ以上のコンポーネントを選択します。

ヒント

- 2 [書式] > [キャンバスの中央揃え]をクリックし、以下のオプションのいずれかを選択します。

オプション	説明
縦	選択したコンポーネントを、キャンバスの上下の端の真ん中に配置します。
横	選択したコンポーネントを、キャンバスの左右の端の真ん中に配置します。
両方	選択したコンポーネントを、キャンバスの上下と左右の端の真ん中に配置します。

選択したコンポーネントが、選択内容に応じてキャンバスの中央に配置されます。

## キャンバス上で均等にコンポーネントの間隔を取る

少なくとも 2 つのコンポーネントがキャンバスに配置されています。

キャンバス上の複数のコンポーネントを、中央点を基準として垂直(縦)または水平(横)方向に同じ間隔になるように配置させることができます。

注

均等間隔オプションは、端と端の間ではなく、中央点同士の間隔で調整します。

- 1 キャンバス上で間隔を均等にするコンポーネントを選択します。

ヒント

- 2 [フォーマット] > [均等間隔] をクリックして、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
横	中央点間の水平方向の間隔が等しくなるようにコンポーネントの位置を調整します。
縦	中央点間の垂直方向の間隔が等しくなるようにコンポーネントの位置を調整します。

選択されたコンポーネントの間隔は、選択に応じて調整されます。

## コンポーネントのグループ化とその解除を行う

キャンバスに複数のコンポーネントが配置されています。

複数のコンポーネントを含む複雑なモデルでの作業時には、複数のコンポーネントをグループ化し、レイアウトの設計時にグループが誤って分割されないようにすることができます。グループコンポーネントは単一のアイテムとみなされ、移動した場合も相対位置を保持します。

#### 注

コンポーネントのグループ化とグループ化の解除は、オブジェクトブラウザから行うこともできます。詳細については、32 ページの「[オブジェクト ブラウザの使用](#)」を参照してください。

- 1 グループ化またはグループ化の解除を行うコンポーネントを選択します。
- 2 次のいずれかを実行します。
  - ・ [書式] > [グループ化]をクリックします。
  - ・ [書式] > [グループ化解除]をクリックします。

選択したコンポーネントは、グループ化され、すべてのグループ コンポーネントの周囲に 1 セットの境界マーカが設定されて、単一のアイテムとして移動できるようになるか、グループ化が解除され、各コンポーネントの周囲に境界マーカが設定され、他のコンポーネントとは独立して移動できるようになります。

## コンポーネントを設計レイヤ間で移動させる

キャンバスに複数のコンポーネントが配置されています。

キャンバスでは、コンポーネントとグループコンポーネントがレイヤに含まれています。前のレイヤにあるコンポーネントは、後ろのレイヤにあるすべてのコンポーネントの全部または一部に重なります。モデルの設計時に各コンポーネントに集中できるようにコンポーネントを前後のレイヤ間で移動させることができます。

#### 注

コンポーネントのレイヤ間の移動は、オブジェクト ブラウザから行うこともできます。詳細については、32 ページの「[オブジェクト ブラウザの使用](#)」を参照してください。

- 1 コンポーネントを選択します。
- 2 [書式] > [順序]をクリックし、以下のオプションの 1 つをクリックします。

オプション	説明
前面に移動	選択したコンポーネントを1番前のレイヤに移動させます。
前に移動	選択したコンポーネントを現在の位置から1つ前のレイヤに移動させます。
後ろに移動	選択したコンポーネントを現在の位置から1つ後ろのレイヤに移動させます。
背面に移動	選択したコンポーネントを1番後ろのレイヤに移動させます。

選択したコンポーネントは、選択内容に基づくレイヤに移動します。

## サイズ設定をその他のコンポーネントにコピーする

キャンバスに複数のコンポーネントが配置されています。

複数のコンポーネントのサイズを迅速に調整するため、1つのコンポーネントの高さおよび幅の設定をキャンバスの他のコンポーネントにコピーすることができます。

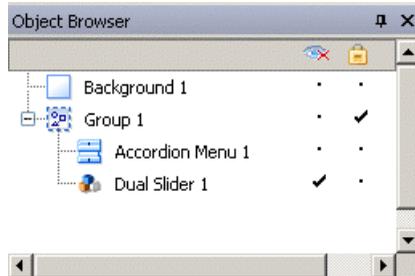
- 1 コンポーネントを選択します。
- 2 Ctrlキーを押しながら、最初のコンポーネントとサイズを同じにするコンポーネントを選択します。
- 3 [書式] > [サイズを揃える]をクリックし、以下のオプションの1つをクリックします。

オプション	説明
 幅	選択した各コンポーネントの幅を、最初のコンポーネントの幅に設定します。
 高さ	選択した各コンポーネントの高さを、最初のコンポーネントの高さに設定します。
 両方	選択した各コンポーネントの高さと幅を、最初のコンポーネントの高さと幅に設定します。

選択したコンポーネントは、選択内容に基づいて調整されます。

## オブジェクト ブラウザの使用

Objects Browser を使用して、これらのコンポーネントを選択し操作することができ、またキャンバス上のコンポーネントをロックしたり、非表示にしたりすることができます。



### コンポーネントの選択

オブジェクトブラウザのコンポーネントを選択するには、コンポーネント名またはアイコンをクリックして、キャンバス上のコンポーネントをアクティブにします。

複数のコンポーネントを選択するには、1 つのコンポーネント名またはアイコンをクリックしてから、Ctrl キーを押しながら、他のコンポーネントをクリックします。コンポーネントの範囲を選択するには、Shift キーを押しながらオブジェクト ブラウザ内の範囲を選択するか、キャンバスをクリックし、コンポーネントのグループの上でカーソルをドラッグします。

以上の方法を組み合わせる場合は、最初に Shift + クリックでコンポーネントをグループで選択し、次に Ctrl + クリックで個別のコンポーネントを選択します。

すべてのコンポーネントを選択するには、任意のコンポーネントを選択し、Ctrl+A を押します。

#### 注

キャンバス上で、非表示またはロック済みにマークされているコンポーネントは選択できません。これらのコンポーネントはオブジェクトブラウザでのみ選択することができます。

## コンポーネントの非表示

モデルの設計時は、キャンバスに多数のコンポーネントが存在するので、一部のコンポーネントに集中できるように他のコンポーネントを見えないようにすると便利です。ただし、それらのコンポーネントを削除したり、隅に移動させたりするのは不都合な場合もあります。オブジェクトブラウザでは、キャンバスでコンポーネントを一時的に非表示にすることができます。非表示にされたコンポーネントは引き続きモデルに含まれ、すべての書式設定が保持されますが、設計モードでは表示されません。

### 注

キャンバスでのコンポーネントの表示と非表示を切り替えるには、オブジェクトブラウザで以下のいずれかを実行します。

目的	操作
コンポーネントの非表示化	
グループの非表示化	
すべてのコンポーネントの非表示化	ツールバーで非表示アイコン(  )をクリックします。
非表示にされたコンポーネントまたはグループの表示	
非表示にされたすべてのコンポーネントとグループの表示	 OR ツールバー上の一部のアイテムが非表示にされている場合、非表示アイコンをクリックし、すべてのコンポーネントを非表示にしてから、再度アイコンをクリックしてすべてのコンポーネントを表示させます。

## プロパティ パネルを開く

- ・ コンポーネントのアイコンまたはラベルをダブルクリックします。
- 注  
グループ アイコンまたはラベルをダブルクリックすると、ツリー内のグループが展開されるか、折りたたまれます。
- ・ コンポーネントまたはグループを選択し、Alt + Enter を押します。
  - ・ コンポーネントまたはグループを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

注

## コンポーネント名を変更する

キャンバスにコンポーネントを配置すると、自動的に名前が割り当てられます。この名前は、[プロパティ]パネルのタイトルバーおよび[オブジェクトブラウザ]に表示されます。必要に応じて、コンポーネント名を変更することができます。

- 1 [オブジェクトブラウザ]で、名前を変更するコンポーネントをクリックします。
- 2 コンポーネント名をクリックします。  
名前が強調表示され、カーソルが[名前]テキストボックスに置かれます。
- 3 コンポーネント名を入力し、Enter を押します。

## コンポーネントのグループ化

オブジェクトブラウザ内のオブジェクトは、次の方法でグループ化できます。

- ・ 複数のコンポーネントを選択してから、その中のコンポーネントを右クリックし、コンテキストメニューから[グループ]を選択します。
- ・ 複数のコンポーネントを選択してから、ツールバーの  をクリックします。

グループ化したコンポーネントは、ブラウザ内でグループがフォルダとして表され、ツリー表示されます。グループフォルダを展開するには、[+]ボタンをクリックするか、フォルダアイコンまたはグループラベルをダブルクリックします。コンポーネントは、ブラウザツリーの異なる場所にドラッグすることで、グループ内、グループ外にドラッグすることができます。

選択したコンポーネントのグループ化を解除するには、ツールバーの  をクリックするか、グループを右クリックしてコンテキストメニューにアクセスし、[グループ化解除]を選択します。

## コンポーネントのロック

コンポーネントやグループと対話できないように、キャンバス上でロックすることができます。これは、キャンバス上に多くのコンポーネントがある場合に便利です。

目的	操作
コンポーネントのロック	
グループのロック	
すべてのコンポーネントのロック	
コンポーネントまたはグループのロック解除	
すべてのコンポーネントとグループのロック解除	 OR 一部のアイテムがロックされている場合、ロック アイコン (  ) をクリックしてすべてのコンポーネントをロックし、アイコンを再度クリックしてすべてのコンポーネントのロックを解除します。

## コンポーネントを手前に表示/後ろに表示

ブラウザ内のコンポーネントをクリックおよびドラッグすると、表示される画像レイヤが変更されます。リストで上に移動させたコンポーネントは、前のレイヤに移動します。下に移動させたコンポーネントは、後ろのレイヤに移動します。

- ・ 前面に移動
- ・ 背面に移動
- ・ 前に移動
- ・ 後ろに移動

## コンテキスト メニューの使用

コンテキスト メニューは、ブラウザやキャンパスの任意のコンポーネント上を右クリックすると表示されます。

## アドオンによる Xcelsius のカスタマイズ

さまざまなモデル コンポーネントおよび機能拡張が Xcelsius で使用可能です。(アドオンと呼ばれる)これらの項目は、SAP Business Objects パートナーおよびカスタマーによって作成され、[Information OnDemand](#) から有料または無料で利用できます。

## アドオンをダウンロードする

アドオンは、インストールする前にシステムにダウンロードする必要があります。

- 1 [ファイル] > [Xcelsius アドオン マネージャ]をクリックします。  
[Xcelsius アドオン マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 [その他のアドオンの取得]をクリックし、[セキュリティ]ダイアログで[OK]をクリックします。  
[Information OnDemand]Web サイトの[Xcelsius Add-on Marketplace]ページが開きます。
- 3 [Find an Add-on]の下、[Visit the Marketplace to view all add-ons.]をクリックします。  
Information OnDemand Web サイトに、利用可能なアドオンが一覧表示されます。ダウンロードするアドオンをクリックします。
- 4 [Check Out]をクリックします。  
[Sign In]ダイアログ ボックスが開きます。
- 5 [Sign In]ダイアログ ボックスで、以下のいずれかを実行します。
  - ・ サインイン情報を入力して、[サインイン]をクリックします。
  - ・ 登録するには、[Create New Account]をクリックして説明に従います。
- 6 使用条件を読み、[I agree to the Terms of Use]チェックボックスにチェックします。[Checkout]をクリックし、オンライン説明に従ってファイルをダウンロードします。

アドオンがインストール可能になります。

アドオンが圧縮されたフォルダに格納されている場合、ファイルを抽出してからダウンロードされたアドオンをインストールします。

## アドオンをインストールする

アドオンがシステムにダウンロードされました。

ダウンロードしたアドオンを使用するには、そのアドオンをインストールする必要があります。

- 1 [ファイル] > [Xcelsius アドオン マネージャ]をクリックします。  
[Xcelsius アドオン マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 [アドオンのインストール]をクリックします。
- 3 アドインファイルが保存および抽出された場所に移動します。XLF ファイルを選択して[開く]をクリックします。

アドオンがインストールされ、使用可能になります。

## アドオンを削除する

アドオンがインストールされています。

- 1 [ファイル] > [Xcelsius アドオン マネージャ]をクリックします。  
[Xcelsius アドオン マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 左側のリストから、削除するアドオンを選択します。[削除]をクリックします。  
[アドオンの削除を確認]ダイアログ ボックスが開きます。
- 3 [削除]をクリックします。

Xcelsius からアドオンが削除されます。

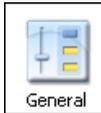
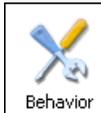
# コンポーネントの操作

## [プロパティ]パネルの使用

- 
- 
- 
- 
- 

一般的に、[プロパティ]パネルの構造はすべてのコンポーネントで同じですが、利用できるオプションは各コンポーネントに固有です。

[プロパティ]パネルには、次のビューがあります。

ビュー	説明
 <p>General</p>	[一般]ビューを使用して、タイトル、ラベル、ソースおよび出力先データの場所など、コンポーネントの基本設定を設定します。
 <p>Drill Down</p>	[ドリル ダウン]ビューは、チャートから使用できる場合もあります。このメニューを使用して、セレクトアとして機能するチャートを設定して、チャート要素をクリックするとより詳細な情報が埋め込みスプレッドシートに挿入されるようになるので、ドリルダウン動作を作成するために別のコンポーネントによって使用することができるようになります。チャートドリル ダウン動作を設定する場合の詳細については、83 ページの「 <a href="#">ドリルダウン動作の設定</a> 」を参照してください。
 <p>Behavior</p>	[動作]ビューを使用して、モデル内でコンポーネントが動作する方法を設定します。たとえば、制限、対話性、視認性を設定します。
 <p>Appearance</p>	[表示]ビューを使用して、サイズ、タイトル位置、凡例、色などの、コンポーネントの外観をフォーマット化します。
 <p>Alerts</p>	[アラート]ビューを使用して、データに関連する通知を設定します。アラートをオンにして、色数を設定し、そのターゲット制限を設定することができます。アラートを使用する場合の詳細については、216 ページの「 <a href="#">アラートの概要</a> 」を参照してください。

## 複数のコンポーネントのプロパティの設定

複数のコンポーネントのプロパティにアクセスするには、コンポーネントを選択し、選択したコンポーネントをダブルクリックします。また、選択項目を右クリックし、コンテキストメニューの[プロパティ]を選択しても、プロパティにアクセスすることができます。

たとえば、現在選択しているコンポーネントに 3 つの[折れ線チャート]コンポーネントが含まれる場合、折れ線チャート固有のプロパティにアクセスすることができます。プロパティに対する変更は、選択しているすべてのコンポーネントに適用されます。詳細については、32 ページの「[オブジェクト ブラウザの使用](#)」を参照してください。

## コンポーネント要素の色の設定

Xcelsius では、すべてのコンポーネントのほとんどすべての要素に特定の色を選択することができます。[表示]ビューあるいは[アラート]ビューのいずれかで、各コンポーネントの[プロパティ]パネルで色を指定することができます。

要素の色を設定するには、カラー セレクタ アイコン()か、あるいは要素名の横のバインドされたカラー セレクタ アイコン()をクリックします。

要素の色を指定する場合は、複数ある共通の色定義から選択する、独自の定義を作成する、あるいは埋め込みスプレッドシートのセルに色をバインドするという方法で、実行時に色を動的に設定することができます。

## 要素の色を指定する

コンポーネントはキャンバスに配置されます。

事前に定義された複数の色を選択して、コンポーネント要素の色を設定することができます。

- 1 コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [プロパティ]パネルで、[表示]または[アラート]ビューを選択し、定義する要素の横にあるカラー セレクタ アイコン()をクリックします。  
[色]ダイアログ ボックスが開きます。
- 3 以下のセクションのいずれかの色をクリックして、事前に定義された色を割り当てます。

オプション	説明
テーマの色	現在割り当てられているテーマの色です。
標準の色	標準の色設定の一覧です。
最近使用した色	最近別の要素で使用した色です。
その他	このオプションで、さまざまな色を選択できる大きなカラーホイールを表示します。ホイールで色を選択すると、[現在]の色の横に[新規]ブロックが表示され、色の違いを比較することができます。必要な色を選択して、[OK]をクリックします。

選択した色がコンポーネント要素に適用され、カラー セレクタ アイコンが更新され、現在の色が表示されます。

## エレメントのカスタム カラーを作成する

コンポーネントはキャンバスに配置されます。

コンポーネント エレメントに特定の色を割り当てる場合、RGB または HSL 値を指定して色を正確に定義することができます。既定の色を割り当てるのと同じ方法でカスタムカラーをコンポーネント エレメントに割り当てることができます。

- 1 コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [プロパティ]パネルで、[表示]または[アラート]ビューを選択し、定義するエレメントの横にあるカラー セレクタ アイコン(  )をクリックします。  
[色]ダイアログ ボックスが開きます。
- 3 [カラー]ダイアログ ボックスで、[その他の色]をクリックします。
- 4 [カスタム]タブをクリックします。
- 5 [カラー モデル]リストで、[RGB]または[HSL]を選択して、適用可能なカラー設定レベル(RGB の場合は赤、緑、青のレベル、HSL の場合は色調、彩度、輝度レベル)を設定します。

設定結果の色が[現在]カラーの隣にある[新規]ブロックに表示されるので、その違いを見ることができます。

- 6 選択された要素のカスタム カラーを保存し、適用するには、[OK]をクリックします。



## 実行時に色を動的に設定する

コンポーネントはキャンバスに配置されます。

ユーザー入力または別のコンポーネントの設定に基づいて、実行時に色を変更するようにコンポーネントまたはコンポーネントエレメントを設定する場合、色設定を埋め込みスプレッドシートのセルにバインドさせることができます。

色がスプレッドシートのセルとバインドされる際に、色を設定するためにそのセル内に入力した任意の値を使用します。次に、ユーザー入力、別のコンポーネント、外部データソースなどによってセル内の値を指定するように設定することができます。

### 注

セルにバインドされた色は、そのモデルに適用された色テーマの変更に影響を受けません。

次の色形式がサポートされています。

- ・ 16 進数(たとえば、FFFFFF、#FFFFFF、0xFFFFFFFFなど)
- ・ RGB(たとえば、(255,255,255))
- ・ VGA 色名(たとえば、Aqua、Black、Blue、Fuchsia、Gray、Green、Lime、Maroon、Navy、Olive、Purple、Red、Silver、Teal、White、Yellow)
- ・ 10 進数の色コード(たとえば、F00FF は 16711935)

### 警告

指定されたセル内の値が有効な色設定ではないか、セルが空の場合、コンポーネントエレメントの色は黒に設定されます。

- 1 コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [プロパティ]パネルで、[表示]または[アラート]ビューを選択し、定義するエレメントの横にある[カラー セレクタ]  またはアイコンをクリックします。  
[色]ダイアログ ボックスが開きます。
- 3 [カラー]ダイアログ ボックスで、[色に連結]をクリックします。
- 4 [範囲の選択]ダイアログ ボックスで、色をバインドするセルを選択します。[OK]をクリックします。

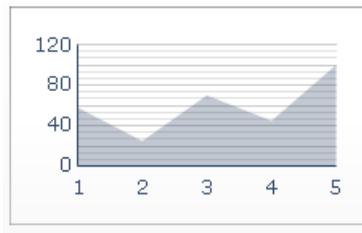
エレメント色は、選択されたセル内の値に基づいて変更されます。カラー セレクタ アイコン( ) がバインドされたカラー アイコン( ) に変更されて、設定がセルにバインドされていることを示します。

## Xcelsius 2008 コンポーネントの使用

### チャート コンポーネントの使用

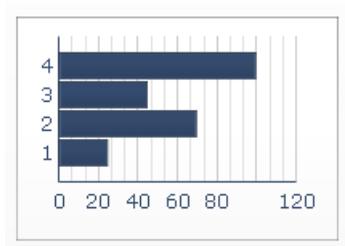
チャートにより、データを視覚的に表現することができるようになり、ユーザーは比較、パターン、傾向を簡単に把握できます。Xcelsius には、次の種類のチャートが含まれています。

#### 面チャート



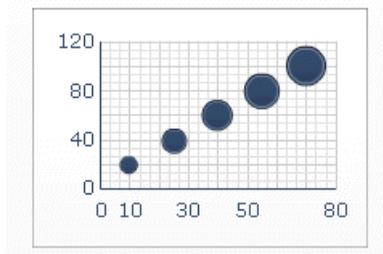
垂直軸および水平軸を含む標準のチャートです。水平軸に示される各ポイントは、データ ポイントを表します。各データ ポイントの実際の値は、垂直軸に対してプロットされます。系列ごとに、水平軸に対してプロットされたポイントをつなげて、色付きの領域が作成されます。このチャートは、株価や売上げ履歴などの傾向線を強調するモデルに使用します。

棒チャートと縦棒チャート



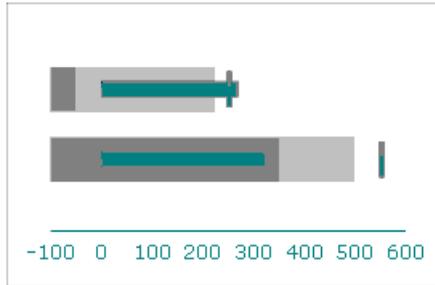
一定期間または特定の範囲の値において 1 つ以上のアイテムを表示したり比較する単一棒または複数棒のチャートです。たとえば、縦棒チャートは、地域別の四半期の人員数を示すモデルで使用することができます。

バブル チャート



バブル チャートは、もっとも強力な分析ツールの 1 つです。これは、3 つの異なるパラメータに基づいてアイテムのグループまたはアイテムの系列を比較できるチャートです。このチャートには、チャート領域におけるアイテムの場所を表す X 軸と Y 軸、およびアイテムのサイズを表す Z 値があります。

### ビュレット チャート

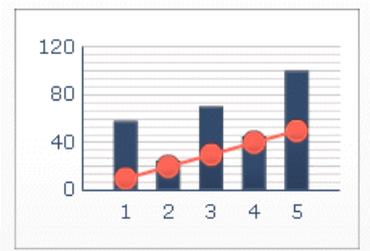


このチャートコンポーネントは、凝縮され、散漫になりにくい形式で情報を表示する方法を提供するもので、垂直または水平方向のいずれかで使用できます。

ビュレットチャートコンポーネントには、垂直または水平棒として表示される1つの主測度(たとえば過去1年間の収益)があります。マーカーは、目標またはパフォーマンス目標を示し、棒の背後にある色調が変化している部分はパフォーマンスの定性的な範囲を示します(不足、十分、良好など)。

設計者は複数の系列を表示するのにビュレットチャートを設定することができ、目盛、軸を系列ごとに設定できます。たとえば、チャートで、千ドル単位で収益を表示し、ドル単位で利益を表示し、発注量を個数で表示することができます。

### 組み合わせチャート



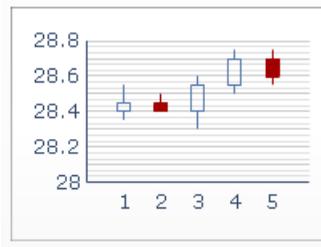
値の範囲と、それらの値の傾向線を表示するのに適している、縦棒チャートと折れ線チャートの組み合わせチャートです。組み合わせチャートは、株価を調査するモデル

に使用することができます。折れ線系列には1年を通じた株価の履歴が表示され、縦棒チャートにはその株価の取引量が示されます。



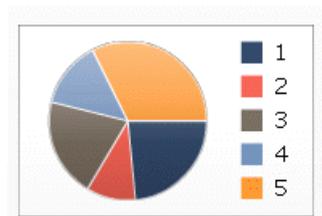
このチャートは、株価や売上げ履歴などの傾向やデータの一連の流れを強調するモデルに使用します。

#### OHLC チャートとローソク足チャート



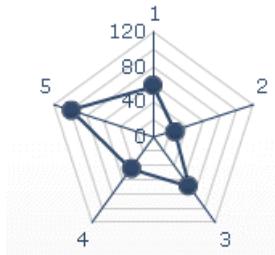
各マーカーは値に対応し、これらの値は OHLC チャートではマーカーに接続された線で、ローソク足チャートでは色で表されます。

#### 円チャート



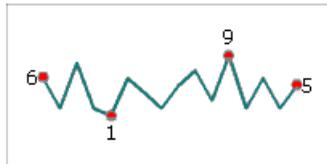
円チャートは、製品別の売上げ寄与率などのモデルに適しています。この例では、全体的な円のサイズは売上げの合計を表し、各スライス異なる製品を表します。

レーダー チャートと塗りつぶしレーダー チャート



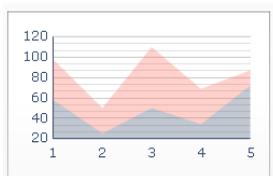
これらのチャートには、複数の軸を含めることができます。これらのチャートは、データの多次元セットをプロットする場合に役立ちます。塗りつぶしレーダー チャートでは、各軸のポイントをつなげて作成される形状が色で塗りつぶされます。たとえば、レーダーチャートを使用して、株価のさまざまな側面を比較できます。価格、量、価格対収益率、およびその他の関連データをそれぞれの軸で表すことができます。

スパークライン



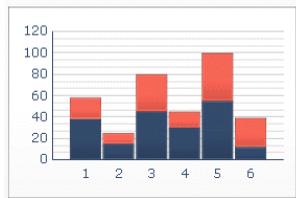
ある次元の系列(または複数の系列)の数値データを、高密度のわずかなスペースで、すぐに理解できる形で表示する方法です。

積み上げ面チャート



水平軸に示される各ポイントは、データポイントを表します。データポイントの実際の値は垂直軸に対してプロットされ、各系列が合計値に追加されます。積み上げ面チャートを使用して、複数の製品の売上げだけでなく、すべての製品の合計売上げやその合計売上げに対する各製品の寄与率を比較できます。

積み上げ縦棒チャートと積み上げ棒チャート



積み上げ棒は、1つ以上の変数を比較し、各系列が合計値に追加されます。コストコンポーネントはそれぞれ異なる色で表され、各棒はそれぞれ別の期間を表します。合計の棒のサイズは、合計コストを表します。

ツリー マップ

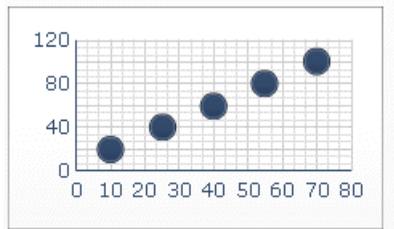


たとえば、ツリー マップを使用して、ローンの大きさと利率を表すことができます。四角形のサイズはローンの金額として設定できます。ローンが大きいほど、大きな四角形で表されます。四角形の色は金利を表します。金利が高いほど、明るい色値で表されます。

ヒント

□ > □

## XY チャート



XY チャートには、X 値と Y 値の交点の結果として各ポイントが示されます。たとえば、XY チャートは、ある企業グループについて X 軸の ROI と Y 軸の市場価格を比較するモデルで使用することができます。

## 関連項目

- ・ [50 ページのチャートを設定する](#)

## チャートを設定する

- 1 チャートを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [プロパティ]パネルで、[一般]ビューをクリックして、チャート要素のタイトルとラベルを入力し、チャートをスプレッドシート内のデータとリンクします。使用可能なオプションの詳細については、[を参照してください](#)。  
チャートには最新の変更が反映されます。
- 3 該当する場合、[ドリルダウン]ビューをクリックして、必要なオプションを設定します。使用可能なオプションの詳細については、[を参照してください](#)。  
たとえば、各地域の年間売上を表示する円チャートを設定した場合、円チャートの一片をクリックすると、別のチャート上でその地域の月間売上が表示されます。
- 4 [動作]ビューをクリックして、データの変量の処理、拡大/縮小、アニメーションなど、モデルでコンポーネントがどのように機能するかについてのオプションを設定します。使用可能なオプションの詳細については、[を参照してください](#)。
- 5 表示オプションの詳細については、67 ページの「[チャート表示プロパティ](#)」を参照してください。
- 6 アラートの詳細については、216 ページの「[アラートの概要](#)」を参照してください。

- 7 [ファイル] > [保存]をクリックして、モデルの場所とファイル名を入力します。  
[OK]をクリックします。

チャートがモデルに追加され、設定されます。

関連項目

- ・ 39 ページの「[プロパティ]パネルの使用」

下の表は、[一般]ビューでチャート コンポーネント プロパティを設定するためのガイドとして使用してください。オプションの中には、特定のチャート タイプにしか使用できないものがあることに注意してください。

オプション	説明
[タイトル]	
チャート	すべて
サブタイトル	すべて
カテゴリ(X) 軸	折れ線チャート、円チャート、OHLC チャート、ロウソク足チャート、縦棒チャート、積み上げ縦棒チャート、組み合わせチャート、面チャート、および積み上げ面チャート X 軸に沿って表示されるデータ カテゴリのラベル。
カテゴリ(Y) 軸	棒チャート、積み上げ棒チャート、バブル チャート、および XY チャート Y 軸に沿って表示されるデータ カテゴリのラベル。
水平(X) 軸	水平ビュレット チャート X 軸に沿ったデータのラベル。
垂直(Y) 軸	垂直ビュレット チャート Y 軸に沿ったデータのラベル。

オプション	説明
値 (Y) 軸	<p>折れ線チャート、円チャート、OHLC チャート、ロウソク足チャート、縦棒チャート、積み上げ縦棒チャート、組み合わせチャート、面チャート、および積み上げ面チャート</p> <p>Y 軸に沿って表示される値のラベル。</p>
値 (X) 軸	<p>棒チャート、積み上げ棒チャート、バブル チャート、および XY チャート</p> <p>X 軸に沿って表示される値のラベル。</p>
2 次値 (Y) 軸	<p>折れ線チャート、縦棒チャート、組み合わせチャート、および面チャート</p> <p>チャートの右側に表示される 2 次 Y 軸のラベル。</p> <p>注 このオプションは、[系列別]が選択され、[プロット系列オン]が[2 次軸]に設定されている場合にのみ使用可能です。</p>
2 次値 (X) 軸	<p>棒チャート</p> <p>チャートの上部に表示される 2 次 X 軸のラベル。</p> <p>注 このオプションは、[系列別]が選択され、[プロット系列オン]が[2 次軸]に設定されている場合にのみ使用可能です。</p>
データ	

オプション	説明
<p>範囲別</p>	<p>円チャートを除くすべて</p> <p>このオプションを選択すると、単一系列の値の範囲が表示されます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ データ系列がワークシートの列に基づく場合は、[列内のデータ]を選択します。</li> <li>・ データ系列がワークシートの行に基づく場合は、[行内のデータ]を選択します。</li> </ul>

オプション	説明										
系列別	<p>折れ線チャート、縦棒チャート、積み上げ縦棒チャート、棒チャート、積み上げ棒チャート、バブルチャート、XYチャート、積み上げ面チャート、レーダーチャート、および塗りつぶしレーダーチャート</p> <p>このオプションを選択すると、値の複数の系列が表示されます。</p> <p>系列をチャートに追加するには、プラスアイコン( <input type="checkbox"/> )をクリックします。</p> <p>次に、各系列を選択して、以下のオプションを設定します。</p> <table border="1" data-bbox="495 656 1178 982"> <thead> <tr> <th data-bbox="495 656 723 704">オプション</th> <th data-bbox="723 656 1178 704">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="495 704 723 753">名前</td> <td data-bbox="723 704 1178 753">系列の名前。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="495 753 723 843">値</td> <td data-bbox="723 753 1178 843">スプレッドシートからの X または Y のデータ要素。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="495 843 723 892">プロット系列オン</td> <td data-bbox="723 843 1178 892">系列をプロットする軸。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="495 892 723 982">カテゴリ ラベル</td> <td data-bbox="723 892 1178 982">系列内の各カテゴリを識別するために X 軸に表示されるラベル。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	名前	系列の名前。	値	スプレッドシートからの X または Y のデータ要素。	プロット系列オン	系列をプロットする軸。	カテゴリ ラベル	系列内の各カテゴリを識別するために X 軸に表示されるラベル。
	オプション	説明									
	名前	系列の名前。									
	値	スプレッドシートからの X または Y のデータ要素。									
	プロット系列オン	系列をプロットする軸。									
	カテゴリ ラベル	系列内の各カテゴリを識別するために X 軸に表示されるラベル。									
系列別											

オプション	説明														
	<p>OHLC チャートおよびロウソク足チャート</p> <p>このオプションを選択すると、値の複数の系列が表示されます。</p> <p>次のオプションを設定します。</p> <table border="1" data-bbox="498 456 1180 852"> <thead> <tr> <th data-bbox="498 456 747 499">オプション</th> <th data-bbox="747 456 1180 499">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="498 499 747 552">系列名</td> <td data-bbox="747 499 1180 552">系列の名前。参照のみ。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="498 552 747 604">始値</td> <td data-bbox="747 552 1180 604">始値の範囲。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="498 604 747 656">高値</td> <td data-bbox="747 604 1180 656">高値の範囲。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="498 656 747 708">低値</td> <td data-bbox="747 656 1180 708">低値の範囲。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="498 708 747 760">終値</td> <td data-bbox="747 708 1180 760">終値の範囲。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="498 760 747 852">カテゴリ ラベル</td> <td data-bbox="747 760 1180 852">系列内の各カテゴリを識別するために X 軸に表示されるラベル。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	系列名	系列の名前。参照のみ。	始値	始値の範囲。	高値	高値の範囲。	低値	低値の範囲。	終値	終値の範囲。	カテゴリ ラベル	系列内の各カテゴリを識別するために X 軸に表示されるラベル。
オプション	説明														
系列名	系列の名前。参照のみ。														
始値	始値の範囲。														
高値	高値の範囲。														
低値	低値の範囲。														
終値	終値の範囲。														
カテゴリ ラベル	系列内の各カテゴリを識別するために X 軸に表示されるラベル。														
系列別	<p>ツリー マップ チャート</p> <p>このオプションを選択すると、値の複数の系列が表示されます。</p> <p>系列をチャートに追加するには、プラスアイコン (  ) をクリックします。</p> <p>次に、各系列を選択して、以下のオプションを設定します。</p> <table border="1" data-bbox="498 1187 1180 1459"> <thead> <tr> <th data-bbox="498 1187 724 1230">オプション</th> <th data-bbox="724 1187 1180 1230">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="498 1230 724 1282">表示ラベル</td> <td data-bbox="724 1230 1180 1282">系列の名前。参照のみ。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="498 1282 724 1369">値 (サイズ)</td> <td data-bbox="724 1282 1180 1369">チャート上に四角形のサイズで表される値の範囲。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="498 1369 724 1459">値 (色の濃さ)</td> <td data-bbox="724 1369 1180 1459">チャート上に色の濃さで表される値の範囲。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	表示ラベル	系列の名前。参照のみ。	値 (サイズ)	チャート上に四角形のサイズで表される値の範囲。	値 (色の濃さ)	チャート上に色の濃さで表される値の範囲。						
オプション	説明														
表示ラベル	系列の名前。参照のみ。														
値 (サイズ)	チャート上に四角形のサイズで表される値の範囲。														
値 (色の濃さ)	チャート上に色の濃さで表される値の範囲。														

オプション	説明												
系列別	<p>水平ビュレット チャートおよび垂直ビュレット チャート このオプションを選択すると、値の複数の系列が表示されます。</p> <p>系列をチャートに追加するには、プラス アイコン ( <input type="checkbox"/> ) をクリックします。</p> <p>次に、各系列を選択して、以下のオプションを設定します。</p>												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="495 548 723 598">オプション</th> <th data-bbox="723 548 1170 598">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="495 598 723 649">ラベル</td> <td data-bbox="723 598 1170 649">系列の名前。参照のみ。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="495 649 723 736">サブラベル</td> <td data-bbox="723 649 1170 736">系列ラベルの下に表示される系列の2次ラベル。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="495 736 723 822">パフォーマンス値</td> <td data-bbox="723 736 1170 822">実際のパフォーマンスを表す値の範囲。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="495 822 723 909">比較値</td> <td data-bbox="723 822 1170 909">ターゲットのパフォーマンスの値の範囲。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="495 909 723 996">目盛の値</td> <td data-bbox="723 909 1170 996">パフォーマンスの目盛を定義する値の範囲。たとえば、不可、可、良など。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	ラベル	系列の名前。参照のみ。	サブラベル	系列ラベルの下に表示される系列の2次ラベル。	パフォーマンス値	実際のパフォーマンスを表す値の範囲。	比較値	ターゲットのパフォーマンスの値の範囲。	目盛の値	パフォーマンスの目盛を定義する値の範囲。たとえば、不可、可、良など。
	オプション	説明											
	ラベル	系列の名前。参照のみ。											
	サブラベル	系列ラベルの下に表示される系列の2次ラベル。											
	パフォーマンス値	実際のパフォーマンスを表す値の範囲。											
	比較値	ターゲットのパフォーマンスの値の範囲。											
目盛の値	パフォーマンスの目盛を定義する値の範囲。たとえば、不可、可、良など。												
ラベル	系列の名前。参照のみ。												
サブラベル	系列ラベルの下に表示される系列の2次ラベル。												
パフォーマンス値	実際のパフォーマンスを表す値の範囲。												
比較値	ターゲットのパフォーマンスの値の範囲。												
目盛の値	パフォーマンスの目盛を定義する値の範囲。たとえば、不可、可、良など。												
値	<p>円チャート チャート上に各色で表される値の範囲。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データ系列がワークシートの列に基づく場合は、[列内のデータ]を選択します。</li> <li>データ系列がワークシートの行に基づく場合は、[行内のデータ]を選択します。</li> </ul>												
ラベル	<p>円チャート チャート キーの各色の横に表示されるラベル。</p>												

オプション	説明
ヘッダー ラベル	スパークライン チャート チャート内の各系列の横に表示されるラベル。

関連項目

- ・ 50 ページの「[チャートを設定する](#)」
- ・
- ・
- ・ 67 ページの「[チャート表示プロパティ](#)」

下の表は、系列が含まれているチャートの[ドリルダウン]プロパティを設定するためのガイドとして使用してください。オプションの中には、特定のチャートタイプにしか使用できないものがあることに注意してください。

注

ドリルダウン オプションは、面チャート、積み上げ面チャート、垂直ビュレットチャート、水平ビュレットチャート、スパークラインチャート、レーダーチャート、または塗りつぶしレーダーチャートでは使用できません。

オプション	説明
ドリルダウンを有効にする	すべて チャートのセレクトアとしての動作を許可します。このオプションは、系列が含まれているチャートにのみ使用できます。系列の設定の詳細については、 <a href="#">こちら</a> を参照してください。
系列名の出力先	円チャートを除くすべて 現在選択されている系列名が挿入される埋め込みスプレッドシート内のセル。このオプションは、挿入されるデータの系列を識別するために使用します。

オプション	説明
挿入タイプ	すべて 選択時に埋め込みスプレッドシートに挿入されるデータの構造を選択します。
系列	折れ線チャート、縦棒チャート、積み上げ縦棒チャート、棒チャート、積み上げ棒チャート、組み合わせチャート、および円チャート チャートに含まれている系列ごとに系列を選択し、[ソースデータ]、[値セット]([挿入タイプ]が[値]の場合)、および[出力先]の値を設定します。 円チャートの場合、[系列]リストは使用できません。[ソースデータ]および[出力先]の値を定義します。
対話操作オプション	すべて コンポーネントでの選択方法を指定します。
デフォルトの選択	すべて モデルのロード時に選択されるアイテムまたは系列を指定します。

#### 関連項目

- ・ 50 ページのチャートを設定する
- ・
- ・
- ・ 67 ページのチャート表示プロパティ

下の表は、チャートの[動作]プロパティを設定するためのガイドとして使用してください。オプションの中には、特定のチャートタイプにしか使用できないものがあるため注意してください。

オプション	説明
[共通]タブ	
空のセルを無視	<p>すべて</p> <p>注 [系列内]オプションは、円チャート、ローソク足チャート、OHLC チャート、またはツリー マップ チャートでは使用できません。</p> <p>データの末尾にある空のセルをチャートに表示するのか、無視するのかを指定します。</p> <p>以下のいずれかのオプションを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 系列内: 範囲内の最後の空でない系列の後ろにある空の系列がチャートに表示されなくなります。</li> <li>・ 値内: 系列内の最後の空でない値の後ろにある空の値がチャートに表示されなくなります。</li> </ul> <p>このオプションの使用の詳細については、67 ページの「<a href="#">可変量データの操作</a>」を参照してください。</p>
標準範囲の領域	<p>スパークライン チャート コンポーネントのみ</p> <p>このオプションを選択すると、スパークラインの背景色の領域が特定のデータの標準値の範囲を示すように設定することができます。</p>
自動	<p>スパークライン チャート コンポーネントのみ</p> <p>このオプションを選択すると、標準範囲の領域がデータの分散に基づいて設定されます。</p>

オプション	説明
手動	<p>スパークライン チャート コンポーネントのみ</p> <p>このオプションを選択すると、標準範囲の領域が特定の低い値および高い値に基づいて設定されます。 </p>
実行時ツールを有効にする	<p>円チャート、ツリー マップ チャート、水平ビュレットチャート、および垂直ビュレットチャートを除くすべて</p> <p>ユーザーが実行時にチャートの目盛を調整できるようにするかどうかを指定します。このオプションを選択した場合、モデルを実行すると、実行時ツールセットが使用可能になり、ユーザーがチャートの目盛を調整できるようになります。実行時ツールセットの中から使用可能にするツールを選択することもできます。85 ページの「<a href="#">ユーザーによるチャートの目盛の調整</a>」</p>
範囲スライダを有効にする	<p>折れ線チャート、棒チャート、積み上げ棒チャート、縦棒チャート、積み上げ縦棒チャート、ロウソク足チャート、組み合わせチャート、OHLC チャート、面チャート、および積み上げ面チャート</p> <p>範囲スライダを追加して、ユーザーがチャート全体を同時に表示するのではなく、特定のデータセットに焦点を絞り込めるようにします。範囲スライダのいずれかの側にあるコントロールハンドルを調整することで、範囲のサイズをユーザーが変更できます。65 ページの「<a href="#">チャートへの範囲スライダの追加</a>」</p>

オプション	説明						
並び替えを有効にする	<p>折れ線チャート、円チャート、縦棒チャート、積み上げ縦棒チャート、棒チャート、積み上げ縦棒チャート、組み合わせチャート、面チャート、積み上げ面チャート、レーダーチャート、および塗りつぶしレーダーチャート</p> <p>特定のデータ系列またはチャートラベルに従ってチャート値を並べ替えられます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p>						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="556 626 763 678">オプション</th> <th data-bbox="763 626 1178 678">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="556 678 763 933">データ</td> <td data-bbox="763 678 1178 933"> <p>データ値に従って並べ替えられます。</p> <p>チャートに複数の系列が含まれる場合は、[系列]リストで、並べ替える系列を選択します。[順序]リストで、[昇順]または[降順]を選択します。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="556 933 763 1117">カテゴリラベル</td> <td data-bbox="763 933 1178 1117"> <p>カテゴリ軸ラベルに従って並べ替えられます。</p> <p>ラベルは昇順で英数字順に並べ替えられます。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	データ	<p>データ値に従って並べ替えられます。</p> <p>チャートに複数の系列が含まれる場合は、[系列]リストで、並べ替える系列を選択します。[順序]リストで、[昇順]または[降順]を選択します。</p>	カテゴリラベル	<p>カテゴリ軸ラベルに従って並べ替えられます。</p> <p>ラベルは昇順で英数字順に並べ替えられます。</p>
	オプション	説明					
データ	<p>データ値に従って並べ替えられます。</p> <p>チャートに複数の系列が含まれる場合は、[系列]リストで、並べ替える系列を選択します。[順序]リストで、[昇順]または[降順]を選択します。</p>						
カテゴリラベル	<p>カテゴリ軸ラベルに従って並べ替えられます。</p> <p>ラベルは昇順で英数字順に並べ替えられます。</p>						
動的ディスプレイ	<p>すべて</p> <p>221 ページの「<a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a>」</p>						
[目盛]タブ							
目盛	<p>詳細については、62 ページの「<a href="#">目盛の設定</a>」を参照してください。</p>						
[アニメーションと効果]タブ							

オプション	説明
データアニメーションを有効にする	ツリー マップ チャートを除くすべて有効にしない場合、データが変わると、値マーカーが新しい位置までジャンプします。
表示効果	動的ディスプレイが有効な場合、トリガ時にキャンバス上でチャートをどのように表示させるのかを選択します。動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「 <a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a> 」を参照してください。

#### 関連項目

- ・ 50 ページのチャートを設定する
- ・
- ・
- ・ 67 ページのチャート表示プロパティ

## 目盛の設定

目盛は、チャートにおけるデータの表示方法と、データ値の変更に伴うチャート軸の調整方法を制御します。

#### 注

目盛は、円チャート、ツリー チャート、スパークライン チャートには適用されません。

データに基づき、チャート目盛が自動調整されるようにすることができます。ただし、データが示す内容によっては、自動作成された目盛が適切ではなく、目盛を手動で操作する必要がある場合があります。手動目盛を設定した場合、目盛がデータに合わせて変更されず、チャートの範囲を超過したデータ値はチャートに表示されません。たとえば、データが特定の数量のパーセンテージとして示される場合、120%が含まれるのは適切ではありません。

通常、数値範囲が大きい場合や、データに多様な値が含まれる場合は、対数目盛を使用する必要があります。

#### 注

ユーザーがランタイム中に目盛を調整できるようにするには、[動作] > [一般]メニューから実行時ツールを有効にします。

関連項目

- ・ 85 ページのユーザーによるチャートの目盛の調整
- ・

## チャートの目盛を設定する

チャートがキャンバス上に配置され、埋め込みスプレッドシート内のセルにリンクされています。

- 1 チャートを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [プロパティ]パネルで、[動作] > [目盛]をクリックします。
- 3 ビュレットチャートコンポーネントを設定する場合、系列ごとに異なる目盛を設定するには、[系列別目盛の設定]オプションを選択します。

このオプションは、単一系列内で厳密に比較できないメトリクスを表示する必要がある場合、および系列で異なる目盛単位（パーセント、カウント、ドルなど）が使用されている場合に使用します。

- 4 [目盛]で、以下のオプションのいずれかを選択します。

- ・ 手動軸

このオプションを選択すると、データ値に合わせて変更されない、固定の目盛制限が設定されます。データ値が特定の目盛範囲を超えた場合、範囲外の値はマーカーに表示されません。このオプションを選択した場合は、各目盛軸について最大制限と最小制限を設定します。

- ・ 自動軸

このオプションを選択すると、データ値に合わせて目盛制限を変更できるようになります。以下のオプションを設定してください。

オプション	説明
縮小のみ許可	このオプションは、データ値が増加した場合には目盛を拡大しても、データ値が減少した場合には目盛を縮小しない場合に選択します。
ズームの感度	[縮小のみ許可]が選択されている場合は、軸目盛の変更量を調整します。スライダーを右に移動すると、チャート目盛が増加したときの軸目盛の増加量が大きくなります。

オプション	説明
線形	各目盛マーカに設定された値(1、2、3、4など)で、線形目盛が増加します。
対数	線形目盛が倍数で増加します。たとえば、10、100、および60,000のような数量を使用する場合、これらの値は線形目盛にはうまく適合しません。小さい値が失われてしまいます。対数目盛では、大きな桁数の場合の構造化された関係を表示することができます。

- 6 軸ラベルの幅をロックして、目盛が変わっても軸ラベルの幅がサイズ変更されないようにするには、[ラベルの固定サイズ]を選択します。
- 7 [ラベルの固定サイズ]が選択されている場合、軸目盛のラベルを定義するには、手動編集アイコン(  ) ([ラベルの省略形]の横にあります)をクリックして、省略形を編集します。
- 8 [手動軸]オプションが選択されている場合、[仕切]で、以下のオプションのいずれかを選択します。

注

複数のチャート軸に対して目盛が定義されている場合は、仕切設定がすべてのチャート軸に適用されます。軸ごとに個別に設定することはできません。

- ・ 仕切数

軸に表示する目盛マーカの数を設定します。マーカの値は、目盛の範囲に基づいて決定されます。目盛が変わると、マーカの値が調整され、同じ数のマーカが更新されます。

- ・ 仕切のサイズ

マーカ間の特定の量に基づいてマーカの値を設定します。マーカの値は、この量を前のマーカに追加することにより決定されます。目盛が変わると、マーカの数が変わる場合がありますが、マーカの値は変わりません。

- 9 [補助仕切]リストから、チャートマーカ間に表示するグリッドラインの数を選択します。

注

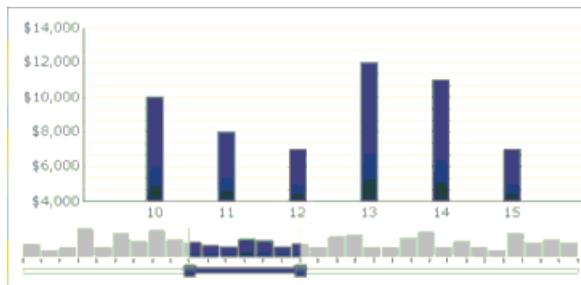
□ > □

## 関連項目

- ・ 85 ページの「ユーザーによるチャートの目盛の調整」
- ・
- ・ 67 ページの「チャート表示プロパティ」

## チャートへの範囲スライダの追加

範囲スライダをチャートに追加する際に、チャート表示の小型版がチャートの下または横に表示されます。小型チャートのスライダを使用することにより、ユーザが、メインチャート内の表示するデータ部分を選択することができますようになります。



## 注

棒チャートや積み上げ棒チャートの場合、範囲スライダがチャートの左側に表示されます。

範囲スライダを設定する際に、開始および終了範囲値を設定することで、範囲スライダの場所のサイズを指定することができます。デフォルトで、これらの値が0(ゼロ)と最大値に設定されているので、範囲はチャート範囲全体に広がっています。特定のデータ部分に値を設定したり、カテゴリ軸ラベルがチャートに定義されている場合、特定のカテゴリラベルに値を設定することができます。モデル内のセレクト コンポーネントなど、別のソースによって設定された埋め込みスプレッドシート内のセルに範囲値をバインドすることもできます。

## 注

開始範囲値が終了範囲値よりも大きい場合、範囲スライダはチャート範囲全体を選択し、デフォルトでメインチャートで範囲全体が表示されます。

メインチャートに表示されているデータを変更するには、ユーザーが小型チャートにある範囲スライダをドラッグします。またユーザーは、範囲スライダのいずれかの端にあるコントロールハンドルをドラッグすることにより、メインチャートの範囲サイズを拡張することもできます。

## 関連項目

- ・ 44 ページの「チャート コンポーネントの使用」
- ・

## 範囲スライダを設定する

- 1 チャートを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [プロパティ]パネルで、[動作] > [一般]を選択します。
- 3 [範囲スライダを有効にする]チェック ボックスを選択します。
- 4 [開始範囲値]リストから、次のオプションのいずれかを選択します。
  - ・ [位置] -- チャート内のデータ位置を指定します。たとえば、30 ポイントがチャート内にプロットされている場合、値 2 はデータ セット内の 2 番目のポイントを指します。
  - ・ [カテゴリ ラベル] -- カテゴリ軸ラベルを指定します。たとえば、カテゴリ軸ラベルが日にちに設定されている場合、3 月を開始範囲値として指定できます。

## 注

カテゴリ軸ラベルが定義されていない場合、このオプションは使用できません。

- 5 

## 注

別のコンポーネントによって設定された値を持つには、空白のセルを選択して、そのセルに値を入力するように別のコンポーネントを設定します。

- 6 手順 4 と 5 を繰り返して、[終了範囲値]を設定します。
- 7 [範囲ラベル]ボックスの横で、次のいずれかを実行します。

- ・ 
- ・ 

範囲ラベルが小型チャート全体に配布されます。ラベルの配置は、データ ポイント数と合計ラベル数によって変化します。たとえば、チャートに 36 個のデータポイントがプロットされていて、4 個のラベルが存在する場合、範囲ラベルは 8 データ ポイントごとに表示されます。

範囲スライダは、定義されたようにチャートに追加されます。

## 可変量データの操作

たとえば、1 か月の日数を扱う場合のように、チャートで使用できるデータの量が変わる可能性がある場合は、使用できる値のみを表示し、範囲の最後にある空白セルは無視するように、チャートを設定できます。たとえば、1 か月分の毎日のデータを入力しており、1 か月の日数が 31 の場合は、31 日分のそれぞれのデータをチャートに含める必要があります。日数が 30 の月であれば、31 日に当たる空の値を表示する必要はありません。31 日分を含むように範囲を設定する必要がありますが、最後のセルが空の場合は、そのセルをチャートに表示する必要はありません。

### 注

データ範囲に含まれるデータがすべてチャートに表示されなくても、範囲のサイズはモデルのパフォーマンスに影響します。

## 可変量データを扱うチャートを設定する

- 1 チャートを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2
- 3
- 4
- 5

系列または値(またはその両方)の範囲の最後にある空のセルは、チャートに含まれません。

## チャート表示プロパティ

### [レイアウト]ビュー

オプションの中には、特定のチャートタイプにしか使用できないものがあることに注意してください。

オプション	説明
[レイアウト]タブ	

オプション	説明								
チャートの背景を表示	すべて このオプションを選択すると、チャートの背景が塗りつぶされます。このオプションを選択しない場合、チャートは透明になります。背景を追加する場合は、以下のオプションを設定します。								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="548 505 756 553">オプション</th> <th data-bbox="756 505 1169 553">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="548 553 756 640">余白</td> <td data-bbox="756 553 1169 640">背景の端とデータの間で許容される余白を選択します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="548 640 756 762">左右の間隔</td> <td data-bbox="756 640 1169 762">スパークラインチャートの場合、系列ラベルとプロット領域の間の余白を設定します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="548 762 756 883">上下の間隔</td> <td data-bbox="756 762 1169 883">スパークラインチャートの場合、データの各系列間の余白を設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	余白	背景の端とデータの間で許容される余白を選択します。	左右の間隔	スパークラインチャートの場合、系列ラベルとプロット領域の間の余白を設定します。	上下の間隔	スパークラインチャートの場合、データの各系列間の余白を設定します。
	オプション	説明							
	余白	背景の端とデータの間で許容される余白を選択します。							
	左右の間隔	スパークラインチャートの場合、系列ラベルとプロット領域の間の余白を設定します。							
上下の間隔	スパークラインチャートの場合、データの各系列間の余白を設定します。								
余白	背景の端とデータの間で許容される余白を選択します。								
左右の間隔	スパークラインチャートの場合、系列ラベルとプロット領域の間の余白を設定します。								
上下の間隔	スパークラインチャートの場合、データの各系列間の余白を設定します。								
ヒント [色]タブで、チャート背景の色を設定することができます。									

オプション	説明		
プロット領域	<p>ツリー マップ チャートを除くすべて プロット領域(チャート軸によって境界された領域)の場合、以下のオプションを設定します。</p>		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="548 430 756 480">オプション</th> <th data-bbox="756 430 1169 480">説明</th> </tr> </thead> </table>	オプション	説明
	オプション	説明	
	塗りつぶしを表示	プロット領域に背景が適用されます。	
	境界線を表示	プロット領域の周りに境界線が適用されます。	
境界線の太さ	[境界線を表示]が選択されている場合、境界線の太さを選択します。		
タイトル領域	<p>すべて タイトルの背後の領域について、以下のオプションを設定します。</p>		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="548 956 756 1006">オプション</th> <th data-bbox="756 956 1169 1006">説明</th> </tr> </thead> </table>	オプション	説明
	オプション	説明	
	塗りつぶしを表示	タイトル領域に背景が適用されます。	
境界線を表示	タイトル領域に境界線が適用されます。		
境界線の太さ	[境界線を表示]が選択されている場合、境界線の太さを選択します。		
凡例を有効にする			

オプション	説明
	<p>スパークライン チャート、垂直ビュレット チャート、および水平ビュレット チャートを除くすべて</p> <p>このオプションを選択すると、チャートの凡例が表示されます。チャートの設定の詳細については、79 ページの「<a href="#">チャートへの凡例の追加</a>」を参照してください。</p>

[系列]タブ

オプションの中には、特定のチャートタイプにしか使用できないものがあることに注意してください。

注

オプション	説明
[系列]タブ	
[系列]列	<p>スパークライン チャートを除くすべて</p> <p>チャートに対して定義された系列が表示されます。</p> <p>注</p>
[タイプ]列	<p>組み合わせチャートのみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
[データ要素]列	<p>円チャートのみ</p> <p>各データ要素を選択して、色を指定します。</p>

オプション	説明
[形状]列	<p>折れ線チャート、組み合わせチャート、レーダーチャート、および XY チャート コンポーネントのみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 円</li> <li>・ ダイヤモンド</li> <li>・ 星</li> <li>・ 三角形</li> <li>・ X</li> </ul>
[線]列	<p>折れ線チャート、組み合わせチャート、およびレーダーチャート コンポーネント</p> 
[塗りつぶし]列	<p>ビュレットチャート、ツリーマップチャート、ローソク足チャート、および折れ線チャートを除くすべて</p> 
[パフォーマンスの色]列	<p>ビュレットチャートのみ</p> 
[比較マーカーの色]列	<p>ビュレットチャートのみ</p> 
[目盛の高い値の色]列	<p>ビュレットチャートのみ</p> 
[目盛の低い値の色]列	<p>ビュレットチャートのみ</p> 

オプション	説明
[高い値の色] 列	ツリー マップ チャートのみ 
[低い値の色] 列	
線の太さ	組み合わせチャートおよびレーダー チャートのみ 系列を選択し、データ要素を接続する線の太さを設定します。 注
マーカーを有効にする	組み合わせチャートのみ このオプションを選択すると、折れ線グラフにデータ要素マーカーが表示されます。
系列マーカーを有効にする	折れ線チャートのみ このオプションを選択すると、折れ線グラフにデータ要素マーカーが表示されます。
マーカーのサイズ	XY チャート、レーダー チャート、バブル チャート、棒チャート、縦棒チャート、折れ線チャート、および組み合わせチャートのみ データ要素マーカーのサイズを指定します。 注 組み合わせチャートの場合は、[列の設定]と[線の設定]の両方に対してマーカー サイズを設定します。
マーカーのギャップ	積み上げ棒チャートおよび積み上げ縦棒チャートのみ 各系列のマーカー間の余白を指定します。

オプション	説明
マーカーの オーバーラッ プ	積み上げ棒チャートおよび積み上げ縦棒チャートのみ 100 に設定すると、同じ棒スペースまたは縦棒スペースにオー ーラップが表示され、色を変更する単一の棒または縦棒が 作成され、別の系列が表示されます。
透明度	XY チャート、レーダー チャート、バブル チャート、棒 チャート、縦棒チャート、折れ線チャート、塗りつぶし レーダー チャート、積み上げ面チャート、面チャート、 積み上げ棒チャート、積み上げ縦棒チャート、ローソク 足チャート、OHLC チャート、円チャート、および組み 合わせチャートのみ チャートまたはチャート マーカーの背後のオブジェクトの可視 性を設定します。 注 組み合わせチャートの場合は、[列の設定]と[線の設 定]の両方に対して透明度を設定します。
パフォーマンス のマーカー サ イズ	ビュレット チャートのみ 実際のパフォーマンス値を示すマーカーのサイズを指定しま す。
比較のマー カー サイズ	ビュレット チャートのみ ターゲットの値を示すマーカーのサイズを指定します。
線を表示	ツリー マップ チャートおよび円チャートのみ 異なる系列値が表示されるセクション間で線を表示するかどうかを指定します。
正の色	ローソク足チャートおよび OHLC チャートのみ 正の値の色を指定します。

オプション	説明
負の色	ローソク足チャートおよび OHLC チャートのみ 負の値の色を指定します。

[軸]タブ

オプションの中には、特定のチャートタイプにしか使用できないものがあることに注意してください。

注

オプション	説明
[軸]タブ	
垂直軸を有効にする	水平ビュレット チャートを除くすべて このオプションを選択した場合、線の太さと色、および主値または補助値を示す目盛を表示するかどうかを指定することができます。
水平軸を有効にする	このオプションを選択した場合、線の太さと色、および主値または補助値を示す目盛を表示するかどうかを指定することができます。
水平グリッドライン	このオプションを選択すると、水平軸のグリッドラインが表示されます。このオプションを選択した場合、主グリッドラインまたは補助グリッドラインの表示を選択して、線の太さを設定することができます。
垂直グリッドライン	XY チャート、棒チャート、およびバブル チャートのみ このオプションを選択すると、垂直軸のグリッドラインが表示されます。

[テキスト]タブ

次に、テキスト アイテムを選択して、テキスト表示の書式を設定します。オプションの中には、特定のチャートタイプにしか使用できないものがあることに注意してください。

注

オプション	説明
[テキスト]タブ	
チャート タイトル	すべて
サブ タイトル	すべて
ヘッダー ラベル	スパークライン チャートのみ チャート内の列の上にラベルが表示されます。
系列のラベル	スパークライン チャート、垂直ビュレット チャート、および水平ビュレット チャートのみ 各データ系列の名前が表示されます。
系列のサブラベル	垂直ビュレット チャートおよび水平ビュレット チャートのみ
開始値	スパークライン チャートのみ データ セットの最初の値がプロット領域の右側に表示されます。
低い値	スパークライン チャートのみ データ セットの最低値がプロット領域の右側に表示されます。
垂直軸のタイトル	垂直ビュレット チャートのみ タイトルが垂直軸に沿って表示されます。

オプション	説明
水平軸タイトル	水平ビュレット チャートのみ タイトルが水平軸に沿って表示されます。
垂直軸ラベル	垂直ビュレット チャートのみ 値ラベルが垂直軸に沿って表示されます。
水平軸ラベル	水平ビュレット チャートのみ 値ラベルが水平軸に沿って表示されます。
垂直(値)軸タイトル	積み上げ面チャート、面チャート、XY チャート、バブル チャート、縦棒チャート、ローソク足チャート、OHLC チャート、および折れ線チャートのみ
垂直(値)軸ラベル	積み上げ面チャート、面チャート、XY チャート、バブル チャート、縦棒チャート、ローソク足チャート、OHLC チャート、レーダー チャート、塗りつぶしレーダー チャート、および折れ線チャートのみ
水平(値)軸タイトル	XY チャート、バブル チャート、積み上げ棒チャート、および棒チャートのみ
水平(値)軸ラベル	XY チャート、バブル チャート、積み上げ棒チャート、および棒チャートのみ
垂直(カテゴリ)軸タイトル	積み上げ棒チャートおよび棒チャートのみ
垂直(カテゴリ)軸ラベル	積み上げ棒チャートおよび棒チャートのみ

オプション	説明
水平(カテゴリ)軸 タイトル	積み上げ面チャート、面チャート、積み上げ縦棒チャート、縦棒チャート、ローソク足チャート、OHLCチャート、および折れ線チャートのみ
水平(カテゴリ)軸 ラベル	積み上げ面チャート、面チャート、積み上げ縦棒チャート、縦棒チャート、ローソク足チャート、OHLCチャート、レーダーチャート、塗りつぶしレーダーチャート、および折れ線チャートのみ
マウスオーバー時 の値	スパークラインチャートを除くすべて ユーザーがマウスポインタをデータマーカー上に移動すると値が表示されます。
凡例	スパークラインチャート、垂直ビュレットチャート、および水平ビュレットチャートを除くすべて チャート内のシンボルおよびマーカーを定義する凡例が表示されます。凡例の使用の詳細については、79 ページの「 <a href="#">チャートへの凡例の追加</a> 」を参照してください。
データラベル	スパークラインチャート、垂直ビュレットチャート、および水平ビュレットチャートを除くすべて チャートマーカー上またはその周りにデータラベルが表示されます。チャートに複数の系列が含まれる場合、系列ごとにデータラベルを表示するかどうかを指定することができます。データラベルの使用の詳細については、81 ページの「 <a href="#">チャート上のデータラベルの表示</a> 」を参照してください。

オプション	説明
範囲のラベル	<p>積み上げ面チャート、面チャート、積み上げ棒チャート、棒チャート、積み上げ縦棒チャート、縦棒チャート、ローソク足チャート、OHLC、および折れ線チャートのみ</p> <p>範囲スライダの使用の詳細については、65 ページの「<a href="#">チャートへの範囲スライダの追加</a>」を参照してください。</p> <p>注 [範囲のラベル]では、ラベル データ内の重複する連続的な値は無視されます。</p>

[色]タブ

41 ページの「[コンポーネント要素の色の設定](#)」

オプション	説明
[色]タブ	
背景色	<p>すべて</p> <p>コンポーネント要素の背景領域の色を設定します。</p>
系列	<p>レーダー チャート、ビュレット チャート、ツリー マップチャート、バブル チャート、棒チャート、ローソク足チャート、および OHLC チャートのみ</p> <p>データを表すマーカーの色に適用されます。ビュレットチャートのパフォーマンス、比較マーカー、目盛の高い値と低い値、およびツリー マップ チャートの高い値と低い値など、特定の系列値の色を設定することもできます。</p>
スライス	<p>面チャート、組み合わせチャート、縦棒チャート、円チャート、および折れ線チャートのみ</p> <p>データを表すマーカーの色に適用されます。</p>

オプション	説明
タイトル領域	すべて タイトルの周りの領域に適用されます。 塗りつぶしと境界線に異なる色を設定することができます。
プロット領域	すべて データがプロットされる領域に適用されます。 塗りつぶしと境界線に異なる色を設定することができます。
凡例領域	すべて 凡例の後ろの領域に適用されます。
軸と目盛線	ツリー マップ チャートおよび円チャートを除くすべて チャート軸の線およびグリッドラインに適用されます。 水平および垂直の軸とグリッドライン、およびチャートでの必要に応じて、主グリッドラインと補助グリッドラインに異なる色を設定することができます。
線の色	円チャート 円のスライス間の線に適用されます。

関連項目

- ・ 50 ページの「チャートを設定する」
- ・
- ・
- ・

## チャートへの凡例の追加

チャートを使用してデータの系列を複数表示する場合、チャートで使用する各種マーカーを定義するために凡例の追加が必要になることがあります。凡例を追加する際、

凡例の表示および場所を定義することができます。さらに、ユーザーが実行時に特定の系列に関するデータを表示したり非表示にしたりできるようにすることも可能です。この機能を使用することによって、ユーザーは、すべてのデータを一度にチャートに表示するか、チャートを簡略化して一部の系列データのみを表示するかを選択することができます。

## 凡例を追加する

チャートコンポーネントがキャンバスに表示されています。

- 1 チャートコンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [プロパティ]パネルで、[表示] > [レイアウト]を選択します。

3 オプション	説明
位置	チャートコンポーネント内の凡例の位置を指定します。 [上]、[左]、[右]、[下]の中からいずれかのオプションを選択します。
垂直オフセット	[位置]で[左]または[右]を選択すると、凡例を現在位置に対して垂直に移動させることができます。値を入力または選択します。
水平オフセット	[位置]で[上]または[下]を選択すると、凡例を現在位置に対して水平に移動させることができます。値を入力または選択します。負の数値を入力または選択すると、凡例が左方向に移動します。正の数値を入力または選択すると、凡例が右方向に移動します。
塗りつぶしを表示	凡例の背後を背景色で塗りつぶします。カラーセレクトアイコン(  )をクリックして、背景の色を指定します。
境界線を表示	凡例の周りに境界線を追加します。カラーセレクトアイコン(  )をクリックして、境界線の色を指定します。

オプション	説明
境界線の太さ	[境界線を表示]が選択されている場合、境界線の太さを変更する値を入力または選択します。
実行時にチャートの系列の表示/非表示を有効にする	このオプションを選択すると、ユーザーが特定の系列を選択してチャートに表示できるようになります。このオプションを選択した場合、ユーザーは系列名の横のチェックボックスまたは系列名をクリックすることにより、チャート内の系列値の表示/非表示を切り替えることができます。
対話機能	<p>[実行時にチャートの系列の表示/非表示を有効にする]を選択した場合、以下のユーザー対話機能オプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チェック ボックス: 凡例の各系列ラベルの前にチェック ボックスを追加します。ユーザーはチェック ボックスをクリックして、系列の表示/非表示を切り替えます。</li> <li>・ マウス クリック: ユーザーは系列名をクリックして、チャート上の系列データの表示/非表示を切り替えます。</li> </ul>

#### 関連項目

- ・ 41 ページのコンポーネント要素の色の設定

## チャート上のデータ ラベルの表示

データラベルにより、データ値やラベルをデータ マーカの周りやデータマーカに直接表示することができるようになります。マーカ上に重ね合わされているデータラベルを表示するには、まず[表示] > [テキスト]タブに表示されるようにデータ ラベルをマークします。次に、必要に応じてその位置、コンテンツ、およびラベル セパレータを設定できます。

### データ ラベルを設定する

- 1 チャート コンポーネントを選択して、[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [表示] > [テキスト]をクリックします。
- 3 [データ ラベル]の横の[表示]で、チェックボックスを選択します。

チャートに複数の系列がある場合、各系列に対して個別にデータラベルを有効にし、設定することができます。[組み合わせ]チャートに対して、折れ線マーカと棒マーカは別のプロパティを持つため、データラベルを個別に設定する必要があります。

- 4 [テキストの書式設定]領域で、テキスト表示プロパティを設定します。
- 5 [位置]リストで、データマーカに対してラベルを表示する場所を選択します。[組み合わせ]チャート内で個別に各系列のラベル位置を設定する必要があります。
- 6
- 7 チャートのタイプに応じて、系列名、[カテゴリ名]、[値]、[パーセンテージ]、[X 値]、[Y 値]、[バブルチャートサイズ]、[サイズ]、[色の濃さ]など、ラベルに含めるデータを指定することもできます。
- 8 チャートの中には、ラベル内のデータを区別するために区切り値を選択することもできます。[区切り文字]リストで、値を選択するか、[カスタム]を選択して、[カスタム]ボックス内に使用する値を入力します。

定義されているように、データラベルがデータマーカ上またはその近くに表示されません。

## チャートアラートプロパティ

以下のチャートコンポーネントについて、アラートを設定することができます。

- ・ 棒チャート
- ・ バブルチャート
- ・ 縦棒チャート
- ・ コンボ
- ・ 折れ線チャート
- ・ レーダーチャート
- ・ 積み上げ棒チャート
- ・ 積み上げ縦棒チャート
- ・ XYチャート

アラートを設定するには、コンポーネントを選択して、[プロパティ]パネルを開きます。次に、[アラート]ビューをクリックして[アラートを有効にする]チェックボックスをオンにし、アラートオプションを設定します。アラートオプションの設定の詳細については、216 ページの「[アラートの概要](#)」を参照してください。

## 関連項目

- ・ 102 ページのセレクトを設定する」
- ・ 103 ページのセクター一般プロパティ」
- ・ 110 ページのセクタ動作プロパティ」
- ・ 119 ページのセクタ表示プロパティ」

## ドリルダウン動作の設定

そのデータは、より詳細な情報を表示するために別のコンポーネントで使用できます。

## ヒント

ドリルダウン動作を伴うモデルの例を表示するには、[ファイル] > [サンプル]をクリックして、サンプル ファイル[チャート - ドリルダウン]を開きます。

## 関連項目

- ・ 50 ページのチャートを設定する」
- ・
- ・ 83 ページのチャートを設定してドリルダウンする」

## チャートを設定してドリルダウンする

チャートが設定され、データの系列にバインドされています。スプレッドシートには、チャートからドリルダウン可能な詳細情報も含まれています。

## 注

ドリルダウン オプションは、面チャート、積み上げ面チャート、水平ビュレットチャート、垂直ビュレットチャート、スパークラインチャート、レーダーチャート、または塗りつぶしレーダーチャートでは使用できません。

1

2

3 注

[ドリルダウンを有効にする]チェック ボックスを使用できない場合は、チャートがデータの範囲にバインドされていることを確認してください。

- 4 チャートに系列が含まれる場合は、[系列名の出力先]ボックスで、系列の名前が挿入されるスプレッドシート内のセルを選択します。
- 5 [挿入タイプ]リストで、以下のオプションのいずれかを選択して、選択時に埋め込みスプレッドシートに挿入されるデータの構造を指定します。

オプション	説明
位置	系列を選択すると、系列内の値の位置がターゲットセルに入力されます。たとえば、系列に3つのセルが含まれている場合、最初のセルを選択すると、出力先セルにa1が入力されます。2つ目のセルを選択すると、a2が入力されます。最後のセルを選択すると、a3が入力されます。
値	選択すると、対応するソースセルの値が出力先セルに入力されます。  バブルチャート、OHLCチャート、XYチャート、ロウソク足チャート、およびツリーマップチャートの場合、値は特定の値セットに基づきます。たとえば、ツリーマップチャートの場合、サイズまたは色の濃さの値を使用することができます。
行	選択すると、対応するソースデータ値の行がターゲット行に入力されます。
列	選択すると、対応するソースデータ値の列が出力先列に入力されます。
ステータス一覧	選択すると、この選択を表す範囲のセルに値1が入力され、ターゲット範囲のその他のセルに値0が入力されます。

6 円チャートの場合、このステップは省略してください。[系列]リストから、設定する系列を選択します。

7  次に、ソースデータが含まれているスプレッドシート内のセルを選択します。

注

8 バブルチャート、XYチャート、ロウソク足チャート、OHLCチャート、およびツリーマップチャートで[挿入タイプ]が[値]に設定されている場合、[値セット]リストから選択時に挿入される値を選択します。

9 

## 注

出力先範囲は空白で、かつソース範囲のセルをすべて保存できるだけの十分な大きさである必要があります。

- 10 [対話操作オプション]の[対話操作]リストで、[マウス クリック](ユーザーがチャートをクリックしたときにデータを挿入する場合)、または[マウス オーバー](ユーザーが選択したチャートにマウス ポインタを移動したときにデータを挿入する場合)を選択します。
- 11 [デフォルトの選択]の[系列]リストで系列を選択し、[アイテム]リストでモデルのロード時に選択されるアイテムを選択します。

これで、モデル内の他のコンポーネントが出力先範囲のデータを使用できるようになります。

別のチャートをキャンバス上に配置し、出力先範囲に挿入されたデータが表示されるように設定してください。

## 関連項目

- ・ 44 ページの「チャート コンポーネントの使用」
- ・
- ・ 83 ページの「ドリルダウン動作の設定」

## ユーザーによるチャートの目盛の調整

## 注

実行時ツールは、円チャート、ツリー マップ チャート、水平ビュレット チャート、垂直ビュレット チャート、またはスパークライン チャートでは使用できません。



選択した実行時ツール オプションに応じて、メニューに以下のボタンが表示されます。

ボタン	説明
拡大	<p>目盛をズームアウトのみに設定します。これにより、データ値が増加すると目盛が拡大されますが、データ値が減少しても目盛が縮小しません。この設定は、チャートの目盛が変化する回数を減らしつつ、増加する際にすべてのデータ値を表示することができるようになります。</p> <p>このオプションは、ユーザーが目盛の制限を変えるようなさまざまなオプションを試していて、目盛を毎回リセットしたくない場合や、チャートがアニメーションで使用されている場合などで便利です。</p>
オフ	<p>拡大/縮小をオフにして、チャートで最小および最大目盛値として最小および最大データポイントを使用します。データが変更されてもチャートではこの目盛が使用し続けられます。</p>
自動	<p>拡大/縮小動作を自動的に設定すると、最小および最大目盛値がすべてのデータポイントを収容するように自動的に調整されます。</p>
	<p>チャートの拡大/縮小がオフに設定されている場合、[チャート データを絞り込む]ボタンは、現在のデータに基づいてチャートの軸を強制的に再拡大/縮小します。データが後で変更になっても、チャートはその目盛を維持します。</p>
	

関連項目

- ・ 86 ページのチャートに実行時ツール メニューを表示する
- ・ 44 ページのチャート コンポーネントの使用

## チャートに実行時ツール メニューを表示する

チャート コンポーネントを含むモデルがキャンバスに開きます。

- 1 チャート コンポーネントをクリックして[プロパティ]パネルを開きます。

- 2 [動作] > [一般]を選択します。
- 3 [実行時ツールを有効にする]チェック ボックスを選択します。
- 4 どのボタンがツールバー メニューで使用可能であるかをカスタマイズするには、以下のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
フォーカス ボタンを表示	[チャートデータを絞り込む]ボタンを表示します。
目盛のリセット ボタンを表示	[目盛のリセット]ボタンを表示します。
目盛の動作オプションを表示	[拡大]、[オフ]、および[自動]ボタンを表示します。

注

モデルの実行時に、実行時ツール アイコンがチャートの右上隅に表示されます。

関連項目

- ・ 39 ページの[プロパティ]パネルの使用
- ・ 85 ページのユーザーによるチャートの目盛の調整
- ・

## コンテナ コンポーネントの使用

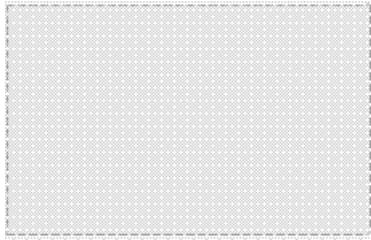
コンテナは、他のコンポーネントをグループ化して表示します。

注

コンテナ コンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

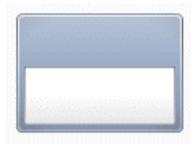
コンテナ コンポーネントを相互にネストして、マルチレイヤ モデルを作成できます。モデルのパフォーマンス低下を回避するには、各タブの親のタブ セット コンポーネントに含めるのはコンテナ コンポーネントを含まない子コンテナにするなど、1レイヤのみのネストを使用します。

## キャンバス



設計モードで、設計者がコンポーネントで作業できるようにコンテナは表示されますが、モデルの実行時に、コンテナは非表示になるので、コンテナ内のコンポーネントは自由に動くものとして表示されます。キャンバス コンテナ内のコンポーネントがコンテナの境界を超える場合、スクロール バーが追加されます。

## パネル コンテナ



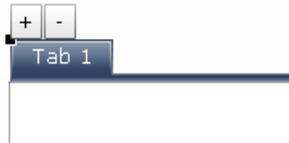
パネル コンテナ コンポーネントはメイン キャンバス内の小さなキャンバスとして動作し、1つ以上のコンポーネントを保持できます。パネル コンテナ内のコンポーネントは、移動、追加、変更、削除できます。パネル コンテナに含まれるコンポーネントのリストを[オブジェクト参照]パネルで表示するには、パネル コンテナ名の横にある + アイコンをクリックします。

## 注

パネル 2 コンテナ コンポーネントの機能はパネル コンテナと同じですが、外観は異なります。

タブ セット コンポーネントを含むサンプル モデルを展開するには、[ファイル] > [サンプル]の順にクリックし、[パネル コンテナ]を選択します。

## タブ セット



それぞれのビューに 1 つ以上のコンポーネントを含めることができ、それを別のデータセットとリンクさせることができます。ビューを表示するには、それに対応しているタブをクリックします。

モデルの実行時には、+ および - アイコンは表示されません。

## 注

タブのサブグループをコンポーネント内に作成することはできません。

タブ セット コンポーネントを使用したモデルの例を表示するには、[ファイル] > [サンプル]の順にクリックし、Tab Set というサンプル ファイルを開いてください。

## コンテナを設定する

埋め込みスプレッドシートに値の一覧が入力されます。

- 1 [コンポーネント]ブラウザを開いて、コンテナをキャンバスにドラッグします。
- 2 タブ セット コンポーネントを追加する場合、必要なタブを追加し、ラベル付けします。
- 3
- 4 [プロパティ]パネルで、[一般]ビューをクリックしてコンテナ要素のタイトルとラベルを入力し、タブ セット コンポーネントに対しては、タブの場所も設定します。使用可能なオプションの詳細については、90 ページの「[コンテナ一般プロパティ](#)」を参照してください。

コンテナには最新の変更が反映されます。

- 5 [動作]ビューをクリックして、データの可変量の処理、拡大/縮小、アニメーションなど、モデルでコンポーネントがどのように機能するかについてのオプションを設定します。使用可能なオプションの詳細については、91 ページの「[コンテナ動作プロパティ](#)」を参照してください。
- 6 表示オプションの詳細については、92 ページの「[コンテナ表示プロパティ](#)」を参照してください。

7

- 8 [ファイル] > [保存]をクリックして、モデルの場所とファイル名を入力します。  
[OK]をクリックします。

コンテナがモデルに追加され、設定されます。

## コンテナ一般プロパティ

下の表を、コンテナの[一般]ビューにおけるコンテナ コンポーネントプロパティを設定するためのガイドとして使用します。オプションの中には、特定のコンテナタイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明
タブの配置	<p>タブ セット のみ</p> <p>タブが表示される位置を、タブ セット キャンバスの右、中央、左から選択して指定します。</p>
ラベル	<p>タブ セット キャンバスのみ</p> <p></p> <p>注 タブ セット キャンバスを選択するには、コンポーネントでタブをクリックして選択し、キャンバス領域をクリックします。</p>
	<p>パネル コンテナのみ</p> <p></p> <p>注 [表示]ビューで、タイトルの書式を設定することができます。</p>

### 関連項目

- ・ 89 ページのコンテナを設定する
- ・ 91 ページのコンテナ動作プロパティ
- ・ 92 ページのコンテナ表示プロパティ

## コンテナ動作プロパティ

下の表を、コンテナの[動作]プロパティを設定するためのガイドとして使用します。オプションの中には、特定のコンテナ タイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明
[共通]タブ	
選択アイテム	タブ セット コンポーネントのみ モデルのロード時に開かれるタブを選択します。
水平スクロールバー	タブ セット キャンバス、キャンバス、およびパネル コンポーネントのみ 水平スクロール バーがキャンバスで常に使用できるか(オン)、常に使用できないか(オフ)、またはキャンバスのコンテンツがキャンバスの幅を超過する場合に使用できるか(自動)を指定します。
垂直スクロールバー	タブ セット キャンバス、キャンバス、およびパネル コンポーネントのみ
動的ディスプレイ	タブセット、キャンバス、およびパネル コンポーネント 注 動的ディスプレイは、タブ セット コンポーネントの個別のサブキャンバスに対しては設定できません。 動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「 <a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a> 」を参照してください。
[アニメーションと効果]タブ	

オプション	説明
表示効果	<p>タブ セット、キャンバス、およびパネル コンポーネントのみ</p> <p>注 表示効果は、タブ セット コンポーネントの個別のサブキャンバスに対しては設定できません。</p> <p>動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「<a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a>」を参照してください。</p>

関連項目

- ・ 89 ページのコンテナを設定する」
- ・ 90 ページのコンテナ一般プロパティ」
- ・ 92 ページのコンテナ表示プロパティ」

## コンテナ表示プロパティ

下の表を、コンテナの[表示]プロパティを設定するためのガイドとして使用します。オプションの中には、特定のコンテナ タイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明
[テキスト]タブ	
テキストの表示	<p>タブ セットおよびパネル コンテナ</p> <p>注 タブ セット コンポーネントで、タブ ラベルの選択を解除することはできません。</p>

オプション	説明
	<p>タブ セットおよびパネル コンテナ</p> <p>注 17 ページの「<a href="#">グローバル フォント オプションを設定する</a>」</p>
[色]タブ	
背景色	<p>キャンバス コンテナ以外のすべて サブキャンバスの後ろの背景領域の色を設定します。</p>
パネルの色	<p>パネル コンテナ パネルのサブ キャンバスの色を設定します。</p>
タブの背景	<p>タブ セット コンテナ コンテナのタブの色を設定します。タブが有効ではない場合の色(デフォルトの色)、カーソルをタブに合わせた場合の色(マウスオーバー時の色)、およびタブが有効な場合の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p>
スクロール バー	<p>タブ セット サブキャンバス、キャンバス、およびパネル コンテナ スクロール バーのパーツに対して色を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トラック</li> <li>・ サム</li> <li>・ ボタン</li> <li>・ ボタン記号</li> </ul>

オプション	説明
ラベル	<p>タブ セット コンテナ</p> <p>タブが有効ではない場合の色(デフォルトの色)、カーソルをタブに合わせた場合の色(マウスオーバー時の色)、およびタブが有効な場合の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p> <p>注 [一般]ビューで、ラベルテキストの色を設定することもできます。</p>

関連項目

- ・ 89 ページのコンテナを設定する」
- ・ 90 ページのコンテナ一般プロパティ」
- ・ 91 ページのコンテナ動作プロパティ」

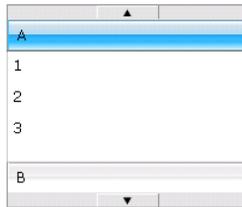
## セレクト コンポーネントの使用

セレクト コンポーネントを使用すると、多くのメンバまたはリストから 1 つのアイテムを選択し、選択したアイテムの行、位置、値、ラベルなどを、埋め込みスプレッドシートに含まれる別の行またはセルに挿入できます。後から他のコンポーネントでその情報を取得し、他のタスクを完了することができます。

注

セレクト コンポーネントの機能についての詳細は、コンポーネントの[プロパティ]パネルで情報アイコン(  )をクリックしてください。

### アコーディオン メニュー



アコーディオンメニューは、ユーザーがまずカテゴリを選択し、次にその特定のカテゴリ内のアイテムから選択することができる 2 つのレベルのメニューです。

#### 注

このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

#### ヒント

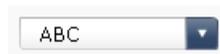
アコーディオンメニュー コンポーネントを使用したモデルの例を確認するには、[ファイル] > [サンプル] の順にクリックし、Accordion Menu というサンプル ファイルを開いてください。

### チェック ボックス



ユーザーが 2 つの状態 (チェック付きとチェックなし) を切り替える標準のユーザー インターフェイス コンポーネントです。

### コンボ ボックス



クリックするとアイテムの縦型のリストがドロップダウン表示される標準のユーザー インターフェイスコンポーネントです。ユーザーは、このリストからアイテムを選択できます。

## フィルタ



フィルタ コンポーネントは、データが複数フィールドにあるセルの範囲を参照し、それを一意のデータ エントリでカテゴリ分けします。フィルタは、データ範囲を選別して、リストの選択に対応するデータを挿入します。

## ヒント

フィルタ コンポーネントを使用したモデルの例を確認するには、[ファイル] > [サンプル]の順にクリックし、Filter というサンプル ファイルを開いてください。

## 魚眼ピクチャ メニュー



魚眼ピクチャ メニューでは、ユーザーはピクチャまたはアイコンのセットから選択できます。メニュー内の各アイテムの上でマウスを動かすと、アイテムが拡大表示されます。マウスをアイテムの中心に近づければ近づけるほど、アイテムが拡大されます。魚眼レンズと同様の効果を得られます。

## 注

このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

## アイコン



アイコンは、セレクトまたは表示コンポーネントとして使用できます。セレクトとしての機能は、チェック ボックス コンポーネントと似ています。アイコンは 1 つのセルに含まれている実際の値を表すことができ、別のセルにあるターゲット値と比較できます。

アイコン コンポーネントは、ターゲット値との相対値に応じて色を変更するように設定することもできます。これはアラートです。アラートの詳細については、216 ページの「[アラートの概要](#)」を参照してください。

同時に、アイコンを使用して他のコンポーネントをアクティブにしたり、表示したりできます。コンポーネントの表示を制御する方法の詳細は、221 ページの「[コンポーネントのディスプレイの管理](#)」を参照してください。

#### 注

アイコン コンポーネントを表示専用コンポーネントとして設定するには、[表示]ビューをクリックして、[オン/オフを表示]をオフにします。ユーザーはアイコンを選択できなくなります。

#### ラベル メニュー



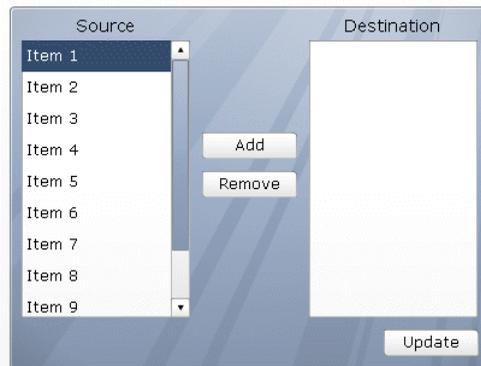
ラベルメニュー コンポーネントを使用して、縦型または横型のボタン グループからアイテムを選択できます。

#### リスト ボックス



ユーザーが縦型のリストからアイテムを選択できる標準のユーザー インターフェイスです。

### リストビルダ



このデータ セットを使用して、別のコンポーネントを設定できます。

- ・ アイテムをリストからもう一方のリストへドラッグする。
- ・ [追加]ボタンと[削除]ボタンを使用する。

#### 注

このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

#### ヒント

リストビルダ コンポーネントを使用したモデルの例を確認するには、[ファイル] > [サンプル]の順にクリックし、List Builder というサンプル ファイルを開いてください。

### リストビュー

Name	Q1	Q2	Total
Company 1	1000	2000	3000
Company 2	1200	2200	3400
Company 3	1400	2400	3800
Company 4	1600	2600	4200
Company 5	1800	2800	4600

リストビューコンポーネントにはテーブルコンポーネントと同じ機能がありますが、ユーザーはエクスポートされた SWF ファイルで列を並べ替えたり、列の幅を調整したりできます。

### 再生セレクト



再生セレクトコンポーネントは、定義済みの範囲の1つの行または列を、選択した[出力先]セルに順番に挿入します。再生セレクトコンポーネントは、ユーザーが各選択アイテムをクリックしなくてもデータを表示できるムービー効果を使用して大量のデータを表示できます。

### 注

このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

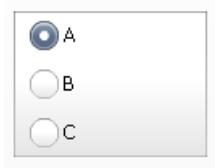
### プッシュ ボタン



プッシュ ボタンコンポーネントをクリックするたびに、特定のデータが挿入されます。このコンポーネントは、モデル全体の値をリセットしなくても単一値コンポーネントをデフォルト値に戻せるようにしたり、ボタンを押したときに表示されるポップアップ ウィンドウを作成するのに使用できます。

プッシュボタンをクリックすると1つ以上のセルの値が特定の値に設定されるように設定できます。ユーザーがボタンをクリックしたときのみ値が変更されるので、データが出力先のセルにコピーされるときに制御の幅が広がります。

ラジオ ボタン



ラジオ ボタンコンポーネントを使用して、ユーザーは縦型または横型の選択グループからアイテムを選択できます。

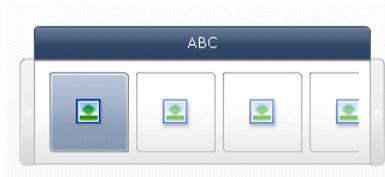
スコアカード

Name	Q1	Q2	Target
Company 1	1000	1300	
Company 2	1200	900	
Company 3	500	600	
Company 4	800	2800	
Company 5	1700	1750	

スコアカードコンポーネントを使用すると、グリッドに視覚的なアラートを表示できます。

アラートレベルは、セル背景色、フォント色、またはアラートアイコンと共に表示され、値が含まれている場合と含まれていない場合があります。

スライド ピクチャ メニュー



スライドピクチャメニューでは、ユーザーはアイコンまたはピクチャのセットから選択できます。ユーザーは矢印を使用して複数のアイコンをスクロールできます。または、ユーザーがマウスを動かさずと複数のアイコンがスクロールされるようにメニューを設定できます。

注

このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

ヒント

スライドピクチャメニューコンポーネントを使用したモデルの例を確認するには、[ファイル] > [サンプル]の順にクリックし、Sliding Picture Menu というサンプル ファイルを開いてください。

スプレッドシート テーブル

A1	B1
# 210	CA
# 45	FL
# 88	NY
# 105	MD

注

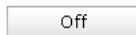
スプレッドシート テーブル コンポーネントは、表示コンポーネントとしてだけでなく、セレクト コンポーネントとしても使用できます。表示コンポーネントの場合、スプレッドシート テーブルはスプレッドシート内のセルの範囲のグラフィック表現になります。  [動作]ビューで、[すべて選択しない]をクリックします。ユーザーはテーブルの行を選択できなくなります。スプレッドシート テーブルをセレクト コンポーネントとして使用するには、[表示データ]範囲を設定した後に、[挿入オプション]を[行]に設定します。

ティッカー



ティッカー コンポーネントは、モデルに水平にスクロールされるテキストを表示します。

表示切り替えボタン



ユーザーが 2 つの状態(オンとオフ)を切り替えることができる標準のユーザー インターフェイス コンポーネントです。

関連項目

- ・ 102 ページの「[セレクトアを設定する](#)」

## セレクトアを設定する

- 1 コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 使用可能なオプションの詳細については、103 ページの「[セレクトア一般プロパティ](#)」を参照してください。  
セレクトアには最新の変更が反映されます。
- 3 [動作]ビューをクリックして、データの可変量の処理、拡大/縮小、アニメーションなど、モデルでコンポーネントがどのように機能するかについてのオプションを設定します。使用可能なオプションの詳細については、110 ページの「[セレクトア動作プロパティ](#)」を参照してください。
- 4 [表示]ビューをクリックして、各セレクトア要素のビジュアル特性を設定します。表示オプションの詳細については、119 ページの「[セレクトア表示プロパティ](#)」を参照してください。
- 5 アラートの詳細については、131 ページの「[セレクトア アラート プロパティ](#)」を参照してください。
- 6 セレクトアの設定に基づいて効果を作成するには、他のコンポーネントをモデルに追加して、セレクトアがデータを格納するセルにこれをリンクさせます。
- 7 [ファイル] > [保存]をクリックして、モデルの場所とファイル名を入力します。  
[OK]をクリックします。

セレクトアがモデルに追加され、設定されます。

関連項目

- ・ 39 ページの「[プロパティ]パネルの使用」

## セレクトー一般プロパティ

下の表を、[一般]タブでセクタコンポーネントプロパティを設定するためのガイドとして使用します。オプションの中には、特定のセクタタイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明
[タイトル]	
	<p>アイコン、表示切り替えボタン、スプレッドシート テーブル、再生セクタ、およびプッシュボタンコンポーネントを除くすべてのコンポーネント</p> <p>注 [表示]ビューで、タイトルの場所と書式を変更することができます。</p>
ラベル	<p>アコーディオン メニュー、チェック ボックス、リストビュー、スプレッドシートテーブル、再生セクタ、プッシュボタン、フィルタ コンポーネントを除くすべてのコンポーネント</p> <p>セル セクタ アイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシートからラベル テキストを選択するか、マニュアル編集アイコン (  ) をクリックして、ラベル テキストを入力します。[リストビルダ]コンポーネントでは、[追加]ボタン、[削除]ボタン、[更新]ボタンのラベルも指定することができます。</p> <p>注 マニュアル編集アイコン (  ) はアイコン コンポーネントには適用されません。</p>

オプション	説明
値ラベル	<p>ティッカー コンポーネントのみ</p> <p>値ラベルには、各ラベルに関連する値が表示されます。セル セレクタアイコン(  )をクリックして、埋め込みスプレッドシートから値ラベルを選択します。</p>
表示データ	<p>スプレッドシート テーブルとリストビュー コンポーネントのみ</p> <p>コンポーネントに表示されるデータの範囲です。セル セレクタアイコン(  )をクリックして、埋め込みスプレッドシートからセルの範囲を選択します。</p>
表示オプション: フィルタの数	<p>フィルタ コンポーネントのみ</p>
表示値	<p>アイコン コンポーネントのみ</p> <p>[セルセレクタ]アイコン(  )をクリックして、埋め込みスプレッドシートからラベル テキストを選択します。</p> <p>注 値は数値にしてください。数値以外の値が入力された場合は、ゼロが表示されます。</p>

オプション	説明
イメージ	<p>魚眼ピクチャ メニューおよびスライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみ</p> <p>コンポーネントで使用される画像ファイルを設定します。次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>埋め込み - モデルに画像ファイルのコピーを保存します。[インポート]を選択し、埋め込むファイルを選択します。</li> </ul> <p>注</p> <p>メニューにおける画像の表示順序は、画像のインポート順序に従って決定されます。メニューに表示させる順序で画像をインポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[URL 別] - 画像ファイルをロードするため、指定された URL を参照します。URL をクリックするか、セル セクタ アイコン(  ) をクリックして、スプレッドシート内のセルへリンクします。</li> </ul>
データ挿入	<p>すべて</p> <p>選択が行われると、データがソースの場所から挿入先の場所にコピーされます。</p> <p>注</p> <p>スコアカード コンポーネントの場合、[行選択可能]オプションが[動作]ビューで選択されていて、ユーザーが挿入する行を選択できるようになっている必要があります。このオプションが選択されていない場合、ユーザーはスコアカードと対話することができません。</p> <p>複数挿入の詳細については、108 ページの「<a href="#">複数の挿入に対するセクタの設定</a>」を参照してください。</p> <p>注</p> <p>[ティッカー]コンポーネントは、表示コンポーネントまたはセクタ コンポーネントとして設定することができます。セクタコンポーネントとして設定する場合は、[データ挿入]チェックボックスを選択し、オプションを設定します。</p>

オプション	説明
挿入タイプ	<p>すべて</p> <p>選択時に挿入されるデータの構造を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。位置、ラベル、値、行、列、フィルタされた行、またはステータスリスト</p> <p>各挿入タイプの説明については、117 ページの「<a href="#">挿入タイプの理解</a>」を参照してください。</p>
ソースデータ	<p>すべて</p> <p>選択のソース データの場所を指定します。セル セレクタ アイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシートから範囲を選択します。チェック ボックス、アイコン、および表示切り替えボタン コンポーネントの場合、マニュアル編集アイコン (  ) をクリックして、値を手動で入力します。</p> <p>注 [挿入タイプ]が[位置]、[ラベル]、または[ステータス一覧]に設定されている場合、ソース データ セルは使用できません。</p>
	<p>すべて</p> <p>ソース データが挿入されるスプレッドシートの場所を指定します。セル セレクタ アイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシート内の範囲を選択します。</p> <p>注 出力先の範囲に必要なサイズは、[挿入タイプ]で選択した構造によって異なります。データの列または行を使用する構造の場合、必ずもっとも大きいデータの列または行を入れるのに十分な大きさの範囲を選択してください。</p>

オプション	説明
<p>選択した項目がない場合に出力先を消去する</p>	<p>再生セレクト、プッシュ ボタン、表示切り替えボタン、およびアイコン コンポーネントを除くすべて</p> <p>セレクトが”選択なし”ステータスの場合、このオプションが選択されると、出力先の既存データが削除されます。このオプションが選択されていない場合、別の選択が行われるまで出力先にこのデータが残ります。</p>
<p>対話操作</p>	<p>プッシュ ボタン、表示切り替えボタン、およびアイコン コンポーネントを除くすべて</p> <p>データが出力先にいつ挿入されるのかを指定するために、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ データ変更および対話操作 - データが変更されるたび、またはユーザーが選択を行う際にデータが挿入されます。</li> <li>・ 対話操作のみ - ユーザーが選択を行う際のみデータが挿入されます。</li> </ul>
<p>方向</p>	<p>ラベル メニューとラジオ ボタン コンポーネントのみ</p> <p>セレクトの方向を指定します。[水平]と[垂直]のどちらかを選択します。</p>
<p>カテゴリ</p>	<p>アコーディオン メニューコンポーネントのみ</p> <p>コンポーネントで使用されるカテゴリを指定します。プラス アイコンをクリックしてカテゴリを追加し、カテゴリ名、ラベル、ソース データを入力します。</p>
<p>名前</p>	<p>アコーディオン メニューコンポーネントのみ</p> <p>セル セレクト アイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシートから名前を選択します。</p>

オプション	説明
ラベル	アコーディオン メニューコンポーネントのみ 選択したカテゴリに含まれるアイテムのラベルを指定します。ラベルを入力するか、セル セレクタアイコン(  )をクリックして、埋め込みスプレッドシートからラベルを選択します。
ソースデータ	アコーディオン メニューコンポーネントのみ 選択したカテゴリのラベルと関連するソース データを指定します。セル セレクタ アイコン(  )をクリックして、埋め込みスプレッドシートからラベルを選択します。
カテゴリラベルの出力先	アコーディオン メニューコンポーネントのみ 指定したカテゴリのターゲットのセルを指定します。セル セレクタ アイコン(  )をクリックして、埋め込みスプレッドシートからラベルを選択します。

関連項目

- ・ 102 ページの「セレクトを設定する」
- ・ 110 ページの「セレクト動作プロパティ」
- ・ 119 ページの「セレクト表示プロパティ」
- ・ 131 ページの「セレクト アラート プロパティ」[セレクト アラート プロパティ]

## 複数の挿入に対するセレクトの設定

以下のセレクトは、単一の選択で、複数の場所からデータを取得して、そのデータを複数の出力先に挿入することができます。

- ・ スプレッドシート テーブル
- ・ ティッカー
- ・ スコアカード
- ・ ラジオ ボタン
- ・ リストビルダ
- ・ リスト ボックス
- ・ ラベル メニュー

- ・ スライド ピクチャ メニュー
- ・ 魚眼ピクチャ メニュー
- ・ コンボ ボックス
- ・ 再生セレクト

複数挿入に対してセレクトを設定する際に、単一の挿入でのデータソースと出力先を設定するのと同じ方法で、各データチャンクのソースおよび出力先を指定します。

#### 注

複数挿入にセレクトが設定される際、挿入タイプ、フィルタされた行はサポートされていません。

## 複数の挿入動作を設定する

複数の挿入をサポートするセレクトがキャンバス上に配置されています。

- 1 コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 
- 3 挿入アイテムの一覧で、最初のアイテムを選択して次のオプションを設定します。

オプション	説明
名前	このデータ アイテムの名前を入力します。
挿入タイプ	このデータ アイテムの挿入タイプを選択します。 各挿入タイプの説明については、117 ページの「 <a href="#">挿入タイプの理解</a> 」を参照してください。  注 複数の挿入が使用される際に、[フィルタされた行]は挿入タイプとして使用できません。
ソース データ	セル セレクタ アイコン(  )をクリックして、このデータ アイテムのソース データ場所を選択します。  注 挿入タイプが[ラベル]または[位置]に設定されている場合、ソース データが選択アイテムとして設定され、このボックスは使用できません。
出力先	セル セレクタ アイコン(  )をクリックして、このデータの出力先データ場所を選択します。  注 選択を行う際に、データ アイテムのソース データ場所が空白の場合、そのアイテムの出力先は空白になります。

関連項目

- ・ 39 ページの「[\[プロパティ\]パネルの使用](#)」

## セレクタ動作プロパティ

下の表を、セレクタの[動作]プロパティを設定するためのガイドとして使用します。オプションの中には、特定のセレクタタイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明
[共通]タブ	
対話操作オプション	アコーディオン、魚眼、アイコン、スライドピクチャ、ラベルメニュー、リストボックス、ティックャー、再生セレクトコンポーネントのみ
スライダのメソッド	スライドピクチャメニューコンポーネントのみ サムネイルのメニューのスクロール方法を指定します。次のいずれかを選択します。 . .
スライダの量	スライドピクチャメニューコンポーネントのみ スライダが動く幅を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。 . . ページのサムネイル数は、コンポーネントの幅に基づいて決定されます。
スクロールの速度	スライドピクチャメニューコンポーネントのみ ユーザーがサムネイルをスクロールする時のスライダの動作速度を調整します。
スライドの速度	アコーディオンメニューコンポーネントのみ ユーザーがカテゴリラベルをクリックした時のカテゴリの拡大速度を指定します。スピードスライダを動かして、速度を調整します。
再生時間(秒)	再生セレクトコンポーネントのみ シーケンスの再生時間を指定します。リストから秒数を選択します。

オプション	説明
自動再生	再生セレクト コンポーネントのみ 選択した場合、モデルの実行時に再生セレクトが自動的に起動します。
自動巻き戻し	再生セレクト コンポーネントのみ 選択した場合、シーケンスの再生終了時に再生セレクトが自動的に巻き戻されます。
自動リプレイ	再生セレクト コンポーネントのみ 選択した場合、再生終了時に再生セレクトが自動的にリプレイされます。
対話操作	魚眼、スライド ピクチャ、ラベル メニュー、リスト ボックス、ティッカー コンポーネントのみ データをコピー先の場所にコピーする操作を指定します。[マウス クリック]と[マウス オーバー]のどちらかを選択します。[ラベル メニュー]コンポーネントでは、[常に拡張する]が選択されている場合、[対話操作]は使用できません。
ズーム サイズ	再生セレクト コンポーネントのみ 画像へのマウスオーバー時のポップアップ エフェクトのサイズを指定します。サイズを調整するには、サイズ スライダーをスライドさせます。
ズームの速度	再生セレクト コンポーネントのみ 画像へのマウスオーバー時におけるセレクトの画像ポップアップ速度を指定します。スピード スライダーをスライドさせ、速度を調整します。

オプション	説明
常に拡張する	<p>ラベル メニュー コンポーネントのみ</p> <p>選択した場合、メニューが静的(常に使用可能なラベルを使用)になります。選択しなかった場合は、メニューを開く方法とサブメニューが表示される方向を指定する必要があります。</p> <p>注 このオプションを選択した場合、[対話操作]オプションは使用できません。</p>
拡張対象	<p>ラベル メニュー コンポーネントのみ</p> <p>メニューを開く方法を指定します。[マウス クリック]と[マウス オーバー]のどちらかを選択します。</p>
拡張する方向	<p>ラベル メニュー コンポーネントのみ</p> <p>注</p>
アニメーションを開く	<p>ラベル メニュー コンポーネントのみ</p> <p>選択した場合、メニューを開く動作がアニメーション化されます。つまり、メニュー アイテムが 1 つずつ開いているように見えます。</p>
ティックカーオプション	<p>ティックカー コンポーネントのみ</p>
アイテム区切り	<p>ティックカー コンポーネントのみ</p> <p>ティックカーのアイテム間に使用される区切り文字を指定します。</p>
スクロールの方向	<p>ティックカー コンポーネントのみ</p> <p>ティックカーのデータスクロール方向を指定します。</p>

オプション	説明
スクロールの速度	<p>ティックャー コンポーネントのみ</p> <p>ティックャーのデータスクロール速度を指定します。スピード スライダーをスライドさせ、速度を調整します。</p>
列並べ替えの許可	<p>スコアカード コンポーネントのみ</p> <p>実行時にユーザーがスコアカードを並べ替えることができるようにするには、このオプションを選択します。選択された場合、ユーザーは列ヘッダーをクリックしてその列のデータを並べ替えることができます。</p>
選択アイテム:行選択可能	<p>スコアカード コンポーネントのみ</p> <p>このオプションが選択された場合、[データ挿入]オプションが[一般]ビューに設定されていても、スコアカードがセレクトタとして機能しません。</p>
選択アイテム:カテゴリ	<p>アコーディオン コンポーネントのみ</p> <p>モデルの実行時にデフォルトで開かれるカテゴリを指定します。カテゴリのリストにおける相対位置に基づき、カテゴリを選択します。[選択なし]を選択した場合、ユーザーが選択を行うまでアイテムは選択されません。</p>

オプション	説明								
選択アイテム: タイプ	<p>             ティッカー、ラジオ ボタン、リストビルダ、リスト ボックス、ラベル メニュー、コンボ ボックス コンポーネントのみ               デフォルト選択を決定するために一致するデータのタイプを設定します。一致が見つからない場合、選択はなしに設定されます。               以下のオプションのいずれかを選択します。           </p> <table border="1" data-bbox="494 526 1180 1072"> <thead> <tr> <th data-bbox="494 526 633 572">オプション</th> <th data-bbox="633 526 1180 572">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="494 572 633 656">ラベル</td> <td data-bbox="633 572 1180 656">ソース場所のデータがコンポーネントのラベルと一致します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="494 656 633 847">位置</td> <td data-bbox="633 656 1180 847">コンポーネントに対する各選択アイテムの位置には、1 から始まる数値が割り当てられています。ソース場所にあるデータは位置番号と一致します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="494 847 633 1072">動的</td> <td data-bbox="633 847 1180 1072">各選択アイテムの位置には、0 から始まる番号が割り当てられます。ソース場所のデータが最初にコンポーネントのラベルと一致します。一致が見つからない場合、データは位置番号と一致します。それでも一致が見つからない場合、最初のアイテムが選択されます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	ラベル	ソース場所のデータがコンポーネントのラベルと一致します。	位置	コンポーネントに対する各選択アイテムの位置には、1 から始まる数値が割り当てられています。ソース場所にあるデータは位置番号と一致します。	動的	各選択アイテムの位置には、0 から始まる番号が割り当てられます。ソース場所のデータが最初にコンポーネントのラベルと一致します。一致が見つからない場合、データは位置番号と一致します。それでも一致が見つからない場合、最初のアイテムが選択されます。
	オプション	説明							
	ラベル	ソース場所のデータがコンポーネントのラベルと一致します。							
	位置	コンポーネントに対する各選択アイテムの位置には、1 から始まる数値が割り当てられています。ソース場所にあるデータは位置番号と一致します。							
動的	各選択アイテムの位置には、0 から始まる番号が割り当てられます。ソース場所のデータが最初にコンポーネントのラベルと一致します。一致が見つからない場合、データは位置番号と一致します。それでも一致が見つからない場合、最初のアイテムが選択されます。								
選択アイテム: アイテム	<p>             プッシュ ボタン、表示切り替えボタン、アイコン、フィルタ、再生セレクト コンポーネントを除くすべて               モデルの実行時にデフォルトで選択されるアイテムを指定します。アイテムのリストにおける相対位置に基づき、アイテムを選択します。[選択なし]を選択した場合、ユーザーが選択を行うまでアイテムは選択されません。               注           </p>								

オプション	説明
選択アイテム: 選択アイテム挿入	<p>ティックャー、ラジオ ボタン、リスト ボックス、ラベル メニュー、コンボ ボックス コンポーネントのみ</p> <p>選択されたアイテム値を格納するための場所を指定します。</p> <p>ヒント            セレクタ コンポーネントを”選択なし”状態にリセットするには、[挿入タイプ]が[ラベル]に設定されている場合この値は[なし]になり、[位置]に設定されている場合[-1]になります。</p>
選択アイテム: 実行時にアイテムを挿入	リスト ビルダ のみ
選択可能な行	<p>スプレッドシート テーブル コンポーネントのみ</p> <p>ユーザーがテーブルにおける特定の行を選択できるかどうかを指定します。デフォルトでは、すべての行が選択可能です。行を選択不可能にするには、行番号のそばに表示されるチェックボックスのチェックを外します。テーブルのすべての行を選択可能または選択不可能に設定するには、[行]のそばに表示されるチェックボックスにチェックするか、チェックを解除します。</p>
空のセルを無視	<p>チェック ボックス、アイコン、表示切り替えボタン、リスト ビルダを除くすべてのコンポーネント</p> <p>選択した場合、最後の空でないラベルの後に続く空白のセルがコンポーネントで表示されなくなります。このオプションは、コンポーネントにおける選択項目数が変化する場合に便利です。</p>
動的ディスプレイ	<p>すべて</p> <p>動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「<a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a>」を参照してください。</p>
[アニメーションと効果]タブ	

オプション	説明
表示効果	すべて 動的ディスプレイが有効な場合、トリガ時にキャンバス上でチャートをどのように表示させるのかを選択します。表示効果を選択し、コンポーネントの表示にかかる時間を指定して、一部のセレクトタではコンポーネントの表示時に音が鳴るかどうかを指定することができます。221 ページの「 <a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a> 」

#### 関連項目

- ・ 102 ページの「[セレクトタを設定する](#)」
- ・ 103 ページの「[セレクトタ一般プロパティ](#)」
- ・ 119 ページの「[セレクトタ表示プロパティ](#)」
- ・ 131 ページの「[セレクトタ アラート プロパティ](#)」[[セレクトタ アラート プロパティ](#)]

## 挿入タイプの理解

セレクトタ コンポーネントを選択する際に、特定のデータを埋め込みスプレッドシートに挿入するように設定します。そのデータは、他のコンポーネントで使用できるようになります。データで行うことに応じて、ソース セルからターゲット セルに値を挿入することができます。

以下の表は、使用可能な各挿入タイプについて説明したものです。

挿入タイプ	説明
位置	アイテムの一覧における選択項目の位置がターゲットのセルに書き込まれます。たとえば、リスト内の 2 番目のアイテムを選択すると、番号 2 がターゲットのセルに挿入されます。

挿入タイプ	説明
ラベル	<p>選択項目に対して指定されたラベルがターゲットのセルに書き込まれます。これは、ラベルがランタイム中に変更される可能性がある場合、およびラベルが後続のデータ検索に使用される場合に便利です。</p>
値	<p>指定されたソース セルの値がターゲットのセルに書き込まれます。ソース データ範囲で指定されたセルの数は、コンポーネントで表示されるラベルの数と一致する必要があります。</p>
行	<p>ソース データの指定された行がターゲットの行に書き込まれます。</p>
列	<p>ソース データの指定された列がターゲットの列に書き込まれます。</p>
フィルタされた行	<p>ソース データの行の指定された範囲がターゲットの範囲に書き込まれます。</p>
ステータス一覧	<p>選択項目のターゲットのセルに 1 が入力され、一覧における他のすべてのアイテムのターゲットのセルには 0 が入力されます。</p>

## セレクト表示プロパティ

[レイアウト]タブ

オプションの中には、特定のセレクトタイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明
[レイアウト]タブ	
画像:サイズ設定方法	魚眼ピクチャおよびスライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみ サムネイル領域に合わせて画像のサイズを設定する方法を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。 . .
画像:幅	魚眼ピクチャおよびスライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみ サムネイル領域の幅をピクセル単位で指定します。
画像:高さ	魚眼ピクチャおよびスライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみ サムネイル領域の高さをピクセル単位で指定します。
サムネイル:水平余白	魚眼ピクチャおよびスライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみ サムネイル画像間の水平余白をピクセル単位で指定します。

オプション	説明
サムネイル: 垂直余白	<p>魚眼ピクチャおよびスライド ピクチャ メニュー コンポーネントのみ</p> <p>サムネイル画像間の垂直余白と領域境界線をピクセル単位で指定します。</p>
表示されたラベルの数	<p>コンボ ボックスおよびフィルタ コンポーネントのみ</p> <p>コンポーネントに対してより多くのラベルが定義されている場合、ユーザーはスクロールダウンして追加のラベルを照会することができます。2 から 50 までの値を入力します。</p>
フィルタのギャップ	<p>フィルタ コンポーネントのみ</p> <p>コンポーネント各フィルタ リスト間のスペースの大きさを指定します。</p>
マーカーのサイズ	<p>ラジオ ボタン コンポーネントのみ</p> <p>ラジオ ボタンのサイズを指定します。1 から 300 までのサイズを選択します。</p>
水平余白	<p>ラジオ ボタン コンポーネントのみ</p> <p>コンポーネントの左端と右端のラジオ ボタンとラベルの間の距離を指定します。</p>
垂直余白	<p>ラジオ ボタン コンポーネントのみ</p> <p>ラジオ ボタン間の垂直距離を指定します。</p>
背景を有効にする	<p>ラジオ ボタン コンポーネントのみ</p> <p>ボタンの背景が表示されるかどうかを指定します。選択した場合、背景の透明度レベルを設定することができます。</p>
ボタンの区切り	<p>ラベル メニュー コンポーネントのみ</p> <p>ラベル タブ間のスペースの大きさを指定します。</p>

オプション	説明										
自動リプレイ	<p>再生セレクト コンポーネントのみ</p> <p>コンポーネントに表示される要素を指定します。以下の要素を表示するため、適切なチェックボックスを選択します。</p> <table border="1" data-bbox="572 435 1178 866"> <thead> <tr> <th data-bbox="572 435 798 482">オプション</th> <th data-bbox="798 435 1178 482">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="572 482 798 569">背景を表示</td> <td data-bbox="798 482 1178 569">コントロールの背景が表示されるかどうかを指定します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="572 569 798 656">進捗インジケータを表示</td> <td data-bbox="798 569 1178 656">進捗スライダが表示されるかどうかを指定します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="572 656 798 779">巻き戻し/早送りを表示する</td> <td data-bbox="798 656 1178 779">早送りおよび巻き戻しボタンを使用できるかどうかを指定します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="572 779 798 866">前/次を表示する</td> <td data-bbox="798 779 1178 866">前および次ボタンを使用できるかどうかを指定します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	背景を表示	コントロールの背景が表示されるかどうかを指定します。	進捗インジケータを表示	進捗スライダが表示されるかどうかを指定します。	巻き戻し/早送りを表示する	早送りおよび巻き戻しボタンを使用できるかどうかを指定します。	前/次を表示する	前および次ボタンを使用できるかどうかを指定します。
	オプション	説明									
	背景を表示	コントロールの背景が表示されるかどうかを指定します。									
	進捗インジケータを表示	進捗スライダが表示されるかどうかを指定します。									
	巻き戻し/早送りを表示する	早送りおよび巻き戻しボタンを使用できるかどうかを指定します。									
前/次を表示する	前および次ボタンを使用できるかどうかを指定します。										
リストの透明度または透明度	<p>アイコン、ラベルメニュー、リストボックス、ラジオボタン、表示切り替えボタン、再生セレクト コンポーネントのみ</p> <p>透明度を 0 に設定した場合、コンポーネントの後ろにあるオブジェクトはユーザーには見えません。透明度を 100 に設定した場合、コンポーネントは完全に透明であり、ユーザーには見えません。</p> <p>注</p>										
ティックターの背景を表示	<p>ティックター コンポーネントのみ</p> <p>ティックター ラベルの背景が表示されるかどうかを指定します。</p>										

オプション	説明
ボタンの背景を表示	<p>プッシュ ボタン コンポーネントのみ</p> <p>ボタン ラベルの背景が表示されるかどうかを指定します。選択した場合、透明度を増す場合はスライダを右に動かし、透明度を減らす場合はスライダを左に動かすことにより、透明度レベルを設定することもできます。</p>
カスタム列の幅	<p>リストビューおよびスコアカード コンポーネントのみ</p> <p>デフォルトでは、リストビュー コンポーネントではソースデータのサイズに合わせて列のサイズが調整されます。列サイズを手動で調整する場合、このオプションを選択して、マニュアル編集アイコン(  )をクリックし、列の幅をピクセル単位で設定します。</p>
垂直グリッドラインを表示	<p>リストビューおよびスコアカード コンポーネントのみ</p> <p>垂直グリッドラインがテーブルに表示されるかどうかを指定します。選択した場合、[カラー セレクタ]アイコンをクリックし、ラインの色を指定することができます。</p>
水平グリッドラインを表示	<p>リストビューおよびスコアカード コンポーネントのみ</p> <p>水平グリッドラインがテーブルに表示されるかどうかを指定します。選択した場合、[カラー セレクタ]アイコンをクリックし、ラインの色を指定することができます。</p>

[テキスト]タブ

次に、テキストアイテムを選択して、テキスト表示の書式を設定します。オプションの中には、特定のセレクトタイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

注

オプション	説明
[テキスト]タブ	

オプション	説明
タイトル	プッシュ ボタン、表示切り替えボタン、およびアイコン コンポーネントを除くすべて
ソース一覧のタ イトル	リスト ビルダ セレクタのみ
ソース一覧ラベ ル	リスト ビルダ セレクタのみ このオプションは選択解除できません。
出力先一覧の タイトル	リスト ビルダ セレクタのみ
出力先一覧ラ ベル	リスト ビルダ セレクタのみ このオプションは選択解除できません。
ボタン ラベル	リスト ビルダ セレクタのみ 各ボタンのラベルを表示します。このオプションは選択解除で きません。
ラベル	リスト ビルダ、アイコン、およびチェックボックス セレク タを除くすべて コンポーネント エLEMENTのラベルを表示します。このオプショ ンは選択解除できません。
表示値	ディッカー セレクタのみ 各アイテムのデータ値を表示します。
ヘッダー	スコアカードとリスト ビュー コンポーネントのみ グリッドのヘッダー行を表示します。
マウス オー バー ラベル	アイコン セレクタのみ

オプション	説明
マウス オーバー値	アイコン セレクタのみ
カテゴリ名	アコーディオン メニューのみ カテゴリ名を表示します。このオプションは選択解除できません。
	スプレッドシートテーブルと再生セレクタを除くすべてのコンポーネント  注 17 ページの「 <a href="#">グローバル フォント オプションを設定する</a> 」
位置	コンポーネントに関係する一部のテキスト要素の位置を設定することができます。
オフセット	
数値の書式設定	一部のテキスト要素の数値書式を設定することができます。

### [色]タブ

下の表は、セレクタの[色]タブで[表示]プロパティを設定するためのガイドとして使用してください。[色]ダイアログを使用してコンポーネントの色を設定する場合の詳細については、41 ページの「[コンポーネント要素の色の設定](#)」を参照してください。

#### 注

アラートが[アイコン]コンポーネントで有効にされている場合、[色]オプションが無効にされます。

オプション	説明
[色]タブ	

オプション	説明
境界線の色	<p>スコアカード コンポーネントのみ</p> <p>スコアカードの周りの境界の色を設定します。</p>
背景色	<p>アコーディオンメニュー、魚眼メニュー、スライドピクチャ、リストビュー、リストビルダ、ラジオ ボタン、ティッカー、再生セレクト コンポーネントのみ</p> <p>注 [ティッカー]コンポーネントでは、[レイアウト]タブで[ティッカーの背景を表示]が選択されていない場合、背景色を設定することはできません。</p>
カテゴリ名	<p>アコーディオン メニューコンポーネントのみ</p> <p>カテゴリ ボタンのテキストの色に適用されます。</p> <p>ボタンが有効ではない場合の色(デフォルトの色)、マウス ポインタがボタンに置かれている場合の色(マウスオーバー時の色)、カテゴリが選択されている場合の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p>
カテゴリの背景	<p>アコーディオン メニューコンポーネントのみ</p> <p>カテゴリ ボタンの背景色に適用されます。</p> <p>ボタンが有効ではない場合の色(デフォルトの色)、マウス ポインタがボタンに置かれている場合の色(マウスオーバー時の色)、カテゴリが選択されている場合の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p>

オプション	説明
ヘッダー ラベル	<p>リスト ビューおよびスコアカード コンポーネントのみ 列 ヘッダーのテキストに適用されます。</p> <p>列が有効ではない場合の色(デフォルトの色)、マウスポインタがヘッダーに置かれている場合の色(マウスオーバー時の色)、列が選択されている場合の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p>
ヘッダーの背景	<p>リスト ビューおよびスコアカード コンポーネントのみ 列ヘッダーの背景に適用されます。</p> <p>列が有効ではない場合の色(デフォルトの色)、マウスポインタがヘッダーに置かれている場合の色(マウスオーバー時の色)、列が選択されている場合の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p>
ボタン	<p>表示切り替えおよびプッシュ ボタン コンポーネントのみ ボタンの色に適用されます。</p> <p>ボタンがオンの時とオフの時に対して異なる色を設定することができます。</p>
ラベル	<p>コンボ ボックス、アコーディオン メニュー、フィルタ、ラベル メニュー、リスト ボックス、リスト ビュー、プッシュ ボタン、スコアカード、ティッカー コンポーネントのみ ラベル テキストに適用されます。</p> <p>要素が有効ではない場合の色(デフォルトの色)、マウスポインタが要素に置かれている場合の色(マウスオーバー時の色)、要素が有効な場合の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p>

オプション	説明
ラベルの背景	<p>コンボ ボックス、アコーディオン メニュー、フィルタ、ラベル メニュー、リスト ボックス、リスト ビュー コンポーネントのみ</p> <p>コンポーネントにおけるラベルの色を設定します。</p> <p>要素が有効ではない場合の色(デフォルトの色)、マウスポインタが要素に置かれている場合の色(マウスオーバー時の色)、要素が有効な場合の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p>
ラベル ヘッダーの色	<p>魚眼ピクチャおよびスライド ピクチャ コンポーネントのみ 見出しバーの背景色に適用されます。</p> <p>注 ラベル テキストの色は、ラベル テキスト書式設定の[テキスト]タブで設定されます。</p>
ドロップダウン ボタン	<p>コンボ ボックスおよびフィルタ コンポーネントのみ</p> <p>ラベルのそばに表示されるドロップダウン ボタンに適用されます。</p> <p>背景の色(ボタンの色)、ドロップダウン シンボルの色(矢印の色)、およびそれらのアイテムの選択時と非選択時の色をそれぞれ設定することができます。</p>
表示値	<p>ティッカー コンポーネントのみ</p> <p>ティッカーに表示される表示値のテキストの色に適用されます。</p> <p>テキストが有効ではない場合の色(デフォルトの色)、マウスポインタがテキストに置かれている場合の色(マウスオーバー時の色)、要素が選択されている場合の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p> <p>注 ティッカー コンポーネントでは、ラベルの色設定は表示値の色設定に依存しません。</p>

オプション	説明
ソース一覧ラベル	<p>リスト ビルダ コンポーネントのみ</p> <p>ソース一覧におけるアイテムのテキストの色に適用されます。</p> <p>テキストが有効ではない場合の色(デフォルトの色)、マウス ポインタがテキストに置かれている場合の色(マウスオーバー時の色)、テキストが選択されている場合の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p>
ソース一覧背景	<p>リスト ビルダ コンポーネントのみ</p> <p>テキストの後ろのソース一覧における領域に適用されます。</p> <p>テキストが有効ではない場合の背景の色(デフォルトの色)、マウス ポインタがテキストに置かれている場合の背景の色(マウスオーバー時の色)、テキストが選択されている場合の背景の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p>
出力先一覧ラベル	<p>リスト ビルダ コンポーネントのみ</p> <p>出力先一覧におけるアイテムのテキストの色に適用されます。</p> <p>テキストが有効ではない場合の色(デフォルトの色)、マウス ポインタがテキストに置かれている場合の色(マウスオーバー時の色)、テキストが選択されている場合の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p>
出力先一覧背景	<p>リスト ビルダ コンポーネントのみ</p> <p>テキストの後ろの出力先一覧における領域に適用されます。</p> <p>テキストが有効ではない場合の背景の色(デフォルトの色)、マウス ポインタがテキストに置かれている場合の背景の色(マウスオーバー時の色)、テキストが選択されている場合の背景の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p>

オプション	説明
サムネイル	<p>魚眼メニューおよびスライドピクチャメニュー コンポーネントのみ</p> <p>画像の後ろのサムネイル領域に適用されます。</p> <p>アイテムが有効ではない場合の背景の色(デフォルトの色)、マウスポインタがアイテムに置かれている場合の背景の色(マウスオーバー時の色)、アイテムが選択されている場合の背景の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p>
ボタン	<p>アコーディオンメニュー、スライドピクチャ、リストビルダ、再生セレクト コンポーネントのみ</p> <p>コンポーネントのボタンに適用されます。コンポーネントによっては、以下の要素に異なる色を設定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有効なボタン、クリック時のボタン、無効なボタンのボタン背景</li> <li>・ 有効なボタン、クリック時のボタン、無効なボタンのシンボル</li> <li>・ デフォルト ボタンとクリック時のボタンのボタン ラベル</li> </ul>
目盛線	<p>リストビュー、スコアカードおよびスプレッドシート テーブル コンポーネントのみ</p> <p>テーブルの列および行の間の線に適用されます。</p> <p>注 [レイアウト]タブで[グリッドラインを表示]が選択されていない場合、このオプションは使用できません。</p>
並べ替え記号:記号の色	<p>リストビュー、スコアカード およびティッカー コンポーネントのみ</p> <p>列タイトルのそばに表示される、現在の並べ替え方向を示す矢印シンボルに適用されます。</p> <p>注 シンボルは、設計モードでは表示されません。</p>

オプション	説明
行	<p>スプレッドシート テーブルおよび スコアカード コンポーネントのみ</p> <p>スプレッドシートの行に適用されます。</p> <p>マウス ポインタが行に置かれている場合の色 (マウスオーバー時の色) および行が選択されている場合の色 (選択時の色) をそれぞれ設定することができます。</p> <p>スコアカード コンポーネントの場合、代替行に別の色を設定することもできます。</p> <p>注            行のデフォルトの色は、埋め込みスプレッドシートのソースセルに対して定義された色になります。</p>
スクロールバー	<p>コンボ バー、アコーディオン メニュー、フィルタ、リスト ボックス、リスト ビュー、リスト ビルダ、スコアカード および スプレッドシート テーブル コンポーネント</p>
オフの色	<p>チェック ボックス コンポーネントのみ</p> <p>選択されていないチェックボックスの色に適用されます。</p>
オンの色	<p>チェック ボックス コンポーネントのみ</p> <p>選択されているチェックボックスの色に適用されます。</p>
マーカー	<p>ラジオ ボタン コンポーネントのみ</p> <p>ボタンの色に適用されます。</p>
進捗インジケータ	<p>再生セレクトラ コンポーネントのみ</p> <p>進捗バー インジケータに適用されます。</p> <p>トラックとマーカーに対して異なる色を設定することができます。</p>

## 関連項目

- ・ 102 ページのセレクトを設定する
- ・ 103 ページのセレクト一般プロパティ
- ・ 110 ページのセレクト動作プロパティ
- ・ 131 ページのセレクト アラート プロパティ[セレクト アラート プロパティ]

## セレクト アラート プロパティ[セレクト アラート プロパティ]

以下のセレクト コンポーネントに対してアラートを設定することができます。

- ・ コンボ ボックス
- ・ アイコン
- ・ ラベル メニュー
- ・ リスト ボックス
- ・ リストビルダ
- ・ ティッカー
- ・ スコアカード

アラートを設定するには、コンポーネントを選択して、[プロパティ]パネルを開きます。  
216 ページの「[アラートの概要](#)」

## 関連項目

- ・ 102 ページのセレクトを設定する
- ・ 103 ページのセレクト一般プロパティ
- ・ 110 ページのセレクト動作プロパティ
- ・ 119 ページのセレクト表示プロパティ

## 単一値コンポーネントの使用

単一値コンポーネントを使用して、モデルにユーザーとの対話を追加できます。単一値は、そのコンポーネントまたは各コンポーネントマーカーが、スプレッドシート内の単一セルにリンクされていることを意味します。ランタイムには、ユーザーが各コンポーネントまたはマーカーの出力を表示したり、関連付けられたセルに含まれる値をマーカーの調整で変更することができます。

### 入力と出力

単一値コンポーネントは入力コンポーネントと出力コンポーネントの両方に分類されます。これは、任意の単一値コンポーネントをモデルの入力要素および出力要素として使用できることを意味します。

ある単一値コンポーネントが、ユーザーによる操作が可能な入力なのか、あるいは出力なのかを決めるのは、そのコンポーネントがリンクされているセルです。セルにどの種類の式を含めても、コンポーネントは出力とみなされます。セルに式が含まれていない場合は、入力として表されます。

たとえば、式を含まないセルに[メーター]をリンクしている場合は、メーターの針をドラッグして値を変更します。これによりセル値を変更できます。式を含むセルにリンクされている[メーター]がある場合、その値は変更できません。値はセル内のフォーミュラによって設定されます。

### 注

### ダイヤル



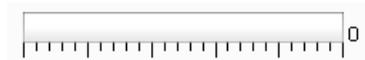
入力コンポーネントです。ダイヤルは、変更して他のコンポーネントに影響を与えることができる変数を表します。たとえば、単位価格を表すことができます。

### スライドと二点スライド



入力コンポーネントです。スライドは、変更して他のコンポーネントに影響を与えることができる変数を表します。たとえば、単位価格を表すことができます。二点スライドを使用すると、最小値と最大値を調整することができます。

## 進捗バー



出力コンポーネントです。進捗バーは、変化する値を表し、その値に応じて進捗バーの領域が塗りつぶされます。

## メーター



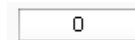
式を含むセルにバインドされている場合は出力、値を含むセルにバインドされている場合は入力です。

出力としての[メーター]は、変化する値を表し、針を移動します。入力としての[メーター]は、変更して他のコンポーネントに影響を与えることができる変数を表します。ユーザーは、[メーター]の針をドラッグして値を変化させて、メーターと対話できます。

## 注

スプレッドシート内の異なるセルにリンクされている複数のマーカーが、単一のメーターに表示されるように設定することができます。

## 値



式を含むセルにバインドされている場合は出力、値を含むセルにバインドされている場合は入力です。

出力としての[値]は、変化する値を表します。入力としての[値]は、変更して他のコンポーネントに影響を与えることができる変数を表します。ユーザーは、新しい[値]を入力して、値と対話できます。

## スピン ボタン



入力コンポーネントです。スピン ボタンは、変更して他のコンポーネントに影響を与えることができる変数を表します。ユーザーは、上矢印および下矢印をクリックするか、コンポーネントに値を入力して、[スピン ボタン]と対話できます。

## 再生コントロール



入力コンポーネントです。[再生コントロール]は、スプレッドシート内のセルの値を自動的に増加させるために使用します。たとえば、再生ボタンを、人員を含むセルにリンクさせることができます。人員数が 1、2、3 またはそれ以上ずつ増加していく場合どうなるでしょうか。[再生コントロール]によって初期の人員値を取得し、その値を増分によって自動的に増やすことができます。

## 関連項目

- ・ 134 ページの[単一値コンポーネントを設定する](#)

## 単一値コンポーネントを設定する

埋め込みスプレッドシートに値の一覧が入力されます。

- 1 [コンポーネント]ブラウザを開いて、キャンバスに単一値コンポーネントをドラッグします。
- 2 コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 3 [プロパティ]パネルで、[一般]ビューをクリックして、コンポーネントのタイトルを入力して、コンポーネントをスプレッドシート内のデータにリンクし、目盛オプションを設定します。使用可能なオプションの詳細については、135 ページの「[単一値コンポーネント一般プロパティ](#)」を参照してください。

コンポーネントには最新の変更が反映されます。

- 4 [動作]ビューをクリックして、針の移動、対話操作オプション、動的ディスプレイなど、モデルでコンポーネントがどのように機能するかについてオプションを設定します。使用可能なオプションの詳細については、138 ページの「[単一値コンポーネント動作プロパティ](#)」を参照してください。

- 5 [表示]ビューをクリックして、各コンポーネント要素のビジュアル特性を設定します。表示オプションの詳細については、143 ページの「[単一値コンポーネント表示プロパティ](#)」を参照してください。
- 6 該当する場合、[アラート]ビューをクリックして、指定された値に到達した通知を設定します。アラートの詳細については、148 ページの「[単一値コンポーネントアラートプロパティ](#)」を参照してください。
- 7 [ファイル] > [保存]をクリックして、モデルの場所とファイル名を入力します。  
[OK]をクリックします。

単一値コンポーネントが、モデルに追加され設定されます。モデルがどのように機能しているのかを確認するには、[ツールバー]で[プレビュー]をクリックします。

## 単一値コンポーネント一般プロパティ

[一般]ビューの単一値コンポーネントプロパティの設定ガイドとして、以下の表を使用します。オプションの中には、特定のコンポーネントタイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明
[タイトル]	
タイトル	<p>すべて</p> <p>タイトルは、デフォルトではコンポーネント上部の中央に配置されます。</p> <p>注</p> <p>[表示]ビューで、タイトルの場所と書式を変更することができます。</p>
データ	<p>メーター コンポーネント以外すべて</p> <p>これらのコンポーネントは、1つの値ポイントにリンクします。ボックスに値を入力するか、セル セレクタ アイコン (  ) をクリックし、埋め込みスプレッドシートからセルを選択します。</p>

オプション	説明								
範囲別	<p>メーター コンポーネント</p> <p>データ系列を含むスプレッドシートでセル範囲を選択して、マーカーをします。メーター コンポーネントをデータの複数の系列にリンクし、単一メーターに複数のインジケータを表示します。ただし、複数のインジケータを持つメーターは値の表示にのみ使用可能です。ユーザーが実行時にメーターを操作することはできません。</p> <p>ヒント ここで範囲を選択して[指標別]の値を設定すると、[インジケータ別]面チャートでカスタマイズすることができます。</p>								
インジケータ別	<p>メーター コンポーネント</p> <p>各インジケータを一覧から選択し、以下の値を設定します。</p> <table border="1" data-bbox="481 795 1177 1034"> <thead> <tr> <th data-bbox="481 795 753 840">オプション</th> <th data-bbox="753 795 1177 840">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="481 840 753 892">名前</td> <td data-bbox="753 840 1177 892">マーカーの名前</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 892 753 944">値</td> <td data-bbox="753 892 1177 944">このマーカーに対応する値</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 944 753 1034">タイプ</td> <td data-bbox="753 944 1177 1034">マーカーのタイプ(針、内部マーカー、あるいは外部マーカー)</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	名前	マーカーの名前	値	このマーカーに対応する値	タイプ	マーカーのタイプ(針、内部マーカー、あるいは外部マーカー)
オプション	説明								
名前	マーカーの名前								
値	このマーカーに対応する値								
タイプ	マーカーのタイプ(針、内部マーカー、あるいは外部マーカー)								
低い値	<p>二点スライダ コンポーネントのみ</p> <p>二点スライダには2つのポイントがあります。左マーカーのデフォルト値(低いポイント)を設定するには、ボックスに値を入力するか、セル セレクタ アイコン(  )をクリックし、埋め込みスプレッドシートからセルを選択します。</p>								
高い値	<p>二点スライダ コンポーネントのみ</p> <p>二点スライダには2つのポイントがあります。右マーカーのデフォルト値(高いポイント)を設定するには、セル セレクタ アイコン(  )をクリックし、埋め込みスプレッドシートからセルを選択します。</p>								

オプション	説明
	<p>すべて</p> <p>この選択では、目盛を定義するのに使用される方法を設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [手動]</li> <li>・ [自動]</li> </ul>
手動	<p>すべて</p> <p>このオプションを選択して、制限を設定します。</p> <p>ボックスに最大制限および最小制限を入力するか、セル セレクタアイコン(  )をクリックし、埋め込みスプレッドシートからセルを選択します。</p>

オプション	説明	
自動	すべて このオプションを選択して、一覧内での選択に基づいて最小および最大制限を計算させます。このオプションを選択して、次に以下のいずれかの計算方法を選択します。	
	オプション	説明
	値ベース	値の前後の範囲で制限を設定します。このオプションは、再生コントロール、二点スライダ、または値コンポーネントでは使用できません。
	ゼロベース	値を上限として使用し、下限はゼロである範囲で制限を設定します。
	ゼロ中心	この制限は、値を含む範囲と、ゼロを中心として値のプラスとマイナスの範囲で制限を設定します。
アラートベース	選択したアラート方法に基づいて制限を設定します。	

#### 関連項目

- ・ 134 ページの「単一値コンポーネントを設定する」
- ・ 138 ページの「単一値コンポーネント動作プロパティ」
- ・ 143 ページの「単一値コンポーネント表示プロパティ」
- ・ 148 ページの「単一値コンポーネント アラート プロパティ」

## 単一値コンポーネント動作プロパティ

単一値コンポーネントの動作プロパティの設定ガイドとして、次の表を使用します。オプションの中には、特定のコンポーネントタイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明								
[共通]タブ									
進捗の移動、スライダの移動、または針の移動	<p>進捗バー、スライダ、およびメーター コンポーネント</p> <p>このオプションは、コンポーネントで変更がどのように表示されるのかを指定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <table border="1" data-bbox="501 496 1180 840"> <thead> <tr> <th data-bbox="501 496 653 543">オプション</th> <th data-bbox="653 496 1180 543">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="501 543 653 699">増分</td> <td data-bbox="653 543 1180 699">特定の量に値を制限します。[増分]ボックスに増分を入力するか、[セル セレクタ]アイコンをクリックして、埋め込みスプレッドシート内のセルを選択します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 699 653 756">主目盛</td> <td data-bbox="653 699 1180 756">進捗の動きを主目盛の増分のみに行います。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 756 653 840">主目盛と補助目盛</td> <td data-bbox="653 756 1180 840">進捗の動きを主目盛と補助目盛の増分に行います。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	増分	特定の量に値を制限します。[増分]ボックスに増分を入力するか、[セル セレクタ]アイコンをクリックして、埋め込みスプレッドシート内のセルを選択します。	主目盛	進捗の動きを主目盛の増分のみに行います。	主目盛と補助目盛	進捗の動きを主目盛と補助目盛の増分に行います。
オプション	説明								
増分	特定の量に値を制限します。[増分]ボックスに増分を入力するか、[セル セレクタ]アイコンをクリックして、埋め込みスプレッドシート内のセルを選択します。								
主目盛	進捗の動きを主目盛の増分のみに行います。								
主目盛と補助目盛	進捗の動きを主目盛と補助目盛の増分に行います。								
オブジェクトの弾力性	<p>メーター コンポーネントのみ</p> <p>このオプションは、針の弾力性を決定します。低い弾力性を選択すると、針がすぐに値を指すようになります。高い弾力性を選択すると、針がバウンドするように振れながら最後に所定の位置に納まるようになります。</p>								
	<p>スピン ボタン、値、およびダイヤル コンポーネント</p> <p>このオプションは、コンポーネント内に表示される動作量を指定します。[増分]ボックスに増分を入力するか、[セル セレクタ]アイコンをクリックして、埋め込みスプレッドシート内のセルを選択します。</p>								

オプション	説明								
制限	<p>再生コントロール コンポーネントを除くすべて</p> <p>このオプションは、モデルの実行時の制限を指定します。[最小]制限と[最大]制限について、以下のオプションから選択します。</p> <table border="1" data-bbox="501 435 1173 881"> <thead> <tr> <th data-bbox="501 435 682 484">オプション</th> <th data-bbox="682 435 1173 484">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="501 484 682 604">固定</td> <td data-bbox="682 484 1173 604">ユーザーは、最小値よりも小さい値、最大値よりも大きい値を設定することはできません。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 604 682 760">調節可能</td> <td data-bbox="682 604 1173 760">ユーザーは、設定された制限を越えて値を調整することができます。このオプションは、値コンポーネントには使用できません。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="501 760 682 881">オープン</td> <td data-bbox="682 760 1173 881">ユーザーは、指定された最小値または最大値と競合しなければ、値を任意の数に設定できます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	固定	ユーザーは、最小値よりも小さい値、最大値よりも大きい値を設定することはできません。	調節可能	ユーザーは、設定された制限を越えて値を調整することができます。このオプションは、値コンポーネントには使用できません。	オープン	ユーザーは、指定された最小値または最大値と競合しなければ、値を任意の数に設定できます。
	オプション	説明							
	固定	ユーザーは、最小値よりも小さい値、最大値よりも大きい値を設定することはできません。							
	調節可能	ユーザーは、設定された制限を越えて値を調整することができます。このオプションは、値コンポーネントには使用できません。							
オープン	ユーザーは、指定された最小値または最大値と競合しなければ、値を任意の数に設定できます。								
対話機能を有効にする	<p>すべて</p> <p>このオプションを選択すると、ユーザーは、コンポーネントと対話することができます。コンポーネントで値を表示し、実行時にユーザーの入力を受け入れないようにするには、このオプションの選択を解除します。</p>								
自動サイズ変更	<p>値およびスピン ボタン コンポーネントのみ</p> <p>このオプションを選択した場合、コンポーネントが自動的に展開されるか、入力された値に合わせたサイズになります。</p>								
マウスの感度	<p>値、メーター、およびダイヤル コンポーネント</p> <p>感度を高く設定すると、ポインタのわずかな動きで、値が大幅に変化します。感度を低く設定すると、ポインタの動きによる値の変化が小さくなります。</p>								

オプション	説明
マウス トラッキング	メーターおよびダイヤル コンポーネントのみ 次のいずれかのオプションを選択します。 ・ ・
スクロール の動作	値コンポーネントのみ 次のいずれかのオプションを選択します。 ・ ・
再生ボタン を有効にする	二点スライダおよびスピン ボタン コンポーネントを除くすべて このオプションが選択された場合、再生ボタンがコンポーネントで使用可能です。ユーザーが[再生]ボタンをクリックすると、コンポーネントに設定された増分でコンポーネントが最小値から最大値に移動します。
自動再生	再生コントロール コンポーネントのみ このオプションは、[再生ボタンを有効にする]が選択された場合に使用可能です。 このオプションを選択した場合、モデルのロード時にコンポーネントの再生シーケンスで自動的に再生されます。
再生時間	二点スライダおよびスピン ボタン コンポーネントを除くすべて このオプションにより、再生シーケンスの期間を設定できるようになります。1 から 100 秒の間で、再生秒数をボックスに入力します。

オプション	説明
自動巻き戻し	<p>二点スライダおよびスピン ボタン コンポーネントを除くすべて</p> <p>このオプションを選択した場合、再生シーケンスが最大値に到達すると、自動的に最小値に巻き戻されます。</p>
自動リプレイ	<p>二点スライダおよびスピン ボタン コンポーネントを除くすべて</p> <p>このオプションを選択した場合、再生シーケンスが自動的に繰り返されます。</p>
動的ディスプレイ	<p>すべて</p> <p>このオプションを使用して、モデルにおいてセレクトタが表示されるタイミングを制御する条件を指定することができます。</p> <p>動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「<a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a>」を参照してください。</p>
[アニメーションと効果]タブ	
表示効果	<p>すべて</p> <p>動的ディスプレイが有効な場合、トリガ時にキャンバス上でチャートをどのように表示させるのかを選択します。動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「<a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a>」を参照してください。</p>

#### 関連項目

- ・ 134 ページの単一値コンポーネントを設定する
- ・ 135 ページの単一値コンポーネント一般プロパティ
- ・ 143 ページの単一値コンポーネント表示プロパティ
- ・ 148 ページの単一値コンポーネント アラート プロパティ

## 単一値コンポーネント表示プロパティ

### [レイアウト]タブ

単一値コンポーネントの[レイアウト]タブの[表示]プロパティの設定ガイドとして次の表を使用します。オプションの中には、特定のコンポーネントタイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明
[レイアウト]タブ	
目盛を有効にする	スピンドタンおよび値コンポーネントを除くすべて このオプションを選択した場合、値を示す小さいマーカー（目盛）がコンポーネントで表示されます。
自動目盛	スピンドタンおよび値コンポーネントを除くすべて [目盛を有効にする]が選択されている場合、このオプションはデータに応じて自動的に目盛を調整します。
手動	スピンドタンおよび値コンポーネントを除くすべて [目盛を有効にする]が選択されている場合、このオプションにより目盛の表示をカスタマイズできるようになります。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [目盛の数] - これにより、コンポーネントに含める主目盛と補助目盛の数を指定できるようになります。</li> <li>・ [仕切のサイズ] - これにより、目盛同士の間隔を設定できるようになります。値が高いほど距離が大きくなります。主目盛と補助目盛の両方の値を設定することができます。補助仕切のサイズは、主要仕切のサイズに左右されません。</li> </ul>

オプション	説明
放射状の定義	<p>ダイヤルおよびゲージ コンポーネントのみ</p> <p>このオプションにより、コンポーネントの針の角度を設定できるようになります。</p> <p>最小角度と最大角度の両方に対して、針が回転できる角度を入力します。</p> <p>注 [動作]ビューで、最小制限がオープンに設定されている場合、最大角度値を設定できません。最大制限がオープンに設定されている場合、最小角度を設定できません。</p>
背景を表示	<p>値コンポーネントのみ</p> <p>このオプションを設定して、コンポーネントの背景を表示します。選択されていない場合、コンポーネントは透明になります。</p>
レイアウト オプション	<p>再生コントロール コンポーネントのみ</p> <p>このオプションは、再生コントロールコンポーネントで表示される要素を決定します。含める要素を選択します。要素には、巻き戻し/早送りボタン、前/次ボタン、スライダ(進捗バー)があります。</p>

[テキスト]タブ

[表示]列で、セレクトで表示する各テキストアイテムのチェックボックスを選択します。次に、テキストアイテムを選択して、テキスト表示の書式を設定します。テキストの中には、特定のセレクト タイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

注

[テキスト]タブは、面チャート、積み上げ面チャート、および塗りつぶしレーダーチャート コンポーネントでは使用できません。

オプション	説明
[テキスト]タブ	

オプション	説明
	すべて コンポーネントの上にタイトルを表示します。
値	すべて 現在の値を表示します。値およびスピン ボタン コンポーネントでは、このオプションの選択を解除することはできません。
制限	コンポーネントの上限と下限を表示します。
	すべて  注 17 ページの「 <a href="#">グローバル フォント オプションを設定する</a> 」
位置	コンポーネントに関係する一部のテキスト要素の位置を設定することができます。
オフセット	設定位置に対応させてオフセットすることにより、一部のテキスト要素の位置を調整することができます。
数値の書式設定	一部のテキスト要素の数値書式を設定することができます。

### [色]タブ

単一値コンポーネントの[色]タブの[表示]プロパティの設定ガイドとして次の表を使用します。コンポーネント要素の色を設定するには、カラー セレクタ アイコンをクリックして、[色]ダイアログ ボックスから、使用する色を選択します。

オプション	説明
[色]タブ	

オプション	説明
針の色	メーターおよびダイヤル コンポーネントのみ コンポーネントの針に適用されます。
フレームの色	メーター コンポーネントのみ メーターの周辺の領域に適用されます。
グリップの色	ダイヤル コンポーネントのみ ダイヤル表面の周りの領域に適用されます。
中央の色	メーター コンポーネントのみ メーターの中央領域に適用されます。
背景色	メーター、ダイヤル、スピン ボタン、値コンポーネント
再生ボタンの色	メーター、スライダ、ダイヤル、進捗バー、値、再生コントロール コンポーネント コンポーネントの再生ボタン背景に適用されます。  注 このオプションは、[動作]ビューで[再生ボタンを有効にする]が選択された場合のみ使用可能です。
再生記号の色	メーター、スライダ、ダイヤル、進捗バー、値、再生コントロール コンポーネント 再生ボタンに表示される記号に適用されます。  注 このオプションは、[動作]タブで[再生ボタンを有効にする]が選択された場合のみ使用可能です。

オプション	説明
マーカーの色	二点スライダ コンポーネントを除くスライダ、進捗バー、再生コントロール コンポーネント スライダ/進捗バーのマーカーに適用されます。
低い値マーカーの色	二点スライダ コンポーネントのみ 低い設定を表示するスライダのマーカーに適用します。
高い値マーカーの色	二点スライダ コンポーネントのみ 高い設定を表示するスライダのマーカーに適用します。
トラックの色	スライダ、進捗バー、再生コントロール コンポーネント スライダ/進捗バーのトラック領域に適用します。
目盛の色	メーター、スライダ、ダイヤル、進捗バー、再生コントロール コンポーネント コンポーネントの目盛マーカーの色に適用されます。
制限の背景色	メーター、スライダ、ダイヤル、進捗バー コンポーネント 現在の制限を示すテキストの背後の色に適用されます。 注 これは、[動作]ビューの[最小制限]または[最大制限]が[オープン]に設定されている場合のみ使用可能です。

オプション	説明
上ボタン	<p>スピン ボタン コンポーネントのみ</p> <p>コンポーネント値を設定するのに使用される上ボタンに適用されます。</p> <p>ボタンの背景と上方向マークに異なる色を設定することができます。デフォルトの(押されていない)ボタンと押されているボタンに別の色を設定することもできます。</p>
下ボタン	<p>スピン ボタン コンポーネントのみ</p> <p>コンポーネント値を設定するのに使用される下ボタンに適用されます。</p> <p>ボタンの背景と下方向マークに異なる色を設定することができます。デフォルトの(押されていない)ボタンと押されているボタンに別の色を設定することもできます。</p>

関連項目

- ・ 134 ページの単一値コンポーネントを設定する
- ・ 138 ページの単一値コンポーネント動作プロパティ
- ・ 135 ページの単一値コンポーネント一般プロパティ
- ・ 148 ページの単一値コンポーネント アラート プロパティ

## 単一値コンポーネント アラート プロパティ

以下の単一値コンポーネントのアラートを設定することができます。

- ・ 垂直スライダ
- ・ 水平スライダ
- ・ 二点スライダ
- ・ 水平進捗バー
- ・ ダイアル
- ・ メーター
- ・ 値

- ・ スピン ボタン

アラートを設定するには、コンポーネントを選択して、[プロパティ]パネルを開きます。次に、[アラート]タブをクリックして、[アラートを有効にする]チェックボックスを選択して、アラートオプションを設定します。アラートオプションの設定については、216 ページの「[アラートの概要](#)」を参照してください。

#### 関連項目

- ・ 134 ページの単一値コンポーネントを設定する
- ・ 135 ページの単一値コンポーネント一般プロパティ
- ・ 138 ページの単一値コンポーネント動作プロパティ
- ・ 143 ページの単一値コンポーネント表示プロパティ

## マップ コンポーネントの使用

マップ コンポーネントは、データの地域別表示が可能な地理表現を使用してモデルを作成します。

マップ コンポーネントには2つの大きな特徴があります。各地域のデータを表示して、各地域をセレクトアとして使用することもできます。これらの2つの機能を組み合わせて、ポイントを地域に渡すと、各地域のデータが表示されるモデルを作成できます。同時に、各地域で、追加の情報を含むデータの行を挿入できます。このデータ行は、チャートまたは値コンポーネントなど、他のコンポーネントによって表示されます。

#### その動作

Xcelsius 2008 は、データを、領域キーを使用することによってマップの各領域に関連付けします。マップ内の各地域はデフォルト地域キーを持ち、独自の地域キーを入力できます。マップのある地域を選択すると、コンポーネントは、その地域のキーの最初の列または最初の行を検索します。そのキーに対応する行または列内のデータは、その地域と関連付けられます。

デフォルトでは、USA マップは地域キーとして郵便番号の省略形を使用し、ヨーロッパのマップは ISO (International Organization for Standardization) の 2 桁の国コードを地域キーとして使用します。既存のスプレッドシートでマップ コンポーネントを使用するには、各地域に関連付けられた地域キーを編集することができます。やり方は、手動編集アイコン (  ) をクリックして新しいキーを入力するか、[地域キー] ボックスの横にあるセル セレクトア アイコン (  ) をクリックして新しいキーを含む行または列を選択し、地域名を編集します。

**注**

スプレッドシートでは、[表示データ]と[ソースデータ]の両方に対して、地域キーとデータを隣接したセルに入力する必要があります。

**ヒント**

Xcelsius 2008 では、各マップ コンポーネントのデフォルト地域コードをリストしたスプレッドシートが提供されています。ファイルは、C:\Program Files\Business Objects\Xcelsius\assets\samples\User Guide Samples にあります。

## マップ コンポーネントを設定する

埋め込みスプレッドシートに値の一覧が入力されました。

- 1 [コンポーネント]ブラウザを開いて、マップ コンポーネントをキャンバスにドラッグします。
- 2 コンポーネントを右クリックし、[プロパティ]を選択します。  
マップ コンポーネントの[プロパティ]パネルが開きます。

**注**

[プロパティ]パネルで自動非表示がオンの場合、[プロパティ]タブをポイントしてパネルを展開します。

- 3 [プロパティ]パネルで、[一般]ビューをクリックして、コンポーネントのタイトルを入力し、コンポーネントをスプレッドシート内のデータにリンクします。使用可能なオプションの詳細については、151 ページの「[マップ一般プロパティ](#)」を参照してください。

コンポーネントには最新の変更が反映されます。

- 4 [動作]ビューをクリックして、対話操作オプションや動的ディスプレイなど、モデルでコンポーネントがどのように機能するかについてオプションを設定します。使用可能なオプションの詳細については、153 ページの「[マップ動作プロパティ](#)」を参照してください。
- 5 [表示]ビューをクリックして、各コンポーネント要素のビジュアル特性を設定します。表示オプションの詳細については、154 ページの「[マップ表示プロパティ](#)」を参照してください。
- 6 該当する場合、[アラート]ビューをクリックして、指定された値に到達した通知を設定します。アラートの詳細については、「[マップ アラート プロパティ](#)」を参照してください。
- 7 [ファイル] > [保存]をクリックして、モデルの場所とファイル名を入力します。  
[OK]をクリックします。

マップコンポーネントが、モデルに追加され設定されます。モデルがどのように機能しているのかを確認するには、[ツールバー]で[プレビュー]をクリックします。

## マップ一般プロパティ

下の表を、[一般]タブで[マップ]プロパティを設定するためのガイドとして使用します。

オプション	説明
[タイトル]	
タイトル	<p>タイトルは、デフォルトではコンポーネント上部の中央に配置されます。</p> <p>注 タイトルの場所と書式を、[表示]タブで変更することができます。</p>
地域キー	<p>地域キーは、マップコンポーネントの各地域に使用されるコードを定義します。このコードは、埋め込みスプレッドシートおよび[表示データ]と[ソース データ]で選択された範囲に含まれている必要があります。各マップには、デフォルトの地域キーが設定されています。デフォルト値を使用するか、データに合わせてコードをカスタマイズすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域キーを照会および変更するには、[手動編集]アイコンをクリックします。</li> <li>埋め込みスプレッドシートのセルからコードを割り当てるには、[セル セレクタ]アイコンをクリックします。</li> </ul>

オプション	説明
表示データ	<p>[表示データ]は特定のマップ地域に関連付けられ、ユーザーが地域をクリックするとデータが表示されます。[セル セレクタ]アイコンをクリックし、埋め込みスプレッドシートからセルを選択します。</p> <p>データ範囲を選択する場合、地域コードがある列または行を含める必要があります。Xcelsius での地域コードの検索時には、テーブルの行数と列数が特定され、以下が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 つの列と 3 つ以上の行がある場合、最初の列でコードが検索されます。</li> <li>・ 2 つの行と 3 つ以上の列がある場合、最初の行でコードが検索されます。</li> <li>・ 2 つの行と 2 つの列がある場合、最初の列と最初の行でもっとも数の多いコードが検索され、それが使用されます。</li> </ul>
挿入タイプ	<p>このオプションでは、ユーザーが地域をクリックした時にデータが挿入される方法を決定します。行と列のどちらかを選択することができます。</p>
ソース データ	<p>このオプションでは、地域をクリックした時にテーブルに挿入されるデータを指定します。データ範囲を選択する場合、地域コードがある列または行を含める必要があります。Xcelsius では、地域コードを使用してデータが特定の地域に関連付けられます。</p> <p>[セル セレクタ]アイコンをクリックし、埋め込みスプレッドシートからセルを選択します。</p>

オプション	説明
出力先	<p>このオプションでは、スプレッドシートでソースデータが挿入される場所を指定します。選択したセルは、[挿入タイプ]およびソースデータのサイズ一致している必要があります。</p> <p>注 出力先セルは空である必要があります。</p>

関連項目

- ・ 150 ページのマップ コンポーネントを設定する」
- ・ 153 ページのマップ動作プロパティ」
- ・ 154 ページのマップ表示プロパティ」
- ・ 156 ページのマップ アラート プロパティ」

## マップ動作プロパティ

下の表を、マップの[動作]プロパティを設定するためのガイドとして使用します。

オプション	説明
[共通]タブ	
対話操作オプション	ユーザーが地域を選択する方法を指定します。[マウスクリック]と[マウスオーバー]のどちらかを選択します。
デフォルトの選択地域	モデルの実行時とユーザーによる選択の実行前に選択される地域を指定します。

オプション	説明
動的ディスプレイ	このオプションを使用して、モデルにおいてマップが表示されるタイミングを制御する条件を指定することができます。動的ディスプレイの詳細については、221ページの「 <a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a> 」を参照してください。
[アニメーションと効果]タブ	
表示効果:タイプ	動的ディスプレイが有効な場合、トリガ時にキャンバス上でチャートをどのように表示させるのを選択します。表示効果を選択し、コンポーネントの表示にかかる時間を指定して、一部のセクタではコンポーネントの表示時に音が鳴るかどうかを指定することができます。動的ディスプレイの詳細については、221ページの「 <a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a> 」を参照してください。

関連項目

- ・ 150 ページのマップ コンポーネントを設定する
- ・ 151 ページのマップ一般プロパティ
- ・ 154 ページのマップ表示プロパティ
- ・ 156 ページのマップ アラート プロパティ

## マップ表示プロパティ

下の表を、マップ コンポーネントの[表示]プロパティを設定するためのガイドとして使用します。

オプション	説明
[レイアウト]タブ	

オプション	説明
透明度	マップの後ろにあるオブジェクトがどの程度はつきりと見えるかを指定します。スライドの値を 0 から 100 の間に設定します。0 にした場合は透明度が全くなくなり、100 にした場合は完全に透明になります。
[テキスト] タブ	
タイトル	マップのタイトルを表示します。[表示] 列内のチェックボックスを選択して、このオプションを表示します。テキストの表示をフォーマットするには、このアイテムを選択して、フォーマット設定を入力します。
マウスオーバー時のタイトル	ユーザーがマウスポインタをマップ領域に移動させたときにタイトルを表示します。[表示] 列内のチェックボックスを選択して、このオプションを表示します。テキストの表示をフォーマットするには、このアイテムを選択して、フォーマット設定を入力します。
マウスオーバー時のラベル	ユーザーがマウスポインタをマップ領域に移動させたときにタイトルを表示します。[表示] 列内のチェックボックスを選択して、このオプションを表示します。テキストの表示をフォーマットするには、このアイテムを選択して、フォーマット設定を入力します。
	注 17 ページの「 <a href="#">グローバルフォントオプションを設定する</a> 」
位置	コンポーネントに関係する一部のテキスト要素の位置を設定することができます。

オプション	説明
オフセット	設定位置に対応させてオフセットすることにより、一部のテキスト要素の位置を調整することができます。
数値の書式設定	一部のテキスト要素の数値書式を設定することができます。
[色]タブ	
デフォルトの色	スプレッドシートのデータに関連付けられておらず、選択できない地域に適用されます。
マウスオーバー時の色	マウス ポインタが置かれた地域に適用されます。
選択時の色	選択された地域に適用されます。
選択可能を示す色	スプレッドシートのデータに関連付けられており、選択できる地域に適用されます。
境界線の色	地域間の境界線に適用されます。

#### 関連項目

- ・ 150 ページのマップ コンポーネントを設定する」
- ・ 151 ページのマップ 一般プロパティ」
- ・ 153 ページのマップ 動作プロパティ」
- ・ 156 ページのマップ アラート プロパティ」

## マップ アラート プロパティ

すべてのマップ コンポーネントに対してアラートを設定することができます。

アラートを設定するには、コンポーネントを選択して、[プロパティ]パネルを開きます。次に、[アラート]ビューをクリックして、[アラートを有効にする]チェックボックスを選択

して、アラート オプションを設定します。アラート オプションの設定については、216 ページの「[アラートの概要](#)」を参照してください。

#### 関連項目

- ・ 150 ページのマップ コンポーネントを設定する
- ・ 151 ページのマップ一般プロパティ
- ・ 153 ページのマップ動作プロパティ
- ・ 154 ページのマップ表示プロパティ

## テキスト コンポーネントの使用

このカテゴリには、ラベルを配置したりモデルにテキストを入力するためのコンポーネントが含まれています。

テキスト コンポーネントにより、モデルをカスタマイズできます。静的なテキストを挿入してモデルの領域と要素を特定できるだけでなく、フォーミュラ結果に基づいてモデル内に表示されるテキストを動的に変更するフォーミュラを含む埋め込みスプレッドシート内のセルに、テキストコンポーネントをリンクすることができます。さらに、フォーミュラには HTML コードを含めて書式設定オプションを増やすこともできます。

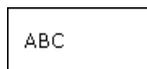
Xcelsius 2008 には、以下のテキストベースのコンポーネントが含まれてまれています。

#### 入力テキスト領域



入力テキスト領域では、モデルに複数行のテキストを入力できます。

#### ラベル



ラベル コンポーネントでは、無制限の量のテキストを入力してモデルを拡張できます。ラベル コンポーネントを使用して、タイトル、サブタイトル、説明、ヘルプなどを作成できます。ユーザーはラベル テキストを変更できません。

## 入力テキスト



入力テキスト コンポーネントを使用して、ユーザーはモデルにテキストを入力できます。

## 関連項目

- ・ 158 ページの[テキスト コンポーネントを設定する](#)

## テキスト コンポーネントを設定する

埋め込みスプレッドシートに値の一覧が入力されます。

- 1 [コンポーネント]ブラウザを開いて、テキスト コンポーネントをキャンバスにドラッグします。
- 2 コンポーネントを右クリックし、[プロパティ]を選択します。  
テキスト コンポーネントの[プロパティ]パネルが開きます。

## 注

[プロパティ]パネルで自動非表示がオンの場合、[プロパティ]タブをポイントしてパネルを展開します。

- 3 [プロパティ]パネルで、[一般]ビューをクリックして、表示するテキストとデータを挿入する出力先を指定します。使用可能なオプションの詳細については、159 ページの「[テキスト一般プロパティ](#)」を参照してください。  
コンポーネントには最新の変更が反映されます。
- 4 [動作]ビューをクリックして、文字制限、スクロール バー オプション、動的ディスプレイなど、モデルでコンポーネントがどのように機能するかについてのオプションを設定します。使用可能なオプションの詳細については、161 ページの「[テキスト動作プロパティ](#)」を参照してください。
- 5 [表示]ビューをクリックして、各コンポーネント要素のビジュアル特性を設定します。表示オプションの詳細については、166 ページの「[テキスト表示プロパティ](#)」を参照してください。
- 6 [ファイル] > [保存]をクリックして、モデルの場所とファイル名を入力します。  
[OK]をクリックします。

テキストコンポーネントが、モデルに追加され設定されます。モデルがどのように機能しているのかを確認するには、[ツールバー]で[プレビュー]をクリックします。

## テキスト一般プロパティ

[一般]タブのテキスト プロパティの設定ガイドとして、以下の表を使用します。

オプション	説明
リンク先セル	<p>すべて</p> <p>このオプションにより、埋め込みスプレッドシート内のセルにコンポーネントをリンクすることができるようになります。セル内のデータの変更は、テキスト コンポーネントに反映されます。このオプションを使用して、モデル内のデータまたはユーザーの選択に基づいて更新される式を定義することにより、動的ラベルを設定することができます。</p>
スプレッドシートの書式設定を使用	<p>ラベル コンポーネントのみ</p> <p>ラベルをセルにリンクする場合、埋め込みスプレッドシート内のセルと同じ書式設定をラベルに適用するには、このオプションを選択します。</p>
テキストの入力	<p>すべて</p> <p>このオプションにを使用して、モデルの実行時にコンポーネントに表示するテキストを手動で入力できるようになります。</p>

オプション	説明
HTML フォーマットを有効にする	<p>ラベルおよび入力テキスト領域コンポーネントのみ</p> <p>このオプションを選択すると、テキストの書式設定に HTML コードを使用できるようになります。これらのテキスト コンポーネントは、次の HTML コードをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンカー タグ (&lt;a&gt;)</li> <li>・ 太字タグ (&lt;b&gt;)</li> <li>・ 改行タグ (&lt;br&gt;)</li> <li>・ フォント タグ (&lt;font&gt;)</li> <li>・ 画像タグ (&lt;img&gt;)</li> <li>・ イタリック タグ (&lt;I&gt;)</li> <li>・ リスト アイテム タグ (&lt;li&gt;)</li> <li>・ 段落タグ (&lt;p&gt;)</li> <li>・ テキスト フォーマット タグ (&lt;textformat&gt;)</li> <li>・ 下線タグ (&lt;u&gt;)</li> </ul> <p>注</p>
ロード時にデータを挿入	<p>入力テキストおよび入力テキスト領域コンポーネント</p> <p>このチェックボックスを選択すると、モデルのロード時にデフォルト テキストを出力先セルに挿入します。</p>
	<p>入力テキストおよび入力テキスト領域コンポーネント</p> <p>注</p> <p>出力先セルは空である必要があります。</p>

関連項目

- ・ 158 ページの「テキスト コンポーネントを設定する」
- ・ 161 ページの「テキスト動作プロパティ」
- ・ 166 ページの「テキスト表示プロパティ」

## テキスト動作プロパティ

テキストベースのコンポーネントの動作プロパティを設定するガイドとして、以下の表を使用します。

オプション	説明
[共通]タブ	
すべての入力をテキストとして処理	<p>入力テキストおよび入力テキスト領域コンポーネントのみ</p> <p>このオプションを選択すると、入力はテキストとして扱われ、先行ゼロは維持されます。テキストを式や計算で使用することはできません。</p> <p>このオプションを選択しないと、入力は数値入力として扱われ、計算や式に使用することができますが、先行ゼロは表示されず、埋め込みスプレッドシートの対応するセルからも削除されます。</p>
パスワード保護を有効にする	<p>入力テキスト領域コンポーネントのみ</p> <p>このオプションを選択して、アスタリスク(*)として入力文字を表示します。このオプションを使用して、パスワード入力を作成し、パスワードが画面に表示されないようにします。</p>
最大キャラクタ数	<p>入力テキストおよび入力テキスト領域コンポーネントのみ</p> <p>このオプションを使用して、ユーザーが入力できる文字数の制限を設定します。</p>

オプション	説明
<p>使用できる文字の設定</p>	<p>入力テキスト領域コンポーネントのみ</p> <p>このオプションにより、コンポーネントにユーザーが入力できる文字を制御することができます。デフォルトで、すべての文字が許可されています。許可および不許可の文字の定義に関する詳細については、165 ページの「<a href="#">テキストベース コンポーネントにおける文字の制限</a>」を参照してください</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○</li> </ul>

オプション	説明								
水平スクロール バー	<p>入力テキスト領域およびラベル コンポーネントのみ</p> <p>テキストがテキスト領域の幅を超過した場合、スクロールバーによってユーザーがテキストの間を移動することができます。次のいずれかのオプションを選択します。</p>								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="623 539 758 586">オプション</th> <th data-bbox="758 539 1180 586">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="623 586 758 673">オン</td> <td data-bbox="758 586 1180 673">水平スクロール バーが常に表示されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="623 673 758 760">オフ</td> <td data-bbox="758 673 1180 760">水平スクロール バーが表示されません。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="623 760 758 951">自動</td> <td data-bbox="758 760 1180 951">テキストがテキスト領域の幅を超過した場合に水平スクロールバーが表示され、テキストが使用可能領域に収まっている場合は表示されません。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	オン	水平スクロール バーが常に表示されます。	オフ	水平スクロール バーが表示されません。	自動	テキストがテキスト領域の幅を超過した場合に水平スクロールバーが表示され、テキストが使用可能領域に収まっている場合は表示されません。
	オプション	説明							
	オン	水平スクロール バーが常に表示されます。							
オフ	水平スクロール バーが表示されません。								
自動	テキストがテキスト領域の幅を超過した場合に水平スクロールバーが表示され、テキストが使用可能領域に収まっている場合は表示されません。								
オン	水平スクロール バーが常に表示されます。								
オフ	水平スクロール バーが表示されません。								
垂直スクロール バー									

オプション	説明								
	<p>入力テキスト領域およびラベル コンポーネントのみ</p> <p>テキストがテキスト領域の高さを超過した場合、スクロール バーにより、ユーザーがテキストの間を移動することができます。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <table border="1" data-bbox="623 539 1180 951"> <thead> <tr> <th data-bbox="623 539 758 586">オプション</th> <th data-bbox="758 539 1180 586">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="623 586 758 673">オン</td> <td data-bbox="758 586 1180 673">垂直スクロール バーが常に表示されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="623 673 758 760">オフ</td> <td data-bbox="758 673 1180 760">垂直スクロールバーが表示されません。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="623 760 758 951">自動</td> <td data-bbox="758 760 1180 951">テキストがテキスト領域の高さを超過した場合に垂直スクロールバーが表示され、テキストが使用可能領域に収まっている場合は表示されません。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	オン	垂直スクロール バーが常に表示されます。	オフ	垂直スクロールバーが表示されません。	自動	テキストがテキスト領域の高さを超過した場合に垂直スクロールバーが表示され、テキストが使用可能領域に収まっている場合は表示されません。
オプション	説明								
オン	垂直スクロール バーが常に表示されます。								
オフ	垂直スクロールバーが表示されません。								
自動	テキストがテキスト領域の高さを超過した場合に垂直スクロールバーが表示され、テキストが使用可能領域に収まっている場合は表示されません。								
動的ディスプレイ	<p>すべて</p> <p>このオプションを使用して、モデルにおいてテキストコンポーネントが表示されるタイミングを制御する条件を指定することができます。動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「<a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a>」を参照してください。</p>								
[アニメーションと効果]タブ									

オプション	説明
表示効果:タイプ	<p>すべて</p> <p>動的ディスプレイが有効な場合、トリガ時にキャンバス上でチャートをどのように表示させるのかを選択します。動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「<a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a>」を参照してください。</p>

関連項目

- ・ 158 ページのテキスト コンポーネントを設定する
- ・ 159 ページのテキスト一般プロパティ
- ・ 166 ページのテキスト表示プロパティ

## テキストベース コンポーネントにおける文字の制限

パスワードの入力などを目的として、ユーザーがテキストを入力できる入力テキスト領域コンポーネントを使用する場合、入力できる文字と入力できない文字を指定することができます。デフォルトでは、ユーザーはコンポーネントですべての文字を入力することができます。

使用できる文字を制限する方法:

- 1 コンポーネント プロパティ パネルで[動作] > [一般]を選択します。
- 1 [使用できる文字の設定]ボックスで、使用できる文字と使用できない文字を入力するか、セル セレクタアイコン(  )をクリックし、値を含むスプレッドシートのセルを選択します。

使用できる文字を定義する際には、以下の規則に従います。

効果	表記方法
特定の文字の許可	文字を入力します(abcABC など)。
特定の文字の禁止	文字の前にキャレット(^)を入力します(^abcABC など)。
値の範囲の許可	最初と最後の文字をダッシュ(-)で分割します(a-zA-Z など)。
入力可能文字と禁止文字の切り替え	禁止文字をキャレット(^)で囲みます。たとえば、abc^def gh は”abcgh”が入力可能であり、”def”が入力不可能であることを示します。
キャレット(^)、ダッシュ(-)、またはバックslash(\)文字の許可または禁止	これらの特殊文字の前にバックslash(\)を入力します(\^\- など)。
一般文字セットの使用	一般文字セットには、以下が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 負の数を含む整数:\-0-9</li> <li>・ 負の数を含む実数:\-0-9</li> <li>・ 分数:\-/0-9</li> <li>・ 正の整数:0-9</li> <li>・ 正の実数:0-9</li> <li>・ 英字:a-zA-Z</li> <li>・ 英数字:0-9a-zA-Z</li> </ul>

関連項目

- ・ 161 ページの「テキスト動作プロパティ」

## テキスト表示プロパティ

テキストベースのコンポーネントの[表示]プロパティの設定ガイドとして、以下の表を使用します。オプションの中には、特定のコンポーネントタイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明
[レイアウト]タブ	
折り返して全体を表示	入力テキスト領域コンポーネントのみ 選択された場合、テキスト領域の幅よりも長いテキスト行は次の行に折り返されます。
透明度	ラベル コンポーネントのみ 透明度を 0 に設定した場合、コンポーネントの後ろにあるオブジェクトはユーザーには見えません。透明度を 100 に設定した場合、コンポーネントは完全に透明であり、ユーザーには見えません。
境界線の描画対象	ラベル コンポーネントのみ 境界線側(上、下、左、右、またはすべての面)を選択して、次にフォーマット オプション([境界線を表示]および[境界線の太さ])を設定します。
境界線を表示	ラベル コンポーネントのみ [境界線の描画対象]で選択された境界線に対して、このオプションを選択して境界線を表示します。
境界線の太さ	ラベル コンポーネントのみ [境界線の描画対象]で選択された境界線側に対して、線の太さを 1 ~ 100 の間で設定します。
塗りつぶしを表示	ラベル コンポーネントのみ 選択された場合、ラベルの背景は塗りつぶしになります。[色]タブで塗りつぶしの色を設定することができます。
[テキスト]タブ	

オプション	説明
	ラベル コンポーネントのみ 注 17 ページの「 <a href="#">グローバル フォント オプションを設定する</a> 」
位置	コンポーネントに関係する一部のテキスト要素の位置を設定することができます。
オフセット	設定位置に対応させてオフセットすることにより、一部のテキスト要素の位置を調整することができます。
数値の書式設定	一部のテキスト要素の数値書式を設定することができます。
[色]タブ	
背景色	すべて テキストの背後にある背景に適用されます。
スクロール バー	入力テキスト領域およびラベル コンポーネントのみ
ラベルの背景: 塗りつぶしの色	ラベル コンポーネントのみ テキストの背後にある背景に適用されます。 注 [塗りつぶしを表示]が[レイアウト]タブで選択されている場合、このオプションが使用可能です。

関連項目

- ・ 158 ページの[テキスト コンポーネントを設定する](#)
- ・ 159 ページの[テキスト一般プロパティ](#)
- ・ 161 ページの[テキスト動作プロパティ](#)

## その他のコンポーネントの使用

このカテゴリには、モデルの拡張に使用できる多彩なコンポーネントのセットが含まれます。Xcelsius 2008 には、以下のその他のコンポーネントが含まれています。

### カレンダー



December 2007						
M..	T..	W..	T..	Fri	S..	S...
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

カレンダー コンポーネントは、日付の選択をモデルに取り込むことができるセレクタです。

### 注

このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

### ローカル シナリオ ボタン



ローカル シナリオ ボタンを使用して、ユーザーは Xcelsius 2008 モデルのランタイム設定をローカル マシンに保存しロードすることができます。保存後は、モデルを閉じた後でも、これらの設定またはシナリオをもう一度ロードすることができます。ユーザーには、保存したシナリオをデフォルトシナリオとして設定し、モデルを開いたときにそのシナリオがロードされるようにするオプションも用意されています。これらのシナリオはローカル マシンに保存され、モデルが別のマシンで開いている場合は使用できません。

### トレンド アイコン



トレンド アイコンは、リンク先のセルの値に応じて、示す方向を変更します。

- ・ 値が正の場合、矢印は上方向を示します。
- ・ 値が 0 の場合、記号は中間を示します。
- ・ 値が負の場合、矢印は下方向を示します。

### 履歴

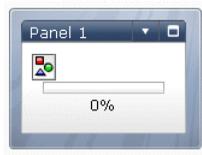


履歴コンポーネントは、選択したセルの変更の履歴を追跡および表示します。これを使用すると、ワークシート データの変更の影響を簡単に知ることができます。

#### 注

このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

### パネル セット



パネル セットコンポーネントは、プレゼンテーション内のファイル間を簡単に移動できる一連のフレーミング オプションです。JPEG または SWF ファイルをパネル セットコンポーネントのフレームに埋め込み、豊富な書式設定機能を調整してモデルでのコンポーネントの外観をカスタマイズできます。

#### 注

このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

## ソース データ



ソース データ コンポーネントには、ビジュアルなインターフェイスがありません。コンポーネントの選択されたインデックスの値を変更して、データを他のセルに簡単にプッシュできます。

## 注

このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

## トレンド アナライザ



トレンド アナライザは、データ分析とモデルを結合します。このコンポーネントは、スプレッドシート データを分析し、トレンド ラインのデータ要素をスプレッドシートに挿入します。これは後でモデルに追加できます。このコンポーネントは、履歴値に基づいて予測を行うように設定することもできます。

## 注

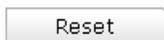
このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

## 印刷ボタン



印刷ボタンを使用すると、実行中のモデルを簡単に印刷できます。印刷ボタンをクリックすると、SWF ファイルを印刷できます。印刷ボタンはキャンパスの一部で、印刷時に表示されます。

## リセット ボタン



リセット ボタンはモデルを元の状態に戻します。コンポーネントとのやり取りの後に、このボタンをクリックして、変更内容をクリアすることができます。

### グリッド

1	2	3	4	5
2	4	6	8	10
3	6	9	12	15

グリッドコンポーネントは、コンテンツの行および列のグループを表す動的なテーブルです。グリッドでは、テーブルと同様にデータを表示したり、他のコンポーネントに影響を与えるデータの変更を実行できます。

グリッドコンポーネントは、スプレッドシートやリストビューと比べて、データテーブルの静的な表現ではなく、グリッドのセルをクリックして新しい値を入力したり、値を高い/低い方にドラッグしたりできる点で異なります。

#### 注

このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

## その他のコンポーネントの一般プロパティ

下の表を、その他のコンポーネントの[一般]ビューでプロパティを設定するためのガイドとして使用します。

オプション	説明
タイトル	<p>カレンダーおよびパネル セット コンポーネントのみ</p> <p>タイトルは、デフォルトではコンポーネント上部の中央に配置されます。</p> <p>ボックスにテキストを入力するか、[セル セレクタ]アイコンをクリックし、埋め込みスプレッドシートからタイトル テキストを選択します。</p> <p>注</p> <p>[表示]ビューで、タイトルの場所と書式を変更することができます。</p>

オプション	説明
ラベル	<p>ローカル シナリオ ボタン、印刷ボタン、リセット ボタン コンポーネントのみ</p> <p>このオプションでは、ボタンに表示されるテキストを定義されます。</p> <p>ボックスにテキストを入力するか、[セル セレクタ]アイコンをクリックし、埋め込みスプレッドシートからラベル テキストを選択します。</p>
パネルのタイトル	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>これらのタイトルは、パネル セットの各フレームに表示されます。</p> <p>[セル セレクタ]アイコンをクリックし、埋め込みスプレッドシートからラベル テキストを選択するか、[手動編集]アイコンをクリックし、ラベル テキストを入力します。</p>
レイアウト	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>リストから、希望するパネルの数および配置と合致するオプションを選択します。</p>
コンテンツ: パネル	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>リストにおけるパネルの数は、[レイアウト]で選択したオプションと一致します。各パネルを選択し、コンテンツ オプションを設定します。</p>

オプション	説明				
コンテンツタイプ	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>このオプションでは、選択したパネルで提供される情報のタイプを指定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p>				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="508 435 650 482">オプション</th> <th data-bbox="650 435 1170 482">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="508 482 650 531">なし</td> <td data-bbox="650 482 1170 531">パネルは空白です。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	なし	パネルは空白です。
	オプション	説明			
	なし	パネルは空白です。			
<table border="1"> <tbody> <tr> <td data-bbox="508 536 650 656">埋め込み JPEG または SWF</td> <td data-bbox="650 536 1170 656">モデルとともにファイルのコピーを保存します。[インポート]ボタンをクリックし、埋め込むファイルの場所を指定します。</td> </tr> </tbody> </table>	埋め込み JPEG または SWF	モデルとともにファイルのコピーを保存します。[インポート]ボタンをクリックし、埋め込むファイルの場所を指定します。			
埋め込み JPEG または SWF	モデルとともにファイルのコピーを保存します。[インポート]ボタンをクリックし、埋め込むファイルの場所を指定します。				
<table border="1"> <tbody> <tr> <td data-bbox="508 661 650 887">URL 別</td> <td data-bbox="650 661 1170 887">URL の場所にある外部 JPEG または SWF ファイルを参照します。セル セレクタアイコンをクリックし、埋め込みスプレッドシートから URL を選択するか、手動編集アイコン (  ) をクリックし、URL を手動で入力します。</td> </tr> </tbody> </table>	URL 別	URL の場所にある外部 JPEG または SWF ファイルを参照します。セル セレクタアイコンをクリックし、埋め込みスプレッドシートから URL を選択するか、手動編集アイコン (  ) をクリックし、URL を手動で入力します。			
URL 別	URL の場所にある外部 JPEG または SWF ファイルを参照します。セル セレクタアイコンをクリックし、埋め込みスプレッドシートから URL を選択するか、手動編集アイコン (  ) をクリックし、URL を手動で入力します。				
ドロップダウンメニューラベル	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>このオプションでは、選択したパネルのリストに表示されるアイテムを指定します。</p> <p>セル セレクタアイコンをクリックし、埋め込みスプレッドシートからラベル テキストを選択するか、手動編集アイコン (  ) をクリックし、ラベル テキストを入力します。</p>				

オプション	説明
挿入タイプ	<p>カレンダーおよびソース データ コンポーネントのみ</p> <p>このオプションでは、選択時に挿入される情報のタイプを指定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>[カレンダー]コンポーネント:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日 - 選択した日を挿入します。たとえば、4月7日は「7」と入力されます。</li> <li>・ 日付 - Excel 書式の日付が挿入されます。たとえば、2010年4月7日は「04/07/2010」と入力されます。</li> </ul> <p>[ソース データ コンポーネント:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 値 - 単一セルからの値を挿入します。</li> <li>・ 行 - 値をデータの行に挿入します。</li> <li>・ 列 - 値をデータの列に挿入します。</li> </ul>
ソース データ	<p>ソース データ コンポーネントのみ</p> <p>選択のソースデータの場所を指定します。[セルセクタ]アイコンをクリックし、スプレッドシートから範囲を選択します。</p>
	<p>カレンダーおよびソース データ コンポーネントのみ</p> <p>データが挿入されるスプレッドシートの場所を指定します。[セルセクタ]アイコンをクリックし、スプレッドシートの範囲を選択します。</p> <p>注</p> <p>出力先の範囲に必要なサイズは、[挿入タイプ]で選択した構造によって異なります。データの列または行を使用する構造の場合、必ずもっとも大きいデータの列または行を入れるのに十分な大きさの範囲を選択してください。</p>
月の出力先	<p>カレンダー コンポーネントのみ</p> <p>選択した日付の月の値を挿入するスプレッドシートの場所を指定します。</p>

オプション	説明
年の出力先	<p>カレンダー コンポーネントのみ</p> <p>選択した日付の年の値を挿入するスプレッドシートの場所を指定します。</p>
データ	<p>トレンド アナライザ、グリッド、トレンド アイコン、履歴コンポーネントのみ</p> <p>コンポーネントで使用されるソース データを指定します。[セル セレクタ]アイコンをクリックし、スプレッドシートの範囲を選択します。</p> <p>グリッド コンポーネントでは、値が選択した各セルに対して表示され、スプレッドシートと同じ順序に配置されます。スプレッドシートの値の変更はグリッドで反映されます。グリッドの値の変更はスプレッドシートで反映され、該当するセルにリンクされた他のコンポーネントにも影響を及ぼす可能性があります。</p> <p>トレンド アイコン コンポーネントでは、このセルの値が 0 よりも大きい場合、コンポーネントに上向き矢印が表示されます。値が 0 未満の場合、下向き矢印が表示され、値が 0 の場合は中立のシンボルが表示されます。</p>
最小制限	<p>グリッド コンポーネントのみ</p> <p>このオプションでは、グリッドに入力される値の下限を指定します。ボックスに限度値を入力するか、[セル セレクタ]アイコンをクリックし、埋め込みスプレッドシートから限度値を選択します。</p>
最大制限	<p>グリッド コンポーネントのみ</p> <p>このオプションでは、グリッドに入力される値の上限を指定します。ボックスに限度値を入力するか、[セル セレクタ]アイコンをクリックし、埋め込みスプレッドシートから限度値を選択します。</p>

オプション	説明								
色	<p>トレンド アイコン コンポーネントのみ</p> <p>このオプションでは、全体的なトレンドを表す色を指定します。以下の各オプションのそばに表示される[カラー ピッカー]アイコンをクリックし、色を選択します。</p> <table border="1" data-bbox="509 470 1178 777"> <thead> <tr> <th data-bbox="509 470 798 517">オプション</th> <th data-bbox="798 470 1178 517">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="509 517 798 604">正の値の色</td> <td data-bbox="798 517 1178 604">データ値が 0 よりも大きいことを示します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="509 604 798 690">ゼロ値の色</td> <td data-bbox="798 604 1178 690">データ値が 0 であることを示します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="509 690 798 777">負の値の色</td> <td data-bbox="798 690 1178 777">データ値が 0 よりも小さいことを示します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	正の値の色	データ値が 0 よりも大きいことを示します。	ゼロ値の色	データ値が 0 であることを示します。	負の値の色	データ値が 0 よりも小さいことを示します。
	オプション	説明							
	正の値の色	データ値が 0 よりも大きいことを示します。							
	ゼロ値の色	データ値が 0 であることを示します。							
負の値の色	データ値が 0 よりも小さいことを示します。								
データの出力先	<p>履歴コンポーネントのみ</p> <p>このオプションでは、履歴データが挿入される場所を指定します。</p> <p>注</p> <p>この範囲内のセルの数により、履歴レコードに保持されるデータ変更の数が決定されます。限度数に達すると、もっとも古いデータ変更が上書きされます。範囲が 1 つの列と複数の行である場合、もっとも新しいデータは一番下のセルに挿入され、既存のデータは 1 行ずつ上にずれます。範囲が 1 つ行のと複数の列である場合、もっとも新しいデータは一番右のセルに挿入され、既存のデータは 1 列ずつ左にずれます。範囲に複数の行と複数の列が含まれる場合、もっとも新しいデータは一番右の列の一番下のセルに挿入され、既存のデータは 1 列ずつ左にずれて、左端にあるデータは一列上の右端のセルに移動します。</p>								

オプション	説明
値の変更時	履歴コンポーネントのみ このオプションを選択すると、セルの値が変更されるたびにセルの履歴が記録されます。
間隔	履歴コンポーネントのみ このオプションを選択すると、セルの履歴が一定の間隔で記録されます。[時間(秒)]ボックスに、間隔の長さを入力します。

## その他のコンポーネントの動作プロパティ

下の表を、その他のコンポーネントの[動作]プロパティを設定するためのガイドとして使用します。オプションの中には、特定のコンポーネントタイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明
[共通]タブ	
デフォルトの日付	カレンダー コンポーネントのみ このオプションでは、モデルのロード時とユーザーによる日付の選択前にカレンダーで使用される日付を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の日付を使用 - カレンダーが現在の日付でロードされます。</li> <li>・ カスタム日付を使用 - カレンダーが選択した特定の日付でロードされます。[日]、[月]、および[年]の値を入力します。</li> </ul>

オプション	説明
<p>カレンダーの範囲制限を有効にする</p>	<p>カレンダー コンポーネントのみ</p> <p>このオプションを使用して、カレンダー コンポーネントで使用できる日付の範囲を制限することができます。このオプションを選択した場合、[開始月]、[開始年]、[終了月]、および[終了年]の値を入力し、使用可能な範囲を定義します。</p>
	<p>グリッド コンポーネントのみ</p> <p>[対話操作を有効にする]が選択されている場合、このオプションを選択し、入力できる増分サイズを制限します。入力された数値は、もっとも近い増分(12 など)に丸められます。</p>
<p>最小制限</p>	<p>グリッド コンポーネントのみ</p> <p>[対話操作を有効にする]が選択されている場合、このオプションを使用して、グリッド アイテムに対して入力できる数値の下限を設定することができます。この設定は、[一般]タブの[目盛最小制限]に基づきます。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープン-ユーザーは[目盛最小制限]未満の値を入力することができます。</li> <li>・ 固定-ユーザーは[目盛最小制限]未満の値を入力することができません。</li> </ul>
<p>最大制限</p>	<p>グリッド コンポーネントのみ</p> <p>[対話操作を有効にする]が選択されている場合、このオプションを使用して、グリッド アイテムに対して入力できる数値の下限を設定することができます。この設定は、[一般]タブの[目盛最大制限]に基づきます。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープン-ユーザーは[目盛最大制限]よりも大きい値を入力することができます。</li> <li>・ 固定-ユーザーは[目盛最大制限]よりも大きい値を入力することができません。</li> </ul>

オプション	説明
対話機能を有効にする	<p>グリッド コンポーネントのみ</p> <p>このオプションを選択した場合、ユーザーがグリッドに値を入力することができます。</p> <p>注 グリッドセルが式を含むスプレッドシートのセルにリンクされている場合、ユーザーはこの設定には関係なく値を入力できません。</p>
マウスの感度	<p>グリッド コンポーネントのみ</p> <p>[対話機能を有効にする]が選択されている場合、このオプションはマウスの動きに関するコンポーネントの感度を決定します。感度を高く設定すると、ポインタのわずかな動きで、値が大幅に変化します。感度を低く設定すると、ポインタの動きによる値の変化が小さくなります。</p>
スクロールの動作	<p>グリッド コンポーネントのみ</p> <p>[対話機能を有効にする]が選択されている場合、このオプションは値を変更するために必要なアクションを決定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手動 - 値を変更するには、ポインタをコンポーネントの上または下までドラッグします。変更の増分ごとに、ポインタをドラッグし続ける必要があります。</li> <li>・ 自動 - 値を調整するには、ポインタを値コンポーネントの上または下までドラッグします。</li> </ul>
最大化ボタンを有効にする	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>このオプションを選択した場合、ユーザーは1つのパネルを拡大して、別のパネルを背後に回し、それから再び最小化して、最後に元のサイズに戻すことができます。この機能は、プレゼンテーション中のそのとどきに異なるデータを強調表示する場合に便利です。</p>

オプション	説明
ズームの速度	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>[最大化ボタンを有効にする]が選択されている場合、このオプションで、パネルの拡大および縮小速度を指定します。スライダー上でマーカーを動かして、速度を設定します。</p>
選択アイテム:パネル	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>このオプションでは、モデルのロード時に選択されるパネルを指定します。</p>
選択アイテム:アイテム	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>このオプションでは、モデルのロード時に選択されるパネルに表示されるコンテンツ アイテムを指定します。</p>
空のセルを無視	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>[値内]を選択すると、最後の空でない値の後に続くすべての空値がパネル セット コンポーネントで表示されなくなります。このオプションを使用して、可変量のデータをパネル セットに表示させることができます。</p>
印刷調整	<p>印刷ボタン コンポーネントのみ</p> <p>このオプションでは、印刷時におけるモデルの拡大縮小方法を指定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拡大縮小 - 特定のパーセンテージに拡大縮小します。一覧からパーセントを選択します。</li> <li>・ ページに合わせる - 紙のサイズに合わせて拡大縮小します。</li> </ul>

オプション	説明
<p>選択アイテム インデックス</p>	<p>ソース データ コンポーネントのみ</p> <p>このオプションでは、ソース データ コンポーネントのインデックスを指定します。このセルの値が変更された場合、ソース データ コンポーネントにより、その値が他のコンポーネントに送られます。</p>
<p>動的ディスプレイ</p>	<p>すべて</p> <p>このオプションを使用して、モデルにおいてコンポーネントが表示されるタイミングを制御する条件を指定することができます。動的ディスプレイの使用に関する詳細については、221 ページの「<a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a>」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>。</li> </ul>
<p>[アニメーションと効果]タブ</p>	
<p>表示効果:タイプ</p>	<p>すべて</p> <p>動的ディスプレイが有効な場合、トリガ時にキャンバス上でチャートをどのように表示させるのかを選択します。表示効果を選択し、コンポーネントの表示にかかる時間を指定して、一部のセレクトアではコンポーネントの表示時に音が鳴るかどうかを指定することができます。動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「<a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a>」を参照してください。</p>

## その他のコンポーネント表示プロパティ

### [レイアウト]タブ

下の表を、その他のコンポーネントの[レイアウト]タブで[表示]プロパティを設定するためのガイドとして使用します。オプションの中には、特定のコンポーネントタイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明
[レイアウト]タブ	
ボタンの背景を表示	<p>ローカル シナリオ ボタン、印刷ボタン、リセット ボタン コンポーネントのみ</p> <p>ボタンの背景が表示されるかどうかを指定します。印刷ボタンおよびリセット ボタンコンポーネントに対して選択されている場合、背景の透明度レベルを設定することができます。</p>
パネル ヘッダーを表示	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>選択した場合、セットの各パネルの上にヘッダーが表示されます。これには、パネル タイトル、リスト、および[最小化]または[最大化]ボタンが含まれます。</p>
表示されたラベルの数	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>リストに表示されるデフォルトのラベル数を指定します。</p>
背景の透明度	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>パネルの後ろの領域の可視性を決定します。スライダ バーのマーカーを調整し、希望する透明度レベルに設定します。</p>
垂直余白	<p>グリッド コンポーネントのみ</p> <p>この設定により、グリッドにおける各行間のスペースの大きさを変更します。</p>
水平余白	<p>グリッド コンポーネントのみ</p> <p>この設定により、グリッドにおける各列間のスペースの大きさを変更します。</p>

### [テキスト]タブ

下の表を、その他のコンポーネントの[テキスト]タブで[表示]プロパティを設定するためのガイドとして使用します。オプションの中には、特定のコンポーネントタイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明
[テキスト]タブ	
テキストの表示	カレンダー、グリッド、パネル セット、印刷ボタン、ローカル シナリオ、印刷ボタンのみ
	カレンダー、グリッド、パネル セット、印刷ボタン、ローカル シナリオ、印刷ボタンのみ 注 17 ページの「 <a href="#">グローバル フォント オプションを設定する</a> 」

### [色]タブ

下の表を、その他のコンポーネントの[色]タブで[表示]プロパティを設定するためのガイドとして使用します。コンポーネント要素の色を設定するには、カラー セレクタ アイコンをクリックして、[色]ダイアログ ボックスから、使用する色を選択します。

オプション	説明
[色]タブ	
背景色	カレンダー、グリッド、パネル セット コンポーネントのみ コンポーネント要素の背景領域に適用されます。
月の色	カレンダー コンポーネントのみ 月を含む見出しバーに適用されます。
曜日の色	カレンダー コンポーネントのみ 曜日を含む見出しバーに適用されます。

オプション	説明
パネルの背景	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>各パネルの背景領域に適用されます。</p>
ラベル ヘッダー	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>パネル ヘッダーの色に適用されます。</p>
ラベル	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>ドロップダウン リストにおけるアイテムのテキストの色に適用されます。</p> <p>アイテムが有効ではない場合の色 (デフォルトの色)、マウスポインタがアイテムに置かれている場合の色 (マウスオーバー時の色)、アイテムが選択されている場合の色 (選択時の色) をそれぞれ設定することができます。</p>
ラベルの背景	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p> <p>ドロップダウン リストにおけるアイテムの背景色に適用されます。</p> <p>アイテムが有効ではない場合の色 (デフォルトの色)、マウスポインタがアイテムに置かれている場合の色 (マウスオーバー時の色)、アイテムが選択されている場合の色 (選択時の色) をそれぞれ設定することができます。</p>
日付テキスト	<p>カレンダー コンポーネントのみ</p> <p>月の日付のテキストの色に適用されます。</p> <p>日付が有効ではない場合の色 (デフォルトの色)、マウスポインタが日付に置かれている場合の色 (マウスオーバー時の色)、日付が選択されている場合の色 (選択時の色) をそれぞれ設定することができます。</p>

オプション	説明
日付の背景	<p>カレンダー コンポーネントのみ</p> <p>日付の後ろの領域に適用されます。</p> <p>日付が有効ではない場合の色(デフォルトの色)、マウスポインタが日付に置かれている場合の色(マウスオーバー時の色)、日付が有効な場合の色(選択時の色)をそれぞれ設定することができます。</p>
ボタン	<p>カレンダーおよびパネル セット コンポーネントのみ</p> <p>コンポーネントのボタンに適用されます。コンポーネントによっては、以下の要素に異なる色を設定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有効なボタン、クリック時のボタン、無効なボタンのボタン背景</li> <li>・ 有効なボタン、クリック時のボタン、無効なボタンのシンボル</li> <li>・ デフォルト ボタンとクリック時のボタンのボタン ラベル</li> </ul>
ボタン	<p>印刷ボタン、ローカル シナリオ ボタン、リセット ボタン コンポーネントのみ</p> <p>ボタンの色に適用されます。</p> <p>ボタンのクリック時とそうでない時に対して異なる色を設定することができます。</p>
ラベル	<p>印刷ボタン、ローカル シナリオ ボタン、リセット ボタン コンポーネントのみ</p> <p>ボタンのテキストの色に適用されます。</p> <p>ボタンのクリック時とそうでない時に対して異なる色を設定することができます。</p>
スクロールバー	<p>パネル セット コンポーネントのみ</p>

## その他のコンポーネントのアラート プロパティ

すべてのグリッド コンポーネントに対してアラートを設定することができます。

アラートを設定するには、コンポーネントを選択して、[プロパティ]パネルを開きます。次に、[アラート]タブをクリックして、[アラートを有効にする]チェックボックスを選択して、アラートオプションを設定します。アラートオプションの設定については、216 ページの「[アラートの概要](#)」を参照してください。

## トレンド アナライザ コンポーネントを設定する

トレンド アナライザ コンポーネントがキャンバスに配置されています。

トレンド アナライザ コンポーネントを使用して、スプレッドシート データを分析し、データの傾向を特定します。トレンドアナライザを設定すると、既存のデータに基づいて将来の傾向を予測することもできます。このようにして分析された傾向および予測データは、モデル内のコンポーネントに追加することができます。

- 1 [背景]コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [一般]ビューで、以下のオプションを設定します。

オプション	説明
データ	コンポーネントで使用されるソースデータを指定します。 [セル セレクタ]アイコンをクリックし、スプレッドシートの範囲を選択します。
トレンド/回帰タイプ	このオプションでは、データが従うパターンを指定します。リストから適切なトレンドタイプを選択するか、[最適値を使用]を選択し、Xcelsius でデータに対して最適なカーブタイプが選択されるようにします。[順序(多項式のみ)]リストで[多項式]を選択した場合、希望する多項式順序 2 から 6 までを選択します。
分析したデータの出力先	分析されたデータを挿入するスプレッドシートの場所を指定します。
予測期間数	<p>[分析したデータの出力先]範囲のセルの数が[データ]範囲のセルの数よりも多い場合、予測する期間数を指定します。ボックスで数値を入力するか、セル セレクタアイコンをクリックして、この値をスプレッドシート内のセルにバインドします。</p> <p>ヒント この値をスプレッドシート内のセルにバインドし、そのセルを別のコンポーネントにリンクさせると、そのコンポーネントを使用して、設定範囲内で予測する期間数を指定することができます。</p>
式の種類の出力先	このオプションを照会するには、[大]をクリックします。 データの分析に使用される式の種類の場所を指定します。

オプション	説明
式の出力先	このオプションを照会するには、[大]をクリックします。 データの分析に使用される式の場所を指定します。
R2 値の出力先	このオプションを照会するには、[大]をクリックします。 分析の R2 値の場所を指定します。
F 値の出力先	このオプションを照会するには、[大]をクリックします。 分析の F 値の場所を指定します。

- [動作]ビューをクリックして、動的ディスプレイ オプションを設定します。動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「[コンポーネントのディスプレイの管理](#)」を参照してください。

## アートおよび背景コンポーネントの使用

アートおよび背景コンポーネントは、モデルの視覚的な拡張を提供します。ダッシュボードの拡張とカスタマイズに使用することができます。背景コンポーネントを使用して、画像または Flash ムービーをモデルにインポートすることもできます。

Xcelsius 2008 には、次のアートおよび 背景コンポーネントが含まれています。

### 背景



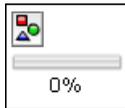
背景とは、モデルへの追加が可能な事前作成済みのアートワークです。これを使用して、視覚部分や関連コンポーネントのグループを作成することができます。コンテナコンポーネントとは異なり、背景は他のコンポーネントを含めたり保持したりすることはできません。単純に視覚的な背景を提供するのみです。

楕円



楕円コンポーネントにより、セクションやコンポーネントを定義したり含めたりする視覚的な仕切やアウトラインを作成することができます。

画像コンポーネント



このコンポーネントを使用して、JPEG または SWF ファイルを表示することができます。イメージ コンポーネントを使用して、独自のロゴやアートワークをモデルに追加することができます。また、Flash ファイルをこのコンポーネントにインポートして、ビデオ、アニメーション、およびその他のインタラクティブ要素を追加することもできます。

線



垂直または水平線コンポーネントにより、セクションやコンポーネントを定義したり含めたりする視覚的な仕切やアウトラインを作成することができます。

四角形



四角形コンポーネントにより、セクションやコンポーネントを定義したり含めたりする視覚的な仕切やアウトラインを作成することができます。

## 背景コンポーネントを設定する

背景コンポーネントがキャンバスに配置されました。

背景コンポーネントを使用して、モデルの外観を変更します。異なる領域に異なる背景を適用し、アイテムを視覚的にグループ化することができます。

## ヒント

また、背景コンポーネントを使用して、ユーザーによる他のコンポーネントの操作を制御することもできます。そのためには、背景コンポーネントを他のアイテムの上に配置します。背景コンポーネントの透明度を 100% に設定し、マウス イベントのブロックを有効にします。下のコンポーネントでは、ランタイム中にユーザーが値をクリックまたは変更することができなくなります。詳細については、224 ページの「[ユーザー入力の無効化](#)」を参照してください。

- 1 [背景]コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [一般]ビューで、以下のオプションを設定します。

オプション	説明
背景色	[カラー セレクタ]アイコンをクリックし、背景の色を選択します。カラー セレクタ ツールの使用の詳細については、41 ページの「 <a href="#">コンポーネント要素の色の設定</a> 」を参照してください。
透明度	背景の下のコンポーネントをユーザーに表示させるには、スライダを右に移動させ、背景コンポーネントの透明度を上げます。背景の下のアイテムを表示させないようにするには、スライダを左に移動させます。
境界線のサイズ調整	背景周辺の境界の太さを設定します。境界を太くするには、スライダを右に移動させます。
マウス イベントのブロック	[画像]コンポーネントが他のコンポーネントの上に配置されている場合、このオプションを選択すると、ユーザーがマウスを使用して下のコンポーネントを操作できないようになります。詳細については、224 ページの「 <a href="#">ユーザー入力の無効化</a> 」を参照してください。  注 インポートされた SWF ファイルについては、このオプションが選択されていなくてもマウス イベントはブロックされます。

- 3 [動作]ビューをクリックして、動的ディスプレイ オプションを設定します。動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「[コンポーネントのディスプレイの管理](#)」を参照してください。

## 画像コンポーネントを設定する

画像コンポーネントがキャンバスに配置されました。

画像、ビデオ、アニメーション、またはその他の対話型要素を追加する場合、それらを画像コンポーネントにインポートすることができます。これによって、独自のロゴやアートワークをモデルに追加できるようになります。さらに、エクスポートされた別の Xcelsius モデルを挿入することもできます。

### 注

画像コンポーネントは、標準の RGB JPEG ファイル形式および SWF ファイルに対応しています。プログレッシブ JPEG または CMYK カラー プロファイルを含む JPEG には対応していません。

モデルへの画像の追加時には、ファイルを SWF ファイルに埋め込むか、外部ファイルを参照するかを選択することができます。埋め込まれていないファイルは、エクスポートされたモデルと同じ名前、同じ場所でフォルダに保存され、必要に応じてロードされます。モデルと外部ファイルが正しくロードされるようにするには、フォルダと外部ファイルがエクスポートされたモデルと同じ場所に保存されている必要があります。

挿入された SWF ファイルには、SWF ファイル、画像、XML ファイルなどの外部資産を含めることができます。これらの資産が相対パスで参照されている場合、それらのパスはホストのモデルの実行場所から利用できるようにする必要があります。たとえば、z:\file.swf に保存された SWF ファイルが z:\images\myImage.jpg から外部画像をロードする場合、その SWF ファイルを c:\visualization.xlf のモデルに追加します。モデルを開くと、追加された SWF ファイルが、参照画像を c:\images\myImage.jpg からロードします。これは、モデルの場所からの参照パスです。

### 警告

モデルが外部ファイルを参照する場合、モデルの実行時には Adobe のセキュリティ制限が適用されます。モデルがローカルで実行される場合、SWF ファイルまたはホスト アプリケーション ファイルを信頼する必要があります。ファイルが Web サーバーで実行している場合、クロスドメイン ポリシー ファイルが必要です。詳細については、321 ページの「[Adobe Flash Player のセキュリティ制限](#)」を参照してください。

画像コンポーネントを使用して、JPEG 画像（標準 RGB 形式のみ）および SWF ファイルをモデルに追加します。たとえば、独自のロゴやアートワーク、ビデオ、アニメーション、およびその他の対話型要素を追加することができます。さらに、エクスポートされた別の Xcelsius モデルを追加することもできます。

## 注

画像コンポーネントは、プログレッシブ JPEG または CMYK カラーリングを含む JPEG には対応していません。

- 1 [画像]コンポーネントを選択し、[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 画像ファイルをインポートする前に、[一般]ビューで[画像をコンポーネントに合わせてサイズ変更]オプションを指定します。画像のインポート時に、画像サイズがこの設定に基づいて設定されます。このオプションを選択した場合、画像サイズが画像コンポーネントのサイズに収まるよう調整されます。このオプションを選択しなかった場合、画像コンポーネントサイズが画像の実際のサイズに合うよう調整されます。
- 3 [ JPEG または SWF オプション]で、[インポート]をクリックします。
- 4 [開く]ダイアログ ボックスで JPEG または SWF ファイルに移動し、[開く] をクリックします。
- 5 次のオプションを設定します。

オプション	説明
ファイルを埋め込む	<p>このファイルを選択し、画像ファイルのコピーをモデルに追加します。埋め込まれた画像は Xcelsius SWF ファイルの一部になり、常に利用可能です。それにより、SWF ファイルのサイズが大きくなり、パフォーマンスに影響が及ぶ可能性があります。このオプションを選択しなかった場合、ユーザーが画像ファイルを照会すると、そのファイルがロードされます。</p> <p>注 Xcelsius SWF ファイルは画像コンポーネントにロードできませんが、モデルに埋め込むことはできません。</p>
透明度	<p>このオプションを使用して、画像コンポーネントの下のオブジェクトがコンポーネントから透けて見えるようにします。透明度を上げるにはスライダを右に、透明度を下げるにはスライダを左に移動させます。</p>
マウス イベントのブロック	<p>[画像]コンポーネントが他のコンポーネントの上に配置されている場合、このオプションを選択すると、ユーザーがマウスを使用して下のコンポーネントを操作できないようになります。詳細については、224 ページの「<a href="#">ユーザー入力の無効化</a>」を参照してください。</p> <p>注 インポートされた SWF ファイルについては、このオプションが選択されていなくてもマウス イベントはブロックされます。</p>
SWF 背景色の非表示	<p>インポートされた SWF ファイルについては、このオプションを選択して SWF の背景を非表示にします。このオプションを選択しなかった場合、モデルで SWF の背景が表示されます。</p>

- 6 [動作]ビューをクリックして、動的ディスプレイ オプションを設定します。動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「[コンポーネントのディスプレイの管理](#)」を参照してください。

## 外部ファイルの埋め込みと参照

画像ファイルまたは Flash ファイルを画像コンポーネントにインポートする場合、外部の場所においてファイルを埋め込むか、または参照することができます。それぞれのオプションに長所と短所があります。下の表は、モデルにおいて外部ファイルを埋め込む場合と参照する場合の相違点をまとめたものです。

ファイルの埋め込み	ファイルの参照
モデルがインポートされると、SWF ファイルに外部ファイルが組み込まれます。	外部ファイルが、エクスポートされた SWF ファイルと名前と場所が同じフォルダにコピーされます。
モデル (XLF または SWF) は、単一ファイルとして配信することができます。	モデル (XLF または SWF) は外部ファイル フォルダとともに配信する必要があり、またフォルダと外部ファイルはモデルと同じ相対位置に保存されている必要があります。
動的ディスプレイによって非表示にされている場合でも、外部ファイルはモデルのロード時にロードされません。	外部ファイルは必要に応じてロードされます。動的ディスプレイによって非表示にされている場合、ファイルはロードされません。
外部ファイルもロードする必要があるため、モデルのロードにかかる時間が長くなります。	ファイルを即時にロードする必要がないため、モデルは素早くロードされます。
外部ファイルをロードするよう動的ディスプレイが設定されている場合、ファイルはすでにロードされているため、動作は速くなります。	外部ファイルをロードするよう動的ディスプレイが設定されている場合、コンポーネントをロードする必要があるため、非表示にされたファイルの表示にかかる時間が長くなります。
動的ディスプレイによって非表示にされている場合、外部ファイルのステータスは保持されます。	動的ディスプレイによって非表示にされている場合、外部ファイルは閉じられて、デフォルト ステータスに戻ります。

ファイルの埋め込み	ファイルの参照
外部ファイルが変更された場合、モデルを再エクスポートする必要があります。	外部ファイルが変更された場合、外部ファイルフォルダで置換することができ、モデルを再エクスポートしなくても、モデルによってファイルがロードされます。

## 楕円または四角形コンポーネントを設定する

楕円または四角形コンポーネントがキャンバスに配置されました。

楕円または四角形コンポーネントを使用して、モデルの外観を変更します。これらの形状をキャンバスの異なる領域に追加し、アイテムを視覚的にグループ化することができます。

- 1 コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [一般]ビューの[境界線を有効にする]領域で、以下のオプションを設定します。

オプション	説明
境界線を有効にする	このオプションを選択すると、形状の輪郭が表示されます。
Color	[境界線を有効にする]が選択されている場合、[カラーセレクト]アイコンをクリックすると、境界線の色が設定されます。
太さ	[境界線を有効にする]が選択されている場合、境界線の太さを入力するか、リストから選択します。
透明度	[境界線を有効にする]が選択されている場合、境界線の下コンポーネントを表示させるには、スライダを右に移動させて境界線の透明度を上げます。境界線の下アイテムを表示させないようにするには、スライダを左に移動させます。

- 3 [塗りつぶし]領域では、以下のオプションを設定します。

オプション	説明
タイプ	<p>リストから、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし:形状が塗りつぶされず、完全に透明になります。</li> <li>・ 塗りつぶし:形状が一色で塗りつぶされます。</li> <li>・ 線形(グラデーション):形状の色が端から端へと変化します。</li> <li>・ 放射状(グラデーション):形状の色が形の中心から端へと変化します。</li> </ul>
色	<p>[タイプ]が[なし]に設定されていない場合、カラーセレクトアイコンをクリックして、形状またはグラデーションの色を選択します。</p>
透明度	<p>[タイプ]が[なし]に設定されていない場合、形状の下のコンポーネントを表示させるには、スライダを右に移動させて形状塗りつぶしの透明度を上げます。形状の下のアイテムを表示させないようにするには、スライダを左に移動させます。</p>
グラデーションのプレビュー	

オプション	説明
	<p>[タイプ]が[線形(グラデーション)]または[放射状(グラデーション)]に設定されている場合、このプレビューパネルにグラデーションの色の変化が表示されます。形状のグラデーションを調整するには、次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 別のグラデーションを追加するには、カーソルを[プレビュー]パネルに合わせ、[プラス]アイコンが表示されたらパネルをクリックします。</li> <li>・ グラデーションの開始位置または終了位置を変更するには、[プレビュー]パネルの下に表示されるグラデーション マーカーをドラッグします。</li> <li>・ グラデーションの色を変更するには、[プレビュー]パネルの下に表示されるグラデーション マーカーをクリックし、[カラー セレクタ]アイコンをクリックして色を選択します。</li> <li>・ グラデーションの透明度を変更するには、[プレビュー]パネルの下に表示されるグラデーション マーカーをクリックし、[透明度]スライダでマーカーを移動させて透明度を変更します。</li> </ul>
回転	<p>[タイプ]が[線形(グラデーション)]に設定されている場合、このオプションを使用してグラデーション軸を調整します。0と360の間の値を入力し、グラデーション軸を回転させます。</p>

- 4 [動作]ビューをクリックして、動的ディスプレイ オプションを設定します。動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「[コンポーネントのディスプレイの管理](#)」を参照してください。

#### 関連項目

- ・ [41 ページのコンポーネント要素の色の設定](#)

## 線コンポーネントを設定する

線コンポーネントがキャンバスに配置されました。

[水平線]および[垂直線]コンポーネントを使用して、モデルの外観を変更します。線をキャンバスの異なる領域に追加し、アイテムを視覚的に分割することができます。

- 1 コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [一般]ビューで、以下のオプションを設定します。

オプション	説明
線の色	[カラー セレクタ]アイコンをクリックし、罫線の色を設定します。カラー セレクタ ツールの使用方法の詳細については、41 ページの「 <a href="#">コンポーネント要素の色の設定</a> 」を参照してください。
太さ	罫線の太さを入力するか、リストから選択します。

- 3 [動作]ビューをクリックして、動的ディスプレイ オプションを設定します。動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「[コンポーネントのディスプレイの管理](#)」を参照してください。

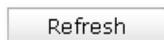
## Web 接続コンポーネントの使用

このカテゴリには、モデルを Web にリンクするためのオプションを提供するコンポーネントのグループが含まれています。

### 注

Xcelsius Engage および Xcelsius Enterprise には Web 接続が組み込まれています。これらのコンポーネントの使用の他に、[データ マネージャ]を使用して Web 接続オプションを設定することができます。詳細については、248 ページの「[データ接続の管理](#)」を参照してください。

接続の最新表示ボタン



リンクされている接続を手動で最新表示するボタンです。

### 注

このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

### ヒント

最新表示ボタンを使用したモデルの例を確認するには、[ファイル] > [サンプル]の順にクリックし、Connection Refresh というサンプル ファイルを開いてください。

### Reporting Services ボタン

A rectangular button with a light gray background and a thin border. The text "Reporting Services" is centered on the button in a dark gray font.

Reporting Services ボタン コンポーネントを使用すると、XRS サーバーに接続し、モデルにデータを設定するためのレポートを選択できます。

### 注

このコンポーネントは、Xcelsius Engage Server および BusinessObjects Xcelsius Enterprise でのみ利用できます。

### スライド ショー



[スライド ショー]コンポーネントは、URL ベースのイメージと SWF ファイルのスライド ショーを作成します。

### 注

このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

最初にファイルをインポートする必要がある通常の画像コンポーネントとは異なり、スライド ショー コンポーネントは URL データ ソースで指定された URL から画像をロードします。スライド ショー URL が変更された場合、スライド ショー コンポーネントは新しい場所から画像をロードしようとします。画像がロードされると、コンポーネントは現在のイメージから新規 URL データ ソースで指定された画像に移行します。

### 注

画像が通常の画像コンポーネントにインポートされると、Xcelsius によってそのファイルの独自ローカルコピーが XLF ファイルに内部的に保存されます。元のファイルは、モデルでアクセスされたり使用されることはありません。ファイル データは XLF 内に保存されるため、XLF はそのコンテンツとともに移動したり電子メールで送信することができます。しかし、スライド ショーは URL をポイントします。この URL は実行時に変更できます。画像が XLF に組み込まれていないため、スライド ショー コンポーネントは URL にアクセスして、画像を実行時に使用可能にする必要があります。

**警告**

モデルが外部データソースに接続されている場合、モデルの実行時には、Adobe のセキュリティ制限が適用されます。モデルがローカルで実行される場合、SWF ファイルまたはホスト アプリケーション ファイルを信頼する必要があります。ファイルが Web サーバーで実行している場合、クロスドメイン ポリシー ファイルが必要です。詳細については、321 ページの「[Adobe Flash Player のセキュリティ制限](#)」を参照してください。

**注**

- このコンポーネントは、Xcelsius Present では使用できません。

**警告**

モデルが外部データソースに接続されている場合、モデルの実行時には、Adobe のセキュリティ制限が適用されます。モデルがローカルで実行される場合、SWF ファイルまたはホスト アプリケーション ファイルを信頼する必要があります。ファイルが Web サーバーで実行している場合、クロスドメイン ポリシー ファイルが必要です。詳細については、321 ページの「[Adobe Flash Player のセキュリティ制限](#)」を参照してください。

## URL リンク ボタン



押されたときに相対または絶対 URL にリンクするボタンです。

## Web 接続コンポーネントを設定する

Web 接続コンポーネントはキャンバスに配置されます。

- コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- [プロパティ]パネルで、[一般]ビューをクリックして、表示するテキストとデータを挿入する出力先を指定します。使用可能なオプションの詳細については、203 ページの「[Web 接続の一般プロパティ](#)」を参照してください。

- 3 [動作]ビューをクリックし、モデルでコンポーネントがどのように機能するかについてオプションを設定します。使用可能なオプションの詳細については、208 ページの「[Web 接続の動作プロパティ](#)」を参照してください。
- 4 [表示]ビューをクリックして、各コンポーネント要素のビジュアル特性を設定します。表示オプションの詳細については、212 ページの「[Web 接続の表示プロパティ](#)」を参照してください。
- 5 [ファイル] > [保存]をクリックして、モデルの場所とファイル名を入力します。[OK]をクリックします。

Web 接続コンポーネントが、モデルに追加され設定されます。

## Web 接続の一般プロパティ

[一般]タブのテキスト プロパティの設定ガイドとして、以下の表を使用します。

オプション	説明
ラベル	ボタン上に表示されるテキストです。ボックスにテキストを入力するか、セル セレクタ アイコン(  )をクリックして、埋め込みスプレッドシート内のセルにリンクします。
使用できる接続	[最新表示]ボタンのみ この[最新表示]ボタンをユーザーがクリックしたときに最新表示にする外部データ接続と対応しているチェックボックスを、[接続一覧]ボックスの中から選択します。すべての接続を選択するには、列の最上部にあるチェックボックスをオンにします。
データ マネージャを起動	[最新表示]ボタンのみ [使用できる接続]リストの中にある項目は、[データ マネージャ]で設定されている接続に基づいています。このボタンをクリックすると、[データ マネージャ]が開き、外部データ接続の追加や変更ができます。

オプション	説明
URL	<p>[URL]ボタンのみ</p> <p>このボタンとリンクされている Web アドレスです。ボックスに URL を入力するか、セル セクタアイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシート内のセルにリンクします。</p> <p>ヒント この値が埋め込みスプレッドシートにリンクされている場合は、セルの値が変化するときこのボタンが更新されます。そのため、ソースセルが他のコンポーネントやユーザー入力によって動的に更新されるように設定すると、同じ URL ボタンで異なるページを呼び出せます。</p> <p>注 Web アドレスには、http:// または https:// を含める必要があります。</p>
ウィンドウ オプション	<p>[URL]ボタンのみ</p> <p>URL アドレスの Web ページを開く場所を指定します。別のブラウザ ウィンドウでページを開く場合は [新しいウィンドウ] を、同じウィンドウでページを開いてウィンドウ内の現在のコンテンツと置き換える場合は [このウィンドウ] を選択します。</p>
レポートिंग サービス:レポートの選択	<p>レポートिंग サービスのみ</p>
実行時にパラメータを表示する	<p>レポートिंग サービスのみ</p> <p>このオプションを選択すると、モデルの実行時にレポート パラメータが表示されます。</p>
サービスの値を使用する	<p>レポートिंग サービスのみ</p> <p>リスト内のパラメータを選択してこのリストからサービスの値を選択すると、レポートに値が含まれます。</p>

オプション	説明								
リンク先セル	<p>レポートサービスのみ</p> <p>リスト内のパラメータを選択してセル セレクタ アイコン(  ) をクリックし、埋め込みスプレッドシートの値を使用します。</p>								
データ マッピング	<p>レポートサービスのみ</p> <p>レポートデータをモデルにマッピングするには、[デフォルト] を選択してデフォルトのデータ マップを使用するか、[詳細] を選択して以下のオプションを設定します。</p> <table border="1" data-bbox="556 635 1180 1156"> <thead> <tr> <th data-bbox="556 635 763 678">オプション</th> <th data-bbox="763 635 1180 678">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="556 678 763 835">マッピングの範囲</td> <td data-bbox="763 678 1180 835">現在マッピングされている範囲が一覧に表示されます。+ または - アイコンをクリックすると、範囲の追加または削除ができます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="556 835 763 1069">選択時の列</td> <td data-bbox="763 835 1180 1069">選択した範囲の列が一覧に表示されます。列を選択して上下の矢印ボタンをクリックすると、並べ替え順序を変更できます。[X] ボタンをクリックすると、選択した列を一覧から削除できます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="556 1069 763 1156">名前</td> <td data-bbox="763 1069 1180 1156">選択した範囲の名前を入力します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	マッピングの範囲	現在マッピングされている範囲が一覧に表示されます。+ または - アイコンをクリックすると、範囲の追加または削除ができます。	選択時の列	選択した範囲の列が一覧に表示されます。列を選択して上下の矢印ボタンをクリックすると、並べ替え順序を変更できます。[X] ボタンをクリックすると、選択した列を一覧から削除できます。	名前	選択した範囲の名前を入力します。
オプション	説明								
マッピングの範囲	現在マッピングされている範囲が一覧に表示されます。+ または - アイコンをクリックすると、範囲の追加または削除ができます。								
選択時の列	選択した範囲の列が一覧に表示されます。列を選択して上下の矢印ボタンをクリックすると、並べ替え順序を変更できます。[X] ボタンをクリックすると、選択した列を一覧から削除できます。								
名前	選択した範囲の名前を入力します。								
範囲	<p>レポートサービスのみ</p> <p>このオプションで、レポートデータの出力先を定義します。入力するかセル セレクタ アイコン(  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシート内のセルを選択します。</p>								

オプション	説明
レポートの履歴を使用する	レポーティング サービスのみ レポートの履歴の使用を有効にするには、このオプションを選択します。
URL (JPEG または SWF のみ)	ボックスに URL を入力するか、セル セクタアイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシート内のセルにリンクします。 警告 プログレッシブ JPEG および CMYK カラーリングを使用した JPEG には対応していません。
マウスイベントのブロック	スライド ショーのみ

オプション	説明								
アプリケーション ドメイン	次の 3 つから選択できます。								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="555 366 680 409">オプション</th> <th data-bbox="680 366 1177 409">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="555 409 680 673">新規</td> <td data-bbox="680 409 1177 673"> <p>子のアプリケーション ドメインにロードします。</p> <p>注 モデルが LCDS コネクタを使用して接続されている場合、データはロードされません。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="555 673 680 1147"></td> <td data-bbox="680 673 1177 1147"> <p>モデルは、1 次クラスの定義のみを使用し、LCDS コネクタなどのドメインにロードされる 2 次クラスの定義は無視されます。このオプションは、LCDS 接続が、メインとなるモデルのドメインを共有できる場合に使用します。</p> <p>注 このオプションでは、モデルをコントロールするために、外部コードを埋め込むことができますが、LCDS 接続がメインとなるモデルのドメインを共有できない場合、データはロードされません。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="555 1147 680 1413">互換性</td> <td data-bbox="680 1147 1177 1413"> <p>互換性のあるブートストラップ ロードにロードします。</p> <p>注 ブートストラップ ロードの詳細については、<a href="#">Adobe Flex documentation</a> を参照してください。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	新規	<p>子のアプリケーション ドメインにロードします。</p> <p>注 モデルが LCDS コネクタを使用して接続されている場合、データはロードされません。</p>		<p>モデルは、1 次クラスの定義のみを使用し、LCDS コネクタなどのドメインにロードされる 2 次クラスの定義は無視されます。このオプションは、LCDS 接続が、メインとなるモデルのドメインを共有できる場合に使用します。</p> <p>注 このオプションでは、モデルをコントロールするために、外部コードを埋め込むことができますが、LCDS 接続がメインとなるモデルのドメインを共有できない場合、データはロードされません。</p>	互換性	<p>互換性のあるブートストラップ ロードにロードします。</p> <p>注 ブートストラップ ロードの詳細については、<a href="#">Adobe Flex documentation</a> を参照してください。</p>
	オプション	説明							
	新規	<p>子のアプリケーション ドメインにロードします。</p> <p>注 モデルが LCDS コネクタを使用して接続されている場合、データはロードされません。</p>							
	<p>モデルは、1 次クラスの定義のみを使用し、LCDS コネクタなどのドメインにロードされる 2 次クラスの定義は無視されます。このオプションは、LCDS 接続が、メインとなるモデルのドメインを共有できる場合に使用します。</p> <p>注 このオプションでは、モデルをコントロールするために、外部コードを埋め込むことができますが、LCDS 接続がメインとなるモデルのドメインを共有できない場合、データはロードされません。</p>								
互換性	<p>互換性のあるブートストラップ ロードにロードします。</p> <p>注 ブートストラップ ロードの詳細については、<a href="#">Adobe Flex documentation</a> を参照してください。</p>								
	<p>モデルは、1 次クラスの定義のみを使用し、LCDS コネクタなどのドメインにロードされる 2 次クラスの定義は無視されます。このオプションは、LCDS 接続が、メインとなるモデルのドメインを共有できる場合に使用します。</p> <p>注 このオプションでは、モデルをコントロールするために、外部コードを埋め込むことができますが、LCDS 接続がメインとなるモデルのドメインを共有できない場合、データはロードされません。</p>								
互換性	<p>互換性のあるブートストラップ ロードにロードします。</p> <p>注 ブートストラップ ロードの詳細については、<a href="#">Adobe Flex documentation</a> を参照してください。</p>								

関連項目

- ・ 202 ページの「Web 接続コンポーネントを設定する」
- ・ 208 ページの「Web 接続の動作プロパティ」
- ・ 212 ページの「Web 接続の表示プロパティ」

## Web 接続の動作プロパティ

下の表を、Web 接続コンポーネントの動作プロパティを設定するためのガイドとして使用します。

オプション	説明
[共通]タブ	
コンポーネントのロード後に最新表示	接続の最新表示ボタン

オプション	説明						
トリガ セル	<p>モデルにアクションを設定してコンポーネントをトリガするには、埋め込みスプレッドシートのセルをトリガセルとして選択します。たとえば、モデルに含まれる他のコンポーネントにより設定されるなどして、そのセルに含まれる値が特定の値に設定されると、そのコンポーネントがクリックされたかのように、コンポーネントが応答します。  続いて、次のオプションを設定します。</p> <table border="1" data-bbox="525 545 1180 911"> <thead> <tr> <th data-bbox="525 545 744 597">オプション</th> <th data-bbox="744 545 1180 597">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="525 597 744 678">値の変更時</td> <td data-bbox="744 597 1180 678">コンポーネントは、トリガセルの値が変化したときにトリガされます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="525 678 744 911">値が等しい場合</td> <td data-bbox="744 678 1180 911">コンポーネントは、トリガセルの値が特定の値に設定されたときにトリガされます。値を入力するか、セルセクタアイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシートからソースの場所を選択します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	値の変更時	コンポーネントは、トリガセルの値が変化したときにトリガされます。	値が等しい場合	コンポーネントは、トリガセルの値が特定の値に設定されたときにトリガされます。値を入力するか、セルセクタアイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシートからソースの場所を選択します。
オプション	説明						
値の変更時	コンポーネントは、トリガセルの値が変化したときにトリガされます。						
値が等しい場合	コンポーネントは、トリガセルの値が特定の値に設定されたときにトリガされます。値を入力するか、セルセクタアイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシートからソースの場所を選択します。						
コンポーネントのロード前に最新表示	<p>Reporting Services ボタン</p> <p>このオプションを選択すると、実行時にコンポーネントがロードされる前にレポートサービスがロードされます。</p>						
次の間隔で最新表示	<p>Reporting Services ボタン</p> <p>データは、このオプションに設定した時間に基づいて設定された間隔で、自動的に最新表示されます。</p>						
メッセージのロード中	<p>Reporting Services ボタン</p> <p></p>						
アイドル メッセージ	<p>Reporting Services ボタン</p> <p></p>						

オプション	説明
挿入先	Reporting Services ボタン 
ロード カーソルを有効にする	Reporting Services ボタン このオプションを選択すると、データ接続のロード中に特殊なカーソルが表示されます。
ロード時にマウス入力を無効にする	Reporting Services ボタン このオプションを選択すると、データ接続のロード中は入力ができなくなります。
トランジションタイプ	スライド ショー コンポーネントのみ スライド間のトランジションのスタイルを指定します。

オプション	説明								
<p>イージングの種類</p>	<p>スライド ショー コンポーネントのみ</p> <p>次のスライドへのトランジション方法を指定します。次のオプションを選択します。</p> <table border="1" data-bbox="525 435 1180 777"> <thead> <tr> <th data-bbox="525 435 744 482">オプション</th> <th data-bbox="744 435 1180 482">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="525 482 744 565">スローイン</td> <td data-bbox="744 482 1180 565">トランジションはゆっくり始まり、進行するにつれて加速します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="525 565 744 649">スローアウト</td> <td data-bbox="744 565 1180 649">トランジションは急速に始まり、進行するにつれて減速します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="525 649 744 777">スローイン/アウト</td> <td data-bbox="744 649 1180 777">トランジションはゆっくり始まり、途中まで加速して、その後減速して終了します。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	スローイン	トランジションはゆっくり始まり、進行するにつれて加速します。	スローアウト	トランジションは急速に始まり、進行するにつれて減速します。	スローイン/アウト	トランジションはゆっくり始まり、途中まで加速して、その後減速して終了します。
オプション	説明								
スローイン	トランジションはゆっくり始まり、進行するにつれて加速します。								
スローアウト	トランジションは急速に始まり、進行するにつれて減速します。								
スローイン/アウト	トランジションはゆっくり始まり、途中まで加速して、その後減速して終了します。								
<p>トランジションの時間</p>	<p>スライド ショー コンポーネントのみ</p> <p>画像間のトランジションに要する時間を指定します。値を入力するか、一覧から選択します。</p> <p>ヒント トランジションがゆっくりであるほど、トランジションは滑らかになります。</p>								
<p>動的ディスプレイ</p>	<p>すべて</p> <p>動的ディスプレイの詳細については、221 ページの「<a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a>」を参照してください。</p>								
<p>[アニメーションと効果] タブ</p>									
<p>表示効果: タイプ</p>	<p>すべて</p> <p>221 ページの「<a href="#">コンポーネントのディスプレイの管理</a>」</p>								

関連項目

- ・ 202 ページの「Web 接続コンポーネントを設定する」
- ・ 203 ページの「Web 接続の一般プロパティ」
- ・ 212 ページの「Web 接続の表示プロパティ」

## Web 接続の表示プロパティ

下の表を、Web 接続コンポーネントの[表示]プロパティを設定するためのガイドとして使用します。オプションの中には、特定のコンポーネントタイプでのみ使用可能なものがあることに注意してください。

オプション	説明
[レイアウト]タブ	
ボタンの背景を表示	<p>[最新表示]ボタンと[URL]ボタン</p> <p>選択されている場合は、ボタンの背景は不透明になっています。選択されていない場合のボタンは完全に透明で、この状態のときは、テキストのみのリンクを作成したり、インポートした画像の上にコンポーネントを配置してカスタム ボタンを作成することができます。</p>
透明度	<p>透明度を 0 に設定した場合、コンポーネントの後ろにあるオブジェクトはユーザーには見えません。透明度を 100 に設定した場合、コンポーネントは完全に透明であり、ユーザーには見えません。</p>

オプション	説明								
<p>サイズ設定方法</p>	<p>スライドショー コンポーネントの境界内で画像のサイズを調整する方法を定義します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <table border="1" data-bbox="565 440 1177 852"> <thead> <tr> <th data-bbox="565 440 767 487">オプション</th> <th data-bbox="767 440 1177 487">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="565 487 767 644">オリジナル サイズ</td> <td data-bbox="767 487 1177 644">この画像は、実際のサイズで表示されます。スライドショーの外にはみ出した画像の部分は表示されません。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="565 644 767 730">拡張</td> <td data-bbox="767 644 1177 730">画像は、スライドショーの境界に合わせて拡張されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="565 730 767 852">拡大縮小</td> <td data-bbox="767 730 1177 852">画像は、スライドショーの境界内に収まるように、同比率でサイズ調整されます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	オリジナル サイズ	この画像は、実際のサイズで表示されます。スライドショーの外にはみ出した画像の部分は表示されません。	拡張	画像は、スライドショーの境界に合わせて拡張されます。	拡大縮小	画像は、スライドショーの境界内に収まるように、同比率でサイズ調整されます。
	オプション	説明							
	オリジナル サイズ	この画像は、実際のサイズで表示されます。スライドショーの外にはみ出した画像の部分は表示されません。							
	拡張	画像は、スライドショーの境界に合わせて拡張されます。							
拡大縮小	画像は、スライドショーの境界内に収まるように、同比率でサイズ調整されます。								
<p>横配置</p>	<p>スライドショーの境界内で画像の横方向の配置をどのようにするかを定義します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <table border="1" data-bbox="565 1078 1177 1385"> <thead> <tr> <th data-bbox="565 1078 767 1124">オプション</th> <th data-bbox="767 1078 1177 1124">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="565 1124 767 1211">中央</td> <td data-bbox="767 1124 1177 1211">画像は、左右中央揃えでスライドショー内に配置されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="565 1211 767 1298">左</td> <td data-bbox="767 1211 1177 1298">画像は、スライドショーの左端に配置されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="565 1298 767 1385">右</td> <td data-bbox="767 1298 1177 1385">画像は、スライドショーの右端に配置されます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	中央	画像は、左右中央揃えでスライドショー内に配置されます。	左	画像は、スライドショーの左端に配置されます。	右	画像は、スライドショーの右端に配置されます。
	オプション	説明							
	中央	画像は、左右中央揃えでスライドショー内に配置されます。							
左	画像は、スライドショーの左端に配置されます。								
右	画像は、スライドショーの右端に配置されます。								
<p>縦配置</p>									

オプション	説明								
	<p>スライド ショーの境界内で画像の縦方向の配置をどのようにするかを定義します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <table border="1" data-bbox="565 440 1180 748"> <thead> <tr> <th data-bbox="565 440 770 487">オプション</th> <th data-bbox="770 440 1180 487">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="565 487 770 574">中間</td> <td data-bbox="770 487 1180 574">画像は、上下中央揃えでスライドショー内に配置されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="565 574 770 661">上</td> <td data-bbox="770 574 1180 661">画像は、スライドショーの最上部に配置されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="565 661 770 748">下</td> <td data-bbox="770 661 1180 748">画像は、スライドショーの底部に配置されます。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	中間	画像は、上下中央揃えでスライドショー内に配置されます。	上	画像は、スライドショーの最上部に配置されます。	下	画像は、スライドショーの底部に配置されます。
オプション	説明								
中間	画像は、上下中央揃えでスライドショー内に配置されます。								
上	画像は、スライドショーの最上部に配置されます。								
下	画像は、スライドショーの底部に配置されます。								
[テキスト]タブ									
ラベル	<p>[URL]、[最新表示]、[レポートイング サービス]の各ボタンのみ</p> <p>ボタンに表示されるテキストを定義します。</p>								
選択したテキストの書式	<p>[URL]、[最新表示]、[レポートイング サービス]の各ボタンのみ</p> <p>注 17 ページの「<a href="#">グローバル フォント オプションを設定する</a>」</p>								
位置	一部のテキスト要素の配置がコンポーネントと相対的になるように設定できます。								
オフセット	設定位置に対応させてオフセットすることにより、一部のテキスト要素の位置を調整することができます。								

オプション	説明
数値の書式設定	一部のテキスト要素の数値書式を設定することができます。
[色]タブ	
ボタン	ボタンの色に適用されます。 ボタンがオンの時とオフの時に対して異なる色を設定することができます。
ラベル	入力テキスト領域およびラベル コンポーネントのみ ラベル テキストに適用されます。  要素が有効ではない場合の色 (デフォルトの色)、マウスポインタが要素に置かれている場合の色 (マウスオーバー時の色)、要素が有効な場合の色 (選択時の色) をそれぞれ設定することができます。

#### 関連項目

- ・ 41 ページのコンポーネント要素の色の設定」
- ・ 202 ページのWeb 接続コンポーネントを設定する」
- ・ 203 ページのWeb 接続の一般プロパティ」
- ・ 208 ページのWeb 接続の動作プロパティ」

## コンポーネントの削除

選択したコンポーネントを削除するには、Delete を押すか、右クリックのコンテキストメニューで[削除]を選択します。

#### ヒント

グループ内にあるコンポーネントを削除するために、コンポーネントのグループ化を解除する必要はありません。

削除したコンポーネントを元に戻すには、Ctrl+Zを押すか、[編集]メニューの[元に戻す]をクリックします。

## アラートの概要

アラートは、事前に設定済みの制限に達した特定のアイテムまたはアクションに対してユーザーの注意を促します。こうした制限は、多くの場合、ターゲット、予算、ベンチマークなどと呼ばれ、アイテムの比較基準となります。

Xcelsius 2008 では、ほとんどのチャートおよび単一値コンポーネントでアラートを定義できます。アラートが有効な場合、コンポーネントでは現在のアラートレベルが色で表現されます。通常、緑色は好ましい状況、黄色は理想的ではない状況、赤は重大な問題を示します。アラートの定義時には、監視する値、アラートのしきい値、そして値が目標値を上回るのが好ましいのか、下回るのが好ましいのか、またはそれにできるだけ近いのが好ましいのかを定義します。さらに、カスタム色を定義することもできます。

アラートは、以下のコンポーネントで使用することができます。

コンポーネントタイプ	コンポーネント
チャート	棒、バブル、縦棒、コンボ、折れ線、レーダー、積み上げ棒、積み上げ縦棒、XY  注 チャートにデータの複数の系列が表示される場合、アラートは使用できません。
セレクト	コンボ ボックス、アイコン、ラベル メニュー、リスト ボックス、リストビルダ、ティッカー、スコアカード
単一値	ダイヤル、二点スライダ、メーター、水平進捗バー、水平スライダ、スピンボタン、値、垂直進捗バー、垂直スライダ
マップ	すべて
その他	グリッド

### 関連項目

- ・ 44 ページの「チャート コンポーネントの使用」

- ・ 131 ページの単一値コンポーネントの使用」
- ・ 94 ページのセレクト コンポーネントの使用」
- ・ 169 ページのその他のコンポーネントの使用」

## アラートを設定する

データ値が特定の範囲に到達した場合、そのことがコンポーネントで示されるようにするには、アラートを設定してカスタマイズします。

- 1 コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [プロパティ]パネルで、[アラート]ビューをクリックします。
- 3 [アラートを有効にする]チェック ボックスを選択します。

### 注

スコアカードコンポーネントの場合は、列ごとに個別にアラートを有効にすることができます。アラートを表示する列ごとに、[表示]列のチェック ボックスを選択し、選択した列のアラートプロパティを定義します。

ラベルメニュー、リストビルダ、リストボックス、およびコンボボックスコンポーネントの場合は、[アラート値]ボックスで、アラートのターゲット値と比較する値を指定します。値を入力するか、セルセレクトアイコンをクリックして、スプレッドシート内のソースの場所を選択します。

- 4 アラートの基準として、以下のいずれかの方法を選択します。

オプション	説明
最大値のパーセントとして	単一値コンポーネントの場合のみ。目盛[最大制限]の[一般]ビューで設定した値の特定のパーセントをアラートの基準にするには、このオプションを選択します。
ターゲットのパーセントとして	<p>指定したターゲット値のパーセントをアラートの基準にするには、このオプションを選択します。</p> <p>埋め込みスプレッドシート内のセルにリンクすることによってターゲット値を設定するには、セルセレクトアイコンをクリックします。</p> <p>ターゲット値を手動で定義するには、手動編集アイコン(  )をクリックします。</p> <p>注 各データポイントに対し、個別のターゲット値を設定することができます。</p>
値別	

- 5 [アラートのしきい値]で、以下のオプションを設定します。

オプション	説明										
範囲を使用	このオプションを選択して、埋め込みスプレッドシート内のセルからしきい値レベルを選択し、セル セレクタ アイコンをクリックしてセルを選択します。										
値の入力	しきい値を手動で定義するには、以下の操作を実行します。										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="522 499 655 539">目的</th> <th data-bbox="655 499 1178 539">操作</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="522 539 655 626">既存の値の編集</td> <td data-bbox="655 539 1178 626">[開始]または[終了]列の値をクリックして、新しい値を入力します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="522 626 655 713">リストへの値の追加</td> <td data-bbox="655 626 1178 713">ボックスに値を入力して、[追加]をクリックします。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="522 713 655 800">レベルの削除</td> <td data-bbox="655 713 1178 800">値の横にある削除アイコンをクリックします。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="522 800 655 1170">しきい値レベルへの色の割り当て</td> <td data-bbox="655 800 1178 1170">各レベルの横にあるカラー セレクタ アイコンをクリックして、色を設定します。カラー セレクタの使用方法の詳細については、41 ページの「<a href="#">コンポーネント要素の色の設定</a>」を参照してください。  注 [自動色を有効にする]チェック ボックスが選択されている場合、しきい値ごとに個別に色を設定することはできません。</td> </tr> </tbody> </table>	目的	操作	既存の値の編集	[開始]または[終了]列の値をクリックして、新しい値を入力します。	リストへの値の追加	ボックスに値を入力して、[追加]をクリックします。	レベルの削除	値の横にある削除アイコンをクリックします。	しきい値レベルへの色の割り当て	各レベルの横にあるカラー セレクタ アイコンをクリックして、色を設定します。カラー セレクタの使用方法の詳細については、41 ページの「 <a href="#">コンポーネント要素の色の設定</a> 」を参照してください。  注 [自動色を有効にする]チェック ボックスが選択されている場合、しきい値ごとに個別に色を設定することはできません。
	目的	操作									
	既存の値の編集	[開始]または[終了]列の値をクリックして、新しい値を入力します。									
	リストへの値の追加	ボックスに値を入力して、[追加]をクリックします。									
レベルの削除	値の横にある削除アイコンをクリックします。										
しきい値レベルへの色の割り当て	各レベルの横にあるカラー セレクタ アイコンをクリックして、色を設定します。カラー セレクタの使用方法の詳細については、41 ページの「 <a href="#">コンポーネント要素の色の設定</a> 」を参照してください。  注 [自動色を有効にする]チェック ボックスが選択されている場合、しきい値ごとに個別に色を設定することはできません。										
既存の値の編集	[開始]または[終了]列の値をクリックして、新しい値を入力します。										
リストへの値の追加	ボックスに値を入力して、[追加]をクリックします。										
レベルの削除	値の横にある削除アイコンをクリックします。										
しきい値レベルへの色の割り当て	各レベルの横にあるカラー セレクタ アイコンをクリックして、色を設定します。カラー セレクタの使用方法の詳細については、41 ページの「 <a href="#">コンポーネント要素の色の設定</a> 」を参照してください。  注 [自動色を有効にする]チェック ボックスが選択されている場合、しきい値ごとに個別に色を設定することはできません。										

- 6 各しきい値レベルに割り当てられる色を自動的に定義するには、[自動色を有効にする]チェック ボックスを選択します。

注

各しきい値レベルに手動で色を割り当てるには、このオプションを選択解除し、各しきい値レベルの横にあるカラー セレクタ アイコンを選択して色を設定します。

- 7 [自動色を有効にする]が選択されている場合、別のグラデーション配色を設定するには、自動色アイコン(  )をクリックします。  
[色]ダイアログ ボックスが開きます。
- 8 [色]ダイアログ ボックスで、[カスタム]リストまたは[組み込み]リストから配色を選択するか、新しいグラデーションを作成して[グラデーションの新規作成]をクリックし、以下のオプションを設定します。

オプション	説明
グラデーション(2色)	このオプションを選択すると、アラート目盛が2色で表示されます。
グラデーション(3色)	このオプションを選択すると、アラート目盛が3色で表示されます。
色	目盛で使用する各色、および[データなし]の色について、塗りつぶしとテキストに使用する色を設定します。各色の横にある下向き矢印をクリックして、[色]ダイアログボックスを開きます。

- 9 色の順序を設定するには、以下のオプションのいずれかを選択します。
  - ・ たとえば、費用をできるだけ低くしたい場合に費用を表すのに使用します。
  - ・ [中央値が最適] - 最適な値の型がターゲット値に限りなく近い場合にこのオプションを使用します。たとえば、在庫数量をできるだけ正確にしたい場合に在庫を表すのに使用します。

注

- ・ たとえば、収益値をできるだけ高くしたい場合に収益を表すのに使用します。
- 10 垂直スライド、水平スライド、水平進捗バー、ダイヤル、二点スライド、およびメーター コンポーネントの場合は、アラートの色を表示する場所を選択します。

オプション	説明
背景	コンポーネントの背景にアラートの色が表示されます。
マーカー	マーカー、針などにアラートの色が表示されます。
値	コンポーネントの横にあるテキスト ボックスに、現在の値とアラートの色が表示されます。

コンポーネントに対するアラートが設定されます。

## コンポーネントのディスプレイの管理

モデル内の情報が多すぎる場合や、ビジュアルコンポーネントが多すぎる場合、ユーザーが特定の情報セットに焦点を当てるのが困難な場合があります。多くの情報を表示する必要がある場合、必要ないくつかの情報のみを表示することによって、ビジュアルレイアウトを簡略化することができます。モデルを使いやすくするために、キャンパスの特定領域を再利用して、実行時にコンポーネントを表示/非表示にすることができます。

動的ディスプレイにより、スプレッドシートセルのコンテンツに基づいてコンポーネントを表示するタイミングを制御することができます。つまり、動的ディスプレイを使用するコンポーネントは、ステータスがキーと一致する場合に表示され、一致しないとコンポーネントは非表示になります。たとえば、特定のチャートを表示する表示切り替えボタンを追加できます。切り替えボタンは、クリックするたびに代わりにshowChart およびhideChart を出力先セルに挿入します。この出力先セルにチャートのステータスをリンクして、そのチャートのキーに showChart を設定すると、表示切り替えボタンによって値 showChart が挿入されるとそのチャートは表示され、hideChart が挿入されると非表示になります。

より複雑なモデルでは、複数の異なるコンポーネントを切り替えることができます。その場合は、キーとセレクタを使用します。たとえば、モデルを異なるチャート間で切り替える必要がある場合です。各チャートに、chart1、chart2 などの固有のキーを割り当てます。次に、リスト ボックス コンポーネントをキャンパスに追加して、チャートキーと出力先がスプレッドシート内の空のセルと一致するようにソース データを設定します。各チャートのステータスを出力先セルにリンクする際に、リスト ボックスで選択を行うたびにチャートのキーが出力先に挿入され、そのチャートが表示され、他のチャートが非表示になります。

動的ディスプレイが有効な場合、モデルにでのコンポーネントの表示および非表示の方法にアニメーション効果を追加することもできます。

#### ヒント

動的ディスプレイを使用したモデルの例を表示するには、[ファイル] > [サンプル]をクリックし、サンプル ファイル[動的ディスプレイ]を開きます。

#### 注

アドオンコンポーネントは動的ディスプレイをサポートしていません。アドオンコンポーネントのディスプレイを制御する場合、キャンバス コンテナにコンポーネントを配置して、動的ディスプレイ設定をキャンバス コンテナに適用して、含まれているアドオンコンポーネントを表示または非表示にします。

#### 関連項目

- ・ 222 ページの動的ディスプレイを設定する
- ・ 223 ページの動的ディスプレイ用に表示効果を設定する
- ・
- ・ 91 ページのコンテナ動作プロパティ
- ・ 110 ページのセレクトタ動作プロパティ
- ・ 138 ページの単一値コンポーネント動作プロパティ
- ・ 153 ページのマップ動作プロパティ
- ・ 161 ページのテキスト動作プロパティ
- ・ 178 ページのその他のコンポーネントの動作プロパティ

## 動的ディスプレイを設定する

コンポーネントを含むモデルがキャンバスに開きます。

- 1 コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [プロパティ]パネルで、[動作] > [一般]を選択します。
- 3 [動的ディスプレイ]領域の[ステータス]ボックスの横で、セル セレクトタ アイコン(  )をクリックし、コンポーネントのディスプレイを制御するスプレッドシート内のセルを選択します。

#### 注

たとえば、データ範囲など、すでにこのコンポーネントにバインドされているセルは選択しないでください。動的に変更される際に最新表示にならなくなります。

- 4 [キー]ボックスで、値を入力するか、セル セレクタアイコン(  )をクリックし、このコンポーネントのキー値を含むセルを選択します。

**注**

ステータスが設定されない限り、[キー]ボックスは使用できません。

ステータスセル内の値がキー値と一致する場合、コンポーネントが表示されません。

- 5 手順3で設定した[ステータス]セルに値を入力するように設定するキャンバスに、コンポーネントを配置します。[プロパティ]パネルを開きます。

一般的に、これはチェックボックス コンポーネントやラジオ ボタン コンポーネントなどのセレクタコンポーネントになりますが、指定されたセルにデータを挿入するように設定されたチャートコンポーネントまたはマップコンポーネントになる場合もあります。

- 6 [プロパティ]パネルの[一般]タブにある[ソース データ]ボックスで、制御しているコンポーネントのキー値を入力するか選択します。

**注**

セレクタが1コンポーネントのみを制御している場合、同様にコンポーネントを非表示にするキー値も入力する必要があります。

- 7 [出力先]ボックスで、セル セレクタ アイコン(  )をクリックし、手順3で[ステータス]ボックス用に選択したセルを選択します。

実行時に、ユーザーがセレクタコンポーネントをクリックするときに、キー値をステータスセルに挿入します。動的に表示されるコンポーネントは、挿入された値がキー値と一致する際に表示されます。

必要に応じて、コンポーネントの表示効果を設定して、モデルでのコンポーネントの表示および非表示の方法を設定することができます。

**関連項目**

- ・ 221 ページのコンポーネントのディスプレイの管理
- ・ 223 ページの動的ディスプレイ用に表示効果を設定する

## 動的ディスプレイ用に表示効果を設定する

モデルがキャンバス上に開いて、動的ディスプレイ用に設定された1つ以上のコンポーネントが含まれています。

動的ディスプレイが有効な場合、コンポーネントがどのようにモデルに届くのかを指定します。たとえば、一方からスライドインするのか、またはゆっくりとフェードインするのかを指定できます。コンポーネントの導入部分の長さも指定できます。

- 1 コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 2 [動作] > [アニメーションと効果]をクリックします。
- 3 [表示効果]の[タイプ]リストで、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
フェードイン	コンポーネントは半透明状態で表示され、しだいに塗りつぶし状態になります。
ワイプ(右へ)	コンポーネントの左側が表示され、コンポーネントの残りの部分が徐々に左から右に描画されます。
ワイプ(右下へ)	コンポーネントの左上隅が表示され、コンポーネントの残りの部分が徐々に右下方向に描画されます。

#### 注

[なし]を選択した場合、コンポーネントは効果を使用せずに表示され、その導入部分の時間を設定できません。

- 4 [時間(秒)]リストから、コンポーネントの導入部分にかかる秒数を選択します。モデルが実行されていてコンポーネントの表示がトリガされている場合、選択された表示効果と時間を使用してそのコンポーネントが画面に追加されます。

#### 関連項目

- ・ 221 ページのコンポーネントのディスプレイの管理」
- ・ 222 ページの動的ディスプレイを設定する」

## ユーザー入力の無効化

多くのコンポーネントは、ランタイム中にユーザーが値を変更できるよう設定することができます。ユーザーがモデルからデータを変更できないようにする必要がある場合、多くのコンポーネントでは、ユーザーが操作できないよう設定を調整することができます。

す。ただし、設計上コンポーネントがユーザー入力を受け入れるようにする必要がある場合は、背景コンポーネントを使用して入力をブロックすることができます。

#### 注

[単一値]コンポーネントの場合、ユーザーによるデータ値の変更を防ぐ方法は 2 つあります。コンポーネントを式を含むセルにバインドする方法と、[プロパティ]パネルの[動作] > [一般]メニューで[対話操作を有効にする]オプションの選択を解除する方法です。

#### 関連項目

- ・ 138 ページの単一値コンポーネント動作プロパティ

## 背景コンポーネントの設定によりユーザー入力をブロックする

コンポーネントはキャンバスに配置されます。

#### 注

特定の状況でユーザー入力をブロックする場合、動的ディスプレイ オプションを使用し、そのような状況では透過背景のみを表示されるようにすることができます。動的ディスプレイの設定の詳細については、221 ページの「[コンポーネントのディスプレイの管理](#)」を参照してください。

- 1 コンポーネントブラウザから背景コンポーネントをキャンバスにドラッグし、ユーザー入力をブロックするコンポーネントの上に配置します。
- 2 [背景]コンポーネントを選択して[プロパティ]パネルを開きます。
- 3 [一般]ビューの[背景色]オプションでカラー セレクタ アイコンをクリックし、適切な色を選択します。
- 4 [透明度]スライダを 100% に設定します。
- 5 [マウス イベントのブロック]オプションを選択します。

モデルの実行時に、ユーザーが背景の後ろにあるコンポーネントをクリックしても、マウス クリックは認識されません。

#### 関連項目

- ・ 87 ページのコンテナ コンポーネントの使用



# モデルの操作

モデルは、データのビジュアル表現です。チャートやメーターなどのビジュアル コンポーネントをデータにリンクすることで、そのデータのビジュアル モデルを作成できます。また、モデルの実行中にユーザーがデータを調整できるようにする対話オプションを追加することもできます。

ごく基本的なモデルの作成方法には、次の 3 つのステップが含まれます。

- 1 埋め込みスプレッドシートにデータをインポートするか、入力します。
- 2 コンポーネントをキャンバスに追加して、これをデータが格納されているスプレッドシートセルにリンクします。
- 3 モデルをプレビューし、公開します。

Xcelsius には、モデルのレイアウトと書式設定についてさまざまな可能性があります。時間を節約するために、事前定義されたテンプレートから始めることもよいかもしれませんが、Xcelsius には、特定の目的で専門的に設計された複数のテンプレートがあります。これらのテンプレートをそのまま使用することも、特定のニーズに合わせてカスタマイズすることもできます。

迅速にモデルを作成するためにテンプレートを使用することに加えて、テーマと配色を使用して、モデル内の特定のコンポーネントに対して特定の外観を作成することもできます。

Xcelsius には、その機能を説明し、コンポーネントで実行できることをデモンストレーションするために、モデルのサンプルが含まれています。これらのサンプルを開いて、機能を確認することができます。

## 関連項目

- ・ [228 ページのテンプレートの使い方](#)」
- ・ [230 ページのテーマの使い方](#)」
- ・
- ・ [232 ページのモデルのプレビュー](#)」
- ・ [10 ページのサンプル モデル](#)」

## テンプレートの使い方

類似コンポーネントまたは設定でモデルを頻繁に作成する場合、新規モデルの開始点としてテンプレートを使用することができます。テンプレートは、多彩なレイアウトとコンポーネントの組み合わせを示すものです。テンプレートの中には、サンプル データとバインドされていて、テンプレートの動作がわかるようになっているものもあります。レイアウト テンプレートなど、それ以外のテンプレートは、データにバインドされていません。テンプレートを開くと、新規モデルとしてキャンバスに挿入されます。これで、そのテンプレートを追加、削除、または変更し、それを新しいモデルとして、または変更済みまたは新規のテンプレートとして保存できます。

Xcelsius 2008 には、新しいモデルの作成に使用できる一連のテンプレートがあります。空白のキャンバスからモデルを作成してテンプレートとして保存することもできます。

### 注

テンプレートは既存のモデルに適用できません。既存のモデルの表示を変更するために、別のテーマを適用したり、配色を変更したりできます。

### 関連項目

- ・ 230 ページの「テーマの使い方」

## テンプレートを開く

空白のキャンバスからモデルを構築するのではなく、使用する基本コンポーネントを含むテンプレートを使用し、それをニーズに合わせてカスタマイズすることができます。

- 1 [ファイル] > [テンプレート] をクリックします。  
[テンプレートから新規作成] ダイアログ ボックスが開きます。[カテゴリ] 領域には、テンプレートを割り当てることができる使用可能なカテゴリが一覧表示されます。
- 2 [カテゴリ] 領域で、カテゴリをクリックします。  
[アイテム] 領域には、そのカテゴリに対して使用できるテンプレートが表示されます。
- 3 [アイテム] 領域で、テンプレートをクリックします。  
[プレビュー] 領域にはテンプレートのサンプルが表示され、テンプレートの説明が入力されている場合はそれが [説明] 領域に表示されます。

**注**

プレビューでセレクトをクリックし、各コンポーネントが目的とする機能を照会することができます。

- 4 開くテンプレートを指定したら、[OK]をクリックします。

テンプレートがキャンバスで開かれますが、データにはバインドされていません。Microsoft Excel からスプレッドシートをインポートするか、埋め込みスプレッドシートにデータを入力することができます。また、コンポーネントを変更し、新しいモデルまたはテンプレートを作成することもできます。

## テンプレートを作成する

モデルで類似するレイアウトとコンポーネントを頻繁に使用する場合、空白のキャンバスから作業を開始するのではなく、新規モデルに再利用できるテンプレートを作成することができます。たとえば、企業ポータルで使用する一連のポートレットを作成している場合、作成したモデルをテンプレートとして保存して、更新が必要になった場合に再利用できるようにします。モデルをテンプレートとして保存するには、初めにファイルをテンプレートフォルダに保存し、次にモデル(SWF ファイル)を同じ場所にエクスポートします。

- 1 テンプレートとして保存するモデルを作成します。
- 2 [ファイル] > [別名で保存]をクリックします。  
[名前を付けて保存]ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3 Xcelsius プログラムがインストールされたフォルダに移動し、次に ...¥asse s¥template に移動します。

**注**

新しいテンプレートカテゴリを作成するには、ディレクトリ ¥template の下にフォルダを作成します。

- 4 [ファイル名]リストにテンプレートのファイル名を入力し、[保存]をクリックします。
- 5 [ファイル] > [エクスポート] > [Flash (SWF)]をクリックします。
- 6 テンプレートを保存したテンプレート フォルダに移動します。
- 7 [ファイル名]リストで、SWF ファイルに対し、テンプレートに対して入力したのと同じファイル名を入力し、[保存]をクリックします。

モデルがテンプレートとして保存されます。次に[テンプレートから新規作成]ウィンドウを開くと、そのテンプレートを使用してプレビューできます。

## テーマの使い方

(従来スキンと呼ばれていた)テーマは、モデルをカスタマイズするための簡単な方法を提供するもので、モデル全体で一貫性のある外観を維持することができます。テーマは、各コンポーネントに適用されるスタイルとプロパティを制御します。またテーマには配色も含まれますが、配色を変更することでモデルをさらにカスタマイズすることができます。新しい配色が適用されると、コンポーネントはスタイルおよびプロパティ設定を維持しながら、新しいカラーパレットを使用します。

### 注

テーマの中には、たとえば、the half gauge コンポーネントは Graphite テーマでのみ使用できるなど、他のテーマで使用できないコンポーネントのカスタムスタイルが含まれているものもあります。テーマを変更するには、カスタムコンポーネントがカテゴリのデフォルトコンポーネントに変更されます。カスタムコンポーネントを使用する場合、テーマを変更し戻す必要があります。

## テーマを適用する

モデルの外観を変更する場合、テーマを適用し、すべてのコンポーネントのスタイルとプロパティ設定を設定することができます。

- 1 [書式] > [テーマ]をクリックします。
- 2 左パネルの[テーマ]リストから、テーマを選択します。  
[プレビュー]領域に、テーマの画像サンプルが表示されます。
- 3 [OK]をクリックします。  
モデルが変更され、選択したテーマのスタイルとプロパティが使用されます。

新しいテーマは、すべての既存コンポーネントおよび新規コンポーネントに適用されます。個別のコンポーネントを選択し、そのプロパティを変更することができます。

配色(以前のスタイル)は、モデルのコンポーネントで使用されるカラーパレットを変更するものです。配色は、モデル全体に適用することも、特定のコンポーネントのみに適用することもできます。Xcelsius では、モデルに適用できる定義済みの配色が多数提供されています。また、既存の配色やカスタム色の組み合わせに基づいて、独自の配色を作成できます。配色はフォントの色、テキストの書式、またはアラートには影響しません。

**注**

配色は XLF ファイルとともに転送されません。モデルで使用される配色が XLF ファイルで使用できない場合、既存コンポーネントでは引き続きカスタム配色が使用されますが、この配色は新規コンポーネントでは使用できません。カスタム配色を新規コンポーネントに使用するには、新規ファイルでカスタム配色を作成する必要があります。

## 配色を変更する

配色を変更して、モデルの外観を変更することができます。新しい配色は新規コンポーネントのみに適用することも、既存のコンポーネントにも適用することもできます。

- 1 モデルを開きます。
- 2 [書式] > [配色]をクリックします。
- 3 [配色]ダイアログ ボックスで、適用する配色を選択します。

**注**

配色を元の設定に戻すには、[現在のテーマの色]を選択します。

- 4 色の変更をモデルの既存コンポーネントに適用するには、[既存のコンポーネントに適用]をクリックします。
- 5 [OK]をクリックします。

モデルの配色が変更されます。[既存のコンポーネントに適用]オプションを選択した場合、既存のコンポーネントの色が変更されます。それ以外の場合、新しい配色は、キャンバスに新たに追加されたコンポーネントに適用されます。

**ヒント**

配色は、ツールバーで変更することもできます。 ([色])アイコンをクリックし、適用する配色を選択します。リストの下までスクロールし、[既存のコンポーネントに適用]オプションを設定します。

## カスタム配色を作成する

既存の配色のパラメータを変更して、カスタム配色を作成することができます。

- 1 [書式] > [配色]をクリックします。  
[カスタム配色]ダイアログ ボックスが開きます。

- 2 [配色]ダイアログ ボックスで変更する配色を選択し、[新規作成]をクリックします。

#### ヒント

[カスタム配色]ダイアログ ボックスは、ツールバーから開くこともできます。[配色]アイコン  をクリックし、[新しい配色の作成]を選択します。

- 3 [カスタム配色]ダイアログ ボックスで、以下のオプションを設定します。

オプション	説明
名前	新しい配色の名前を入力します。
カラー バー	変更する色をクリックし、カラー セレクタから変更後の色をクリックします。
色の自動一致	Xcelsius で、選択した色に基づいてカラー パレットが選択されるようにするには、パレットの基準となる色を選択し、このオプションを選択します。Xcelsius でパレットを調整し、選択した色に近づけたり、選択した色から遠ざけたりするには、スライダを動かします。
詳細	コンポーネントの特定の要素に対して色を設定する場合、[詳細]をクリックします。[詳細]領域でタブをクリックし、各コンポーネントの要素を照会します。各要素名の隣に表示されるカラー ボックスをクリックし、その要素に適用する色を選択します。

- 4 [保存]をクリックします。

モデルの配色が変更されます。[既存のコンポーネントに適用]オプションを選択した場合、既存のコンポーネントの色が変更されます。それ以外の場合、新しい配色は、キャンバスに新たに追加されたコンポーネントに適用されます。

## モデルのプレビュー

モデルの設計時には、設計をテストし、コンポーネント、色、レイアウトの異なる組み合わせを実験して、データとの連携を調査する必要がある場合があります。モデルのプレビュー時には、公開後と同じような操作を行うことができます。

## モデルをプレビューする

モデルが作成され、ワークスペースで開いています。

公開後と同じようにモデルを参照および操作するため、モデルをプレビューすることができます。

- ・ [ファイル] > [プレビュー]をクリックします。

### ヒント

ツールバーの[プレビュー]をクリックしても、モデルをプレビューすることができます。

Xcelsius でモデルの SWF ファイルが生成され、画面上に表示されます。公開後と同じようにモデルを操作することができます。プレビューを閉じ、作業バージョンのモデルに戻るには、同じステップに従って作業バージョンに切り替えます。

### 関連項目

- ・ 233 ページの「モデルのスナップショットを取る」
- ・ 233 ページの「ビジュアライゼーションのプレビューをエクスポートする」

## ビジュアライゼーションのプレビューをエクスポートする

ビジュアライゼーションが作成され、ワークスペースで開かれています。

ビジュアライゼーションの SWF をエクスポートしてブラウザで表示させる場合、ビジュアライゼーションのプレビューをエクスポートすることができます。

- ・ [ファイル] > [プレビューのエクスポート]をクリックします。

画面に進捗バーが表示されます。

## モデルのスナップショットを取る

モデルが作成され、Xcelsius ワークスペース上に開きます。

モデルをプレビューする際に、モデルと対話することができます。表示を保存する必要がある場合、変更された状態のモデルのデータまたはコンポーネントのスナップショットを取ることができます。

- 1 ツールバーで、[プレビュー]をクリックします。  
Xcelsius は、モデルの SWF ファイルを生成します。
- 2 モデルと対話して、スナップショットを取る際に、[ファイル > スナップショット]をクリックして、次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
現在の Excel データ	<p>現在のデータ値で Excel スプレッドシート(XLS)を生成します。</p> <p>ヒント このオプションは、意図どおりに動作していないモデルを診断するのに役立ちます。</p>
Flash (SWF)	<p>コンポーネントの現在のステータスを表示する Flash (SWF) ファイルを生成します。</p> <p>注 このオプションは、Xcelsius Present では使用できません。</p>
HTML	<p>コンポーネントの現在のステータスを表示する HTML ファイルおよび Flash (SWF) ファイルを生成します。</p> <p>注 このオプションは、Xcelsius Present では使用できません。</p>
PDF	<p>コンポーネントの現在のステータスを表示する Adobe PDF ファイルを生成します。</p>
PowerPoint スライド	<p>コンポーネントの現在のステータスを表示する、1つのスライドに Flash (SWF) ファイルを含む Microsoft PowerPoint ファイルを生成します。</p>
Outlook	<p>Microsoft Outlook の電子メールを開いて、現在のステータスを表示する Flash (SWF) ファイルを新規メッセージに添付します。</p>

[名前を付けて保存]ダイアログ ボックスが表示されます。

- スナップショットの場所とファイル名を入力して、[保存]をクリックします。



# データの操作

Xcelsius には、各モデルに必要なソース データを格納する埋め込みスプレッドシートがあります。ソース データは直接埋め込みスプレッドシートに入力することができ、また Excel からデータをインポートすることもできます。Excel からデータをコピーしてそれを埋め込みスプレッドシートに貼り付けることもできます。埋め込みスプレッドシートへのデータの入力方法に関係なく、データは他のソースとリンクしていません。ソース Excel ファイルを変更しても、埋め込みスプレッドシート内のデータは自動的に変更されません。Excel と Xcelsius のデータを保持する必要がある場合は、両方の場所を変更するか、一方の場所を変更し、変更されたデータを他方にインポートまたはエクスポートする必要があります。

データが埋め込みスプレッドシートに入力されると、モデル内のコンポーネントを埋め込みスプレッドシート内の特定のセルにリンクすることができます。埋め込みスプレッドシート内のセルを外部データソースにリンクして、スプレッドシート内のデータがライブデータソースに基づいて更新されるようにすることもできます。

## 埋め込みスプレッドシートの概要

埋め込みスプレッドシートは、Excel での作業時と同様に使用することができる有用な Excel スプレッドシートです。モデルを特定のデータに関連付けるには、モデルのコンポーネントを埋め込みスプレッドシートのセルにリンクさせます。

### 注

埋め込みスプレッドシートは、すべての Excel 関数をサポートしているわけではありません。マクロ、条件付き書式設定、他の外部スプレッドシートへのリンク、および一部の式関数はサポートされていません。サポートされるすべての式関数の一覧については、246 ページの「[サポートされる Excel の関数](#)」を参照してください。

埋め込みスプレッドシートには、Excel ツールバーが表示されます。Excel 2003 を使用している場合、埋め込みスプレッドシートにはデフォルト ツールバーが表示されます。データの処理に関係のないボタンは無効化されます。たとえば、[保存]、[開く]、および [印刷] オプションは Xcelsius で処理されるため、埋め込みスプレッドシート ツールバーでは無効化されます。Excel 2007 を使用している場合、埋め込みスプレッドシートには Excel スプレッドシートの上部に表示されるリボンが表示されます。データの処理に関係のないボタンやメニューは無効化されます。埋め込みスプレッドシートに Excel の機能を追加するには、Xcelsius でスプレッドシート ツールバーを右クリックし、希望する機能を含むツールバーを追加します。

Xcelsius では、コンピュータで定義された地域書式設定が使用されます。これには、小数点区切り、桁区切り、一般書式名、月、日、年、時間、分、秒、時間区切、日付区切の設定が含まれます。地域書式設定を変更するには、[Windows コントロール パネル]を開き、[地域と言語のオプション]をダブルクリックし、設定を調整して[OK]をクリックします。

モデルでの作業中、キャンパスの下に埋め込みスプレッドシートを表示させることができます。それにより、データを容易に参照し、コンポーネントをスプレッドシート内のセルにバインドすることができます。埋め込みスプレッドシートは Excel から完全に独立しており、Excel からのインポートまたは再インポートを行わずに、埋め込みスプレッドシート内でデータを直接追加、変更、および削除することができます。

埋め込みスプレッドシートでデータを設定するには、以下を実行することができます。

- ・ Excel からスプレッドシートをインポートします。241 ページの「[Excel スプレッドシートをインポートする](#)」を参照してください。
- ・ Excel スプレッドシートを開き、データをコピーして埋め込みスプレッドシートに貼り付けます。242 ページの「[Excel と Xcelsius との間でデータをコピーする](#)」を参照してください。
- ・ データを埋め込みスプレッドシートに手動で入力します。

## Xcelsius に対する Excel の準備

Excel スプレッドシートを Xcelsius にインポートする前に、そのスプレッドシートの構造が Xcelsius においてモデルの最高のパフォーマンスを達成するのに適していることを確認します。以下のガイドラインを考慮します。

- ・ サポートされている Excel 関数のみを使用する  
サポートされている Excel 関数のリストについては、246 ページの「[サポートされる Excel の関数](#)」を参照してください。
- ・ 一部の Excel 関数は必ず小さなデータ セットとともに使用する

以下の Excel 関数は Xcelsius でサポートされていますが、大きなデータ セット(100 行超)とともに使用した場合、モデルのパフォーマンスに影響する可能性があります。

- ・ SUMIF
- ・ COUNTIF
- ・ HLOOKUP
- ・ VLOOKUP

**注**

大きなデータセットにアクセスする必要がある場合、サーバーまたはデータベースでサーバー側の集計を実行させます。

- ・ データを論理的に体系化する  
スプレッドシートを分かりやすくするためには、データを論理的にレイアウトします。関連するアイテムをグループ化し、色、ラベル、罫線を使用してセルの構造と機能を表します。
- ・ 色、ラベル、罫線を使用してデータタイプ(入力と出力)を識別する  
ビジュアルモデルの管理を容易にするため、色、ラベル、罫線を使用してスプレッドシートのセルまたはセル範囲を識別し、その用途を表します。色の意味を示す凡例を追加すると、モデルの整合性と使いやすさの維持に役立ちます。
- ・ 頻繁に使用するデータとロジックをスプレッドシートの上部に配置する  
コンポーネントにバインドするデータの選択を容易にし、スクロールの必要性を最小限に抑えるため、頻繁に使用するか、一般的であるロジックまたはデータをスプレッドシートのタブの左上に配置します。
- ・ 複数のタブを使用する  
スプレッドシートが大きくなり、データを照会するのに長いスクロールが必要となる場合、データを複数のタブ(またはワークシート)に分割することを検討します。

## 埋め込みスプレッドシートの基本設定を設定する

- 1 [ファイル] > [基本設定]をクリックします。
- 2 [基本設定]ダイアログ ボックスで、左側のリストから[Excel のオプション]をクリックします。
- 3 [Excel のオプション]ダイアログ ボックスで、次のオプションを選択します。

オプション	説明
Live Office 互換	<p>Xcelsius において、LiveOffice 対応のスプレッドシートを使用できるようにします。このオプションを有効にした場合、その他の Microsoft Office プログラムのパフォーマンスに影響する可能性があります。このオプションが有効にされていない場合、LiveOffice を Xcelsius の外のスプレッドシートで設定および使用し、そのスプレッドシートを Xcelsius にインポートする必要があります。</p> <p>Xcelsius Enterprise でのみ使用可能</p>
最大行数	<p>このオプションを使用して、選択し、コンポーネントにバインドできる埋め込みスプレッドシートの行数を設定します。</p> <p>Xcelsius が範囲選択でサポートする行数に制限はありませんが、コンポーネントを大きな範囲選択にリンクさせると、モデルのパフォーマンスに影響する可能性があります。デフォルトでは、範囲において最大 512 行を選択することができます。</p>
スプレッドシートの最適化	<p>このオプションを使用して、ランタイムのスプレッドシートを最適化します。このオプションが有効にされている場合、モデルをエクスポートし、それらを SWF で保存すると、Xcelsius によってモデルの式が計算されます。SWF の生成には時間がかかりますが、計算はすでに完了しているため、ランタイムでのファイルのパフォーマンスは向上します。</p>
Excel の式のエラーを無視	<p>このオプションを使用して、スプレッドシートにおける式のエラーが原因で、モデルにエラーが表示されないようにします。このオプションが選択されている場合、式のエラーを含むすべてのセルが空白のセルとして扱われます。</p> <p>注 式のエラーが無視されると、エラーがあるセルを参照する ISERROR などの関数が埋め込みスプレッドシートで正しく機能しません。</p>

4 [OK]をクリックします。

変更がスプレッドシートに適用されます。

関連項目

- ・ 237 ページの埋め込みスプレッドシートの概要」

## Excel と Xcelsius 間のデータの同期化

Xcelsius の埋め込みスプレッドシートは、Excel スプレッドシートからインポートされたソース データと結びつけられていません。ある場所でデータを変更しても、別の場所のデータは自動的に更新されません。Xcelsius と Excel のデータの同期コピーを維持するために、変更されたデータを Excel にエクスポートし直すか、変更されたセルをコピーしてソース スプレッドシートに貼り付けることができます。

関連項目

- ・ 245 ページの「Excel にデータをエクスポートする」
- ・ 242 ページの「Excel と Xcelsius との間でデータをコピーする」

## Excel スプレッドシートをインポートする

既存の Excel スプレッドシートをモデルのソース データとして使用する場合、スプレッドシートを Xcelsius にインポートすることができます。

警告

Excel スプレッドシートをインポートすると、埋め込みスプレッドシートに現在存在するデータはすべて上書きされます。コンポーネントがすでに埋め込みスプレッドシートのセルにバインドされている場合、インポート時にセルのバインド場所は変わりませんが、データが変更される可能性があります。

注

Excel ファイルをインポートすると、データがコピーされ、元のデータとの繋がりはなくなります。元のソース ファイルを編集しても、Xcelsius にインポートされたデータは変更されません。

1 [データ] > [インポート]をクリックします。

注

また、ツールバーの  ([インポート モデル]) アイコンを使用してファイルをインポートすることもできます。

- 2 [警告]ダイアログ ボックスで、[はい]をクリックします。
- 3 インポートするスプレッドシートを選択し、[OK]をクリックします。

選択した Excel スプレッドシートのデータが、埋め込みスプレッドシートに追加されません。

## Excel と Xcelsius との間でデータをコピーする

Xcelsius モデルで使用するデータを含む Excel スプレッドシートがあります。

Excel スプレッドシートから埋め込みスプレッドシートに、スプレッドシート全体をインポートすることなくデータを追加するには、必要なデータを Excel でコピーし、埋め込みスプレッドシートに貼り付けることができます。

Xcelsius と Excel の間でのみ、データのコピーと貼り付けを行うことができます。デスクトップでは Xcelsius のインスタンスを 2 つ開き、各埋め込みスプレッドシートのデータを照会することができますが、1 つの Xcelsius インスタンスにおける埋め込みスプレッドシートのデータをコピーし、それをデスクトップで開いているもう 1 つの Xcelsius インスタンスにおける埋め込みスプレッドシートに貼り付けることはできません。

### 注

Excel スプレッドシートのセルをコピーした場合、値と式を埋め込みスプレッドシートに貼り付けることができますが、条件付き書式設定は保持されません。

- 1 デスクトップで Xcelsius を開き、データを追加するモデルをロードします。
- 2 デスクトップで Excel を開き、データをコピーするスプレッドシートをロードします。
- 3 Excel で、埋め込みスプレッドシートに追加するセルを選択し、コピーします。
- 4 Xcelsius で、データを貼り付けるセルを選択し、右クリックして、[貼り付け]を選択します。

コピーされたセルが埋め込みスプレッドシートに貼り付けられます。

### 関連項目

- 241 ページの「Excel スプレッドシートをインポートする」

## コンポーネントとデータのリンク

モデルを作成する場合、コンポーネントを埋め込みスプレッドシートの特定のセルにリンクまたはバインドする必要があります。コンポーネントの要素を、ラベルを指定するセルまたはデータ値や式を含むセルにバインドすることができます。また、コンポーネントの要素はバインドされたセルからデータを取得するか、ユーザー入力またはその他の計算に基づいてそれらのセルに値を入力します。外部データ接続を追加する場合、データが埋め込みスプレッドシートに挿入されるよう外部接続を設定する必要があります。その場合、外部ソースからのデータを使用するコンポーネントは、外部接続によって更新されたセルにバインドされます。

- たとえば見出し行をスプレッドシートに挿入するため、コンポーネントにバインドされた範囲を移動させる場合、Xcelsius では新規情報が保持され、新規範囲への参照が変更されます。ただし、範囲の一部のみを移動させる場合、バインドされたセルのセル参照は更新されず、コンポーネントの[プロパティ]パネルを開き、それを新しい場所に再リンクさせる必要があります。

### 注

範囲を移動させ、セルを挿入して範囲を拡大するか、セルを削除して範囲を縮小しても、[プロパティ]パネルには変更された範囲値が表示されません。ただし、モデルをプレビューまたは公開すると、コンポーネントでは新しい範囲値が使用されます。

- コンポーネントにバインドされたデータの並べ替え順序を変更した場合、モデルをプレビューまたはエクスポートすると、コンポーネントの表示が更新されます。設計モードにおいて、コンポーネントで新しい並べ替え順序が表示されるようにするには、コンポーネントを並べ替えられたセルに再バインドします。

スプレッドシートのデータが頻繁に変更されるものの、その構造は変化しない場合、外部 Excel スプレッドシートのデータに基づいて SWF ファイルを生成することができます。たとえば、同じスプレッドシート レイアウトと異なる値を使用し、複数の顧客に対して同じモデルを生成する必要がある場合、モデルを作成し、コンポーネントを埋め込みスプレッドシートのセルにリンクさせた後、外部 Excel ファイルをデータソースとして使用し、SWF ファイルをエクスポートするオプションを設定することができます。それにより、各顧客について外部ファイルのデータを更新し、スプレッドシートを再アップロードせずにモデルを生成して、コンポーネントを再リンクさせることができます。

## コンポーネントを埋め込みスプレッドシートにバインドする

コンポーネントを埋め込みスプレッドシートのセルにリンクする場合、コンポーネントの[プロパティ]パネルでそれらのセルへの参照を設定します。埋め込みスプレッドシ-

トにバインドできる各フィールドの右側には、[セル セレクタ]アイコン(  )が表示されています。各コンポーネントに対して提供されているオプションの詳細については、44 ページの「[Xcelsius 2008 コンポーネントの使用](#)」セクションを参照してください。

#### 注

Xcelsius がサポートする範囲選択の行数に制限はありません。ただし、コンポーネントを大きな選択範囲とリンクさせた場合、モデルのパフォーマンスに影響する可能性があります。デフォルトでは、範囲において最大 512 行を選択することができます。この値を選択する場合、239 ページの「[埋め込みスプレッドシートの基本設定を設定する](#)」を参照してください。

- 1 キャンバスで、埋め込みスプレッドシートにリンクさせるコンポーネントをダブルクリックします。

コンポーネントの[プロパティ]パネルが開きます。[プロパティ]パネルが表示されていない場合、マウス ポインタを[プロパティ]パネル タブに合わせて拡張します。

- 2 スプレッドシートにリンクさせるフィールドを含むタブをクリックします。

#### 注

多くのコンポーネントでは、[一般]ビューと[動作]ビューのフィールドをスプレッドシートにバインドすることができます。

- 3 フィールドの右側に表示されている[セル セレクタ]アイコン(  )をクリックします。

[範囲の選択]ダイアログ ボックスが開きます。

- 4 埋め込みスプレッドシートで、そのフィールドにバインドするセルまたはセルの範囲を選択します。

[範囲の選択]ボックスが、選択したセルを参照するよう更新されます。

- 5 [範囲の選択]ダイアログ ボックスで、[OK]をクリックします。

コンポーネントが、指定されたセルを参照するよう更新されます。

## XML データ ソースを使用して SWF ファイルを生成する

モデルが作成され、コンポーネントが埋め込みスプレッドシートのセルにリンクされています。

同じスプレッドシート構造と異なる値を使用して同じモデルを生成する必要がある場合、外部データ ソースを使用して SWF をエクスポートすることができます。

**注**

このオプションでは、埋め込みスプレッドシートのデータは更新されず、外部ファイルからデータが取得され、SWF ファイルが生成されるだけです。モデルをプレビューするか、別の形式にエクスポートする場合、Xcelsius では埋め込みスプレッドシートのデータが使用されます。また、外部スプレッドシートの構造と埋め込みスプレッドシートの構造が一致する必要があります。外部スプレッドシートで列または行の追加や削除を行った場合、それらの変更は生成される SWF ファイルでは反映されません。スプレッドシートの構造を変更するには、スプレッドシートの再インポートとコンポーネントの再リンクが必要です。

- 1 [ファイル] > [エクスポート設定]をクリックします。  
[エクスポート設定]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 [別の Excel ファイルを使用]オプションを選択し、リストでファイル フォルダをクリックして、使用するスプレッド シートファイルを選択します。

**注**

スプレッドシートの構造は、埋め込みスプレッドシートの構造と同じである必要があります。

[OK]をクリックします。

- 3 [ファイル] > [エクスポート] > [Flash (SWF)]をクリックします。  
[名前を付けて保存]ダイアログ ボックスが表示されます。
- 4 SWF ファイルのパスと名前を入力し、[OK]をクリックします。  
外部 Excel スプレッドシートのデータを使用して、SWF ファイルが作成されます。

## Excel にデータをエクスポートする

データを Excel の埋め込みスプレッドシートで表示するか、埋め込みスプレッドシートと Excel ソース ファイルとの間でデータを同期する必要がある場合、Microsoft Excel で開けるようにデータを Excel 形式で保存することができます。

- 1 [データ] > [エクスポート]をクリックします。  
[名前を付けて保存]ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 Excel ファイルのパスと名前を入力し、[OK]をクリックします。  
埋め込みスプレッドシートのデータが、Excel 形式で指定された場所に保存されます。

## サポートされる Excel の関数

Xcelsius 2008 は次の Excel 関数をサポートします。

ABS	ACOS	ACOSH	ADDRESS	AND	ASIN
ASINH	ASSIGN	ATAN	ATAN2	ATANH	AVEDEV
AVERAGE	AVERAGEA	AVERAGEIF	BETADIST	CEILING	CHAR
CHOOSE	CODE	COLUMN	COLUMNS	COMBIN	CONCATENATE
CORREL	COS	COSH	COUNT	COUNTA	COUNTBLANK
COUNTIF	COVAR	DATE	DATEVALUE	DAVERAGE	DAY
DAYS360	DB	DCOUNT	DCOUNTA	DDB	DEGREES
DEVSQ	DGET	DIVIDE	DMAX	DMIN	DOLLAR
DPRODUCT	DSTDEV	DSTDEVP	DSUM	DVAR	DVARP
EDATE	EFFECT	EOMONTH	EVEN	EXACT	EXP
EXPONDIS	FACT	FACTDOUBLE	FALSE	FIND	FISHER
FISHERINV	FIXED	FLOOR	FORECAST	FV	GE
GEOMEAN	GT	HARMEAN	HLOOKUP	hour	IF
IFERROR	INDEX	INDIRECT	INT	INTERCEPT	IPMT

IRR	ISBLANK	ISERR	ISERROR	ISEVEN	ISLOGICAL
ISNA	ISNON-TEXT	ISNUMBER	ISODD	ISTEXT	KURT
LARGE	LE	LEFT	LEN	LN	LOG
LOG10	LOOKUP	LOWER	MATCH	MAX	MAXA
MEDIAN	MID	MIN	MINA	MINUS	MINUTE
MIRR	MOD	MODE	MONTH	N	NE
NET-WORK-DAYS	NORMDIST	NORMINV	NORMSINV	NOT	NOW
NPER	NPV	OFFSET	OR	PEARSON	PERCENTILE
PERCENTRANK	PERMUT	PI	PMT	POWER	PPMT
PRODUCT	PV	QUARTILE	QUOTIENT	RADIANS	RAND
RANDBETWEEN	RANDBETWEEN	RANK	RATE	REPLACE	REPT
RIGHT	ROUND	ROUNDDOWN	ROUNDUP	ROW	ROWS
RSQ	SECOND	SIGN	SIN	SINH	SLN
SLOPE	SMALL	SQRT	STANDARDIZE	STDEV	STDEVA
STDEVP	SUBTOTAL	SUM	SUMIF	SUMPRODUCT	SUMSQ
SUMX2MY2	SUMX2PY2	SUMXMY2	SYD	TAN	TANH
TEXT	TIME	TIMEVALUE	TODAY	TRUE	TRUNC

TYPE	VALUE	VAR	VARA	VARP	VARPA
VDB	VLOOKUP	WEEK-DAY	WEEKNUM	WORK-DAY	YEAR
YEAR-FRAC					

## 外部データソースの使用

### 注

外部データソースは、Xcelsius Present で使用できません。

Xcelsius 2008 では、外部データソースにモデルを接続できます。モデルの実行時に、データが外部データソースから更新されるので、モデルが、ダッシュボード作成時に使用可能であった情報ではなく現在の情報に基づくこととなります。

データマネージャは、すべてのデータソースを追加し設定できる、中央化された場所です。

## データ接続の管理

### 制限

データマネージャは Xcelsius Present では使用できません。

[データマネージャ]は、Flash 変数や XML マップなどのモデルにすべての接続オプションを管理し設定する、中央の場所を提供します。

[データマネージャ]を使用して、複数のタイプの XML 互換データ接続をモデルに追加することができます。さらに、モデルを開く際に、データマネージャが既存の接続タイプを検出します。Excel XML マップおよび Live Office接続(Xcelsius Enterpriseでのみサポート)は、新規接続としての追加に使用できず、Xcelsius の外部で作成されたデータソース内の既存接続としてサポートされます。

### 注

モデルで既存接続の一覧を確認するには、モデルを開いて[データ] > [接続]をクリックして、[データマネージャ]ダイアログボックスを開きます。[データマネージャ]ダイアログボックスで、[追加]をクリックします。既存の接続が[既存の接続]の下にリストされます。

Xcelsius Engage では、モデルは複数の接続を持つことができますが、以下の接続タイプごとに 1 つの接続のみ可能です。

- ・ Web サービス接続
- ・ XML データ
- ・ Flash 変数
- ・ Crystal Reports データ コンシューマ

これらの接続タイプのいずれかをモデルに追加した後は、その接続タイプは接続タイプのリストからなくなり、再びモデルに追加することはできません。

#### 注

外部接続をモデルに追加する場合、Adobe Flash Player セキュリティの制限がモデルを実行するユーザー能力に影響する可能性があります。詳細については、321 ページの「[Adobe Flash Player のセキュリティ制限](#)」を参照してください。

Xcelsius は次のタイプの接続をサポートします。

接続タイプ	説明
QaaWS	<p>注 Xcelsius Enterprise でのみ使用可能です。</p> <p>Query as a Web Service (QaaWS) は、SAP BusinessObjects Enterprise に対するクエリのカスタム Web サービスを作成できるようにするツールです。QaaWSを使用して、ユニバースからのクエリを定義して、そのクエリをスタンドアロン Web サービスに発行することができます。Xcelsius Enterprise では、QaaW 接続を作成して、モデルが安全に Web サービスに接続できるようにします。</p> <p>QaaWS の作成方法についての詳細は、SAP BusinessObjects Enterprise の下の SAP Help Portal (<a href="http://help.sap.com">help.sap.com</a>) から入手できる『Query as a Web Service ガイド』を参照してください。</p> <p>QaaWS 接続を設定する場合の詳細については、254 ページの「<a href="#">QaaWS 接続を設定する</a>」を参照してください。</p>
Web サービス	<p>Web サービスは、HTTP プロトコルを使用したネットワークを通じた相互運用可能な対話をサポートします。Web サービスをモデルに追加する際に、データへのライブ接続があります。</p> <p>Web サービス接続を設定する場合の詳細については、258 ページの「<a href="#">Web サービス接続を設定する</a>」を参照してください。</p>
XML データ	<p>XML データ接続は、HTTP を通じて外部ソースへ接続します。この接続をモデルに追加した場合は、データをサーバー スクリプトに送信するとその日の売上合計がスクリプトによって返されるなど、ライブ モデル データを外部ソースに送信して特定の情報を要求することができます。</p> <p>XML データ接続を設定する場合の詳細については、262 ページの「<a href="#">XML サービス接続を設定する</a>」を参照してください。</p>
Flash 変数	

接続タイプ	説明
	<p>Flash 変数は、HTML から Flash ムービーの _root レベルにデータや変数を渡すことのできる方法を提供します。SWF を HTML としてエクスポートする際に、Flash 変数が OBJECT および EMBED タグで生成されます。</p> <p>注</p> <p>Flash 変数は安全ではありません。Flash 変数を通じて、パスワードなどの機密情報を送信しないでください。</p> <p>Flash 変数接続を設定する場合の詳細については、266 ページの「<a href="#">Flash 変数接続を設定する</a>」を参照してください。</p>
ポータルデータ	<p>注</p> <p>Xcelsius Engage では使用できません。</p> <p>ポータル データ接続により、モデルのパラメータを定義したり、SAP BusinessObjects Dashboard Builder、IBM WebSphere、Microsoft Sharepoint などの別の Web パーツとの間でデータを送受信したりすることが可能になります。ポータル接続は、別の Web パーツ (コンシューマ) からのデータを受信し、別の Web パーツ (プロバイダ) にデータを提供するように設定するか、ユーザーが実行時にパラメータ値を定義することができるようになります。</p> <p>ポータル データ接続を設定する場合の詳細については、267 ページの「<a href="#">ポータル データ接続の設定</a>」を参照してください。</p>
Crystal Reports データ コンシューマ	<p>Crystal Reports データ コンシューマ接続により、Crystal Reports からの情報を取得して、Crystal Reports が Crystal Reports データを Xcelsius モデルとバインドするために使用する SWF ファイル内にメタデータを埋め込むことができるようになります。</p> <p>Crystal Reports データ コンシューマを設定する場合の詳細については、274 ページの「<a href="#">Crystal レポート データ コンシューマ接続を設定する</a>」を参照してください。</p>

接続タイプ	説明
FS コマンド	<p>FS コマンド接続により、Flash FS コマンドをモデルに含めることができるようになります。FS コマンドにより、Flash が Web ブラウザ内で JavaScript を実行できるようになります。</p> <p>注</p> <p>Xcelsius 2008 では、外部インターフェイス接続が、Web ブラウザ内で JavaScript を使用したデータ転送で優先される接続です。FS コマンドをモデルで使用する場合は、Adobe Flash のセキュリティ制限を考慮してください。詳細については、324 ページの「<a href="#">FSCommand の制限</a>」を参照してください。</p> <p>FS コマンド接続を設定する場合の詳細については、を参照してください。</p>
LDCS	<p>LiveCycle Data Services (LCDS) 接続は、Adobe LiveCycle Data Services を通じてリアルタイム データを流します。LDCS 接続がビジュアライゼーションに追加される際に、データ変更がソースで発生するとモデルにプッシュされます。</p> <p>LDCS 接続を設定する場合の詳細については、276 ページの「<a href="#">LCDS 接続を設定する</a>」を参照してください。</p>

接続タイプ	説明
外部インターフェイス	<p>外部インターフェイス接続により、埋め込みスプレッドシート内で選択されたデータ範囲を公開して、HTML Web ページに SWF ファイルが埋め込まれている場合 JavaScript を使用して SWF ファイルにデータを転送することができるようになります。</p> <p>外部インターフェイス接続を設定する場合の詳細については、を参照してください。</p>
Excel XML マップ	<p>XML マップのある Excel スプレッドシートをインポートする際に、Xcelsius は XML ファイルの定義された構造と、スプレッドシート何でのデータのマッピング方法を保持します。Excel XML マップ接続をモデルに含める際に、モデルがロードされるたび、指定の間隔、またはユーザが最新表示をクリックすると、データは XML ファイルから動的に最新表示になります。</p> <p>Excel データ マップ接続を設定する場合の詳細については、279 ページの「<a href="#">Excel XML マップの操作</a>」を参照してください。</p>
Live Office	<p>注</p> <p>Xcelsius Enterprise でのみ使用可能</p> <p>LiveOffice を有効にした Excel スプレッドシート(管理されている Crystal Reports または Web Intelligence データから作成された Excel スプレッドシート)からモデルを作成する場合、Live Office 接続により、ソース データに対してモデルを最新表示可能にすることができるようになります。</p> <p>287 ページの「<a href="#">LiveOffice データ接続の使用</a>」</p>

関連項目

- ・ [248 ページの外部データ ソースの使用](#)

## 外部データ接続を追加する

外部ソースのデータに基づいてモデルのデータを更新する場合、データ マネージャを使用して外部データ接続を追加することができます。

### 警告

モデルが外部データソースに接続されている場合、モデルの実行時には、Adobe のセキュリティ制限が適用されます。モデルがローカルで実行される場合、SWF ファイルまたはホスト アプリケーション ファイルを信頼する必要があります。ファイルが Web サーバーで実行している場合、クロスドメイン ポリシー ファイルが必要です。詳細については、321 ページの「[Adobe Flash Player のセキュリティ制限](#)」を参照してください。

- 1 [データ] > [接続]をクリックします。  
[データ マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 [データ マネージャ]ダイアログ ボックスで[追加]をクリックし、リストから接続タイプを選択します。
- 3 接続を設定します。

## データ接続を削除する

データ マネージャを使用して、モデルからデータを削除することができます。

- 1 [データ] > [接続]をクリックします。  
[データ マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 削除する接続を選択し、接続一覧の下部にある[削除]ボタン(  )をクリックします。

選択した接続がモデルから削除されます。

## QaaWS 接続を設定する

QaaWS (Query as a Web Service) を使用して Web サービスが作成され、その Web サービスにアクセスするための URL が設定されています。

### 注

このデータ接続は、Xcelsius Enterprise でのみ使用できます。

QaaWS 接続を使用し、SAP BusinessObjects Enterprise のデータへの (Web サービスを使用した) ライブ接続を作成します。

**警告**

外部データ接続をモデルに含める場合、Adobe Flash Player のセキュリティ制限により、ユーザーがデータソースにアクセスできなくなる可能性があります。詳細については、321 ページの「[Adobe Flash Player のセキュリティ制限](#)」を参照してください。

- 1 [データ] > [接続] をクリックします。  
[データ マネージャ] ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 [データ マネージャ] ダイアログ ボックスで [追加] をクリックし、[Query as a Web Service] を選択します。
- 3 [定義] タブで、次のオプションを設定します。

オプション	説明								
名前	接続の名前。								
WSDL URL	QaaWS によって生成された WSDL の URL を入力するか、リストから URL を選択します。[インポート] をクリックします。  モデルが QaaWS にリンクされます。QaaWS で定義されたメソッド、Web サービス URL、入力値、出力値が、ページの関連項目に表示されます。								
メソッド	WSDL のインポート時に、このリストに Web サービスで定義されたメソッドが表示されます。								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方法</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>『 <a href="#">help.sap.com</a> 』</td> </tr> <tr> <td></td> <td>『 <a href="#">help.sap.com</a> 』</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	方法	説明		『 <a href="#">help.sap.com</a> 』		『 <a href="#">help.sap.com</a> 』		
	方法	説明							
		『 <a href="#">help.sap.com</a> 』							
	『 <a href="#">help.sap.com</a> 』								

オプション	説明
Web サービス URL	<p>WSDL のインポート時に、このボックスに QaaWS で定義された Web サービス URL が表示されます。</p> <p><b>ヒント</b> Flash 変数を使用して Web サービス URL の値を制御する場合、WSDL によって提供された URL を埋め込みスプレッドシートのセルにコピーすることができます。次に、セル セレクタ アイコン (  ) をクリックして、[Web サービス URL] をそのセルにリンクさせます。別のサーバーを指定するには、別の URL を使用してセルを更新するよう Flash 変数を設定することができます。</p>
入力値	<p>WSDL のインポート時に、Web サービスに対して定義された必須の入力およびプロンプトがこのリストに表示されます。各プロンプトの値を設定するには、リストから入力オブジェクトを選択し、[読み取り元] オプションを設定して Xcelsius モデルにマッピングします。</p> <p><b>注</b> QaaWS 入力オブジェクトには、Business Objects のユーザー ID とパスワードが含まれています。Xcelsius により、必要に応じてユーザーにこれらの値の入力を要求するログオン画面が生成されます。これらのプロンプトの値と動作は、QaaWS で定義された認証設定に基づきます。これらの項目を特定の値に設定しない場合、通常はこのページで値を指定したり、Xcelsius™ モデルにマッピングしたりする必要はありません。</p> <p><b>警告</b> ここに特定のユーザー名とパスワード値を入力する場合、それらの値は暗号化されずに XLF ファイルおよび SWF ファイルに保存されます。セキュリティ上の理由から、これらの入力項目には特定の値を入力しないのが賢明です。</p>

オプション	説明
読み取り元	<p>入力値リストに QaaWS で定義されたプロンプトが含まれている場合、入力項目を選択してセルセレクトアイコン (  ) をクリックして、選択したオブジェクトが値を取得するセルを埋め込みスプレッドシートから選択します。</p>
出力値	<p>WSDL のインポート時に、QaaWS における結果オブジェクトの出力パラメータが、QaaWS によって作成されたいくつかの追加パラメータとともにこのリストにツリー構造で表示されます。QaaWS Web サービスを使用している場合、結果オブジェクトの出力は、テーブルノードの行ノードに保存されます。</p> <p>注 結果オブジェクトのデータタイプを照会するには、マウスポインタをオブジェクトに合わせます。</p> <p>各オブジェクトの結果値をモデルに追加するには、リストから出力オブジェクトを選択し、[挿入先]オプションを設定して Xcelsius モデルにマッピングします。</p> <p>また、1 つの保存フォルダに含まれるすべてのオブジェクトを、1 ステップでマッピングすることもできます。保存フォルダのオブジェクトに対して必要な列数を照会するには、そのフォルダをクリックします。次に、セルセレクトアイコン (  ) をクリックして、指定された列数に対して十分な大きさの範囲をスプレッドシートで選択します。必要な行数は、予想される受信データ量に依存します。</p>
挿入先	

オプション	説明
	<p>選択した出力値に対し、[セル セレクタ]アイコンをクリックし、QaaWS によって取得された値を保存するセルを埋め込みスプレッドシートから選択します。</p> <p>注 デフォルトでは、Xcelsius において、取得し、埋め込みスプレッドシートに挿入できる最大行数は 512 行です。許可される行数を増やす方法については、239 ページの「<a href="#">埋め込みスプレッドシートの基本設定を設定する</a>」を参照してください。</p>

- 4 [用法]タブをクリックし、最新表示およびメッセージ オプションを設定します。詳細については、283 ページの「[最新表示オプションを設定する](#)」および285 ページの「[ロード メッセージとアイドル メッセージを作成する](#)」を参照してください。

データを Xcelsius で利用できるようになったら、コンポーネントをデータにマッピングする必要があります。コンポーネントの QaaWS へのマッピングは、埋め込みスプレッドシートへのマッピングと同じです。データへのコンポーネントのマッピングの詳細については、243 ページの「[コンポーネントとデータのリンク](#)」を参照してください。

#### 関連項目

- ・ 248 ページの[データ接続の管理](#)
- ・ 254 ページの[外部データ接続を追加する](#)

## Web サービス接続を設定する

Web サービスが作成され、WSDL URL が設定されています。

#### 注

このデータ接続は、Xcelsius Enterprise でのみ使用できます。

Web サービス接続を使用し、モデルへの (Web サービスを使用した)ライブ サービス接続を追加します。

#### 警告

外部データ接続をモデルに含める場合、Adobe Flash Player のセキュリティ制限により、ユーザーがデータソースにアクセスできなくなる可能性があります。詳細については、321 ページの「[Adobe Flash Player のセキュリティ制限](#)」を参照してください。

#### ヒント

Web サービスを使用して SAP BusinessObjects Enterprise に接続する場合、QaaWS 接続を使用します。

- 1 [データ] > [接続]をクリックします。  
[データ マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 [データ マネージャ]ダイアログ ボックスで[追加]をクリックし、[Web サービス]を選択します。
- 3 [定義]タブで、次のオプションを設定します。

オプション	説明
名前	接続の名前を入力します。
WSDL URL	<p>Web サービスによって生成された WSDL の URL を入力するか、リストから URL を選択します。[インポート]をクリックします。</p> <p>モデルが Web サービスにリンクされ、Web サービスで利用できるメソッド、Web サービス URL、入力値、出力値がそれらのリストに追加されます。</p>
メソッド	利用可能なメソッドは、WSDL URL ボックスで指定された WSDL によって定義されます。複数のメソッドがある場合、この接続に使用するメソッドを選択します。
Web サービス URL	<p>利用可能な URL は、WSDL URL ボックスで指定された WSDL ファイルによって定義されます。この接続に使用する URL を選択します。モデルの実行時には、WSDL URL ではなくこの URL が使用されます。</p> <p><b>ヒント</b></p> <p>Flash 変数を使用して Web サービス URL の値を制御する場合、WSDL によって提供された URL を埋め込みスプレッドシートのセルにコピーすることができます。次に、セル セレクタ アイコン (  ) をクリックして、[Web サービス URL] をそのセルにリンクさせます。別のサーバーを指定するには、別の URL を使用してセルを更新するよう Flash 変数を設定することができます。</p>
入力値	WSDL のインポート時に、Web サービスに対して定義された必須の入力がこのリストに表示されます。各項目の値を設定するには、リストから入力オブジェクトを選択し、[読み取り元] オプションを設定して Xcelsius モデルにマッピングします。

オプション	説明
読み取り元	<p>入力値リストに入力が必要な項目が含まれている場合、入力項目を選択してセルセクタアイコン(  )をクリックして、選択したオブジェクトが値を取得するセルを埋め込みスプレッドシートから選択します。</p>
出力値	<p>WSDL のインポート時に、Web サービスにおける結果オブジェクトの出力パラメータがこのリストに表示されます。</p> <p>注 結果オブジェクトのデータタイプを照会するには、マウスポインタをオブジェクトに合わせます。</p> <p>各オブジェクトの結果値をモデルに追加するには、リストから出力オブジェクトを選択し、[挿入先]オプションを設定して Xcelsius モデルにマッピングします。</p> <p>また、1 つの保存フォルダに含まれるすべてのオブジェクトを、1 ステップでマッピングすることもできます。保存フォルダのオブジェクトに対して必要な列数を照会するには、そのフォルダをクリックします。次に、セルセクタアイコン(  )をクリックして、指定された列数に対して十分な大きさの範囲をスプレッドシートで選択します。必要な行数は、予想される受信データ量に依存します。</p> <p>利用可能な値は、WSDL ファイルによって設定されます。リストから出力オブジェクトを選択し、[挿入先]オプションを設定して Xcelsius モデルにマッピングします。</p> <p>注 この処理を、モデルで使用するすべての値に対して繰り返します。</p>
挿入先	

オプション	説明
	<p>選択した出力値に対し、セル セレクタアイコンをクリックし、Web サービスによって取得された値を保存するセルを埋め込みスプレッドシートから選択します。</p> <p>注 デフォルトでは、Xcelsius において、取得し、埋め込みスプレッドシートに挿入できる最大行数は 512 行です。許可される行数を増やす方法については、239 ページの「<a href="#">埋め込みスプレッドシートの基本設定を設定する</a>」を参照してください。</p>

- 4 [用法]タブをクリックし、最新表示およびメッセージ オプションを設定します。詳細については、283 ページの「[最新表示オプションを設定する](#)」および285 ページの「[ロード メッセージとアイドル メッセージを作成する](#)」を参照してください。
- 5 Web サービス接続において SOAP ヘッダーで転送される情報が必要な場合、[詳細]タブをクリックします。情報を HTML 形式で入力するか、セル セレクタアイコン()をクリックして、情報を含む埋め込みスプレッドシートのセルを選択します。

注

[セル セレクタ]を使用すると、セルのテキスト値に <soap:Header> HTML タグが自動的に追加されます。したがって、選択したセルに含める必要があるのは、たとえば <username>joe</username> <password>1234</password> のみになります。

関連項目

- ・ 248 ページの「[データ接続の管理](#)」
- ・ 254 ページの「[QaaWS 接続を設定する](#)」

## XML サービス接続を設定する

XML データ接続により、HTTP を使用して外部ソースからモデル データを最新表示し、ライブ データをモデルから外部ソースに送信することができます。たとえば、モデルで XML データ接続が設定されている場合、ユーザーはモデルを使用して情報を

送信し、フォームのデータを収集することができます。XML データ接続の設定時には、ソースからデータが最新表示される方法とタイミングを指定することができます。

#### 警告

外部データ接続をモデルに含める場合、Adobe Flash Player のセキュリティ制限により、ユーザーがデータ ソースにアクセスできなくなる可能性があります。詳細については、321 ページの「[Adobe Flash Player のセキュリティ制限](#)」を参照してください。

XML データ接続では、1 つの URL により、機能が同時に送信およびロードされます。送信データは、ロード データを取得する前に URL に送信されます。これによって、送信されたデータと、送信された値に対応して返されるデータを検査するスクリプトを作成できます。Web リクエストの場合とほとんど同様です。たとえば、サーバー スクリプトにある日付が送信されると、そのスクリプトはその日付に対する売上げを返すことができます。

Excel データの範囲は、行列構造を使用して XML にマップされます。たとえば、1 行 3 列の範囲“ExampleRange”は、XML では次のように表現されます。

```
<variable name="ExampleRange">
  <row>
    <column> Row1 Column1 value </column>
    <column> Row1 Column2 value </column>
    <column> Row1 Column3 value </column>
  </row>
</variable>
```

“Row1 Column1 value”はその範囲の第 1 行第 1 列のセルの実際の値になり、以下同様に対応します。

範囲のグループ全体は、<data> タグにカプセル化されます。

モデルのロード中には、逆のプロセスで XML が Excel のデータ範囲に翻訳されます。

#### 注

XML データ接続は、単純な行/列構造に対応しています。より複雑な XML データ ソースにアクセスする必要がある場合は、XML マップ接続を使用します。

- 1 [データ] > [接続]をクリックします。  
[データ マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 [データ マネージャ]ダイアログ ボックスで[追加]をクリックし、[XML データ]を選択します。
- 3 [定義]タブで、次のオプションを設定します。

オプション	説明
名前	接続の名前を入力します。
XML データ URL	<p>XML データの URL を入力するか、セル セクタ アイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシートからセルを選択します。</p> <p>注 ハイパーリンクには”http://”を含めます。</p>
MIME タイプ	複数のタイプがある場合、このデータに使用する MIME タイプを選択します。
ロードを有効にする	<p>このオプションを選択した場合、接続がトリガされた時点で、XML データが指定された URL から指定された範囲にロード (または受信) されます。</p> <p>リストから範囲を選択するか、[追加] アイコン  をクリックして新規範囲を追加し、その範囲の [名前] および [範囲] 値を設定します。</p> <p>[削除] アイコン  をクリックし、リストから範囲を削除します。</p> <p>注 [XML のプレビュー] をクリックして、モデルが外部データソースからデータを受信するために必要な XML の構造を参照することができます。</p>
名前	[ロードを有効にする] オプションを有効にした場合、リストの各範囲に対して名前を入力するか、セル セクタ アイコン (  ) を使用して、埋め込みスプレッドシートから名前を選択します。
範囲	[ロードを有効にする] オプションを選択した場合、リストの各範囲に対して範囲を入力するか、セル セクタ アイコン (  ) を使用して、取得されたデータが保存される範囲を埋め込みスプレッドシートから選択します。

オプション	説明
送信を有効にする	<p>このオプションを選択した場合、接続がトリガされた時点で、指定された範囲の XML データが、指定された URL に送信されます。変換された範囲は、POST メソッドを使用して、HTTP 形式で送信されます。</p> <p>リストから範囲を選択するか、[追加]アイコン  をクリックして新規範囲を追加し、その範囲の[名前]および[範囲]値を設定します。</p> <p>[削除]アイコン  をクリックし、リストから範囲を削除します。</p> <p>注 [XML のプレビュー]をクリックして、モデルが外部データソースにデータを送信するために必要な XML の構造を参照することができます。</p>
名前	<p>[送信を有効にする]オプションを選択した場合、リストの各範囲に対して名前を入力するか、セル セレクタ アイコン (  ) を使用して、埋め込みスプレッドシートから名前を選択します。</p>
範囲	<p>[送信を有効にする]オプションを選択した場合、リストの各範囲に対して範囲を入力するか、セル セレクタ アイコン (  ) を使用して、埋め込みスプレッドシートから範囲を選択します。</p>
指定範囲のインポート	

- [用法] タブをクリックし、最新表示およびメッセージ オプションを設定します。詳細については、283 ページの「最新表示オプションを設定する」および285 ページの「ロード メッセージとアイドル メッセージを作成する」を参照してください。

関連項目

- 248 ページの「データの接続の管理」

## Flash 変数接続を設定する

モデルを HTML にエクスポートする場合、Flash 変数接続を追加し、ロード時に値をモデルに転送することができます。Flash 変数接続の設定時には、名前を指定し、スプレッドシートにおける値の保存場所を定義します。

Flash 変数を使用して、モデルで処理および再利用されるグローバル セッション変数を送信することができます。たとえば、セッショントークン、ユーザー ID、Web サービス URL、他の埋め込みスクリプトまたはコントロールから転送されたパラメータなどを送信することができます。

### 注

Flash 変数は、セキュリティで保護されていません。パスワードなど、取り扱いに慎重を要する情報や機密情報は、Flash 変数を使用して送信しないでください。

SWF を Web ページで実行する場合、Adobe Flash Player を使用して、HTML からデータを直接処理することができます。HTML ページを動的に生成する場合、ロード時に変数を SWF に転送することができます。Java スクリプトを使用し、外部インターフェイス接続を用いてランタイム中に変数を動的に変更することもできます。それにより、他の HTML 埋め込みコントロールが、HTML ページをリロードすることなくデータを SWF に転送できるようになります。

また、Adobe Flash Player を使用することにより、SWF が、ロードされるブラウザまたはパスにおいて、定義済みのパラメータから直接データを処理できるようになります。この方法により、1 つの SWF が別の HTML ページでロードされる別の SWF にパラメータを転送できるようになります。

### 警告

外部データ接続をモデルに含める場合、Adobe Flash Player のセキュリティ制限により、ユーザーがデータソースにアクセスできなくなる可能性があります。詳細については、321 ページの「[Adobe Flash Player のセキュリティ制限](#)」を参照してください。

- 1 [データ] > [接続]をクリックします。  
[データ マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 [データ マネージャ]ダイアログ ボックスで[追加]をクリックし、[Flash 変数]を選択します。
- 3 [定義]タブで、次のオプションを設定します。

オプション	説明
名前	接続の名前を入力します。  数字、文字、下線のみを使用します。名前の最初は数字にせず、また名前にスペースは含めないでください。
変数の形式	変数を XML 形式と CSV 形式のどちらで SWF に送信するのかを選択します。
変数データ	リストから範囲を選択するか、[追加]アイコン <input type="checkbox"/> をクリックして新規範囲を追加し、その範囲の[名前]および[範囲]値を設定します。  [削除]アイコン <input type="checkbox"/> をクリックし、リストから範囲を削除します。
[指定範囲のインポート] ボタン	このボタンを使用して、名前を指定した範囲をスプレッドシートからインポートします。

- [用法]タブをクリックし、最新表示およびメッセージ オプションを設定します。詳細については、283 ページの「最新表示オプションを設定する」および285 ページの「ロード メッセージとアイドル メッセージを作成する」を参照してください。

関連項目

- 248 ページの「データ接続の管理」

## ポータル データ接続の設定

ポータル データ接続により、モデルが SAP BusinessObjects Dashboard Builder、IBM WebSphere、または Microsoft SharePoint 環境に展開された場合に、SWF 間の通信が可能になります。ポータル データ接続は、(データを別の SWF (ポートレット) に送信する) プロバイダ (SharePoint では Web パーツとも呼ばれる) または (別の SWF (ポートレット) からデータを受信する) コンシューマとして設定することができます。また、ポータル データ接続を設定することにより、実行時のユーザー入力を可能にすることもできます。ポータル環境で Xcelsius モデルを展開する方法の詳細については、インストール CD の Portal Integration Kit フォルダにある Portal Integration Kit のマニュアルを参照してください。

**警告**

外部データ接続をモデルに含める場合、Adobe Flash Player のセキュリティ制限により、ユーザーがデータソースにアクセスできない可能性があります。詳細については、321 ページの「[Adobe Flash Player のセキュリティ制限](#)」を参照してください。

**関連項目**

- ・ 248 ページの「[データ接続の管理](#)」

## ポータル コンシューマ/プロバイダ接続を設定する

モデルから別のポートレットにデータが提供されるようにするには、ポータルデータ接続をプロバイダに設定します。別のポートレットからビジュアライゼーションにデータが提供されるようにするには、ポータルデータ接続をコンシューマに設定します。ポータル プロバイダ接続を使用するモデルからの情報を処理できるのは、Xcelsius 2008 ポータル ポートレットのみです。

- 1 [データ] > [接続]をクリックします。
- 2 [データ マネージャ]ダイアログ ボックスで[追加]をクリックし、[ポータル データ]を選択します。
- 3 [定義]タブで、次のオプションを設定します。

オプション	説明
接続タイプ	<p>データを別のポートレットに送信するようこの接続を設定するには、このオプションを“プロバイダ”に設定します。データを別のポートレットから受信するようこの接続を設定するには、このオプションを“コンシューマ”に設定します。</p>
範囲の名前	<p>範囲の名前を入力します。</p> <p>注 この名前は、ポータルにおけるポートレットの接続時に表示されます。名前を指定しなかった場合、この接続はポートレットの接続に使用できません。</p>
範囲の種類	<p>以下のオプションのいずれかを選択し、転送されるデータの量を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ セル - 別の Web パーツの 1 つのセル</li> <li>・ 行 - 複数列を含む 1 つの行</li> <li>・ テーブル - 複数の行と列</li> </ul> <p>通常、モデル間のデータの転送には、セルと行が使用されます。SharePoint では、ポータル一覧からのデータの転送にテーブルが使用されます。</p>
範囲	<p>入力するか、セルセクタアイコン(  )をクリックして、受信データの取得(プロバイダ)または書き込み(コンシューマ)が行われる埋め込みスプレッドシートの領域を選択します。</p>
パラメータ	<p>ユーザーがポータルから設定できるパラメータ範囲を定義します。範囲を追加するには、[プラス]アイコンをクリックし、各範囲を選択して、名前、範囲、種類の値を設定します。</p>

オプション	説明
名前	<p>パラメータの名前を入力するか、セル セレクタ アイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシート内のセルに名前をリンクさせます。</p> <p>注 入力した名前は、SharePoint においてモデルの [プロパティ] ダイアログ ボックスに表示されます。名前を入力しなかった場合、パラメータは SharePoint のパラメーター一覧に含まれません。</p>
範囲	<p>パラメータが設定されるスプレッドシートの領域を入力するか、セル セレクタ アイコン (  ) をクリックして、スプレッドシートから範囲を選択します。</p>

オプション	説明
タイプ	<p>次のパラメータのタイプからいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキスト - XLF においてチャートタイトルなどのテキストベース データを設定します。</li> <li>・ 数値 - アラートレベルなどの数値ベース データを設定します。</li> <li>・ チェック ボックス - セルの値をゼロと 1 の間で切り替えます。このオプションは、動的ディスプレイを使用するコンポーネントの表示または非表示に使用することができます。</li> <li>・ 日付 - XLF 内の日付を定義します。これによって書式が“日付”に設定され、XLF において正しい日付値が使用されます。たとえば、ユーザーはデータ アクセスまたは表示するデータの量に対して日付範囲を設定することができます。</li> <li>・ リスト ボックス - パラメータにユーザーの選択肢を作成することができます。このオプションを使用して、ユーザーが選択できるセット値を指定し、モデルに適したエントリが選択されるようにすることができます。タイプがテキスト、数値、チェック ボックス、日付の場合、ユーザー エントリは制限されません。</li> </ul>
エントリ	<p>[タイプ]リストでリスト ボックスが選択されている場合のみ使用できます。</p> <p>ユーザーがリスト ボックスから選択できる値を設定します。セルセクタアイコン(  )をクリックして、埋め込みスプレッドシートから値を選択します。</p>
デフォルトの選択	<p>[タイプ]リストでリスト ボックスが選択されている場合のみ使用できます。</p> <p>ユーザーがリスト ボックスで選択を行わなかった場合に使用する値を指定します。</p>

- 4 プロバイダ接続を定義する場合、[用法]タブをクリックして最新表示オプションを設定します。最新表示オプションの設定については、283 ページの「[最新表](#)」

「[示オプションを設定する](#)」を参照してください。

関連項目

- ・ 248 ページのデータ接続の管理」
- ・ 267 ページのポータル データ接続の設定」
- ・ 272 ページのユーザー入力のポータル データ接続を設定する」

## ユーザー入力のポータル データ接続を設定する

ユーザーがポータルからカスタマイズできるパラメータを定義するには、[接続タイプ]を“なし”に設定し、ポータル データ接続を設定します。

- 1 [データ] > [接続]をクリックします。
- 2 [データ マネージャ]ダイアログ ボックスで[追加]をクリックし、[ポータル データ]を選択します。
- 3 [定義]タブで、次のオプションを設定します。

オプション	説明
接続タイプ	ユーザー入力についてこの接続を設定する場合、このオプションを“なし”に設定します。
パラメータ	ユーザーがポータルから設定できるパラメータ範囲を定義します。範囲を追加するには、[プラス]アイコンをクリックし、各範囲を選択して、名前、範囲、タイプの値を設定します。
名前	パラメータの名前を入力するか、セル セレクタ アイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシート内のセルに名前をリンクさせます。  入力した名前は、SharePoint においてモデルの[プロパティ]ダイアログ ボックスに表示されます。名前を入力しなかった場合、パラメータは SharePoint のパラメーター一覧に含まれません。
範囲	パラメータが設定されるスプレッドシートの領域を入力するか、セル セレクタ アイコン (  ) をクリックして、スプレッドシートから範囲を選択します。

オプション	説明												
タイプ	次のパラメータ タイプからいずれかを選択します。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="522 343 655 395">オプション</th> <th data-bbox="655 343 1178 395">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="522 395 655 473">テキスト</td> <td data-bbox="655 395 1178 473">XLF においてチャート タイトルなどのテキストベース データを設定します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="522 473 655 560">数値</td> <td data-bbox="655 473 1178 560">アラートレベルなどの数値ベース データを設定します。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="522 560 655 716">チェックボックス</td> <td data-bbox="655 560 1178 716">セルの値をゼロと1 の間で切り替えます。このオプションは、動的ディスプレイを使用するコンポーネントの表示または非表示に使用することができます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="522 716 655 951">日付</td> <td data-bbox="655 716 1178 951">XLF 内の日付を定義します。これによって書式が“日付”に設定され、XLF において正しい日付値が使用されます。たとえば、ユーザーはデータアクセスまたは表示するデータの量に対して日付範囲を設定することができます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="522 951 655 1211">リスト ボックス</td> <td data-bbox="655 951 1178 1211">ユーザーの選択肢をパラメータとして作成することができます。このオプションを使用して、ユーザーが選択できるセット値を指定し、モデルに適したエントリが選択されるようにすることができます。タイプがテキスト、数値、チェック ボックス、日付の場合、ユーザー エントリは制限されません。</td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	テキスト	XLF においてチャート タイトルなどのテキストベース データを設定します。	数値	アラートレベルなどの数値ベース データを設定します。	チェックボックス	セルの値をゼロと1 の間で切り替えます。このオプションは、動的ディスプレイを使用するコンポーネントの表示または非表示に使用することができます。	日付	XLF 内の日付を定義します。これによって書式が“日付”に設定され、XLF において正しい日付値が使用されます。たとえば、ユーザーはデータアクセスまたは表示するデータの量に対して日付範囲を設定することができます。	リスト ボックス	ユーザーの選択肢をパラメータとして作成することができます。このオプションを使用して、ユーザーが選択できるセット値を指定し、モデルに適したエントリが選択されるようにすることができます。タイプがテキスト、数値、チェック ボックス、日付の場合、ユーザー エントリは制限されません。
	オプション	説明											
	テキスト	XLF においてチャート タイトルなどのテキストベース データを設定します。											
	数値	アラートレベルなどの数値ベース データを設定します。											
	チェックボックス	セルの値をゼロと1 の間で切り替えます。このオプションは、動的ディスプレイを使用するコンポーネントの表示または非表示に使用することができます。											
	日付	XLF 内の日付を定義します。これによって書式が“日付”に設定され、XLF において正しい日付値が使用されます。たとえば、ユーザーはデータアクセスまたは表示するデータの量に対して日付範囲を設定することができます。											
リスト ボックス	ユーザーの選択肢をパラメータとして作成することができます。このオプションを使用して、ユーザーが選択できるセット値を指定し、モデルに適したエントリが選択されるようにすることができます。タイプがテキスト、数値、チェック ボックス、日付の場合、ユーザー エントリは制限されません。												
エントリ	<p>[タイプ]リストでリスト ボックスが選択されている場合のみ使用できます。</p> <p>ユーザーがリスト ボックスから選択できる値を設定します。セルセクタアイコン(  )をクリックして、埋め込みスプレッドシートから値を選択します。</p>												

オプション	説明
デフォルトの選択	<p>[タイプ]リストでリスト ボックスが選択されている場合のみ使用できます。</p> <p>ユーザーがリスト ボックスで選択を行わなかった場合に使用する値を指定します。</p>

関連項目

- ・ 248 ページの「データの接続の管理」
- ・ 267 ページの「ポータル データ接続の設定」
- ・ 272 ページの「ユーザー入力のポータル データ接続を設定する」

## Crystal レポート データ コンシューマ接続を設定する

接続する Crystal Reports データに対応するよう、モデルの埋め込みスプレッドシートおよびコンポーネントを設定しました。

Xcelsius モデルを Crystal Reports に埋め込み、モデルのデータを Crystal Reports から受信する場合、Crystal レポート データ コンシューマ接続を追加することができます。

注

モデルに対して追加できる Crystal レポート データ コンシューマ接続は、1 つのみです。

- 1 [データ] > [接続]をクリックします。
- 2 [データ マネージャ]ダイアログ ボックスで[追加]をクリックし、[Crystal レポート データ コンシューマ]を選択します。
- 3 [定義]タブで、次のオプションを設定します。

オプション	説明
行ヘッダー	セル セレクタ アイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシートから行ヘッダー ラベルを選択します。
列ヘッダー	セル セレクタ アイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシートから列ヘッダー ラベルを選択します。
データ	セル セレクタ アイコン (  ) をクリックして、埋め込みスプレッドシートからデータ範囲を選択します。
説明	接続に関するオプションの説明を入力します。

モデルを Flash (SWF) 形式でエクスポートし、SWF を Crystal Reports ファイルに埋め込みます。Crystal Reports において SWF ファイルを Flash データ エクスポートを使用して開くと、Flash データ バインディング エクスポートで [Xcelsius] タブを使用でき、SWF を Crystal Reports データに接続することができます。

### 注

FSCommand の詳細については、Adobe Flash の次のサポートサイトを参照してください。[http://www.adobe.com/support/flash/action\\_scripts/actionsript\\_dictionary/actionsript\\_dictionary372.html](http://www.adobe.com/support/flash/action_scripts/actionsript_dictionary/actionsript_dictionary372.html)

- 1 [データ] > [接続] をクリックします。
- 2 [データ マネージャ] ダイアログ ボックスで [追加] をクリックし、[FS コマンド] を選択します。
- 3 [定義] タブで、次のオプションを設定します。

オプション	説明
名前	接続の名前を入力します。
コマンド	FS コマンドのコマンドを入力するか、セル セレクタ アイコン(  )をクリックして、スプレッドシートからコマンドを選択します。
パラメータ	FS コマンドのパラメータ値を入力するか、セル セレクタ アイコン(  )をクリックして、スプレッドシートから値を選択します。

#### 関連項目

- ・ 248 ページの「データの接続の管理」

## LCDS 接続を設定する

Xcelsius LiveCycle Data Services (LCDS) がシステムにインストールされています。詳細については、Xcelsius インストール パッケージの『LiveCycle Data Services』フォルダに提供されている『LCDS インストール ガイド』を参照してください。また、モデルと埋め込みスプレッドシートが設定され、LCDS への接続が可能です。

Adobe LiveCycle Enterprise Suite ソフトウェアのコンポーネントである Adobe LiveCycle Data Services を使用して、ビジネスデータの最新のビューを提供するには、LCDS 接続をモデルに追加します。LCDS 接続によってリアルタイム データがモデルに提供されるため、ユーザーはデータの最新表示をリクエストする必要がありません。

- 1  > 
- 2 [データ マネージャ]ダイアログ ボックスで[追加]をクリックし、[LCDS 接続]を選択します。
- 3 [定義]タブで、次のオプションを設定します。

オプション	説明
ホスト	<p>リストでこの接続に関連付ける LCDS ホスト接続を選択するか、[ホスト]をクリックして新規ホストを追加します。次に、[ホストを管理]ダイアログ ボックスで[追加]をクリックし、LCDS サーバーのホスト名と URL を http://&lt;サーバー名&gt;:&lt;ポート&gt;/&lt;LCDS コンテキストパス&gt;/xcelsius の形式で入力します。サーバー名は LCDS サーバーの名前、ポートはサーバー ポート番号、LCDS コンテキストパスは仮想ディレクトリのコンテキスト ルートです。たとえば、http://localhost:8700/flex/xcelsius のようになります。</p>
	<p>選択したホストから利用可能なフィード出力先に関する情報を取得するには、[クエリー]をクリックします。</p>
利用可能なデータの出力先	<p>CX モデルにバインドするために利用できるフィード出力先を 1 つ選択します。</p>
詳細	<p>選択したフィード出力先に利用できる設定を拡張するには、[詳細]をクリックします。</p>
現在の出力先 ID	<p>[詳細]をクリックすると、利用することができます。 LCDS フィード出力先の ID 番号。</p>

オプション	説明
現在の出力先チャンネルタイプ	[詳細]をクリックすると、利用することができます。 使用されているチャンネルのタイプ(または通信プロトコル)。
現在の出力先チャンネル URL	[詳細]をクリックすると、利用することができます。 選択したフィード出力先に関連付けられた URL。
出力先データ	このセクションには、選択したホストから利用可能なデータ要素とそのデータタイプ(数値、テキストまたは真/偽)、および形状または構造(シングルトン - 単一値、!D - 値の列または行、2D - 値のテーブル)が一覧にされています。  データ要素を選択してから、右下にあるセル セレクタ アイコン (  ) をクリックして、データが保存される埋め込みスプレッドシート内の範囲を選択します。

**警告**

外部データ接続をモデルに含める場合、Adobe Flash Player のセキュリティ制限により、ユーザーがデータソースにアクセスできない可能性があります。詳細については、321 ページの「[Adobe Flash Player のセキュリティ制限](#)」を参照してください。

- 1 [データ] > [接続] をクリックします。  
[データ マネージャ] ダイアログ ボックスが開きます。
- 2
- 3 [定義] タブで、次のオプションを設定します。

オプション	説明
範囲の名前	範囲の名前を入力します。 数字、文字、下線のみを使用します。名前の最初は数字にせず、また名前にスペースは含めないでください。
範囲の種類	次のいずれかのオプションを選択します。 . . .
アクセス	次のいずれかのオプションを選択します。 . . .

- 4 [用法]タブをクリックし、最新表示およびメッセージ オプションを設定します。詳細については、283 ページの「[最新表示オプションを設定する](#)」および285 ページの「[ロード メッセージとアイドル メッセージを作成する](#)」を参照してください。

関連項目

- ・ 248 ページの「[データ接続の管理](#)」

## Excel XML マップの操作

Microsoft Excel 2003 および 2007 では、XML ドキュメントおよび XML スキーマをスプレッドシートに埋め込むことができます。XML スキーマをスプレッドシートに埋め込む際に、XML マップを作成します。XML マップにより、スプレッドシート内のセルを XML スキーマ内の要素にマッピングすることができるようになります。これらのマップは、リモートデータソースからスプレッドシートの行と列に XML コンテンツを変換するのにも使用できます。XML データを直接モデルにロードする場合、XML マップを Xcelsius 内の埋め込みスプレッドシートに含めることができます。

デフォルトで、XML 機能は Xcelsius 内の埋め込みスプレッドシートに含まれていません。XML マップを Excel に定義することができます。スプレッドシートを Xcelsius にイ

ンポートする際に、XML ソースへのリンクと、XML スキーマへのセルのマッピングは保持されます。XML マップを直接 Xcelsius 内で作業する場合、埋め込みソフトウェアの XML 機能を有効にすることができます。

#### 注

Excel のマッピング機能を使用してマップされたデータは、モデル内で接続最新表示ボタンを使用すると手動で最新表示できます。

#### 注

XML マップ機能と一定間隔での最新表示で動的 URL を使用する場合には、式を含む Excel のセルに動的 URL を結合する必要があります。

## モデルに Excel XML マップを追加する

XML データ ソースを設定しました。

XML マップを埋め込みスプレッドシートに追加するには、Excel スプレッドシートでマップを設定し、スプレッドシートを Xcelsius にインポートするか、XML 機能が Xcelsius で有効にされている場合は XML マップを Xcelsius で直接作成します。Excel XML マップの作成の詳細については、Microsoft Excel のオンライン ヘルプを参照してください。スプレッドシートでマップを利用できるようになると、キャンパスへのコンポーネントの追加とそのスプレッドシートへのリンク、および Excel XML ソースからデータを取得するための XML マップ データ接続の追加が可能になります。

- 1 Excel XML マップをスプレッドシートに追加するには、次の操作を実行します。
  - Excel スプレッドシートで XML マップを設定する場合、Excel スプレッドシートをインポートします。スプレッドシートのインポートの詳細については、241 ページの「[Excel スプレッドシートをインポートする](#)」を参照してください。
  - Xcelsius における XML マップの直接作成：
    - a Excel 2007 の場合、埋め込みスプレッドシートで[開発]タブをクリックして[XML データのインポート]をクリックします。Excel 2003 の場合はツールバーで[XML データのインポート]をクリックします。
    - b [XML データのインポート]ダイアログ ボックスの[ファイル名]リストに XML データ ソースの URL を入力し、[開く]をクリックします。
    - c XML コンテンツにスキーマ定義が含まれていない場合、Excel でソース データに基づきスキーマを作成することができます。[OK]をクリックします。
    - d [XML データのインポート] ダイアログ ボックスで、データを保存する場所を選択し、[OK] をクリックします。
    - e 基盤となるスプレッドシートでデータを取得するために使用される URL を埋め込み、スプレッドシートのセルに静的クエリー (XML データのインポートに使用されるものと同じ URL) などを入力します。

- f スプレッドシートで入力セルを設定し、スプレッドシートセルから値を読み込むフォーミュラを使用して、静的クエリーを対話型クエリーに変換します。
- 2 コンポーネントをモデルに追加し、スプレッドシートのセルにリンクさせます。コンポーネントの追加の詳細については、44 ページの「[チャート コンポーネントの使用](#)」を参照してください。
- 3 [データ] > [接続]をクリックします。
- 4 [データ マネージャ]ダイアログ ボックスで[追加]をクリックし、[Excel XML マップ接続]を選択します。

Excel XML マップ接続が接続のリストに追加されます。

**注**

[Excel XML マップ接続]オプションによって接続が追加されるのは、Excel XML マップが埋め込みスプレッドシートで定義されている場合のみです。

- 5 [定義]タブで、次のオプションを設定します。

オプション	説明
名前	接続の名前を入力します。
XML データ URL	モデルが更新されたデータを取得する場所を選択します。これを、XML データが保存された URL または対話型クエリー フォーミュラを定義したスプレッドシートのセルにマッピングすることができます。

- 6 最新表示およびロード ステータス オプションを設定するには、[用法]タブをクリックします。これらのオプションの設定の詳細については、283 ページの「[最新表示オプションを設定する](#)」および285 ページの「[ロード メッセージとアイドル メッセージを作成する](#)」を参照してください。
- 7 モデルを保存し、適切な形式にエクスポートします。

## 埋め込みスプレッドシートでの XML の有効化

Xcelsius 埋め込みスプレッドシートでは、デフォルトで Excel の全機能が使用できるようにはなっていません。Xcelsius で XML マップを定義する場合、埋め込みスプレッドシートで XML 機能を有効にする必要があります。XML 機能を有効にする手順は、使用している Excel のバージョンによって異なります。

## Excel 2003 で XML 機能を有効にする

Excel 2003 で Xcelsius の XML 機能を使用するには、その機能を Excel ツールバーに追加する必要があります。

- 1 Xcelsius か Excel が稼動している場合、両方のアプリケーションを閉じます。

### 注

どちらかのプログラムのインスタンスが稼動していないことを確認するため、Windows タスク マネージャでプロセスを照会します。実行中のプロセスのリストに、名前が Xcelsius または Excel のプロセスが含まれているべきではありません。

- 2 Excel 2007 を起動します。  
これが、稼動中の唯一の Excel インスタンスであるべきです。
- 3 Excel で[ツール] > [ユーザー設定]をクリックします。
- 4 [ユーザー設定]ダイアログ ボックスで[ツールバー]タブをクリックし、[新規作成]をクリックして、XMLツールバーなど、ツールバーの名前を入力します。  
[OK]をクリックします。  
空白のフローティング ツールバーが作成されます。
- 5 [ユーザー設定]ダイアログ ボックスで[コマンド]タブをクリックします。
- 6 [分類]リストで、[データ]を選択し、[コマンド]リストで、[XML ソース]、[XML データのインポート]、および[XML マップ プロパティ]を選択します。これらの項目を、ステップ 4 で作成したフローティング ツールバーにドラッグします。
- 7 フローティング ツールバーをドラッグし、アプリケーションウィンドウ上部にその他の Excel ツールバーと並べて配置して、Excel を閉じます。

Xcelsius の次回起動時には、新しい XML ツールバーを使用できるようになります。

## Excel 2007 で XML 機能を有効にする

Excel 2007 では、XML 機能を[開発]リボン タブ使用することができます。

- 1 Xcelsius か Excel が稼動している場合、両方のアプリケーションを閉じます。

### 注

どちらかのプログラムのインスタンスが稼動していないことを確認するため、Windows タスク マネージャでプロセスを照会します。実行中のプロセスのリストに、名前が Xcelsius または Excel のプロセスが含まれているべきではありません。

- 2 Excel 2007 を起動します。

これが、稼働中の唯一の Excel インスタンスであるべきです。

- 3 Excel 2007 のメイン アプリケーション メニューで、[Excel のオプション]をクリックします。
- 4 [基本設定]オプションから[開発タブをリボンに表示する]を選択し、[OK]をクリックします。

Xcelsius の次回起動時には、[開発]タブをリボンで使用できるようになります。

## 最新表示オプションを設定する

モデルに対してデータ接続が定義されました。

QaaWS、Web サービス、XML データ、FS コマンド、ポータル データ、または Live Office 接続をモデルに追加する場合、モデルでその接続のデータが更新される方法とタイミングを指定することができます。

### 注

接続最新表示ボタン コンポーネントをモデルに追加する場合、そのコンポーネントの最新表示オプションを設定することができます。最新表示オプションがデータ マネージャで設定されると、データはモデルの実行時とコンポーネントのロード前に最新表示されます。最新表示オプションが接続最新表示ボタンに対して設定されると、モデルにおけるコンポーネントのロード時に最新表示オプションが適用されます。接続最新表示ボタンコンポーネントの使用に関する詳細については、以下を参照してください。200 ページの「[Web 接続コンポーネントの使用](#)」

- 1 [データ] > [接続]をクリックします。  
[データ マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 最新表示オプションを設定する接続をクリックします。

### 注

最新表示オプションは、QaaWS、Web サービス、XML データ、FS コマンド、ポータル データ、または Live Office データ接続に対してのみ設定することができます。

- 3 [用法]タブをクリックします。
- 4 [用法]タブで、以下のオプションを設定します。

オプション	説明
コンポーネントのロード前に最新表示	<p>注 QaaWS、Web サービス、XML、Live Office データ接続のみ</p> <p>このオプションは、モデルがロードされるたびにデータを最新表示し、そのデータをモデルの初期データとして使用する場合に選択します (リセット ボタン コンポーネントを使用する場合、データが前回のモデルのロード時の値にリセットされます)。</p>
デフォルトのクエリーデータを使用	<p>注</p> <p>このオプションは、モデルがロードされるたびにデータを最新表示する場合に選択します。</p>
次の間隔で最新表示	<p>注 QaaWS、Web サービス、XML データ接続のみ</p> <p>このオプションは、データを指定した間隔で自動的に最新表示する場合に選択します。最初のリストでは間隔の値を選択し、2 つ目のリストでは時間単位 (分、秒など) を選択します。</p>
トリガ時に最新表示	<p>[トリガ セル] ボックスで、最新表示をトリガするセルを入力または選択します。以下のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [値の変更時]</li> <li>・ [値の変更時] を選択し、最新表示をトリガする値を入力</li> </ul>

関連項目

- ・ 248 ページの「データの接続の管理」
- ・ 254 ページの「QaaWS 接続を設定する」
- ・ 258 ページの「Web サービス接続を設定する」
- ・ 262 ページの「XML サービス接続を設定する」

- ・ 305 ページの「SAP NetWeaver BW との統合」
- ・ 287 ページの「LiveOffice データ接続の使用」

## ロード メッセージとアイドル メッセージを作成する

モデルが作成され、QaaWS、Web サービス、または XML データに対してデータ接続が定義されました。

QaaWS、Web サービス、または XML データ接続を含むモデルを作成する場合、モデルがロード中またはアイドル状態の時に表示されるメッセージを定義することができます。また、ロード中にカーソルが表示されるかどうか、およびマウス入力が可能かどうかも指定することができます。

- 1 [データ] > [接続]をクリックします。  
[データ マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 メッセージを設定する接続を選択し、[用法]をクリックします。
- 3 [ロード ステータス]で、以下のオプションを設定します。

オプション	説明
メッセージのロード中	モデルのロード中に表示されるメッセージを入力または選択します。
アイドル メッセージ	モデルのアイドル中に表示されるメッセージを入力または選択します。
挿入先	ロード メッセージおよびアイドル メッセージが挿入される埋め込みスプレッドシートのセルを入力するか、セルセクタ アイコン(  )を使用して選択します。
ロードカーソルを有効にする	このオプションを選択すると、モデルのロード中にカーソルが表示されます。
ロード時にマウス入力を無効にする	このオプションを選択すると、モデルのロード中にユーザーによるマウス入力が禁止されます。

関連項目

- ・ 248 ページの「データの接続の管理」
- ・ 254 ページの「QaaWS 接続を設定する」
- ・ 258 ページの「Web サービス接続を設定する」
- ・ 262 ページの「XML サービス接続を設定する」
- ・ 305 ページの「SAP NetWeaver BW との統合」

## SAP BusinessObjects Enterprise との統合

Xcelsius Enterprise を使用し、SAP BusinessObject Live Office 接続を用いて、マネージド SAP BusinessObjects Enterprise データから対話型プレゼンテーションを作成することができます。また、Xcelsius XLF および SWF ファイルを SAP BusinessObjects Enterprise または Crystal Reports Server に保存し、適切な権限を持つすべてのユーザーが XLF および SWF ファイルを照会できるようにすることもできます。

### 制限

Xcelsius は、マネージド Crystal レポートのみをサポートしています。アンマネージドファイルがある場合、それらをマネージド環境に移動させ、Xcelsius で SAP BusinessObjects Live Office を最新表示させる必要があります。マネージド環境への移動に関する詳細については、[help.sap.com](http://help.sap.com)にある『Crystal Reports ユーザーズ ガイド』の「プロンプトのベスト プラクティス」を参照してください。

SAP BusinessObjects Xcelsius Enterprise の Live Office 接続と SAP BusinessObjects Enterprise XI Release 2 (XI R2) または Crystal Reports Server XI R2 の Live Office Web サービスを使用すると、マネージド Enterprise データに対してモデルを作成および最新表示できます。

### 注

- ここで説明される機能は、SAP BusinessObjects Enterprise XI R2 および Crystal Reports Server XI R2 でのみ使用できます。
- シングルサインオンをサポートしません。

## LiveOffice データ接続の使用

Live Office データ接続により、管理された Crystal Reports または Web Intelligence データから作成された Excel スプレッドシートを使用して、モデルを作成することができます。また、InfoView の内部から、あるいは Crystal Reports Server または SAP Enterprise システムとの接続を使用して InfoView の外部から、モデル内のデータを最新表示にできます。

Live Office データ接続をモデルに追加する前に、LiveOffice を有効にしたスプレッドシートが必要です。LiveOffice を有効にしたスプレッドシートには、実際には管理され

ている Crystal Reports ドキュメントまたは管理されている Web Intelligence ドキュメントから作成されたビューであるデータが含まれています。Xcelsius の外部にある Microsoft Excel 内の LiveOffice を有効にしたスプレッドシートを作成し、それをモデルにインポートして、Live Office データ接続に追加することができます。

Xcelsius 内の Live Office で作業する場合、Live Office を Xcelsius にインストールして、Live Office 互換モードを有効にする必要があります。Live Office 互換モードを有効にする場合の詳細については、239 ページの「[埋め込みスプレッドシートの基本設定を設定する](#)」を参照してください。

## Live Office データ接続を追加および設定する

SAP BusinessObjects Live Office がマシンにインストールされており、Live Office 対応のスプレッドシートが Xcelsius で作成またはインポートされています。

モデルでマネージド Crystal Reports または Web intelligence ドキュメントからのデータを使用し、ソース データの最新表示を可能にする場合に、Live Office データ接続を使用します。

### 注

Live Office データ接続オプションは、Live Office 対応のスプレッドシートが Xcelsius に追加されるまでは利用できません。

- 1 □ > □
- 2 [データ マネージャ] ダイアログ ボックスで [追加] をクリックし、[Live Office] を選択します。
- 3 [定義] タブで、次のオプションを設定します。

オプション	説明
名前	Live Office 接続名を表示します。
セッション URL	SAP BusinessObjects Enterprise または Crystal Reports Server にデフォルト Web サービスがインストールされている場合、このデフォルト URL の Web サーバーをセントラル管理コンソール (CMC) の名前で置換します。
範囲	このオプションは、返されるデータの行数を制御します。 注 列数には影響を及ぼしません。

- 4 [用法] タブをクリックし、最新表示およびメッセージ オプションを設定します。詳細については、283 ページの「[最新表示オプションを設定する](#)」および285 ページの「[ロード メッセージとアイドル メッセージを作成する](#)」を参照してください。

モデルが Live Office データソースに接続され、ランタイムに最新表示オプション設定の定義に従ってデータが最新表示されます。

## Live Office へのパラメータの転送

モデルに Live Office データ接続が含まれる場合、スプレッドシートにデータを挿入し、それらの値を Live Office に返して、データソースから特定の値を取得するようモデルを設定することができます。

### Live Office にパラメータを渡す

Live Office 対応スプレッドシートと Live Office データ接続を含むモデルが作成されました。この最新表示時には、パラメータのユーザー入力が必要です。

SWF ファイルで単一値コンポーネントを調整すると、Enterprise システムにログオンするように求められます。正常にログオンすると、データが最新表示されて新しい値は SWF ファイルにも反映されます。

- 1 キャンバスに、ダイヤルやスライダなどの単一値コンポーネントを配置します。
- 2 単一値プロパティブラウザの[一般]タブで、[データ]フィールドの横にあるセル セレクト ボタンをクリックします。
- 3 結合されたパラメータが含まれるセルをクリックし、[OK]をクリックします。

- 4 詳細については、288 ページの「[Live Office データ接続を追加および設定する](#)」を参照してください。
- 5 [用法] タブで、[トリガ セル] フィールドの横にあるセル セレクタ ボタンをクリックします。
- 6 結合されたパラメータが含まれるセルをクリックし、[OK] をクリックします。
- 7 [変更時にのみトリガ] がオンになっていることを確認します。  
この方法でトリガの動作を設定すると、SWF はそのセル(ここではパラメータ値)が変更されるたびに最新表示されます。
- 8 [プレビュー] ボタンをクリックして、SWF ファイルを生成します。

## システム移行後の LiveOffice 接続設定の更新

ある SAP BusinessObjects Enterprise システムから別のシステムにコンテンツが移行されると、Live Office Web Service の保存場所が変更されます。

個別ファイルを開かずにモデルの Live Office Web Service の保存場所を更新するために、web.config ファイルまたは web.xml ファイルを直接変更することができます。

### 注

web.config ファイルまたは web.xml ファイルの編集が正しくない場合は、予期しない動作が発生することがあります。これらのファイルを変更する前に、これらのファイルのバックアップを作成してください。

## .NET InfoView の web.config ファイルを更新する

- 1 web.config を検索します。<drive>:\Program Files\Business Objects\BusinessObjects Enterprise 11.5\Web Content\Enterprise115\InfoView\web.config にあります。
- 2 メモ帳などのテキスト エディタで、web.config を開きます。
- 3 ファイルの最後にある次のテキストを見つけます。

```
<appSettings>
<add key="applications" value="com.businessobjects.encyclopedia.reportviewer.wrapper.InfoViewPanel, analyticwrapper"/>
```

- 4 このテキストを見つけたら、その下に次のテキストを追加します。

```
<add key="webConnectorUrl" value="http://webservice:port/dswsbobje/services/session"/></add>
```

webservice は Web サービス名を表現し、port は Web サーバーが通信に使用ポート番号を表します。

- 5 ファイルを保存します。

この設定は、Xcelsius 2008 内の設定より優先されます。

## Java InfoView に対する web.xml ファイルを更新する

- 1 C:\Program Files\Business Objects\<web server>\webapps\businessobjects\Enterprise115\desktoplaunch\WEB-INF\web.xml で、web.xml を検索します。

ここで、<web server> は Web サーバーの名前を表します。

- 2 メモ帳などのテキスト エディタで、web.xml を開きます。
- 3 ファイルの最後にある次のテキストを見つけます。

```
<context-param>  
<param-name>crystalXcelsius 2008.webconnectorurl</param-name>
```

- 4 このテキストを見つけたら、その下に次のテキストを追加します。

```
<param-value>http://webservice:port/dswebobje/services/session</param-value>
```

webservice は Web サービス名で、port は Web サーバーが通信に使用するポート番号を表します。

- 5 ファイルを保存します。

この設定は、Xcelsius 2008 内の設定より優先されます。

## モデルからの InfoView ドキュメントの起動

InfoView に格納された Xcelsius モデルは、InfoView に格納されたレポートやその他のドキュメントを開くように設定することができます。そのためには、ドキュメントの呼び出しに使用する URL に OpenDocument API (アプリケーション プログラミング インターフェイス) を追加する必要があります。

OpenDocument API は、SAP BusinessObjects Enterprise に公開されたドキュメントおよびレポートを簡単な URL を使用して開く標準の方法を提供します。OpenDocument を使用することにより、レポートだけでなく、レポート パラメータを指定して、レポートによって希望するデータのみが返されるようにすることができます。

URL をモデルにおける URL ボタン コンポーネントの URL フィールドに直接入力することも、ユーザーに URL の動的な変更を許可し、埋め込みスプレッドシートのセルから URL を取得するよう URL ボタン コンポーネントを設定することもできます。その場合、ユーザーが選択を行う際にそのセルに異なる URL を入力するため、セレクトコンポーネントを設定します。

#### 注

OpenDocument は、レポートまたはドキュメントを別のブラウザ ウィンドウで起動します。

#### ヒント

OpenDocument は、InfoView に存在しない 1 次モデルが InfoView に 2 次ファイルを持つ場合にも使用できます。ドキュメントの起動に先だて、ユーザーは InfoView のアカウント情報の入力を要求されます。

OpenDocument を使用した URL レポーティングの詳細については、『Viewing Reports and Documents using URLs』ガイドを参照してください。

#### SAP BusinessObjects XIR2 における OpenDocument の URL 構文

```
http://<server>:<port>/businessobjects/enterprise115/<platformSpecific>?sDocName=<document name>&sPath=<path>&sRepoType=corporate&sType=<document type>&<parameter1>&<parameter2>&...&<parameterN>
```

変数は、下の表の説明に従って置換します。

変数	置換先
<server>	ドキュメントが格納された SAP BusinessObjects Enterprise リポジトリが置かれているマシンの名前です。
<platformSpecific>	OpenDocument 関数には 2 種類の実装 (JSP 用と ASPX 用) があるため、このパラメータの正確な構文は実装によって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Java デプロイメントの場合、openDocument.jsp を使用します。</li> <li>.NET デプロイメントの場合、opendocument.aspx を使用します。</li> </ul>

変数	置換先
<document type>	開いているドキュメントの種類。たとえば、rpt を Crystal レポートに使用し、wid を Web Intelligence ドキュメントに使用します。
<path>	<p>sPath パラメータを使用する場合、&lt;path&gt; をリポジトリにおけるドキュメントへのパスで置換します。各サブフォルダ名は角括弧で囲み、カンマで分割します。</p> <p>注 すべてのスペースをプラス符号で置換します。</p>
<document name>	<p>sDocName パラメータを使用する場合、&lt;document name&gt; をリポジトリにおけるドキュメントの名前で置換します。</p> <p>注 すべてのスペースをプラス符号で置換します。</p>

**注**

パスには [Public+Folders] を追加せず、Public Folders における最初のサブフォルダの名前から開始します。

**Public Folders**

```

folder 1
  folder 1.1
    folder 1.1.1
  
```

ドキュメントがフォルダ 1.1.1 に格納されている場合、sPath を [folder+1],[folder+1.1],[folder+1.1.1] に設定します。

例 Opendoc.jsp の使用

http://cdi5boe:8080/businessobjects/enterprise115/desktoplaunch/open  
doc/openDocument.jsp?sType=rpt&sRepoType=corporate&sPath=[folder],[sub  
folder1],[subfolder2]&sDocName=ReportName&IsSpromptName1=promptValue1

SAP BusinessObjects XI3x における OpenDocument の URL 構文

http://<server>:<port>/OpenDocument/opendoc/<platformSpecific>?sID  
Type=CUID&sType=<document type>&iDocID=<document ID>&<parameter1>&<pa  
rameter2>&...&<parameterN>

変数は、下の表の説明に従って置換します。

変数	置換先
<server>	ドキュメントが格納された SAP BusinessObjects Enterprise リポジトリが置かれているマシンの名前です。
<port>	
<platformSpecific>	SAP BusinessObjects Enterprise デプロイメントに応じて、以下のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Java デプロイメントの場合、openDocument.jsp を使用します。</li> <li>・ .NET デプロイメントの場合、opendocument.aspx を使用します。</li> </ul>

変数	置換先
<document ID>	<p>iDocID パラメータを使用する場合、&lt;document ID&gt; をドキュメントのドキュメント CUID 番号で置換します。</p> <p>注 InfoView XI3x で、ドキュメントプロパティを表示する際に、ドキュメント CUID も確認することができます。</p> <p>CUID は一意なので、CUID を使用する場合 sDocumentName や sPath を使用する必要はありません。</p> <p>あるシステムから別のシステムにドキュメントを移行する際に、CUID は同じままであり、これが CUID を使用するもっとも大きな理由です。</p>
<document type>	<p>開いているドキュメントの種類。たとえば、Crystal レポートに対して rpt を入力し、Web Intelligent ドキュメントに対して wid を入力します。</p>
<parameters>	

例 iDocID を使用して、ドキュメント CUID ごとに Crystal レポートを開く  
<http://olapserver1:8080/OpenDocument/opendoc/openDocument.jsp?sType=rpt&sIDType=CUID&iDocID=1234>

## BusinessObjects InfoView Xcelsius™ モデルから InfoView SWF を開く

InfoView に格納された Xcelsius モデルは、InfoView にある 2 次 SWF ファイルを開くように設定できます。そのためには、ファイルの呼び出しに使用する URL に

DocumentDownload 関数を追加する必要があります。DocumentDownload 関数は、SAP BusinessObjects Enterprise に公開された SWF ファイルを開く標準の方法を提供します。

DocumentDownload は、2 次 SWF ファイルを Xcelsius のスライドショー コンポーネントなどにおいて開きます。これは、InfoView における”ネスト”または”親子”モデルの作成に役立ちます。

#### 注

- 2 次 SWF ファイルの呼び出し時に、親モデル Xcelsius モデル ファイルからログオン情報は渡されません。DocumentDownload からログオン情報を送信するには、CELogonToken を URL に追加します。

#### ヒント

ドキュメント ID を取得するには、InfoView でドキュメントに移動し、マウスをドキュメント名のハイパーリンク上に移動すると、ブラウザのステータスバーに ID 番号が表示されます。ドキュメント ID は、セントラル管理コンソールから取得することもできます。

SAP BusinessObjects XIR2 における DocumentDownload の URL 構文

```
http://<server>:<port>/businessobjects/enterprise115/desktoplaunch/open
doc/documentDownload?<parameter1>&<parameter2>&...&<parameterN>&CELO
gonToken=<token>
```

変数は、下の表の説明に従って置換します。

変数	置換先
<server:port>	ドキュメントが格納された SAP BusinessObjects Enterprise リポジトリが置かれているマシンの名前とポートです。

変数	置換先
<p>&lt;platformSpecific&gt;</p>	<p>OpenDocument 関数には 2 種類の実装 (JSP 用と ASPX 用) があるため、このパラメータの正確な構文は実装によって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Java デプロイメントの場合、openDocument.jsp を使用します。</li> <li>・ .NET デプロイメントの場合、opendocument.aspx を使用します。</li> </ul>
<p>&lt;document ID&gt;</p>	<p>iDocID パラメータを使用する場合、&lt;document ID&gt; をドキュメントのドキュメント ID 番号で置換します。</p>
<p>&lt;path&gt;</p>	<p>sPath パラメータを使用する場合、&lt;path&gt; をリポジトリにおけるドキュメントへのパスで置換します。各サブフォルダ名は括弧で囲み、カンマで分割します。</p> <p>注 すべてのスペースをプラス符号で置換します。</p>
<p>&lt;document name&gt;</p>	<p>sDocName パラメータを使用する場合、&lt;document name&gt; をリポジトリにおけるドキュメントの名前で置換します。</p> <p>注 すべてのスペースをプラス符号で置換します。</p>

**注**

パスには [Public+Folders] を追加せず、Public Folders における最初のサブフォルダの名前から開始します。

```
Public Folders
  folder 1
    folder 1.1
      folder 1.1.1
```

ドキュメントがフォルダ 1.1.1 に格納されている場合、sPath を [folder+1],[folder+1.1],[folder+1.1.1] に設定します。

例 SAP BusinessObjects XIR2 の DocumentDownload URL

```
http://cdi5boe:8080/businessobjects/enterprise115/desktoplaunch/open
doc/documentDownload?iDocID=10348&sKind=Flash&CELogonToken=SERVER%408757Jxnge3URUJ8L4
```

下の表は、サンプル URL で使用される各パラメータを示したものです。太字のセクションは、ファイルに合わせてカスタマイズする必要があります。アスタリスク(\*)が付いたパラメータは、documentDownload 関数では必須です。

プロトコル	http:// (https:// も可)
サーバー名	cdi5boe:
ポート	8080/
関数:	businessobjects/enterprise115/desktoplaunch/opendoc/documentDownload?
ドキュメント ID*:	iDocID=10348& 注 iDocID は、SWF ファイルの ID または CUID です。

ファイルの種類*:	sKind=Flash& 注 sKind は Flash である必要があります。
ログオン情報*:	CELogonToken=SERVER%408757JxmheURUJ8L4

SAP BusinessObjects XI3x における DocumentDownload の URL 構文

**注**

URL に FlashVar 範囲を追加することで、追加のパラメータを SWF ファイルに渡すことができます。たとえば、Range1=yyy&Range2=zzz& のようにします。

親モデルから子 SWF に CELogonToken を渡すには、Flash 変数接続を 1 次モデルに追加する必要があります。データ マネージャを開き、[追加]をクリックして、[Flash 変数]を選択します。CELogonToken に必要な接続の他に、追加したパラメータごとに Flash 変数接続が必要です。追加パラメータは、Flash Player によって FlashVars に変換されます。Flash 変数の設定に関する詳細については、266 ページの「[Flash 変数接続を設定する](#)」を参照してください。

URL をモデルにおけるスライドショー コンポーネントの URL フィールドに直接入力することも、ユーザーに URL の動的な変更を許可し、埋め込みスプレッドシートのセルから URL を取得するようスライドショー コンポーネントを設定することもできます。その場合、ユーザーが選択を行う際にそのセルに異なる URL を入力するため、Excel CONCATENATE 関数を使用してセレクト コンポーネントを設定します。

```
http://<server>:<port> /OpenDocument/opendoc/<platformSpecific>?sType=amw&sIDType=InfoObject&iDocID=<document ID>&sPath=<path>&sDocName=<document name>
```

変数は、下の表の説明に従って置換します。

変数	置換先
<server>	ドキュメントが格納された SAP BusinessObjects Enterprise リポジトリが置かれているマシンの名前です。
<port>	
<platformSpecific>	<p>SAP BusinessObjects Enterprise デプロイメントに応じて、以下のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Java デプロイメントの場合、openDocument.jsp を使用します。</li> <li>・ .NET デプロイメントの場合、opendocument.aspx を使用します。</li> </ul>
<document ID>	<p>iDocID パラメータを使用する場合、&lt;document ID&gt; をドキュメントのドキュメント ID 番号で置換します。</p> <p>注 iDocID の代わりに sDocName (ドキュメント名) パラメータを使用することができます。</p>
<path>	<p>sPath パラメータを使用する場合、&lt;path&gt; をリポジトリにおけるドキュメントへのパスで置換します。各サブフォルダ名は括弧で囲み、カンマで分割します。</p> <p>注 すべてのスペースをプラス符号で置換します。</p>

変数	置換先
<document name>	<p>sDocName パラメータを使用する場合、&lt;document name&gt; をリポジトリにおけるドキュメントの名前で置換します。</p> <p>注 すべてのスペースをプラス符号で置換します。</p>

注  
パスには [Public+Folders] を追加せず、Public Folders における最初のサブフォルダの名前から開始します。

```
Public Folders
  folder 1
    folder 1.1
      folder 1.1.1
```

ドキュメントがフォルダ 1.1.1 に格納されている場合、sPath を [folder+1],[folder+1.1],[folder+1.1.1] に設定します。

## SAP BusinessObjects Enterprise システムでのモデルの格納

Xcelsius XLF および SWF ファイルを SAP BusinessObjects Enterprise または Crystal Reports Server 上に格納し、管理することができます。

ファイルが Enterprise システムに追加されると、適切な権限を有するユーザーがファイルにアクセスできます。Enterprise システムに保存されたファイルは、InfoView およびセントラル管理コンソール(CMC)を通じて管理することができます。

[InfoView]で、次の操作を実行できます。:

- ・ XLF ファイルおよび SWF ファイルの一覧を表示する。
- ・ 特定のファイルを検索する。
- ・ ファイルを別のフォルダに移動またはコピーする。
- ・ InfoView 内で SWF ファイルを表示および最新表示する。

Enterprise システムの管理権限がある場合、セントラル管理コンソール (CMC) 内の XLF ファイルおよび SWF ファイルに対する編集権限と表示権限を修正できます。

#### 注

InfoView 内の XLF ファイルは表示できません。Enterprise システムに追加された XLF ファイルを表示するには、Xcelsius 内で XLF ファイルを開く必要があります。詳細については、303 ページの「[Enterprise フォルダから XLF ファイルを開く](#)」を参照してください。

Crystal Reports 2008 で、Xcelsius SWF ファイルを Crystal レポートに埋め込んで、SWF でそのレポートからデータを使用するようにできます。SWF で Crystal レポートからのソース データを使用するように設定するには、モデルに Crystal レポート データ コンシューマ接続を追加します。このデータ接続の設定方法の詳細については、274 ページの「[Crystal レポート データ コンシューマ接続を設定する](#)」を参照してください。

SWF ファイルとしてモデルをエクスポートする際に、SWF を Crystal Reports ソース データ ファイルに埋め込むことができます。Crystal Reports との連動方法の詳細については、『Crystal Reports 2008 User Guide 』を参照してください。

## Enterprise フォルダに XLF ファイルを保存する

- 1 [ファイル] > [Save to Platform]をクリックします。  
[BusinessObjects Enterprise にログオン]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 [BusinessObjects Enterprise にログオン]ダイアログ ボックスに、以下の情報を入力します。

オプション	説明
システム	<p>XLF ファイルを保存する Central Management Console (CMC) の名前を入力します。</p> <p>CMC は、Enterprise システムに保存されるオブジェクトの情報を格納します。CMC の詳細については、SAP ヘルプ ポータル() にある SAP BusinessObjects Enterprise または Crystal Reports Server <a href="http://help.sap.com">help.sap.com</a> のマニュアルを参照してください。</p>
ユーザー名	ログオン名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
認証	<p>適切な認証タイプをクリックします。</p> <p>注 自分のログオン情報が不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。</p>

- 3 [OK] をクリックします。
- 4 XLF ファイルを保存するフォルダを選択し、ファイル名を入力し、[保存] をクリックします。

#### ヒント

CMC にフォルダを追加するには、[新しいフォルダ] をクリックします。

## Enterprise フォルダから XLF ファイルを開く

- 1 [ファイル] > [Enterprise から開く] をクリックします。
- 2 [BusinessObjects Enterprise にログオン] ダイアログ ボックスに、以下の情報を入力します。

オプション	説明
システム	<p>XLF ファイルを保存する Central Management Console (CMC) の名前を入力します。</p> <p>CMC は、Enterprise システムに保存されるオブジェクトの情報を格納します。CMC の詳細については、SAP ヘルプ ポータル (<a href="http://help.sap.com">help.sap.com</a>) にある SAP BusinessObjects Enterprise または Crystal Reports Server の文書を参照してください。</p>
ユーザー名	ログオン名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
認証	<p>適切な認証タイプをクリックします。</p> <p>注 自分のログオン情報が不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。</p>

- 3 [OK]をクリックします。
- 4 [開く]ダイアログ ボックスで、開くファイルを含むフォルダを選択します。[開く]をクリックします。

XLF ファイルが Xcelsius 内に開きます。

## Enterprise フォルダにモデルをエクスポートする

モデルが作成され、キャンバスで開かれています。

- 1 [ファイル] > [エクスポート] > [BusinessObjects プラットフォーム]をクリックします。  
[BusinessObjects Enterprise へのログオン]ダイアログ ボックスが表示されます。
- 2 [BusinessObjects Enterprise へのログオン]ダイアログ ボックスで、以下の情報を入力します。

オプション	説明
システム	<p>XLF ファイルを保存するセントラル管理コンソール (CMC) の名前を入力します。</p> <p>CMC は、Enterprise システムに保存されるオブジェクトの情報を格納します。CMC の詳細については、SAP ヘルプ ポータル (<a href="http://help.sap.com">help.sap.com</a>) にある SAP BusinessObjects Enterprise または Crystal Reports Server の文書を参照してください。</p>
ユーザー名	ログオン名を入力します。
パスワード	パスワードを入力します。
認証	<p>適切な認証の種類をクリックします。</p> <p>注 自分のログオン情報が不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。</p>

- 3 [OK]をクリックします。
- 4 [名前を付けて保存]ダイアログ ボックスで SWF ファイルをエクスポートするフォルダを選択し、ファイル名を入力して、[保存]をクリックします。

モデルが SWF ファイルとして Enterprise リポジトリにエクスポートされます。

## SAP NetWeaver BW との統合

SAP BusinessObjects Xcelsius Enterprise では、Business Explorer (BEx) クエリーまたはクエリー ビューを Xcelsius モデルのデータ ソースとして使用することができます。1 つ以上のデータ接続を SAP NetWeaver BW に追加し、接続を設定してコンポーネントにリンクさせ、モデルを BW オブジェクト (TLOGO オブジェクト) として SAP NetWeaver BW システムで公開することができます。公開された Flash モデルは、NetWeaver Enterprise ポータル ロールに割り当てることができ、iView を通じてアクセス可能です。これらのモデルは、BW オブジェクトのデータウェアハウス移送を通じたライフサイクルをサポートします。

SAP NetWeaver BW 接続は、BEx クエリー ピボット結果設定のスナップショットを返し、1 つのリクエストにある特性と変数のキーと値ヘルプを返します。

#### 注

- ・ Business Data Warehouse レベルの権限が適用されます。
- ・ BEx クエリーを実行するには、Xcelsius で BEx Web ランタイム環境が必要ですが、これは Xcelsius でモデルをプレビューする際や、Microsoft PowerPoint または Adobe PDF などのデスクトップ アプリケーションでモデルがデプロイされている場合に使用できません。Xcelsius モデルに SAP NetWeaver BW 接続が含まれている場合、NetWeaver ポータル起動 URL コマンドを使用してこれらをプレビューすることができます。

また、この接続により、クエリーおよび インフォプロバイダ 名、クエリー フィルタ、キー日付、最新表示日、階層、現在のメッセージログなどの、メタデータが提供されます。

## SAP NetWeaver BW システムへの接続の前に

SAP NetWeaver BW システムに接続する前に、SAP NetWeaver BW 7.0 Enhancement Pack 1 Service Pack 5 を SAP BusinessObjects Xcelsius と同じマシンにインストールする必要があります。Xcelsius で SAP Net Weaver 7.0 の NetWeaver SAP Ehp1 SP5 に接続するには、Java と ABAP の両方が必要となります。さらに、ユーザー マッピングを設定し、NetWeaver Java アプリケーション サーバーと NetWeaver ABAP システムの間にシングル サインオン (SSO) を設定する必要があります。詳細については、[help.sap.com](http://help.sap.com) にある SAP NetWeaver BW の文書を参照してください。

#### 注

Xcelsius でデータを取得できるようにするには、SAP NetWeaver Business Warehouse および BEx クエリーが使用可能である必要があります。

#### 関連項目

- ・ [307 ページの「SAP NetWeaver BW システムに接続する」](#)
- ・ [307 ページの「SAP NetWeaver BW システムに接続する」](#)
- ・ [308 ページの「SAP NetWeaver BW 接続を設定する」](#)
- ・ [307 ページの「SAP NetWeaver BW システムへの接続を解除する」](#)
- ・ [314 ページの「SAP NetWeaver BW システムへ Xcelsius モデルを公開する」](#)
- ・ [315 ページの「SAP NetWeaver BW データを含む Xcelsius モデルをプレビューする」](#)
- ・ [316 ページの「SAP NetWeaver BW サーバーから XLF ファイルを開く」](#)
- ・ [316 ページの「SAP NetWeaver BW システムでの Xcelsius モデルの変換およびグローバル化」](#)

## SAP NetWeaver BW システムに接続する

SAP NetWeaver BW 7.0 Enhancement Pack 1 Service Pack 5、BW、および BW Java は、マシンにインストールされています。

SAP NetWeaver BW システムへの接続が必要なコマンドを入力すると、Xcelsius がシステムに接続しようとします。許可が必要な場合、SAP NetWeaver BW システムにログオンすることを求められます。SAP NetWeaver BW システムに接続するには、次のアクションが必要です。

- ・ [SAP] > [開く]をクリックします。
- ・ [SAP] > [公開]をクリックします。
- ・ [SAP] > [名前を付けて公開]をクリックします。
- ・ [データ] > [接続]をクリックし、[SAP NetWeaver BW 接続]の追加および設定を行います。

### 注

シングル サインオンが SAP NetWeaver Java AS と SAP NetWeaver ABAP との間で設定されていた場合、Xcelsius によって 1 回のみ許可が求められます。

### 関連項目

- ・ [306 ページのSAP NetWeaver BW システムへの接続の前に](#)
- ・ [308 ページのSAP NetWeaver BW 接続を設定する](#)
- ・ [307 ページのSAP NetWeaver BW システムへの接続を解除する](#)
- ・ [314 ページのSAP NetWeaver BW システムへ Xcelsius モデルを公開する](#)
- ・ [315 ページのSAP NetWeaver BW データを含む Xcelsius モデルをプレビューする](#)
- ・ [316 ページのSAP NetWeaver BW サーバーから XLF ファイルを開く](#)
- ・ [316 ページのSAP NetWeaver BW システムでの Xcelsius モデルの変換およびグローバル化](#)

## SAP NetWeaver BW システムへの接続を解除する

SAP NetWeaver BW システムに接続しています。

SAP NetWeaver BW システムに接続している場合、そのシステムへの接続および公開が可能です。

- 1 [SAP] > [接続解除]をクリックします。
- 2 [OK]をクリックします。

SAP NetWeaver BW システムへの接続が終了します。別の SAP システムに接続したり、ユーザー認証を変更したりすることができるようになります。

#### 関連項目

- ・ 306 ページの「SAP NetWeaver BW システムへの接続の前に」
- ・ 308 ページの「SAP NetWeaver BW 接続を設定する」
- ・ 307 ページの「SAP NetWeaver BW システムに接続する」
- ・ 314 ページの「SAP NetWeaver BW システムへ Xcelsius モデルを公開する」
- ・ 315 ページの「SAP NetWeaver BW データを含む Xcelsius モデルをプレビューする」
- ・ 316 ページの「SAP NetWeaver BW サーバーから XLF ファイルを開く」
- ・ 316 ページの「SAP NetWeaver BW システムでの Xcelsius モデルの変換およびグローバル化」

## SAP NetWeaver BW 接続を設定する

SAP NetWeaver BW 7.0 Enhancement Pack 1 Service Pack 5 がローカル マシンにインストールされ、接続を追加するモデルが設計済みで、キャンバス上に開かれています。

SAP NetWeaver BW 接続を使用して、ビジネス ウェアハウス データへの接続を作成します。

#### 注

- 1 [データ] > [接続]をクリックします。  
[データ マネージャ]ダイアログ ボックスが開きます。
- 2
- 3 [定義]タブで、次のオプションを設定します。

オプション	説明
名前	接続の名前。
システム	<p>現在接続している SAP システムの名前です。</p> <p>注 モデル内の異なるコンポーネントを異なるクエリーまたはクエリービューに接続することができますが、すべてのクエリーとクエリービューが同じ SAP システムに存在する必要があります。</p>
	<p>現在選択されているクエリーまたはクエリービューの名前です。[参照]をクリックし、接続されている SAP システムの異なるクエリーまたはクエリービューを選択します。</p>
次の形式で値を返す	<p>リストから以下のいずれかのオプションを選択し、取得されるデータの形式を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未処理: データは書式設定されていません。このオプションは、チャートまたは Excel による計算で使用するのが最適です。</li> <li>・ フォーマット: データは BEx 形式を使用し、スケール係数、小数点以下桁数、通貨、記号変更などの情報が含まれます。このオプションは、ラベル、スプレッドシート、テーブル、スコアカードなどのテキストベースのコンポーネントで使用するのが最適です。</li> </ul>
入力値	

オプション	説明						
	<p>クエリーまたはクエリー ビューから返されるデータのカスタマイズに使用できる入力可能値および選択可能な特性が一覧表示されます。</p> <table border="1" data-bbox="525 418 1184 744"> <thead> <tr> <th data-bbox="525 418 717 461">入力</th> <th data-bbox="717 418 1184 461">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="525 461 717 588">フィルタ</td> <td data-bbox="717 461 1184 588">フィルタを使用すると、モデル ユーザーがデータセット全体のスライスにナビゲートできるようになります。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="525 588 717 744">変数</td> <td data-bbox="717 588 1184 744">                     必須または任意のクエリー変数の値を設定します。                       注                 </td> </tr> </tbody> </table> <p>入力のたびに値を設定するには、このリストから入力オブジェクトを選択し、[読み取り元]ボックスで値を入力するか、セル セレクタアイコン(  )をクリックして、選択したオブジェクトが値を取得するセルを埋め込みスプレッドシートから選択します。</p>	入力	説明	フィルタ	フィルタを使用すると、モデル ユーザーがデータセット全体のスライスにナビゲートできるようになります。	変数	必須または任意のクエリー変数の値を設定します。  注
入力	説明						
フィルタ	フィルタを使用すると、モデル ユーザーがデータセット全体のスライスにナビゲートできるようになります。						
変数	必須または任意のクエリー変数の値を設定します。  注						
出力値							

オプション	説明												
	<p>クエリーまたはクエリー ビューによって返された値と、データが返された後にデータに適用できるフィルタが一覧表示されます。</p> <table border="1" data-bbox="521 401 1184 673"> <thead> <tr> <th data-bbox="521 401 655 444">出力</th> <th data-bbox="655 401 1184 444">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="521 444 655 673">クロスタブ データ</td> <td data-bbox="655 444 1184 673">クエリーまたはクエリー ビュー ピボット テーブルのスナップショットが返されます。ヘッダ行には、単位と通貨、およびスケール係数に関する情報が含まれます。基本キー数値、制限キー数値、および演算キー数値は、使用可能なクロスタブ データです。</td> </tr> </tbody> </table> <p>特性</p> <table border="1" data-bbox="662 699 1177 947"> <thead> <tr> <th data-bbox="662 699 919 748">アイテム</th> <th data-bbox="919 699 1177 748">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="662 748 919 808">ラベル</td> <td data-bbox="919 748 1177 808"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="662 808 919 869">文字列の表示</td> <td data-bbox="919 808 1177 869"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="662 869 919 947"></td> <td data-bbox="919 869 1177 947"></td> </tr> </tbody> </table> <p>変数</p> <p>入力ヘルプ テキストとキー、および適用されたフィルタが返されます。</p> <p>静的フィルタ</p> <p>BEx Query Designer で定義された制約が返されます。これらの制約を Xcelsius で変更することはできません。</p> <p>情報</p> <p>名前、最終の最新表示とデータ更新、およびキー日付値など、一般的なクエリー テキスト要素が返されます。</p> <p>注</p> <p>Xcelsius BEx クエリー接続でキー日付値を設定することはできません。</p>	出力	説明	クロスタブ データ	クエリーまたはクエリー ビュー ピボット テーブルのスナップショットが返されます。ヘッダ行には、単位と通貨、およびスケール係数に関する情報が含まれます。基本キー数値、制限キー数値、および演算キー数値は、使用可能なクロスタブ データです。	アイテム	説明	ラベル		文字列の表示			
出力	説明												
クロスタブ データ	クエリーまたはクエリー ビュー ピボット テーブルのスナップショットが返されます。ヘッダ行には、単位と通貨、およびスケール係数に関する情報が含まれます。基本キー数値、制限キー数値、および演算キー数値は、使用可能なクロスタブ データです。												
アイテム	説明												
ラベル													
文字列の表示													

オプション	説明	
	出力	説明
	メッセージ	SAP NetWeaver BW システムからのエラーテキストメッセージが返されます。
	<p>各出力値の保存場所を設定するには、このリストから出力オブジェクトを選択し、[挿入先]ボックスのセルセクタアイコン(  )をクリックして、クエリーまたはクエリービューから取得された値を保存するセルを埋め込みスプレッドシートから選択します。</p> <p><b>注</b> デフォルトでは、Xcelsius において、取得し、埋め込みスプレッドシートに挿入できる最大行数は 512 行です。許可される行数を増やす方法については、239 ページの「<a href="#">埋め込みスプレッドシートの基本設定を設定する</a>」を参照してください。</p>	

- 4 [データプレビュー]タブをクリックします。
- 5 [データプレビューを最新表示]をクリックします。

**注**

データプレビューでは、BEx クエリーからデータが取得されないため、[定義]タブで設定したフィルタおよびパラメータは適用されません。

- 6 以下のオプションを使用してデータ構造を照会し、必要に応じて調整します。

オプション	説明
左パネルのツリービュー	ツリーを展開すると、列、行、および自由特性が表示されます。デフォルトでは、列、行、および自由特性はBEx Query Designer での定義どおりに設定されています。
[上へ]ボタンと[下へ]ボタン	データの順序を変更するには、ツリーでアイテムを選択し、[上へ]または[下へ]ボタンをクリックして、アイテムをリスト内の 1 つ上または下の位置に移動させます。アイテムの順序を変更した後、[データプレビューを最新表示]ボタンをクリックし、変更を確認します。
アイテムの移動メニュー	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 列へ移動 -- データを列構造に移動させます。</li> <li>・ 行へ移動 -- データを行構造に移動させます。</li> <li>・ 自由特性へ移動 -- データを自由特性構造に移動させます。</li> <li>・ クエリー デフォルトのリセット -- 構造をクエリーでの定義どおりに戻します。</li> </ul> <p>アイテムの順序を変更した後、[データプレビューを最新表示]ボタンをクリックし、変更を確認します。</p>

7 [用法]タブをクリックして、最新表示およびメッセージオプションを設定します。

**警告**

[コンポーネントのロード前に最新表示]オプションは、ユーザーが入力値フィルタを指定するたびにクエリーを実行します。

最新表示およびメッセージ オプションの設定の詳細については、283 ページの「[最新表示オプションを設定する](#)」および285 ページの「[ロードメッセージとアイドル メッセージを作成する](#)」を参照してください。

モデルを設定し、SAP NetWeaver BW システムに接続したら、それを SAP システムに公開することができます。

**関連項目**

- ・ 306 ページのSAP NetWeaver BW システムへの接続の前に」
- ・ 307 ページのSAP NetWeaver BW システムに接続する」
- ・ 307 ページのSAP NetWeaver BW システムへの接続を解除する」

- ・ 314 ページの「SAP NetWeaver BW システムへ Xcelsius モデルを公開する」
- ・ 315 ページの「SAP NetWeaver BW データを含む Xcelsius モデルをプレビューする」
- ・ 316 ページの「SAP NetWeaver BW サーバーから XLF ファイルを開く」
- ・ 316 ページの「SAP NetWeaver BW システムでの Xcelsius モデルの変換およびグローバル化」

## SAP NetWeaver BW システムへ Xcelsius モデルを公開する

SAP NetWeaver BW 7.0 Enhancement Pack 1 Service Pack 5 が Xcelsius と同じマシンにインストールされていて、SAP NetWeaver BW システムに接続していて、公開するモデルに 1 つ以上の SAP NetWeaver BW 接続があり、キャンバス上で開いています。

このオプションを使用して、SWF を生成して、Xcelsius モデルを SAP NetWeaver BW システムに公開します。モデルを公開することにより、その他の BEx オブジェクトと同様に移送および翻訳できるようになります。モデルが公開されると、Xcelsius によって XLF、SWF、TXT の 3 つのファイルが公開されます。TXT ファイルは、SAP NetWeaver BW システムにおける翻訳に必要です。

### 注

Xcelsius モデルを、SAP NetWeaver BW クエリー接続が接続している同じ SAP システムで公開する必要があります。

- 1 次のいずれかを実行します。
  - ・ 新規モデルを保存するには、[SAP] > [公開]をクリックします。
  - ・ 既存のモデルを別の名前で、または別の場所に保存するには、[SAP] > [名前を付けて公開]をクリックします。
- 2 SAP システムに接続されていない場合、[SAP ログオン]ダイアログ ボックスが開きます。該当する SAP システムを選択して、認証情報を入力します。[OK]をクリックします。

### 注

公開先のシステムとは別の SAP システムに接続している場合、これらのステップを続行する前に、SAP ネットワークへの接続を解除する必要があります。

[開く]ダイアログ ボックスが開きます。

- 3 ファイルを保存する場所に移動して、ファイル名を入力します。[OK]をクリックします。

SWF ファイルが SAP NetWeaver ABAP システムに公開されます。

#### 関連項目

- ・ 306 ページの「SAP NetWeaver BW システムへの接続の前に」
- ・ 308 ページの「SAP NetWeaver BW 接続を設定する」
- ・ 307 ページの「SAP NetWeaver BW システムに接続する」
- ・ 307 ページの「SAP NetWeaver BW システムへの接続を解除する」
- ・ 315 ページの「SAP NetWeaver BW データを含む Xcelsius モデルをプレビューする」
- ・ 316 ページの「SAP NetWeaver BW サーバーから XLF ファイルを開く」
- ・ 316 ページの「SAP NetWeaver BW システムでの Xcelsius モデルの変換およびグローバル化」

## SAP NetWeaver BW データを含む Xcelsius モデルをプレビューする

SAP NetWeaver BW 接続を含む Xcelsius モデルは SAP システムに公開されています。

この手順は、接続された SAP システムからのデータを含むモデルをプレビューする必要がある場合に使用します。[プレビュー] ボタンを使用すると、モデル設定が表示され、基本的なワークフローをテストすることができますが、SAP NetWeaver BW クエリーおよびクエリー ビュー結果セットからのデータは使用できません。

- 1 [SAP] > [起動] をクリックします。  
Web ブラウザ セッションが SAP NetWeaver Portal ログオン画面と共に開きます。
- 2 ポータル認証情報を入力して、[ログイン] をクリックします。

ログインすると Xcelsius モデルがダッシュボード BW テンプレートをロードします。これには、単一モデルが含まれています。この URL を iView テンプレートで使用して、SAP NetWeaver ポータル ロールにモデルを追加することができます。

#### 関連項目

- ・ 306 ページの「SAP NetWeaver BW システムへの接続の前に」
- ・ 308 ページの「SAP NetWeaver BW 接続を設定する」
- ・ 307 ページの「SAP NetWeaver BW システムに接続する」
- ・ 307 ページの「SAP NetWeaver BW システムへの接続を解除する」

- ・ 314 ページの「SAP NetWeaver BW システムへ Xcelsius モデルを公開する」
- ・ 316 ページの「SAP NetWeaver BW サーバーから XLF ファイルを開く」
- ・ 316 ページの「SAP NetWeaver BW システムでの Xcelsius モデルの変換およびグローバル化」

## SAP NetWeaver BW サーバーから XLF ファイルを開く

SAP NetWeaver BW 7.0 Enhancement Pack 1 Service Pack 5 は、Xcelsius と同じマシンにインストールされていて、SAP NetWeaver BW システムに接続され、開こうとしているモデルは SAP NetWeaver BW サーバーに公開されています。

- 1 [SAP] > [開く] をクリックします。
- 2 [SAP ログオン] ダイアログ ボックスが開きます。該当する SAP システムを選択して、認証情報を入力します。[OK] をクリックします。  
[開く] ダイアログ ボックスが開きます。
- 3 開く XLF ファイルを選択します。[OK]

### 関連項目

- ・ 306 ページの「SAP NetWeaver BW システムへの接続の前に」
- ・ 308 ページの「SAP NetWeaver BW 接続を設定する」
- ・ 307 ページの「SAP NetWeaver BW システムに接続する」
- ・ 307 ページの「SAP NetWeaver BW システムへの接続を解除する」
- ・ 314 ページの「SAP NetWeaver BW システムへ Xcelsius モデルを公開する」
- ・ 315 ページの「SAP NetWeaver BW データを含む Xcelsius モデルをプレビューする」
- ・ 316 ページの「SAP NetWeaver BW システムでの Xcelsius モデルの変換およびグローバル化」

## SAP NetWeaver BW システムでの Xcelsius モデルの変換およびグローバル化

SAP システムにモデルを保存する際に、変換設定を有効にすることができるため、モデル内のテキストを BW オブジェクトとして変換することができます。テキストが変換される際に、文字列長が変化する可能性があり、モデルのレイアウトとデザインに影響す

ることもあります。たとえば、英語で作成されたモデルに Sales という 5 文字のラベルがあるとします。これをドイツ語に変換する場合、ラベルは 8 文字の Verkaufte になります。3 文字の追加が、ラベルとその周りのフィールドのレイアウトに影響する可能性があります。各文字列の文字数に対する制限を設定することにより、変換を設定する際にこの影響を制限することができます。

Xcelsius Enterprise も、数値、通貨、データ、および時刻の各値を、SAP NetWeaver BW ユーザー ロケールに基づいて設定された、地域固有の書式で表示します。以下の Excel 書式の要素も、SWF ファイル実行時に SAP プロファイル ロケールに基づいて動的に変更することができます。

要素	例
長い月	January, February, March
短い月	Jan, Feb, Mar
長い日	Sunday, Monday, Tuesday
短い日	Sun, Mon, Tue
日付の区切り文字	/(01/01/1900 など)
時刻の区切り文字	:(12:00:00 など)
小数区切り文字	.1.5 と同様
桁区切りを使用する	, (1,000,000 など)
通貨記号	£100, 50¢, 10F50

次の制限は、Xcelsius Enterprise のグローバル化設定に適用されます。

- モデルが実行される地域で要素表示順序の異なる場所設定が使用されていても、実行時に値要素の表示順序が変更されることはありません。たとえば、場所設定で日付形式 MM/DD/YYYY を使用するオペレーティング システムでモデルが作成されているとします。モデルが日付形式 DD/MM/YYYY を使用する環境で実行されても、新しい場所で月と日の順序が更新されることはありません。この制限は、通貨記号が値の前に付くか後ろに付く場合にも適用されます。
- 埋め込みスプレッドシート内の値のみがグローバル化されます。実行時に値が[プロパティ]パネルまたは SWF に手動で入力された場合は、これらの値がモデルが実行される場所設定に応じて変更されることはありません。
- モデルの作成および編集時に、場所設定の変更は既存のバインド済みコンポーネントには影響しません。場所設定を変更して既存のコンポーネントに変更を適用する場合、コンポーネントを埋め込みスプレッドシートに再バインドする必要があります。

- ・ 地域固有の形式が埋め込みスプレッドシートのセルに適用されている場合、これらのセルの形式はモデルが別の場所で実行されても変更されません。たとえば、Microsoft Excel で、通貨形式を適用する場合、記号なし、簡単な記号、特定の地域に関連付けられた記号のいずれかを選択できます。簡単な記号(たとえば[・])を選択した場合、モデルが実行される場所設定に応じて、記号は変化します。しかし特定の地域向けの記号(たとえば[・ French (France)])を選択した場合、モデルが別の場所で実行されても記号は変更されません。

#### 関連項目

- ・ 306 ページの「SAP NetWeaver BW システムへの接続の前に」
- ・ 308 ページの「SAP NetWeaver BW 接続を設定する」
- ・ 307 ページの「SAP NetWeaver BW システムに接続する」
- ・ 307 ページの「SAP NetWeaver BW システムへの接続を解除する」
- ・ 314 ページの「SAP NetWeaver BW システムへ Xcelsius モデルを公開する」
- ・ 315 ページの「SAP NetWeaver BW データを含む Xcelsius モデルをプレビューする」
- ・ 316 ページの「SAP NetWeaver BW サーバーから XLF ファイルを開く」

## SAP NetWeaver BW システムにおける Xcelsius モデルの変換を設定する

モデルに SAP NetWeaver BW 接続があり、キャンバスで開く場合、SAP NetWeaver BW システムに公開されます。

変換用の静的テキストを設定し、Flash モデルを表示する際に変換されたテキストが表示されるようにすることができます。変換を可能にするには、変換対象のスプレッドシートのセルを指定する必要があります。モデルが公開されると、指定されたセルのコンテンツが SAP NetWeaver BW で使用可能になります。変換を設定すると、SAP NetWeaver BW ユーザー ロケールに基づいて、実行時に変換済みテキストが Xcelsius モデルに渡されます。変換オプションの詳細については、[help.sap.com](http://help.sap.com)にある SAP NetWeaver BW のマニュアルを参照してください。

#### 注

テキスト変換は Xcelsius では使用できません。

- 1 [SAP] > [変換設定]をクリックします。
- 2 SAP システムに接続されていない場合、[SAP ログオン]ダイアログ ボックスが開きます。該当する SAP システムを選択して、認証情報を入力します。[OK]をクリックします。

注

発行するのは別の SAP システムに接続している場合、この手順に進む前に SAP ネットワークから切断する必要があります。

- 3 [変換設定]ダイアログ ボックスで、[変換のサポートを有効にする]を選択します。
- 4 [範囲]一覧の下にある、[追加]をクリックします。
- 5 [名前]ボックスに新しい範囲の名前を入力します。
- 6 [範囲]ボックスの横で、セル セレクタ アイコン(  )をクリックし、セルを選択します。
- 7 複数のテキストを変換するには、手順 4 から手順 6 を繰り返します。
- 8 モデルのデザインやスペースに対して変換された語句の影響を最小限にするために、以下の作業を行います。

注

- ・ 特定の値を指定するには、[最大文字数]ボックスの横で、手動編集アイコン(  )をクリックし、[文字数の設定]ダイアログボックスで、各文字列に指定できる最大文字数を指定します。
- ・ 埋め込みスプレッドシートから値を選択するには、[最大文字数]ボックスの横で、セル セレクタ アイコン(  )をクリックし、最大文字数の値を格納するセルを選択します。

- 9 [OK]をクリックします。

関連項目

- ・ 314 ページの「SAP NetWeaver BW システムへ Xcelsius モデルを公開する」



# モデルのエクスポートと展開

## Adobe Flash Player のセキュリティ制限

Xcelsius 2008 によって作成されたモデルは、Adobe Flash テクノロジーに基づいていて、そのセキュリティ保護ルールに従っています。

Adobe Flash Player 9 以降のバージョンには、ローカルドライブに格納されているコンテンツ ファイルを呼び出す SWF ファイルに影響のあるセキュリティの制限が含まれています。Xcelsius SWF ファイルをローカルに実行する場合、Adobe Flash Player Settings Manager 内の信頼できる場所にファイルを追加する必要があります。

Adobe Flash Player は、外部データソースへのアクセスも制限しています。SWF が Web サーバーにホストされている場合、ライブ データ用に SWF ファイルが接続する Web サーバーには、Web サーバー ルート内にクロスドメイン ポリシー ファイルが必要です。

Adobe Flash Player のセキュリティの詳細については、Adobe Web サイトにある次のドキュメントを参照してください。

### 注

Flash Player のドキュメントはバージョンごとに異なり、以前のバージョンには対応していません。Adobe Flash Player 9 のユーザーは両方のドキュメントを読む必要があります。

- ・ [Security changes in Flash Player 8](#)
- ・ [Policy file changes in Flash Player 9 and Flash Player 10](#)

## Xcelsius SWF ファイルをローカルで実行する

URL ファイル リファレンスを使用してコンテンツ ファイル (画像データや XML データなど) を呼び出そうとしている SWF ファイルは、Adobe Flash Player セキュリティ設定でローカルドライブが信頼できる場所としてリストされている場合のみコンテンツを配信できます。スナップショットを作成するか、(PPT、HTML、PDF、Word、SWF などの) ローカル形式にエクスポートする場合、SWF ファイルやホスト アプリケーション (PowerPoint、Microsoft Word など) を、信頼できる場所に追加する必要がある場合があります。次のアプリケーションにある Xcelsius SWF ファイルを開く場合、ユーザーは、

SWF またはホスト アプリケーション ファイルを Flash Player の信頼できる場所に追加する必要があります。

- ・ ローカルの HTMLWeb ページ
- ・ スタンドアロン型 Flash Player
- ・ PDF 形式 (Acrobat 9以降)
- ・ PowerPoint プレゼンテーション
- ・ Microsoft Word ドキュメント形式

## Adobe Flash Player 設定マネージャでファイルを信頼できるものに設定する

モデルをローカルに実行する場合、Adobe Flash Player 設定マネージャで信頼できる場所にファイルの場所を追加する必要があります。

- 1 Adobe Flash Player 設定マネージャを開くには、[http://www.macromedia.com/support/documentation/en/flashplayer/help/settings\\_manager04.html](http://www.macromedia.com/support/documentation/en/flashplayer/help/settings_manager04.html) に移動します。
- 2 [Adobe Flash Player 設定マネージャ] ページの [目次] で、[グローバルセキュリティ設定パネル] をクリックします。
- 3 [常に許可] を選択します。
- 4 [これらのファイルとフォルダを常に信頼する] リストで、[追加] を選択します。
- 5

## Xcelsius SWF ファイルを Web サーバーから実行する

モデルが Web サーバーにホストされている場合、ライブ データ用に SWF ファイルが接続する Web サーバーには、Web サーバー ルート (Web サーバーごとに異なります) 内にドメイン間ポリシー ファイルが必要です。ドメイン間ポリシー ファイルがないと、SWF ファイルは Web サーバーに接続してデータを取得できない場合があります。

Adobe Flash Player のセキュリティ制限により、SWF ファイルは SWF 作成元の Web ドメインの外部に存在するデータへのアクセスを許可されません。SWF ファイルが外部データソースに接続しようとする、Flash Player でさまざまなメッセージが表示される場合があります。もっとも一般的なメッセージは、「URL をロードできません: <http://boe-server:8080/dswsbobje/services/session>」です。

ドメイン間ポリシー ファイルは、単純な XML ファイルであり、セキュリティ ダイアログ ボックスを表示せずに特定のドメイン内のデータにアクセスする Adobe Flash Player

権限を付与します。Web サーバー上のドメイン間ポリシー ファイルは、どのドメインで稼働しているどの SWF ファイルが Web サーバーにアクセスできるかを制御します。サーバーのルートフォルダに配置されている場合は、ユーザーにアクセス権を付与するためのプロンプトを表示せずに、そのサーバー上のデータへの直接アクセスを許可するよう Flash Player に指示します。

## クロスドメイン ポリシー ファイルを作成する

Adobe Flash Player のセキュリティ制限により、クロスドメイン ポリシー ファイルに権限を付与しない限り SWF ファイルがドメインをまたいでデータにアクセスできなくなります。Web サーバー上にモデルをデプロイして、外部データソースへのアクセスを行おうとする場合、クロスドメイン ポリシー ファイルを作成して、ファイルがアクセスする必要のある全サーバーのルートフォルダにこのファイルを配置する必要があります。

クロスドメイン ポリシー ファイルの詳細については、[Adobe website](#)を参照してください。

- 1 crossdomain.xml ファイルをダウンロードするか、作成します。  
たとえば、以下のクロスドメイン ポリシー ファイルを使用することにより、任意のドメインで動作する SWF が Web サーバーにアクセスできるようになります。

```
<?xml version="1.0"?>
<!DOCTYPE cross-domain-policy SYSTEM
    "http://www.macromedia.com/xml/dtds/cross-domain-policy.dtd ">
<cross-domain-policy>
<allow-http-request-headers-from domain="*" headers="*" secure="false"
/>
<allow-access-from domain="*" secure="false" />
</cross-domain-policy>
```

- 2 クロスドメイン ポリシー ファイルを、モデルがアクセスする必要のある全サーバーのルートフォルダに配置します。  
たとえば、異なる BusinessObjects Enterprise サーバー間のアクセスを許可するには、クロスドメイン ポリシー ファイルを各サーバーの関連 Tomcat フォルダ、つまり C:\Program Files\Business Objects\Tomcat\webapps\ROOT に配置します。

## FSCCommand の制限

fscommand() 関数により、SWF ファイルが Web ページ内のスクリプトと通信できます。ただし、ブラウザの allowScriptAccess 設定が Web ページのスクリプトへのアクセスを制御します。allowScriptAccess 設定が「always」に設定されている場合、SWF ファイルは常に Web ページ スクリプトにアクセスできます。「sameDomain」に設定されている場合、SWF ファイルは Web ページと同じドメインにあるスクリプトにのみアクセスできます。Adobe Flash Player 7 以前では、allowScriptAccess 属性が HTML ページで指定されていない場合、デフォルトで「always」に設定されていましたが、Flash Player 8 以降では、デフォルトで属性は「sameDomain」に設定されています。

Adobe の FSCCommand アクションの使用法のいくつかは、Adobe Flash Player 9 ではサポートされていません。FSCCommand は Flash Player にコマンドを直接渡すためには使用できませんが、Player をホストしているプログラムとの通信に、または、Macromedia Director、Visual Basic、Visual C++、および ActiveX コントロールをホストできるその他のプログラムにメッセージを渡すために使用できます。

Flash Player 内の SWF ファイルの操作に使用できる 6 つの定義済み FSCCommand コマンドは、現在機能しません。これは、Adobe によって解決される予定の既知の問題です。Xcelsius 2008 では、JavaScript など、Web ブラウザでスクリプティング言語にコマンドとパラメータを渡すための FSCCommand アクションの使用がサポートされます。

FSCCommand を使用して、Macromedia Director にメッセージを送信したり、ActiveX コントロールをホストできるプログラムに Visual Basic イベントを送信したりできます。これらの使用法は、Xcelsius 2008 で機能しますが、公式にはサポートされていません。

このトピックの詳細については、次の場所にある Adobe の記事を参照してください。  
[http://www.adobe.com/support/flash/action\\_scripts/actionscript\\_dictionary/actionscript\\_dictionary372.html](http://www.adobe.com/support/flash/action_scripts/actionscript_dictionary/actionscript_dictionary372.html)

## Flash Player のエラー番号とメッセージ

エクスポートされたモデルは SWF ファイルとして保存され、Adobe Flash Player のポリシーと制限が適用されます。モデルの実行中に Flash Player で問題が発生した場合、エラー メッセージまたは番号が表示されることがあります。これらのメッセージは、Flash Player によって生成されます。

Adobe Flash Player の特定のエラー番号とメッセージの詳細については、[Adobe web site](#) を参照してください。

## モデルのエクスポート

モデルが完成したら、それを以下の形式でエクスポートできます。

- ・ Flash
- ・ Adobe AIR
- ・ HTML
- ・ Business Objects プラットフォーム
- ・ Adobe PDF
- ・ PowerPoint スライド
- ・ Microsoft Outlook
- ・ Microsoft Word

注

## モデルをエクスポートする

モデルが作成され、ワークスペースで開かれています。Adobe AIR へのエクスポートを行う場合、Adobe Flex 3.0 SDK がシステムにインストールされます。詳細については、333 ページの「[Adobe AIR に関するシステム設定を行う](#)」を参照してください。

- 1 [ファイル] > [エクスポート]をクリックし、以下のオプションの 1 つを選択します。

オプション	説明
Flash (SWF)	<p>注</p> <p>このオプションは、Xcelsius Present では利用できません。</p> <p>スタンドアロンの Flash Player を使用してローカルで実行することも、ブラウザで開くことも、Web サイトの一部として使用することも、多数の異なるプログラムにインポートすることもできる Adobe Flash (SWF) ファイルを生成します。</p> <p>警告</p> <p>すべての外部ファイルは、モデルが保存されたフォルダ内のフォルダに保存されます。モデルが正しく機能するには、外部ファイル フォルダがモデルと同じフォルダに含まれている必要があります。</p>
AIR	<p>モデルを、複数のオペレーティングシステムのデスクトップで実行できる Rich Internet Application (RIA) 形式のブラウザのないランタイムにエクスポートします。Adobe AIR にエクスポートする前に、システムを設定する必要があります。詳細については、333 ページの「<a href="#">Adobe AIR に関するシステム設定を行う</a>」を参照してください。</p> <p>注</p> <p>AIR ファイルを実行するには、<a href="#">AIR player from the Adobe website</a> をインストールする必要があります。</p>
HTML	

オプション	説明
	<p>注 このオプションは、Xcelsius Present では利用できません。</p> <p>Adobe Flash SWF モデルを HTML ファイルに埋め込み、コンピュータがブラウザで Flash ファイルを開けるよう設定されていない場合でも、ユーザーが 1 つのファイルを開いてモデルを照会できるようにします。</p> <p>警告 モデルがエクスポートされると、Xcelsius は HTML ファイルと SWF ファイルを同じ名前で生成し、選択したディレクトリにそれらを保存します。モデルが正しく機能するには、これらのファイルが同じフォルダに含まれている必要があります。</p>
Business Objects プラットフォーム	<p>注 このオプションは、Xcelsius Enterprise でのみ利用できます。</p> <p>モデルを、BusinessObjects Enterprise と Crystal Reports Server のどちらかにエクスポートします。</p>

オプション	説明
PDF	<p>ローカルで表示することも、ブラウザで開くことも、Webサイトに配置することもできる PDF ファイルを生成します。PDF に埋め込まれたモデルは、動的な対話型です。</p> <p>注</p> <p>Acrobat 6 およびそれ以降のバージョンまたは Acrobat 9 のいずれかと互換性があるように PDF ファイルを保存できます。Acrobat 9 でモデルを表示するには、最新バージョンの Acrobat Reader がインストールされている必要があります。[名前を付けて保存]ダイアログ ボックスの[型として保存]リストで、Acrobat バージョンを選択します。</p> <p>警告</p> <p>すべての外部ファイルは、モデルが保存されたフォルダ内のフォルダに保存されます。モデルが正しく機能するには、外部ファイル フォルダがモデルと同じフォルダに含まれている必要があります。</p>

オプション	説明
PowerPoint スライド	<p>PowerPoint (PPT)ファイルと、同じ名前の SWF ファイルを生成します。モデルは、PowerPoint プレゼンテーションの最初のスライドに含まれます。プレゼンテーションが実行される際、モデルは動的な対話型です。</p> <p><b>警告</b> すべての外部ファイルは、モデルが保存されたフォルダ内のフォルダに保存されます。モデルが正しく機能するには、外部ファイル フォルダがモデルと同じフォルダに含まれている必要があります。</p>
Outlook	<p>SWF ファイルを生成し、カスタマイズと送信が可能な Microsoft Outlook メッセージに添付します。</p>
Word	<p>Microsoft Wordドキュメントを生成し、モデルの SWF をドキュメントに埋め込みます。モデルは動的な対話型です。</p> <p><b>注</b> Microsoft Word のモデルが静的な場合は、Microsoft Word の[コントロール ツールボックス]ツールバーのデザイン モードの終了アイコン(  )をクリックします。</p>

2 次のいずれかの操作を行います。

オプション	説明
Flash (SWF)、HTML、PDF、PowerPoint スライド、または Word にエクスポートする場合	エクスポートされたファイルの名前を入力し、[保存]をクリックします。
Outlook にエクスポートする場合	メッセージを入力し、[送信]をクリックして、メッセージを送信します。
Business Objects プラットフォームにエクスポートする場合	<p>[BusinessObjects Enterprise へのログオン]ダイアログ ボックスで、以下のログオン情報を入力します。(自分のログオン情報が不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [システム]フィールドに、SWF ファイルをエクスポートするセントラル管理コンソール(CMC)の名前を入力します。</li> <li>・ [ユーザー名]フィールドと[パスワード]に、ログオン情報を入力します。</li> <li>・ [認証]リストで、認証の種類を選択します。</li> </ul>
AIR にエクスポートする場合	

オプション	説明												
	<p>a 次のオプションを設定します。</p> <table border="1" data-bbox="715 340 1184 1529"> <thead> <tr> <th data-bbox="715 340 810 413">オプション</th> <th data-bbox="810 340 1184 413">説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="715 413 810 673">名前</td> <td data-bbox="810 413 1184 673">アプリケーションの名前を入力します。名前は、同一システム内の各インストールで一意的である必要があります。この名前はインストール画面に表示されます。デフォルト値は、現在のドキュメント名です。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="715 673 810 933">ID</td> <td data-bbox="810 673 1184 933">アプリケーションを識別するための一意の識別子を入力します。ID は、同一システム内の各インストールで一意的である必要があります。デフォルト値は、com.air.flash.DOCUMENT_NAME です。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="715 933 810 1055">バージョン</td> <td data-bbox="810 933 1184 1055">アプリケーションのバージョン番号を入力します。デフォルト値は 1.0 です。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="715 1055 810 1255">著作権</td> <td data-bbox="810 1055 1184 1255">著作権情報を入力します。この情報は、ユーザーが Macintosh システムにアプリケーションをインストールする際、インストール画面に表示されます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="715 1255 810 1529">ウィンドウのスタイル</td> <td data-bbox="810 1255 1184 1529">           次のオプションからウィンドウのスタイルを選択します。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [システム クローム]-ウィンドウでは、実行している環境でウィンドウズのスタイルが採用されます。</li> <li>・ [カスタム クローム(不透</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	オプション	説明	名前	アプリケーションの名前を入力します。名前は、同一システム内の各インストールで一意的である必要があります。この名前はインストール画面に表示されます。デフォルト値は、現在のドキュメント名です。	ID	アプリケーションを識別するための一意の識別子を入力します。ID は、同一システム内の各インストールで一意的である必要があります。デフォルト値は、com.air.flash.DOCUMENT_NAME です。	バージョン	アプリケーションのバージョン番号を入力します。デフォルト値は 1.0 です。	著作権	著作権情報を入力します。この情報は、ユーザーが Macintosh システムにアプリケーションをインストールする際、インストール画面に表示されます。	ウィンドウのスタイル	次のオプションからウィンドウのスタイルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [システム クローム]-ウィンドウでは、実行している環境でウィンドウズのスタイルが採用されます。</li> <li>・ [カスタム クローム(不透</li> </ul>
オプション	説明												
名前	アプリケーションの名前を入力します。名前は、同一システム内の各インストールで一意的である必要があります。この名前はインストール画面に表示されます。デフォルト値は、現在のドキュメント名です。												
ID	アプリケーションを識別するための一意の識別子を入力します。ID は、同一システム内の各インストールで一意的である必要があります。デフォルト値は、com.air.flash.DOCUMENT_NAME です。												
バージョン	アプリケーションのバージョン番号を入力します。デフォルト値は 1.0 です。												
著作権	著作権情報を入力します。この情報は、ユーザーが Macintosh システムにアプリケーションをインストールする際、インストール画面に表示されます。												
ウィンドウのスタイル	次のオプションからウィンドウのスタイルを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [システム クローム]-ウィンドウでは、実行している環境でウィンドウズのスタイルが採用されます。</li> <li>・ [カスタム クローム(不透</li> </ul>												

オプション	説明	
	オプション	説明
		<p>明)]- ウィンドウには、AIR 特有の外観、および塗りつぶしの背景を設定できます。</p> <p>[カスタム クローム(透明)] - モデルのキャンバスが透明に設定された場合、この設定を使用すると、ウィンドウの背景が透明になります。</p>
	ウィンドウサイズ: カスタムサイズ	<p>ウィンドウのカスタム サイズを設定するには、このオプションを選択します。[幅]および「高さ」ボックスでサイズ値を設定します。</p> <p>注 カスタムサイズが使用される場合、ユーザーは実行時にウィンドウのサイズを変更できません。</p>
	アプリケーションアイコン (PNG のみ)	<p>アプリケーション アイコンに使用する画像ファイルを選択します。</p> <p>注 Adobe AIR では、アプリケーションアイコンの画像に対して PNG ファイルのみがサポートされます。</p>

オプション	説明	
	オプション	説明
	出力先	Adobe が AIR アプリケーションインストーラを保存する場所を入力します。  注 モデルのエクスポートで問題が発生した場合、[一時証明書を使用したエクスポート]を選択します。
b [エクスポート]をクリックします。		

## Adobe AIR に関するシステム設定を行う

モデル コンテンツを Adobe Integrated Runtime (AIR) デスクトップ アプリケーションとしてエクスポートするには、Adobe Flex 3.0 SDK をインストールする必要があります。

- 1 [Adobe Flex 3.0 SDK from the Adobe website](#) をダウンロードします。
- 2 ファイルを、圧縮された Adobe Flex SDK ファイルで以下のパスに抽出します。  
C:\Program Files\Adobe\Flex Builder 3 Plug-in\sdk\3.0

注

SDK ファイルの場所を変更するには、Xcelsius をインストールした後、ファイル Xcelsius's Installation Path\Flex Builder 3 Plug-in\sdk\3.0 でフォルダの場所を変更します。

- 3 Java 2 Runtime Environment (J2RE 1.4 以上) をダウンロードしてインストールします。

エクスポートした AIR ファイルを実行するには、[AIR player from the Adobe website](#) をダウンロードしてインストールする必要があります。



## より詳しい情報

情報リソース	場所
SAP BusinessObjects 製品情報	<a href="http://www.sap.com">http://www.sap.com</a>
SAP ヘルプ ポータル	<p> <a href="http://help.sap.com">http://help.sap.com</a> から SAP BusinessObjects を選択します。         </p> <p>           SAP ヘルプ ポータルでは、すべての SAP BusinessObjects 製品とそのデプロイメントについて扱った最新のドキュメンテーションにアクセスできます。PDF 版またはインストール可能な HTML ライブラリのダウンロードが可能です。         </p> <p>           一部のガイドは SAP サービス マーケットプレイスに格納されており、SAP ヘルプ ポータルからは入手できません。ヘルプ ポータルのガイド一覧で、そのようなガイドには SAP サービス マーケットプレイスへのリンクが付いています。メンテナンス契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。         </p>

情報リソース	場所
<p>SAP サービス マーケットプレイス</p>	<p><a href="http://service.sap.com/bosap-support">http://service.sap.com/bosap-support</a> &gt; ドキュメンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インストール ガイド: <a href="https://service.sap.com/bosap-instguides">https://service.sap.com/bosap-instguides</a></li> <li>・ リリース ノート: <a href="http://service.sap.com/release-notes">http://service.sap.com/release-notes</a></li> </ul> <p>SAP サービス マーケットプレイスには、一部のインストールガイド、アップグレードおよび移行ガイド、デプロイメントガイド、リリース ノート、サポート対象プラットフォームに関するドキュメントが格納されています。メンテナンス契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。SAP ヘルプ ポータルから SAP サービス マーケットプレイスにリダイレクトされた場合は、左側のナビゲーションペインのメニューを使用して、アクセスするドキュメンテーションが含まれているカテゴリを探します。</p>
<p>開発者向けリソース</p>	<p><a href="https://boc.sdn.sap.com/">https://boc.sdn.sap.com/</a> <a href="https://www.sdn.sap.com/irj/sdn/businessobjects-sdklibrary">https://www.sdn.sap.com/irj/sdn/businessobjects-sdklibrary</a></p>
<p>SAP Community Network 上の SAP BusinessObjects に関する記事</p>	<p><a href="https://www.sdn.sap.com/irj/boc/businessobjects-articles">https://www.sdn.sap.com/irj/boc/businessobjects-articles</a></p> <p>これらの記事は、以前はテクニカル ペーパーという名称でした。</p>
<p>ノート</p>	<p><a href="https://service.sap.com/notes">https://service.sap.com/notes</a></p> <p>これらのノートは、以前はナレッジ ベース記事という名称でした。</p>

情報リソース	場所
SAP Community Network 上のフォーラム	<a href="https://www.sdn.sap.com/irj/scn/forums">https://www.sdn.sap.com/irj/scn/forums</a>
トレーニング	<a href="http://www.sap.com/services/education">http://www.sap.com/services/education</a> 伝統的な教室での学習からの脱却を促した e ラーニング セミナーまで、それぞれのニーズと希望する学習スタイルに応じた幅広いトレーニング パッケージを提供しております。
オンライン カスタマー サポート	<a href="http://service.sap.com/bosap-support">http://service.sap.com/bosap-support</a> SAP サポート ポータルには、カスタマー サポート プログラムとサービスに関する情報が含まれています。また、さまざまなテクニカル情報およびダウンロードへのリンクも用意されています。メンテナンス契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマーサポート担当者までお問い合わせください。
コンサルティング	<a href="http://www.sap.com/services/bysubject/businessobjectscounseling">http://www.sap.com/services/bysubject/businessobjectscounseling</a> コンサルタントは、初期の分析段階からデプロイメント プロジェクトの実現まで一貫したサポートを提供します。リレーショナル データベースと多次元データベース、接続、データベース設計ツール、カスタマイズされた埋め込みテクノロジーなどのトピックに関する専門的なサポートを行います。



# 索引

## A

- Adobe AIR、設定 333
- Adobe Flash Player
  - FSCCommand の制限 324
  - エラー メッセージ
    - Adobe Flash Player 324
    - エラー番号とメッセージ 324
  - クロスドメイン ポリシー ファイル 322, 323
  - 信頼されている場所、追加 322
  - セキュリティ 321
  - セキュリティの制限 321
- Adobe Flex SDK、インストール 333

## C

- Crystal Reports Server
  - SWF ファイルのエクスポート 304
  - ファイルの保存 302
  - ファイルを開く 303
- Crystal Reports データ コンシューマ接続 248, 274

## D

- DocumentDownload 機能 295

## E

- Excel 238
  - コピーと貼り付け 242
  - サポートされる関数 246
  - データのエクスポート 241
  - データの同期 241
- Excel XML マップ接続 248
- Excel 式のエラー、無視 239

## F

- Flash Player
  - FSCCommand の制限 324
  - クロスドメイン ポリシー ファイル 322, 323

- Flash Player (続き)
  - 信頼されている場所、追加 322
  - セキュリティの制限 321
- Flash 変数接続 248
- FS コマンド接続 248
- FSCCommand
  - 制限 324

## I

- InfoView
  - SWF のネスト 295
  - SWF ファイルを開く 295
  - web.config ファイルの更新 290
  - web.xml ファイルの更新 291
- InfoView ドキュメント
  - モデルからの起動 291

## L

- LCDS 接続 248
- Live Office
  - データ接続 287, 288
  - パラメータ、転送 289
- Live Office 互換モード
  - 設定 239
- Live Office 接続 248
- Live Office コネクタ
  - Web サービス設定の更新 290

## M

- Microsoft Excel
  - ベスト プラクティス 238

## O

- OHLC チャート 44, 51, 57, 58, 67
  - セットアップ 50
- OpenDocument、使用 291

## Q

- QaaWS 接続 248
  - Xcelsius 2008 への移行 11
  - 設定 254

## R

- Reporting Services ボタン 200

## S

- SAP BusinessObjects Enterprise
  - SWF ファイルのエクスポート 304
  - 統合 287
  - ファイルの保存 302
  - ファイルを開く 303
  - モデルの格納 301
- SAP NetWeaver BW
  - XLF ファイルを開く 316
  - グローバル化 316
  - 公開 314
  - 接続解除 307
  - 接続の必須条件 306
  - 変換 316, 318
- SAP NetWeaver BW システム
  - 接続 307
- SAP NetWeaver BW 接続
  - 設定 308
  - プレビュー モデル 315
- SAP NetWeaver BW 統合
  - 概要 305
- Sharepoint 267, 268, 272
- SWF ファイル 9
  - Flash Player セキュリティ 321
- 外部データソース 244
  - セキュリティの制限 321
  - データソース
    - 外部、SWF ファイルの使用 244

## U

- URL リンク ボタン 200

## W

- Web Sphere 267, 268, 272
- Web サービス接続 248
  - Xcelsius 2008 への移行 11
  - 設定 258
- Web 接続コンポーネント
  - 動作プロパティ 208
- web 接続コンポーネント 200, 203
  - セットアップ 202
  - 表示プロパティ 212
- web.config ファイル、.NET InfoView の更新 290
- web.xml ファイル、Java InfoView の更新 291
- WMODE 23

## X

- Xcelsius 2008
  - 以前のバージョン、インポート 12
  - 以前のバージョンとの互換性 11
  - ドキュメント 9
  - バージョン情報 7
- Xcelsius 4.5 ファイル 12
- XLF ファイル 9
  - SAP NetWeaver BW から開く 316
  - Xcelsius 3.0/3.5、インポート 11
- XML 281, 282
- XML データ ボタン コンポーネント 200
- XMLデータ接続 248
- XMLデータ接続、設定 262
- XML マップ 280
  - 作業 279
- XY チャート 44, 51, 57, 58, 67
  - セットアップ 50

## あ

- アートおよび背景コンポーネント 189
- アイコン コンポーネント 94, 103, 110, 119, 131
  - セットアップ 102
- アイドル メッセージ、作成 285
- アコーディオン メニュー コンポーネント 94, 103, 110, 119, 131
  - セットアップ 102
- 値コンポーネント 131, 135, 138, 143, 148
  - セットアップ 134
- アドオン 37, 38

アニメーションを有効にする 58  
アラート 216  
アラート プロパティ  
    セレクト コンポーネント 131  
    その他のコンポーネント 187  
    単一値コンポーネント 148  
    チャート コンポーネント 82  
    マップ コンポーネント 156

## い

一般プロパティ  
    コンテナ コンポーネント 90  
    セレクト コンポーネント 103  
    その他のコンポーネント 172  
    単一値コンポーネント 135  
    チャート コンポーネント 51  
    テキスト コンポーネント 159  
    マップ コンポーネント 151  
色 41, 43  
    カスタム ヘッダーの作成 42  
インストール 38  
インポート 12  
    データ 241

## う

埋め込みスプレッドシート  
    Excel データ、コピーと貼り付け 242  
    Excel との同期 241  
    概要 237  
埋め込みフォント 17

## え

エクスポート  
    モデル 325  
円チャート 44, 51, 57, 58, 67  
    セットアップ 50

## お

お勧めのテクニック 238  
オブジェクト ブラウザ 32  
    コンテキスト メニュー 37

オブジェクト ブラウザ (続き)  
    コンポーネント  
        削除 215  
    コンポーネントのグループ化 35  
    コンポーネントの削除 215  
    コンポーネント名の変更 35  
オブジェクト ブラウザでのコンポーネント名の変更  
    35  
折れ線チャート 44, 51, 57, 58, 67  
    セットアップ 50

## か

外部インターフェイス接続 248  
外部データ接続  
    Xcelsius 2008 への移行 11  
外部ファイル  
    埋め込みと参照 195  
概要 37, 227  
画像コンポーネント 189  
    外部ファイルの埋め込みまたは参照 195  
    設定 192  
空のセルを無視 58

## き

キャンバス 35, 36  
    ウィンドウに合わせる 26  
    概要 23  
    カスタム サイズ 25  
    コンポーネント  
        キャンバスへの配置 27  
        コンポーネントに合わせる 26  
        コンポーネントの間隔を均等にする 29  
        コンポーネントのグループ化 29  
        コンポーネントの中央への配置 28  
        コンポーネントの配置 27  
        サイズ変更 25  
        背景色 23  
        レイヤ 30  
    キャンバス サイズ  
        変更 25  
    キャンバス中央への配置 28  
魚眼ピクチャ メニュー コンポーネント 94, 103, 110,  
    119, 131  
    セットアップ 102

## く

- 組み合わせチャート 44, 51, 57, 58, 67
  - セットアップ 50
- グリッド
  - キャンバス
    - グリッド、ヒョウジ 24
    - キャンバスでの表示 24
  - グリッド コンポーネント 169, 172, 178, 182, 187
  - グローバル化、概要 316
  - クロスドメイン ポリシー ファイル 322, 323

## こ

- コンテナ コンポーネント
  - 一般プロパティ 90
  - 使用可能タイプ 87
  - セットアップ 89
  - [動作]プロパティ 91
  - [表示]プロパティ 92
- コンボ ボックス コンポーネント 94, 103, 110, 119, 131
  - セットアップ 102
- コンポーネント 32, 33, 35, 36
  - アートおよび背景 189
  - 色 41, 43
    - カスタムの作成 42
  - 画像 192
  - キャンバス上で均等に間隔を取る 29
  - キャンバス中央への配置 28
  - キャンバスでの配置 27
  - グループ化 29
  - サイズノコピー 31
  - 前後への移動 30
  - ディスプレイ 222
  - データ
    - コンポーネントとのリンク 243
  - データとのリンク 243
  - データへのバインド 243
  - 動的ディスプレイ
    - 表示効果 223
  - 配置 27
    - プロパティ パネル 39
    - プロパティ、複数の設定 40
    - ロック 35
- コンポーネント ブラウザ、概要 18
- コンポーネントのグループ化 29

- コンポーネントの配置 27
- コンポーネントを隠す 33

## さ

- サイズ設定
  - コンポーネント間でのコピー 31
- 再生セレクト コンポーネント 94, 103, 110, 119, 131
  - セットアップ 102
- 作業 279
- 削除 38
- サンプル モデル
  - 表示 10

## し

- 四角形コンポーネント 189
  - 設定 196
- 仕切 58
- 仕切、チャートの目盛 63
- 実行時ツール 85
  - チャート
    - 実行時ツール 86
  - 表示 86
- 実行時ツールを有効にする 58
- 進捗バー 131

## す

- 垂直線コンポーネント 189
  - 設定 199
- 水平線コンポーネント 189
  - 設定 199
- スコアカード コンポーネント 94, 103, 110, 119, 131
  - セットアップ 102
- スパークライン チャート 44, 51, 57, 58, 67
  - セットアップ 50
- スピン コンポーネント 131, 135, 138, 143, 148
  - セットアップ 134
- スプレッドシート 239, 281
  - 埋め込み、概要 237
  - 関数、サポートされる Excel 246
  - 基本設定 239
  - コンポーネントのバインド 243
  - 最適化 239

スプレッドシート(続き)  
 式エラー、無視 239  
 地域書式設定 237  
 データのインポート 241  
 スライド コンポーネント 131, 135, 138, 143, 148  
 セットアップ 134  
 スライド ピクチャ メニュー コンポーネント 94, 103, 110, 119, 131  
 セットアップ 102  
 スライド ショー コンポーネント 200, 203, 208, 212  
 SWF を開く 295

## せ

### 接続

QaaWS 設定 254  
 Web サービス設定 258  
 データ管理 248  
 接続の最新表示ボタン コンポーネント 200  
 設定 275  
 セットアップ 89, 102, 134  
 セレクタ  
 挿入タイプ 117  
 セレクタ コンポーネント 94  
 アラート プロパティ 131  
 一般プロパティ 103  
 セットアップ 102  
 動作プロパティ 110  
 表示プロパティ 119  
 複数の挿入 108, 109  
 線形目盛、チャートの設定 63  
 線コンポーネント  
 設定 199

## そ

挿入タイプ、セレクタ 117  
 その他のコンポーネント 169  
 アラート プロパティ 187  
 一般プロパティ 172  
 動作プロパティ 178  
 表示プロパティ 182

## た

対数目盛、チャートの設定 63

ダイヤル コンポーネント 131, 135, 138, 143, 148  
 セットアップ 134  
 対話型カレンダー 172, 178, 182, 187  
 ダウンロード 37  
 楕円コンポーネント 189  
 設定 196  
 縦棒チャート 44, 51, 57, 58, 67  
 セットアップ 50  
 単一値コンポーネント 131, 134  
 アラート プロパティ 148  
 [一般]ビュー プロパティ 135  
 セットアップ 134  
 動作プロパティ 138  
 表示プロパティ 143

## ち

チェック ボックス コンポーネント 94, 103, 110, 119, 131  
 セットアップ 102  
 チャート 67  
 可変データ量 67  
 使用可能タイプ 44  
 セットアップ 50  
 ドリルダウン、設定 83  
 範囲スライド、追加 65, 66  
 目盛、概要 62  
 目盛、設定 63  
 チャート コンポーネント 44, 51, 57, 58, 67  
 アラート プロパティ 82  
 [一般]ビュー プロパティ 51  
 実行時ツール 85  
 セットアップ 50  
 データ ラベル 81  
 動作プロパティ 58  
 ドリルダウン プロパティ 57  
 凡例、追加 79, 80  
 凡例、追加 79, 80  
 表示プロパティ 67  
 チャートの目盛、実行時に調整 85  
 チャート要素 67

## つ

### ツール

オブジェクト ブラウザ 32

## 索引

ツールバー 13

    スプレッドシート 237

積み上げチャートの種類 44

## て

ディスプレイ、動的設定 222

データ

    Excel と Xcelsius 間のコピー 242

    Excel と Xcelsius 間の同期化 241

    Excel へのエクスポート 245

    外部データソース、追加 248

    接続、外部追加 254

    接続、外部データ

        追加 254

    挿入タイプ 117

    チャート内の可変量 67

データ マネージャ 248

    概要 248

データ ラベル

    概要 81

    チャートの設定 81

データ接続 266, 267, 268, 272, 274, 275, 276,

278, 283, 285

    Live Office 287, 288

    SAP NetWeaver BW 308

    XML データ 262

    削除 254

    接続

        データの削除 254

データの最新表示 283

テーマ

    使用 230

    適用 230

テーマの表示 230

テキスト コンポーネント 157

    一般プロパティ 159

    セットアップ 158

    動作プロパティ 161

    表示プロパティ 166

    文字の制限 165

テキスト コンポーネントにおける制限 165

デバイス フォント 17

テンプレート

    概要 228

    作成 229

    開く 228

## と

透過キャンバス 23

[動作]プロパティ

    コンテナ コンポーネント 91

動作プロパティ

    Web 接続コンポーネント 208

    セレクタ コンポーネント 110

    その他のコンポーネント 178

    チャート コンポーネント 58

    テキスト コンポーネント 161

    マップ コンポーネント 153

動的ディスプレイ 58

    概要 221

    コンポーネント

        ディスプレイ、動的 221

    セットアップ 222

    表示効果 223

ドキュメント、関連 9

ドキュメントのプロパティ 16

ドリルダウン

    設定 83

ドリルダウン プロパティ

    チャート コンポーネント 57

トレンド アイコン 172, 178, 182, 187

トレンド アナライザ コンポーネント

    設定 187

## な

並び替えを有効にする 58

## に

入力テキスト コンポーネント 157, 159, 161, 166

    セットアップ 158

入力テキスト領域コンポーネント 157, 159, 161,

166

    セットアップ 158

## は

バージョン、旧ファイルのインポート 11

背景コンポーネント 189

    設定 190

パネル セット 172, 178, 182, 187

バブル チャート 44, 51, 57, 58, 67  
 セットアップ 50  
 パラメータ、Live Office への転送 289  
 範囲スライダ  
 概要 65  
 設定 66  
 範囲スライダを有効にする 58  
 凡例  
 概要 79  
 チャートへの追加 80

## ひ

ビジュアライゼーション  
 プレビュー  
 エクスポート 233  
 プレビューのエクスポート 233  
 ビュレット チャート 44, 51, 57, 58, 67  
 セットアップ 50  
 表示切り替えボタン コンポーネント 94, 103, 110, 119, 131  
 セットアップ 102  
 表示効果 58  
 表示プロパティ  
 web 接続コンポーネント 212  
 セレクタ コンポーネント 119  
 その他のコンポーネント 182  
 単一値コンポーネント 143  
 チャート コンポーネント 67  
 テキスト コンポーネント 166  
 マップ コンポーネント 154  
 [表示]プロパティ  
 コンテナ コンポーネント 92

## ふ

ファイル形式 9  
 フィルタ コンポーネント 94, 103, 110, 119, 131  
 セットアップ 102  
 フォント、グローバルの使用 17  
 プッシュ ボタン コンポーネント 94, 103, 110, 119, 131  
 セットアップ 102  
 プロパティ  
 単一値コンポーネント 138  
 複数のコンポーネントの設定 40

プロパティ パネル 39  
 開く 34

## ほ

棒チャート 44, 51, 57, 58, 67  
 セットアップ 50  
 ポータル データ接続  
 追加 268, 272  
 ポータルデータ接続 248  
 ボタン、ツールバー 13

## ま

マップ コンポーネント  
 アラート プロパティ 156  
 一般プロパティ 151  
 セットアップ 150  
 セレクタ コンポーネント 149  
 動作 149  
 動作プロパティ 153  
 表示コンポーネント 149  
 表示プロパティ 154

## め

メーター コンポーネント 131, 135, 138, 143, 148  
 セットアップ 134  
 メッセージ、ロードとアイドルの作成 285  
 目盛 58  
 チャート概要 62  
 チャートの設定 63  
 目盛、実行時にチャートを調整 85  
 面チャート 44, 51, 57, 58, 67  
 セットアップ 50

## も

文字 165  
 モデル 227, 230, 318  
 InfoView ドキュメントの起動 291  
 SAP Business Objects Enterprise、開く 303  
 SAP BusinessObjects Enterprise へのエクスポート 304  
 SAP BusinessObjects Enterprise への保存 302

## 索引

### モデル (続き)

- SAP NetWeaver BW データを含むプレビュー  
315
- SAP NetWeaver BW への公開 314
- Web サーバー、実行元 322, 323
- エクスポート 325
- カスタム配色 231
- グローバル化 316
- サンプル モデル  
表示 10
- サンプル、表示 10
- スナップショット、取得 233
- セキュリティの問題 322
- テーマ、適用 230
- テンプレート、使い方 228
- 配色の使用 230
- 配色の変更 231
- プレビュー 232, 233
- 変換 316, 318
- ローカルで実行 321

### ゆ

- ユーザー入力、無効化 224

### ら

- ラジオ ボタン コンポーネント 94, 103, 110, 119,  
131  
セットアップ 102
- ラベル コンポーネント 157, 159, 161, 166  
セットアップ 158

- ラベル メニュー コンポーネント 94, 103, 110, 119,  
131  
セットアップ 102

### り

- リストビュー コンポーネント 94, 103, 110, 119, 131  
セットアップ 102
- リストビルダ コンポーネント 94, 103, 110, 119, 131  
セットアップ 102
- リスト ボックス コンポーネント 94, 103, 110, 119,  
131  
セットアップ 102

### れ

- レイアウト 67
- レーダー チャート 44, 51, 57, 58, 67  
セットアップ 50

### ろ

- ローカル シナリオ ボタン コンポーネント 169
- ローソク足チャート 44, 51, 57, 58, 67  
セットアップ 50
- ロード メッセージ、作成 285

### わ

- ワークスペース、概要 13